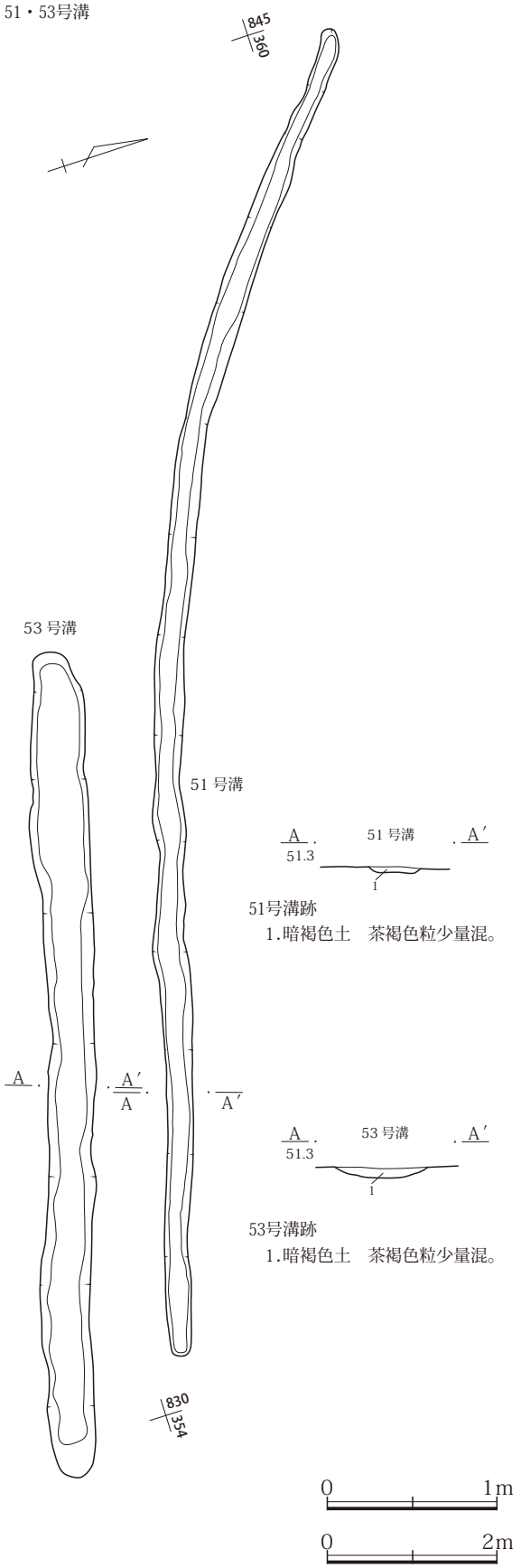
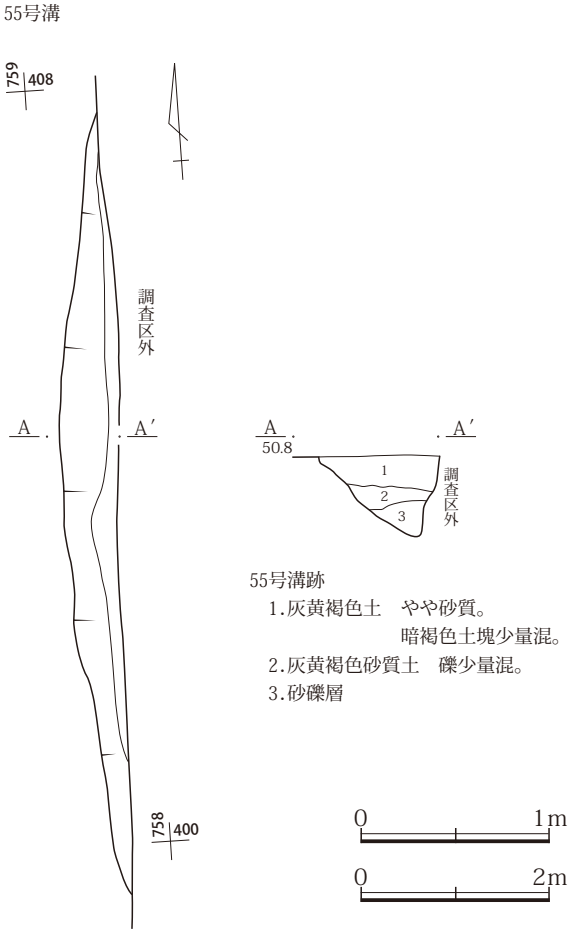


第414図　51・53号溝跡



第415図　55号溝跡

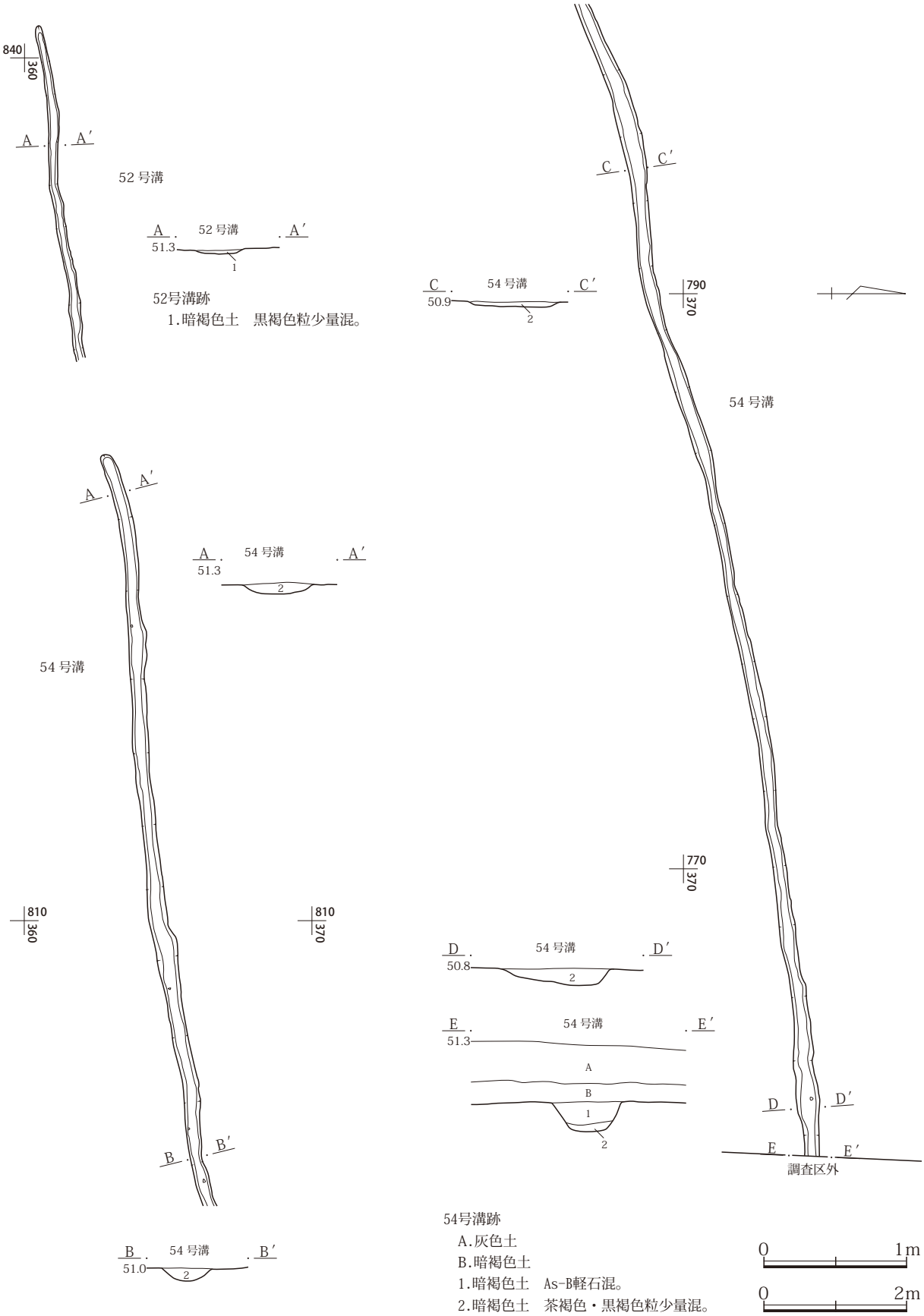
第３項　溝跡

１区では10条の溝跡が検出されている。１号円形周溝跡以外、調査区の南側では検出されていない。大方の溝は、掘立柱建物跡や竪穴建物跡群よりは新しい時代のものと考えられる。

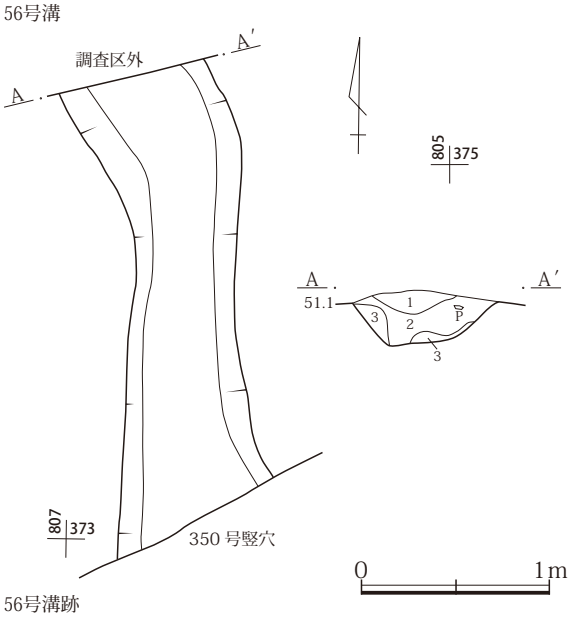
（１）51号溝跡

位置：調査区西端付近。X350~360・Y-830~-840Gr.

主軸方位：西端から南東方向に約5mはN-54°-W、約15°屈曲し、東南東に向きを変え、N-72°-W。　**重複**：1085号土坑跡の中央を掘り抜く。280・294号竪穴建物跡の上面を掘り込む。　**規模と形状**：調査区の西端付近を北西－南東方向に走向する。上面が後世の削平を甚だしく受けており残存状



第416図　52・54号溝跡



56号溝跡
1.暗褐色土　灰白色粒・砂礫混。
2.暗褐色土　灰白色・ローム粒、砂礫多量混。
3.暗黄褐色粘質土　焼土粒、砂礫極少量混。

第417図　56号溝跡

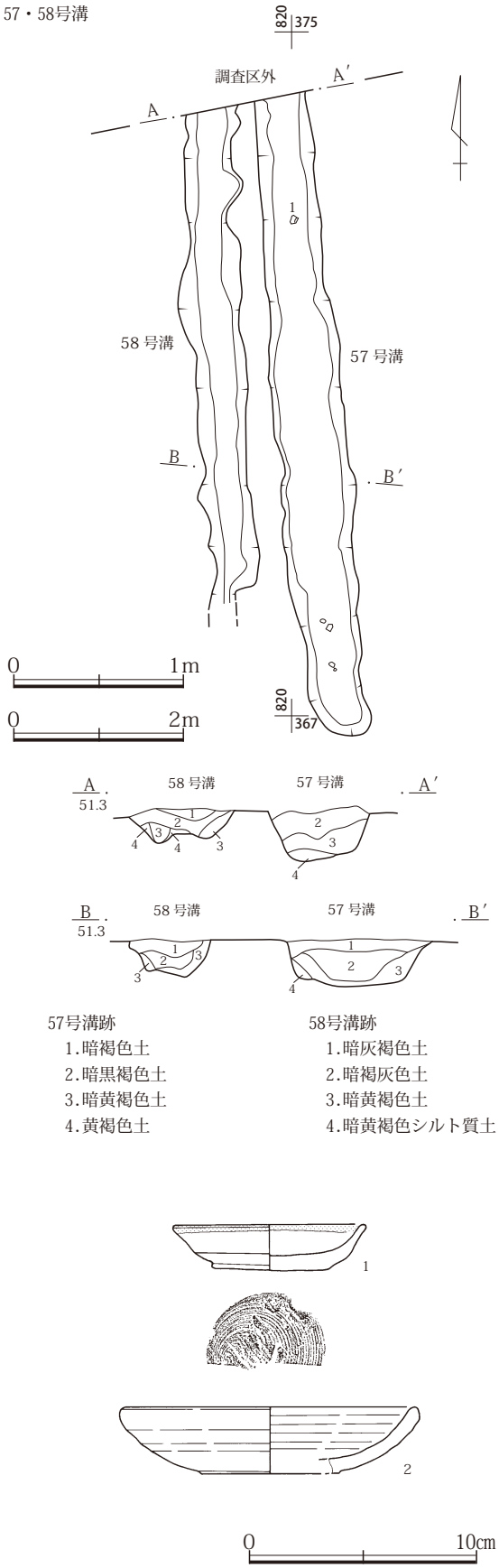
態は不良。確認全長は15.8m・最大上幅0.4m・最大下幅0.2m・深さ0.04m。断面は扁平。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：古代。　**遺物**：なし。

（２）53号溝跡

位置：調査区西端付近。X350~355・Y-825~-835Gr.　**主軸方位**：N-73°-W　**重複**：280・281・307号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：調査区の西端付近を51号溝跡の東半分とほぼ並行して西北西－東南東方向に走向する。上面が後世の削平を受けており残存状態は不良。確認全長は9.6m・最大上幅0.7m・最大下幅0.5m・深さ0.06m。断面は薄い片レンズ状を呈する。　**埋土**:暗褐色土ベース。　**時期**：古代。　**遺物**：なし。

（３）52・54号溝跡

位置：調査区西端付近から中央よりやや北側を東端まで。X360~370・Y-760~-840Gr.　**主軸方位**：N-80～84°-W　**重複**：279・285～288・291・328・342・345・347号竪穴建物跡、1077・1128～1130号土坑跡を掘り込む。　**規模と形状**：西南西－

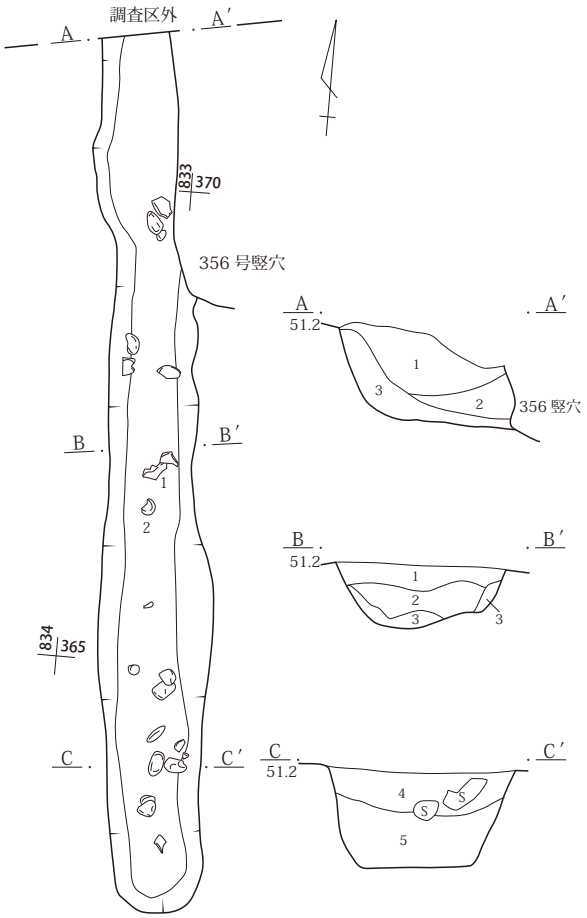


57号溝跡
1.暗褐色土
2.暗黒褐色土
3.暗黄褐色土
4.黄褐色土

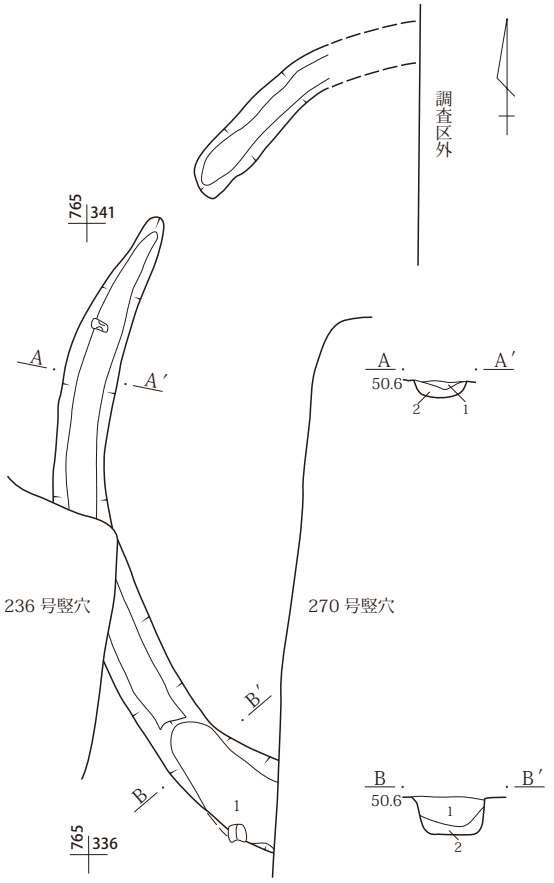
58号溝跡
1.暗灰褐色土
2.暗褐灰色土
3.暗黄褐色土
4.暗黄褐色シルト質土

第418図　57・58号溝跡・57号溝跡出土遺物

59号溝



1 号円形周溝

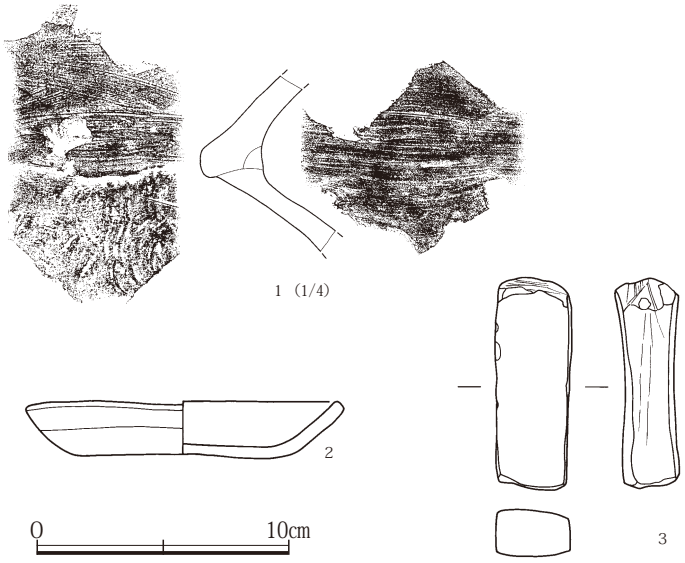


59号溝跡
1.暗褐色土　ローム粒・砂礫少量混。
2.暗灰褐色土　ローム・焼土粒やや多混。
3.暗黄褐色土　砂礫やや多混。
4.黒褐色砂質土　淡黄色細粒少量混。
5.黒褐色土　ローム塊少量混。淡黄色粒僅混。

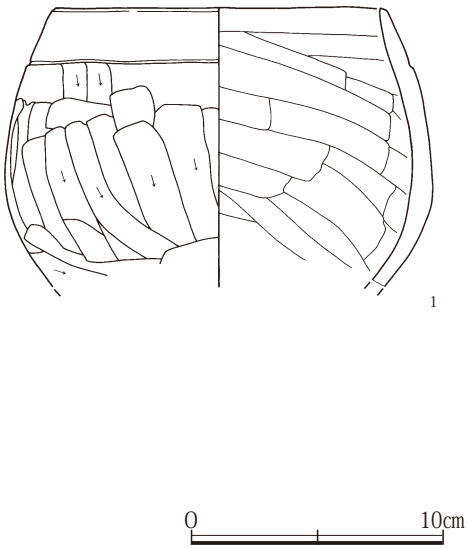
0　1m
0　2m

1 号円形周溝
1.黒褐色土　白色粒混。ローム粒少量混。
2.暗褐色土　ローム粒・小塊少量混。

0　2m



第419図　59号溝跡・出土遺物



第420図　1 号円形周溝跡・出土遺物

東北東方向。52号溝跡と54号溝跡との間に現状では約3.4mの断絶があるが、後世の削平のため検出できなかったためであり、本来は両溝は続く一本の溝であったものと考えられる。上面が後世の削平を受けており残存状態は不良。確認全長は66.2m・最大上幅0.8m・最大下幅0.7m・深さ0.21m。断面は片レンズ状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：古代。　**遺物**：なし。

（４）55号溝跡

位置：調査区北東付近東壁際。Ｘ395~405・Ｙ-755Gr.　**主軸方位**：不明。　**重複**：325号竪穴建物跡の上面を掘り込む。　**規模と形状**：やや蛇行しながら南北に走向するものと思われる。ほとんどの部分が調査区外に出るため全く全容は不明である。確認全長は8.1m・深さ0.44m。　**埋土**：灰黄褐色土ベース。　**時期**：古代。　**遺物**：なし。

（５）56号溝跡

位置：調査区北壁際中央。Ｘ370~375・Ｙ-805Gr.　**主軸方位**：N-7°-W　**重複**：350号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：僅かに蛇行しながら南北に走向する。確認全長は2.4m・最大上幅0.94m・最大下幅0.7m・深さ0.24m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：古代。　**遺物**：なし。

（６）57・58号溝跡

位置：調査区西寄り北壁際。Ｘ365~370・Ｙ-815~-820Gr.　**主軸方位**：57号溝跡N-4°-W 58号溝跡N-3°-W　**重複**：57号溝は77号掘立柱建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：並行して隣接し、南北に走向する。57号溝跡の確認全長7.5m・最大上幅0.9m・最大下幅0.68m・深さ0.3m。断面は逆台形状を呈する。南端は59号掘立柱建物跡の手前で止まる。58号溝跡の確認全長5.8m・最大上幅0. 75m・最大下幅0.61m・深さ0.2m。断面は同じく逆台形状を呈する。58号溝跡の南端は、上面の削平により検出できなくなるため、本来の溝はさらに南に延びていたものと思われる。　**埋土**:57号溝跡は暗黒褐色土ベース。58号溝跡は暗褐灰色土ベース。　**時期**：古代。　**遺物**：57号溝跡埋土中に散在。

（７）59号溝跡

位置：調査区西北壁際。Ｘ360~370・Ｙ-830Gr.　**主軸方位**：N-5°-W　**重複**：356号竪穴建物跡に掘り込まれる。286号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：南北にほぼ直線的に走向する。確認全長9.3m・最大上幅1.2m・最大下幅0.88m・深さ0.54m。52号溝跡の手前で止まる。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：８Ｃ２の遺物が出土する356号竪穴建物跡に掘り込まれるが、本遺構には８Ｃよりも新しい遺物も混入する。　**遺物**：埋土中に散在。砥石が出土。

（８）1号円形周溝跡

位置：調査区東壁際南端。Ｘ335~340・Ｙ-760Gr.　**主軸方位**：なし。　**重複**：236・270号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：東側約3/5が調査区外に出るため、全容は不明であるが、ほぼ半径約3.5m前後の円形状に溝が廻っている。形状や出土遺物等から古墳の周溝とは考えにくく、また周辺遺跡でも古墳は検出されていない。確認全長は8.3m・最大上幅0.7m・最大下幅0.52・深さ0.3m。北西に土橋状の部分が掘り遺されており、全周はしない。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：８Ｃ?。　**遺物**：土師器壷が出土。

第４項　井戸跡

１区では14基の井戸跡が検出されている。先に報告した２～４区では、４区で１基の井戸跡が検出されたのみであり、膨大な面積を調査した割には意外にも井戸跡は少なかった。現状では湧水量が豊富で、２区の東側で検出された２区と３・４区との間に北から入る谷は、調査時に度々水没し、調査を困難に

するほどの湧水量がある。よって、この地域では、現代と同じように古代から湧水が豊富であり、水の確保が比較的容易であったがために、調査面積に比して検出された井戸跡の数が少ないのであろうと考えた。しかしながら、１区でも、調査時に竪穴建物跡の床面からおびただしい湧水があり、湧水の条件は、２～４区と同様であるにも拘わらず、1区でのみ、比較的多く集中して井戸跡が検出された。その理由は、１区で検出された集落が、２～４区に比して濃密かつ幅広い年代幅故のことと考えられる。

井戸跡は調査区の西端付近と、中央から南東寄りの一帯から比較的まとまって検出されている。同エリアにおける複数回の掘り直しも想定できる。そうした状況は、当時の地下水脈との関連などに因るものと考えられる。

（１）１号井戸跡

位置：調査区南壁際西端寄り。Ｘ350・Ｙ-825Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：口縁長径1.86m・口縁短径1.78m・底長径0.52m・底短径0.44m・深さ約0.96m。現状では湧水は認められなかった。外縁は南北にやや長いがほぼ円形状、断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：黒褐色土ベース。　**時期**：古代。　**遺物**：なし。

（２）２号井戸跡

位置：調査区北端付近。Ｘ415・Ｙ-765Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：口縁長径0.92m・口縁短径0.8m・中胴部径0.48m・底長径0.35m・底短径0.27m・深さ約1.46m。調査時に底部付近から湧水が認められた。外縁は北西－南東方向に長い楕円形状、断面は円筒形状を呈する。　**埋土**：暗黄褐色土ベース。　**時期**：古代。　**遺物**：なし。

（３）３号井戸跡

位置：調査区中央から南東寄り。Ｘ350・Ｙ-775Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：口縁径1.13m・中胴部径0.65m・底長径1.15m・底短径1m・深さ約1.25m。調査時に底部付近からかなりの湧水が認められた。外縁はほぼ円形状、断面は若干漏斗状を呈する。中胴部が細く窄まり、底部近くがオーバーハングし、湧水部が広くなる。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：古代。　**遺物**：なし。

（４）４号井戸跡

位置：調査区中央より南東。Ｘ330・Ｙ-785~-790Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：口縁長径1.82m・口縁短径1.6m・中胴部径0.79m・底長径0.54m・底短径0.52m・深さ約1.82m。調査時に底部付近からかなりの湧水が認められた。外縁は南北にやや長い楕円形状、断面上部は浅い漏斗状を呈する。中胴部は口の開いた円筒形状で、部分的に臍状に掘り込まれた箇所が見出された。井桁を組んだ痕跡とみられる。　**埋土**：暗灰褐色砂質土ベース。　**時期**：９Ｃ前。　**遺物**：いずれも埋土中より。

（５）５号井戸跡

位置：調査区中央南東寄り。Ｘ340・Ｙ-775~-780Gr.　**重複**：253号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：口縁長径2.57m・口縁短径2.28m・底長径0.4m・底短径0.38m・深さ約2.08m。調査時に底部から約0.4m上がった地点から甚だしい湧水が認められた。外縁は南北に長い長方形状、断面は擂り鉢状を呈する。　**埋土**:黒褐色土ベース。　**時期**:９Ｃ前。　**遺物**：いずれも埋土中より。須恵器杯、椀など。

（６）６号井戸跡

位置：調査区中央南東寄り。Ｘ340~345・Ｙ-780Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：口縁長径3m・口縁短径2.68m・中胴径1. 63m、底長径0.48m・底短径0.34m・深さ約2.6m。調査時に底部から約0.75m上がった地点から甚だしい湧水が認められた。外縁は東西に長い楕円形状、断面は、漏斗状を呈する。中胴部がオーバーハングして中膨れ状になっている。底部近くで極端に窄まる。　**埋土**：暗褐色土ベース。

時期：８Ｃ後～９Ｃ前。　**遺物**：いずれも埋土中より。須恵器杯、椀など。

（7）７号井戸跡

位置：調査区北西寄り。X360~365・Y-825Gr．**重複**：なし。　**規模と形状**：口縁長径0.65m・口縁短径0.58m・中胴径0.52m、底長径0.6m・底短径0.48m・深さ約1.5m。調査時に底部から約0.4m上がった地点から湧水が認められた。外縁は南北にやや長い楕円形状、断面は円筒形状を呈する。現在の湧水点付近で大きくオーバーハングして中膨れ状になっているが、底部は窄まる。元来、円形の曲げ物を蒸籠状に積み上げて内壁を造っていた可能性が想定できる。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：６～７Ｃ。**遺物**：埋土中より須恵器高杯片出土。

（8）８号井戸跡

位置：調査区中央南東寄り。X345~350・Y-775Gr．**重複**：なし。　**規模と形状**：口縁長径2.38m・口縁短径2.3m・中胴径1.1m、底長径0.6m・底短径0.48m・深さ約1.95m。調査時に底部から約0.3m上がった地点から湧水が認められた。外縁は東西に長い楕円形状、断面は、上面が漏斗状を呈するが、中胴部下位で極端にオーバーハングしているため、あたかも須恵器ハソウ状を呈している。現在の湧水点よりも高い位置で大きくオーバーハングして中膨れ状になっているが、底部は窄まる。オーバーハングした部分は確認面から約1～1.75m。その部分の径は約1.6mに及ぶ。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：９Ｃ後。　**遺物**：埋土中より須恵器杯、盤などやや多く出土。

（9）９号井戸跡

位置：調査区中央南寄り。X330・Y-790Gr．**重複**：なし。　**規模と形状**：口縁長径0.82m・口縁短径0.75m・中胴径0.6m、底長径0.49m・底短径0.42m・深さ約1.37m。調査時に底部から約0.1～0.65m上がった地点から湧水が認められた。外縁は東西にやや長い楕円形状、断面は円筒形を呈する。中胴部下位の現在の湧水層の部分で若干オーバーハングして中膨れ状になっている。元来、円形の曲げ物を蒸籠状に積み上げて内壁を造っていた可能性が想定できる。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：古代。　**遺物**：なし。

（10）10号井戸跡

位置：調査区北部西壁際。X390~395・Y-780Gr．**重複**：329号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：西約半分が調査区外に出るため、全容は不明である。口縁確認長径3.36m・中胴径1.85m、底長径1.65m・深さ約2.5m。調査時には湧水は認められなかった。外縁は楕円形状、断面は、上部が朝顔状に広く開いた漏斗状を呈する。元来、曲物を蒸籠状に積み上げて内壁を造っていた可能性が想定できる。**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：古代　**遺物**：なし。

（11）11号井戸跡

位置：調査区西端寄り。X360・Y-825Gr．**重複**：なし。　**規模と形状**：口縁径0.86m・中胴径0.6m・深さ約1.1m以上。調査時に湧水は認められなかった。外縁はほぼ円形状、断面は、上部がやや漏斗状に開き、中胴部は円筒形状を呈する。中胴部下位の現在の湧水層の部分で若干オーバーハングして中膨れ状態になっている。元来、円形の曲げ物を蒸籠状に積み上げて内壁を造っていた可能性が想定できる。上部には４層にわたり厚さ約0.4mの範囲で拳大の川原石がぎっしりと詰め込まれ、井戸廃棄に伴う所為と考えられる。小規模であり、調査中に壁面崩落の危険が想定されたため、安全上の措置から深さ1.1mのところで調査を断念し、底部には至らなかった。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：７Ｃ後。**遺物**：埋土中より土師器杯、須恵器甕片。

（12）12号井戸跡

位置：調査区西端寄り。X360・Y-825Gr．**重複**：なし。　**規模と形状**：52号溝跡と54号溝跡との間の

位置から検出されているが、両溝跡は、本来は繋がっていたものと考えられる。本井戸跡は、両溝よりも古い時期の遺構とみられる。口縁は北西－南東方向に長い隅丸長方形状を呈し、長径1.32m短径1.12m。浅い隅丸長方形状の掘り込みの中は、厚さ約0.3mにわたってぎっしりと拳大の川原石が敷き詰められており、井戸廃棄時の所為と考えられる。隅丸長方形状の浅い掘り込みの、中央よりやや南東寄りの位置に井戸本体の口縁があり、径は約0.6m前後。井戸本体の口縁の西側約1/3では、口縁の周囲に川原石を並べて口縁を補強したような痕跡が認められた。検出されたのは部分的にであるが、本来は口縁全域で同様の施工がなされていたものと考えられる。中胴径0.6m・底部径0.55m・深さ約1.75m。調査時に湧水は認められなかった。断面は、隅丸長方形状の上部が浅く広く開き、胴部は円筒形状を呈し、確認面から約0.8m位の位置から若干オーバーハングしている。ただ、全体的には井戸本体部分は円筒状を呈することから、元来、円形の曲げ物を蒸籠状に積み上げて内壁を造っていた可能性が想定できる。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：７Ｃ代。　**遺物**：埋土中より須恵器擂鉢、壷、提瓶片など。

（13）13号井戸跡

位置：調査区西端寄り。Ｘ355・Ｙ-820~-825Gr．**重複**：なし。　**規模と形状**：口縁の周囲には大小の川原石が放射状に幾重にも整然と並べられており、口縁部の護岸の所為と考えられる。口縁長径0.7m・口縁短径0.6m・中胴径0.55m・底部長径0.42m・底部短径0.42m・深さ約1.32m。調査時に湧水は認められなかった。外縁は北西－南東方向に長い楕円形状、断面は、口がやや開いた円筒形状を呈する。元来、円形の曲げ物を蒸籠状に積み上げて内壁を造っていた可能性が想定できる。上部には確認面から約0.5mの深さの位置まで、ほぼ4層にわたってびっしりと川原石が詰め込まれていた。井戸廃棄に伴う所為と考えられる。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：８Ｃ前。　**遺物**：埋土中より須恵器杯。

（14）14号井戸跡

位置：調査区中央若干南寄り。Ｘ350・Ｙ-800Gr．**重複**：76号掘立柱建物跡と重複、新旧関係不明。**規模と形状**：口縁長径0.8m・口縁短径0.7m・中胴径0.65m・底部長径0.66m・底部短径0.56m・深さ約1.02m。調査時に湧水は認められなかった。外縁は東北東－西南西方向に長い楕円形状を呈し、断面は、口縁が若干朝顔型に開いた円筒形状を呈するが、確認面から約0.6m辺りでオーバーハングし、中膨れ状を呈している。口縁部検出時に埋土上層から川原石が若干出土したが、11～13号井戸跡でみられたような、川原石をびっしりと詰め込んでいるような埋没状況ではない。　**埋土**：暗褐色土ベース。**時期**：９Ｃ代。　**遺物**：埋土中より須恵器杯蓋。

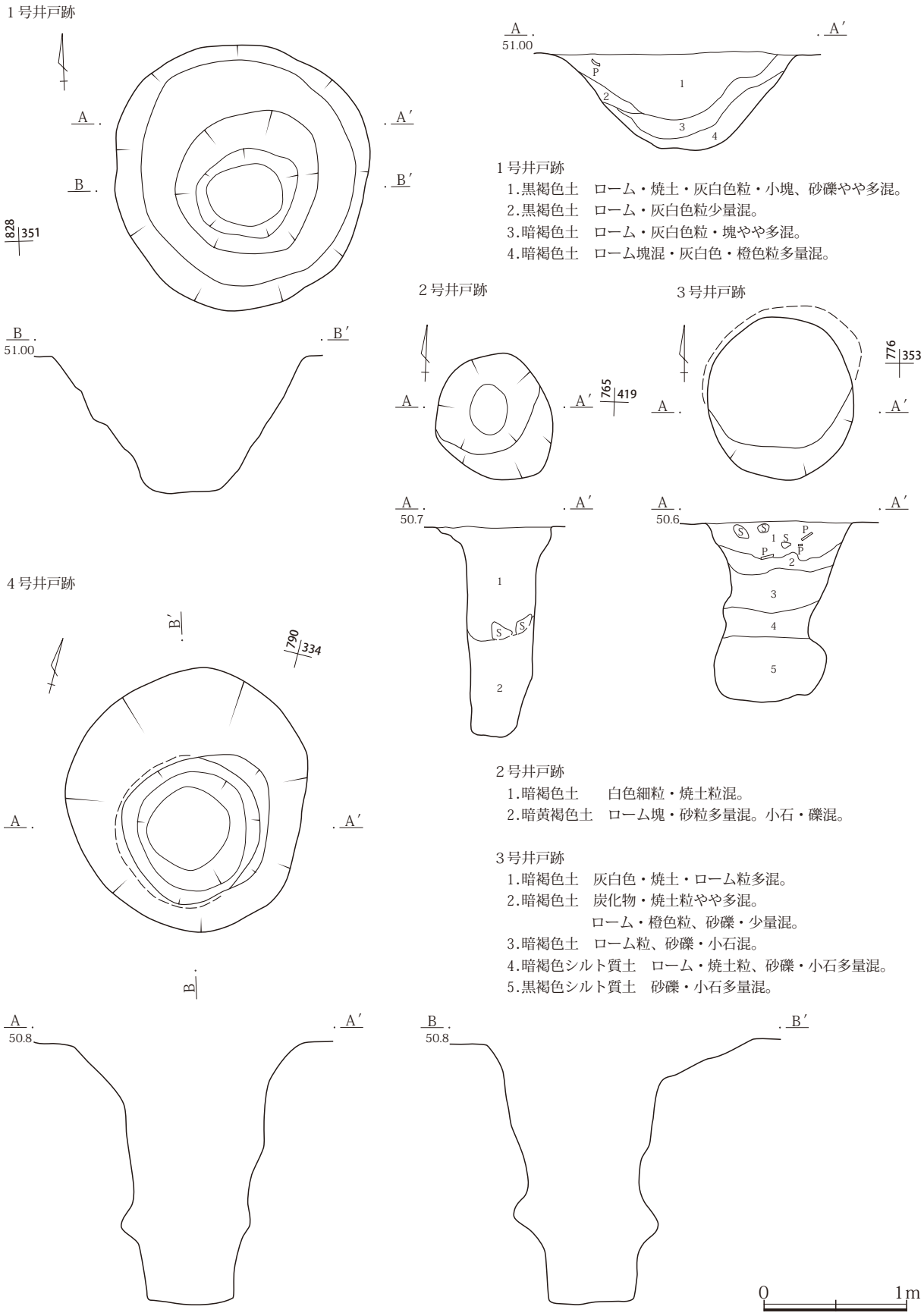
第５項　土坑跡

１区では111基の土坑跡が検出されている。ほぼ、調査区の全域で検出されているが、北・西両端部では検出事例は少ない。ただし、配置や分布に規則性や傾向は全く見られない。

いずれも用途は不明の穴である。出土遺物が少ないので、これらの土坑跡の時期は不明であるが、確認面や他の遺構との新旧関係から平安時代の遺構と考えられる。

（１）1001～1005号土坑跡

位置：調査区南東端南壁際。Ｘ315・Ｙ-760~-765Gr．　**重複**：1002~1005号土坑跡は54号掘立柱建物跡を掘り込む。1001号土坑跡は1002号土坑跡を掘り込み、1002号土坑跡は1003号土坑跡を掘り込み、1004号土坑跡は1003・1005号土坑跡を掘り込む。**規模と形状**：約半分が調査区外に出るため全容は不明。５基の土坑跡が重なり合いながら連続して検出された。1001号土坑跡長径（1.15）m・短径（0.8）m・深さ0.45m、断面は逆台形状を呈する。1002号土坑跡長径（0.64）m・短径（0.5）m・深さ0.34m。1003号土坑跡長径（0.7）m・短径（0.45）m・深



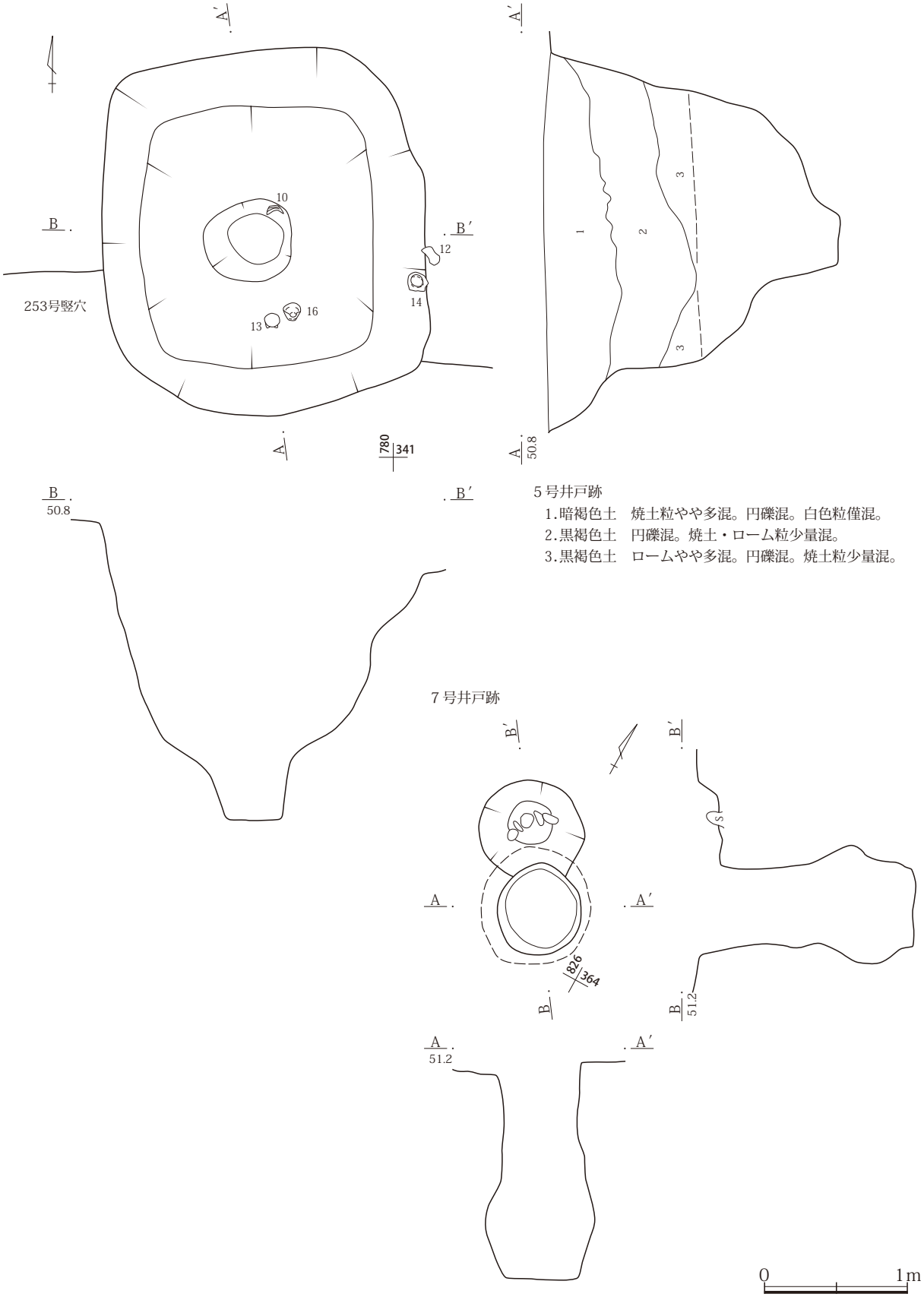
1号井戸跡
1.黒褐色土　ローム・焼土・灰白色粒・小塊、砂礫やや多混。
2.黒褐色土　ローム・灰白色粒少量混。
3.暗褐色土　ローム・灰白色粒・塊やや多混。
4.暗褐色土　ローム塊混・灰白色・橙色粒多量混。

2号井戸跡
1.暗褐色土　　白色細粒・焼土粒混。
2.暗黄褐色土　ローム塊・砂粒多量混。小石・礫混。

3号井戸跡
1.暗褐色土　灰白色・焼土・ローム粒多混。
2.暗褐色土　炭化物・焼土粒やや多混。
　　ローム・橙色粒、砂礫・少量混。
3.暗褐色土　ローム粒、砂礫・小石混。
4.暗褐色シルト質土　ローム・焼土粒、砂礫・小石多量混。
5.黒褐色シルト質土　砂礫・小石多量混。

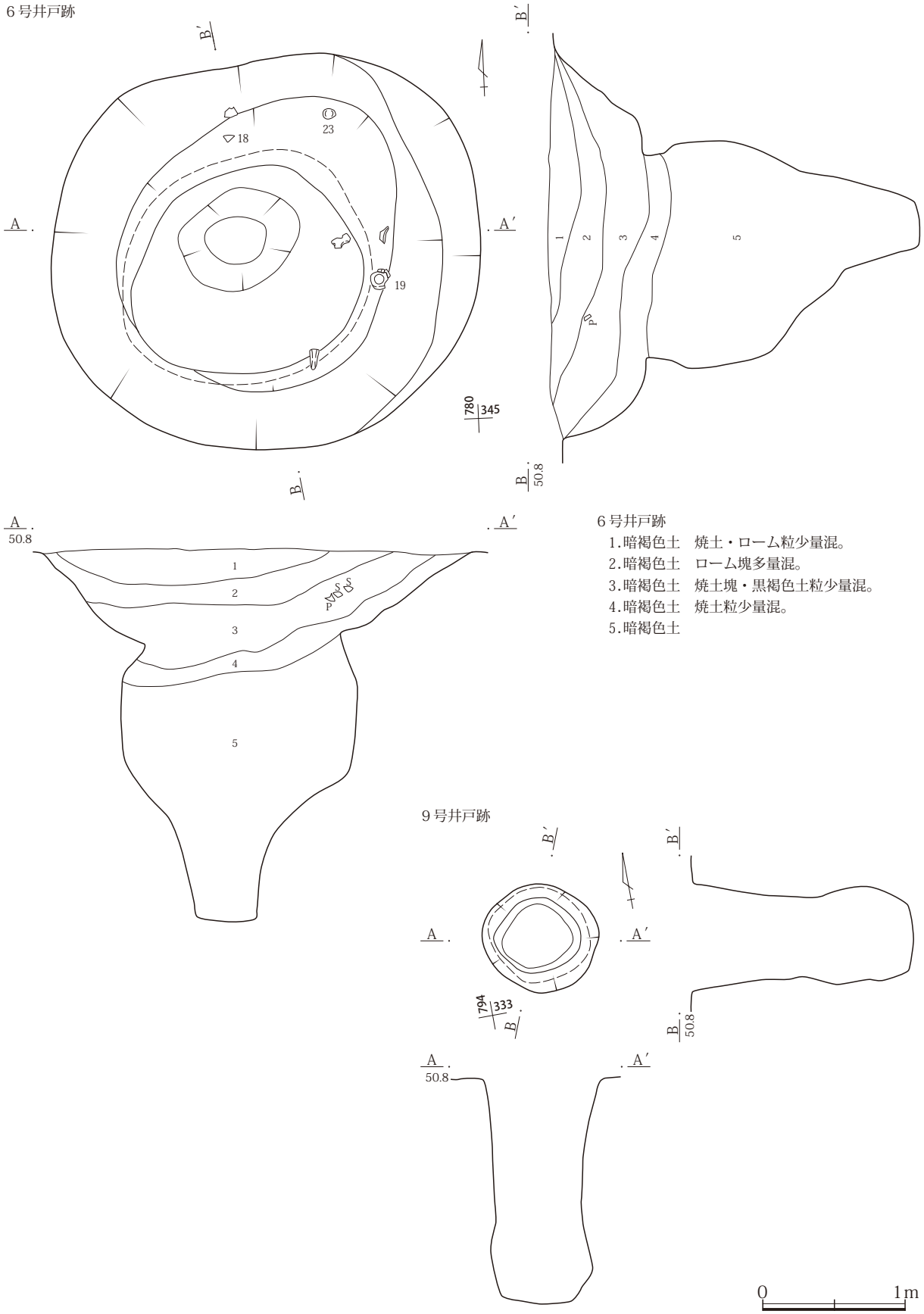
第421図　１～４号井戸跡

５号井戸跡



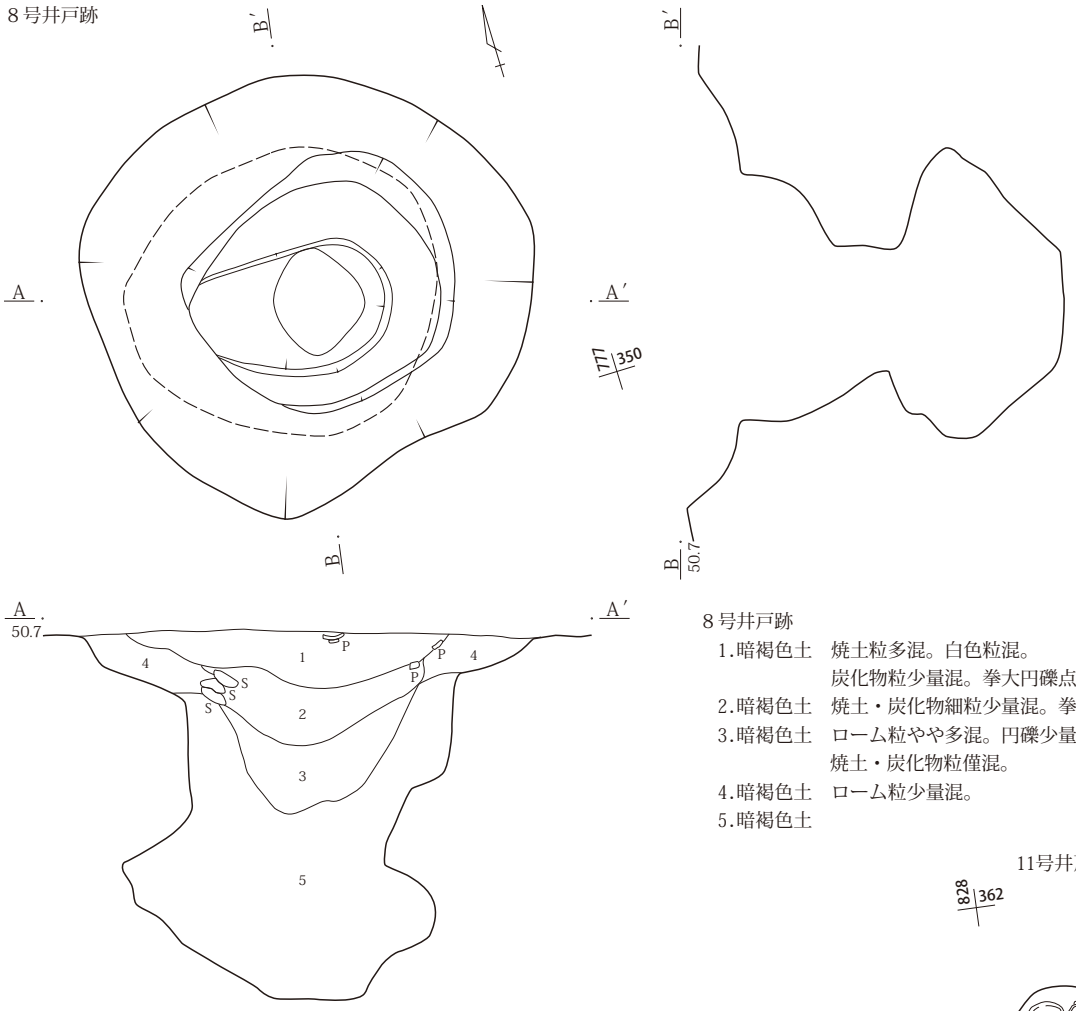
５号井戸跡
1.暗褐色土　焼土粒やや多混。円礫混。白色粒僅混。
2.黒褐色土　円礫混。焼土・ローム粒少量混。
3.黒褐色土　ロームやや多混。円礫混。焼土粒少量混。

第422図　５・７号井戸跡



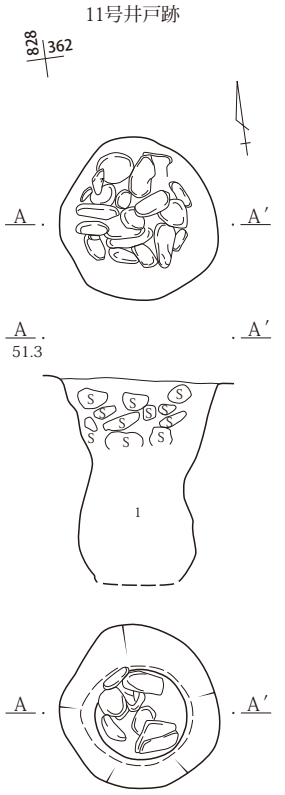
第423図　６・９号井戸跡

８号井戸跡

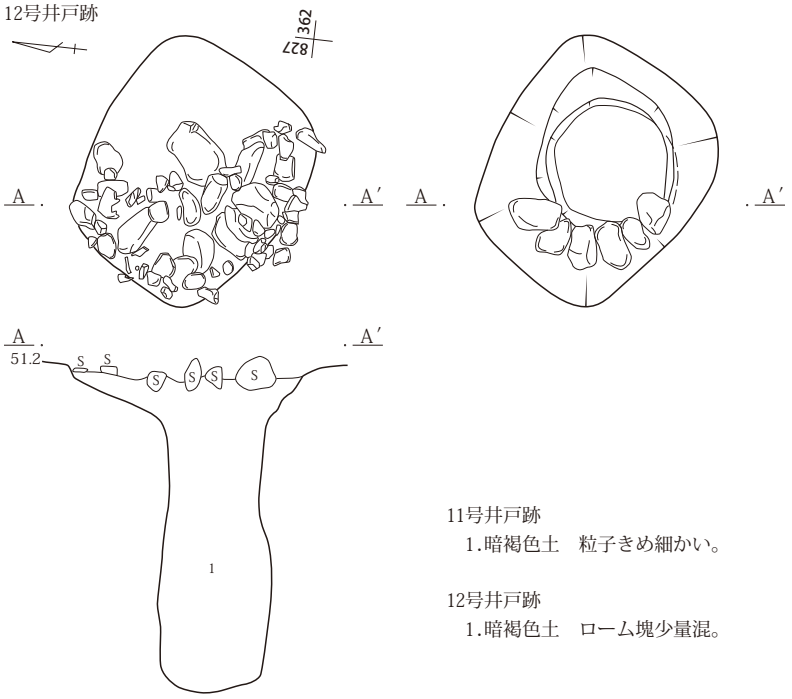


８号井戸跡
1.暗褐色土　焼土粒多混。白色粒混。
　　炭化物粒少量混。拳大円礫点在。
2.暗褐色土　焼土・炭化物細粒少量混。拳大円礫点在。
3.暗褐色土　ローム粒やや多混。円礫少量混。
　　焼土・炭化物粒僅混。
4.暗褐色土　ローム粒少量混。
5.暗褐色土

11号井戸跡



12号井戸跡

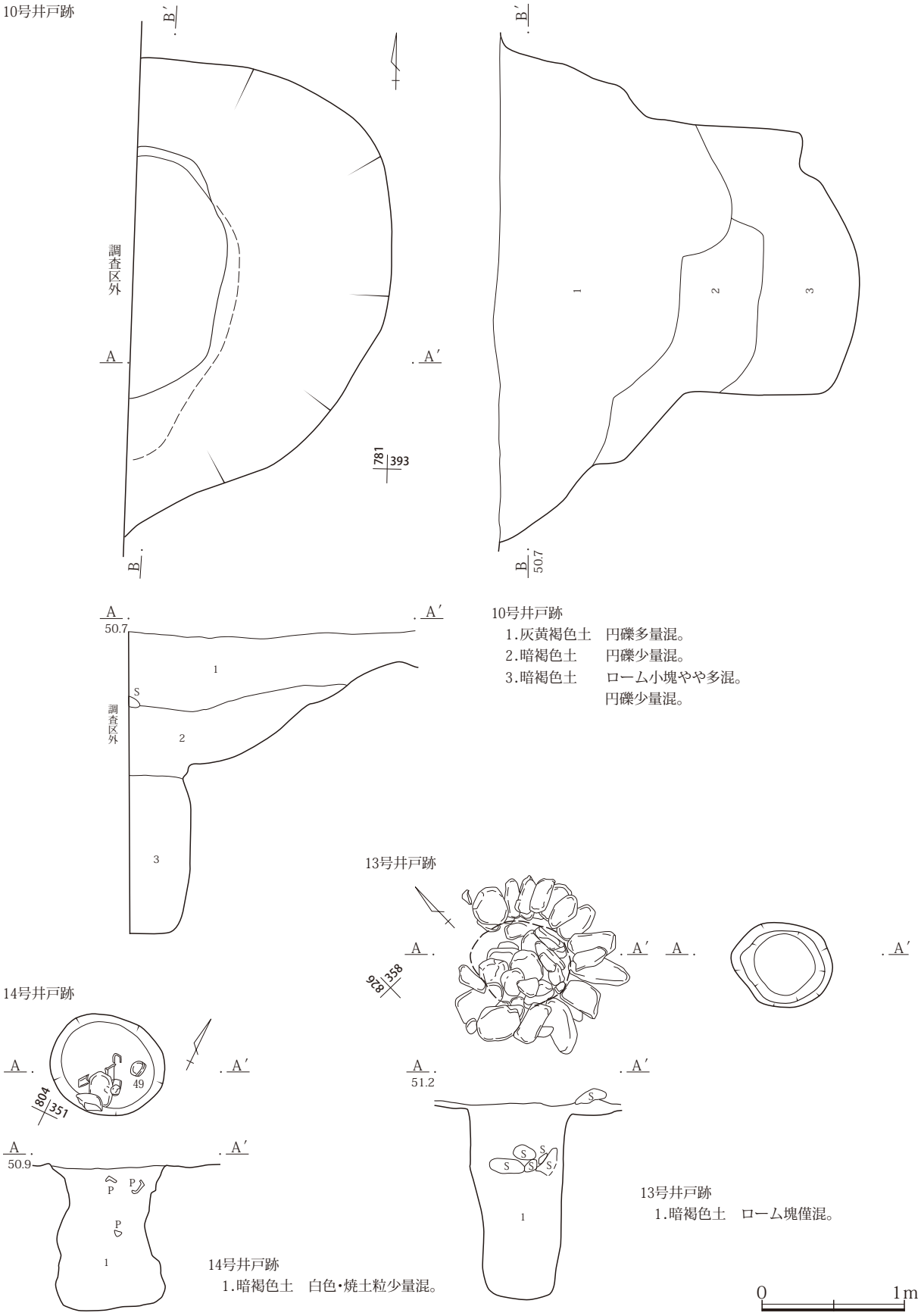


11号井戸跡
1.暗褐色土　粒子きめ細かい。

12号井戸跡
1.暗褐色土　ローム塊少量混。

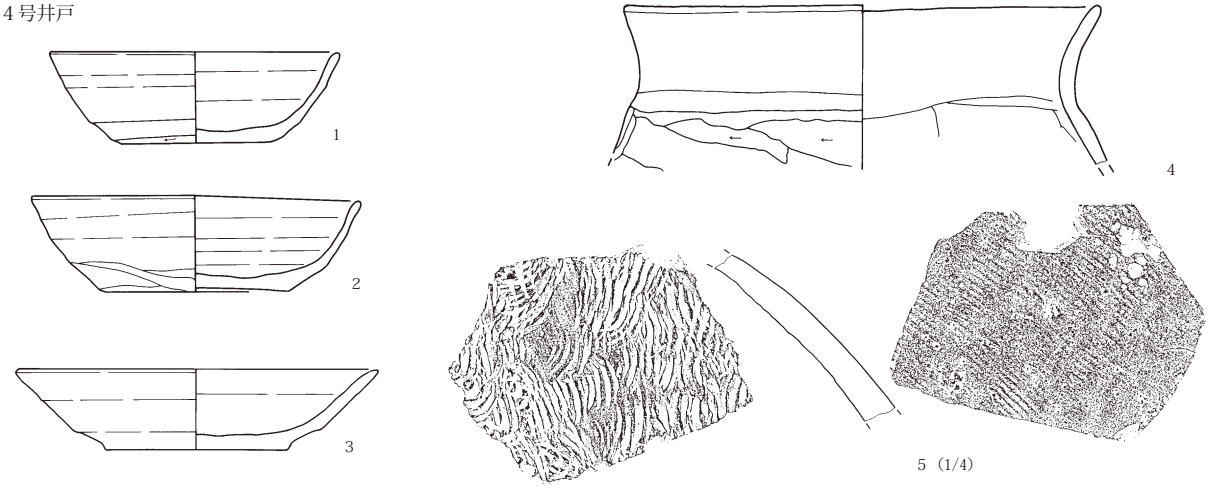
0　1m

第424図　８・11・12号井戸跡

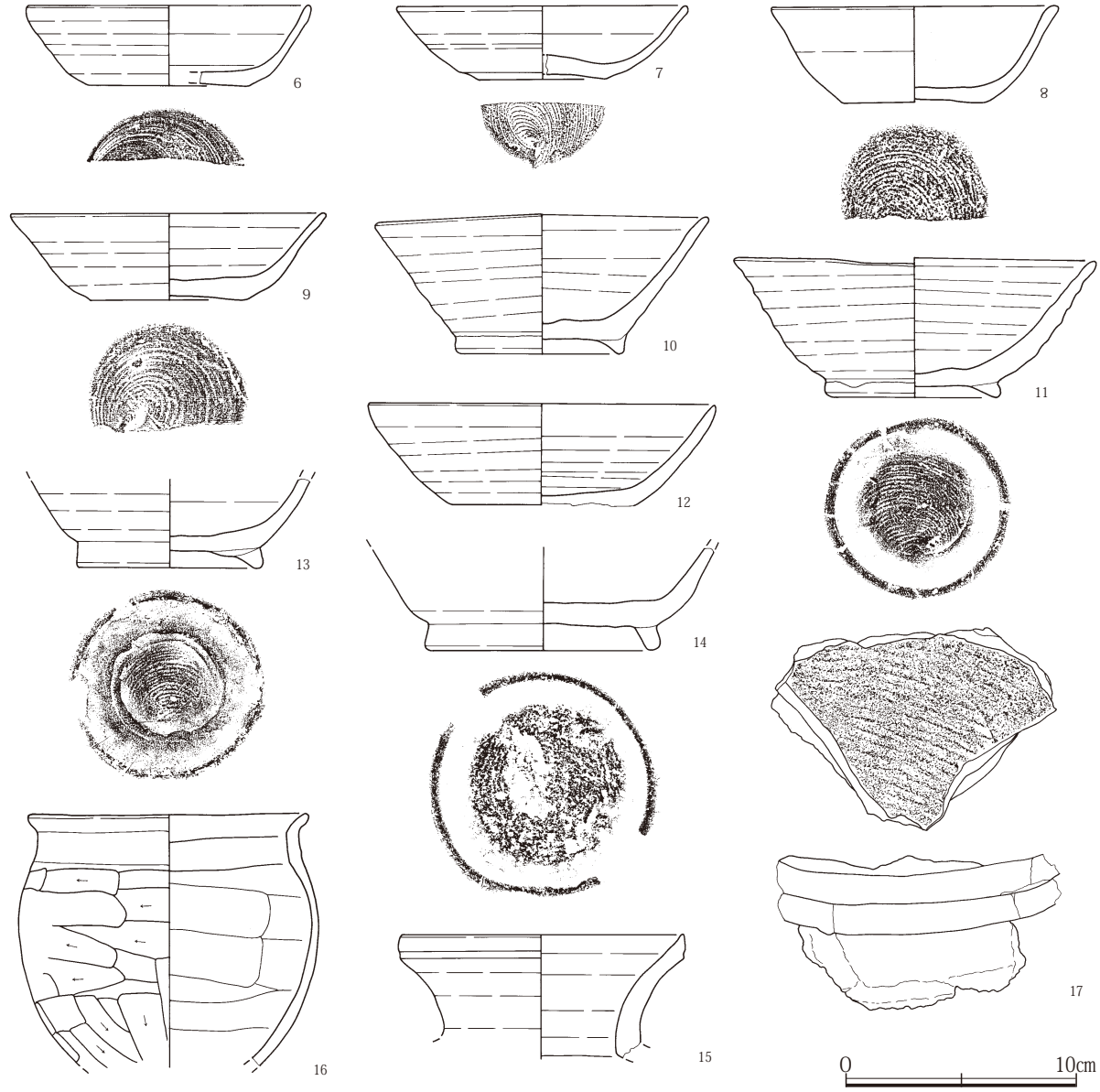


第425図　10・13・14号井戸跡

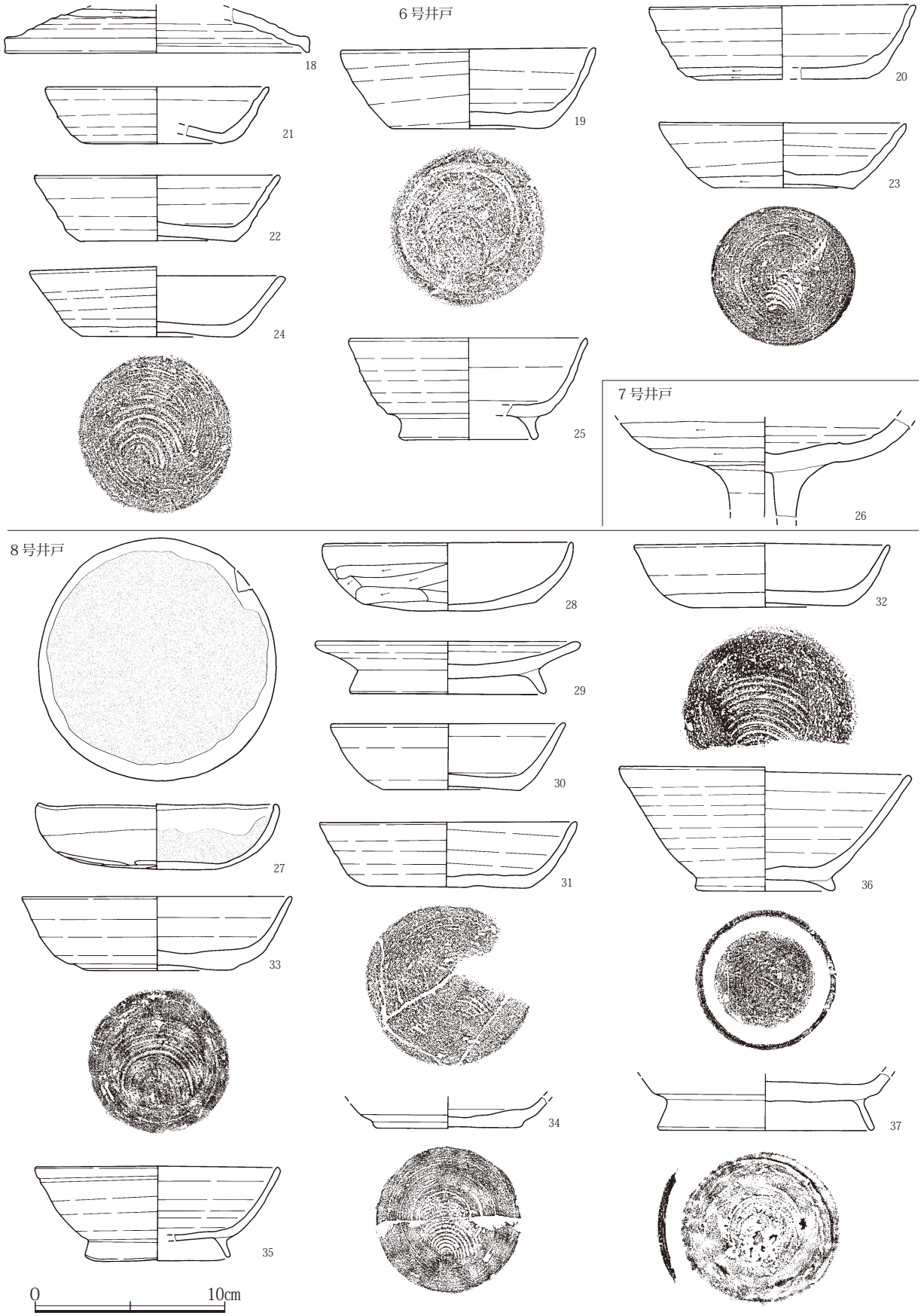
４号井戸



５号井戸

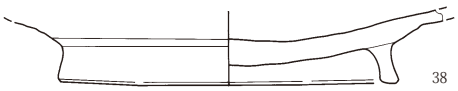


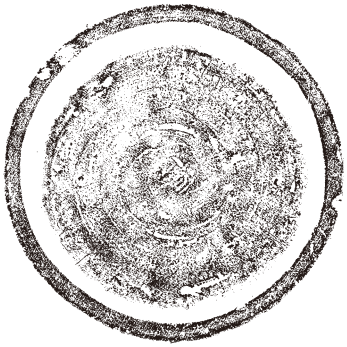
第426図　井戸跡出土遺物（１）

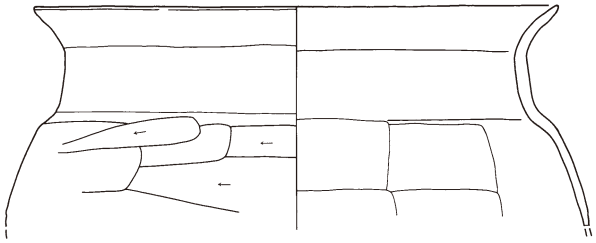


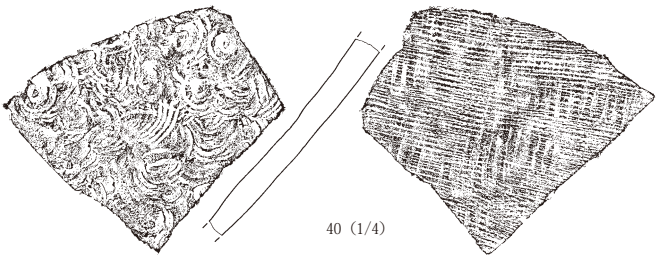
第427図　井戸跡出土遺物（２）

８号井戸

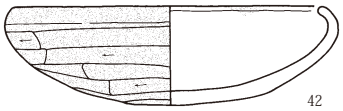

38

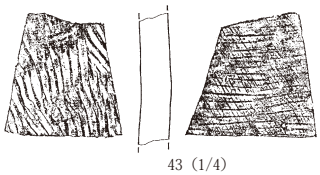


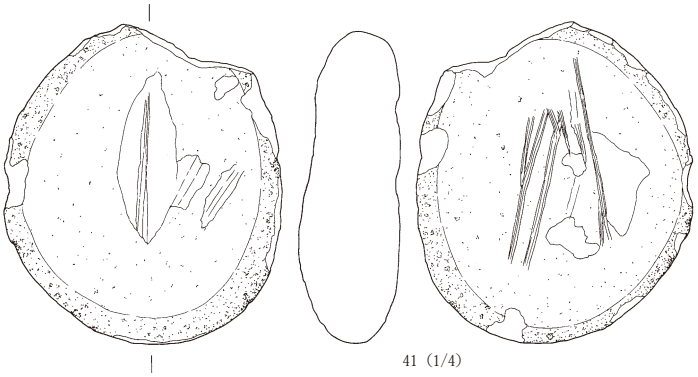

39


40（1/4）

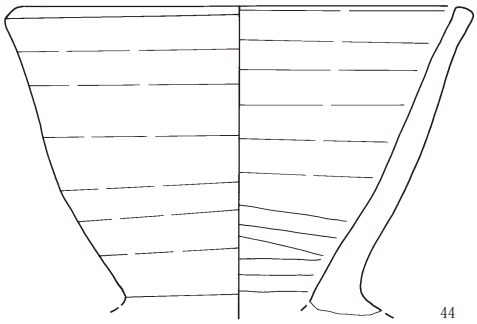
11号井戸

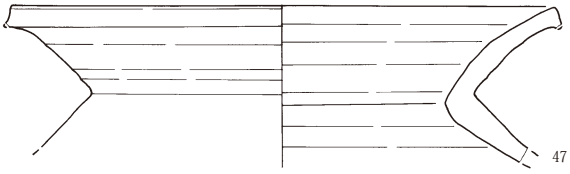

42

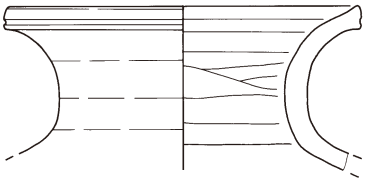

43（1/4）

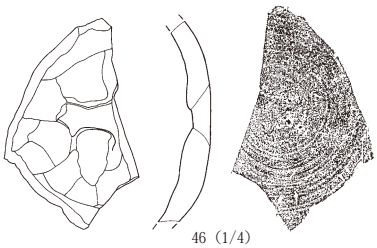

41（1/4）

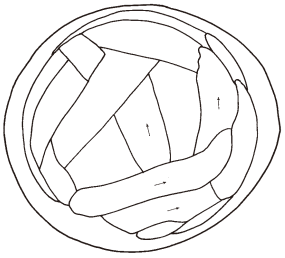
12号井戸


44

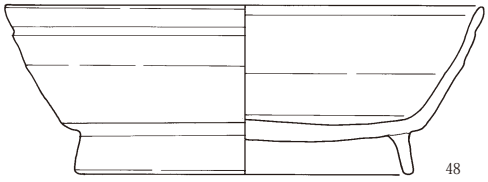

47


45

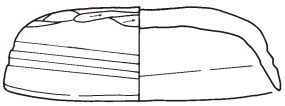

46（1/4）



13号井戸


48

14号井戸


49

0　10cm

第428図　井戸跡出土遺物（３）

さ0.38m。1004号土坑跡長径（1.04）m・短径（0.66）m・深さ0.4m、断面は逆台形状を呈する。1005号土坑跡長径（0.68）m・短径（0.53）m・深さ0.22m。**埋土**：いずれも暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（２）1006号土坑跡

位置：調査区南端。Ｘ310~315・Ｙ-780Gr.　**重複**：205号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：東西に若干長いがほぼ円形状を呈する浅い土坑跡。長径1m・短径0.94m・深さ0.12m、断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：黒褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（３）1008号土坑跡

位置：調査区東壁際。Ｘ330・Ｙ-760Gr.　**重複**：なし。**規模と形状**：北西－南東方向に長い楕円形状を呈する。長径0.92m・短径0.8m・深さ0.25m、断面は半円弧状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（４）1009号土坑跡

位置：調査区南東端付近。Ｘ320・Ｙ-765Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈する浅い土坑跡。長径1.44m・短径1.22m・深さ0.2m、断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（５）1010号土坑跡

位置：調査区中央より南東。Ｘ325~330・Ｙ-785Gr.　**重複**：220・239号竪穴建物跡、1012号土坑跡を掘り込む。　**規模と形状**：北東－南西方向に長い、長方形状を呈する浅い土坑跡。南側に隣接する大道東遺跡で検出された溝につながる可能性もある。長径5.42m・短径1.3m・深さ0.18m、断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：黒褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（６）1012号土坑跡

位置：調査区中央より南東。Ｘ330・Ｙ-785Gr.　**重複**：1010号土坑跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：北西－南東方向に長い楕円形状を呈する浅い土坑跡。長径1.98m・短径1.18m・深さ0.28m、断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：黒褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（７）1013号土坑跡

位置：調査区南端部の中央。Ｘ325・Y- ７80Gr.　**重複**：239号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：南北に若干長いほぼ円形状を呈する。長径1.1m・短径1.05m・深さ0.42m、断面は長方形状を呈する。**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（８）1014号土坑跡

位置：調査区南東。Ｘ330・Ｙ-780Gr.　**重複**：203号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.75m・短径0.98m・深さ0.14m、断面は扁平。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（９）1016号土坑跡

位置：調査区南端付近。Ｘ315・Ｙ-780Gr.　**重複**：205号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：ほぼ円形状を呈し、若干オーバーハングするやや深めの土坑跡。長径0.42m・短径0.4m・深さ0.7m、断面は袋状を呈する。　**埋土**：鈍い黄褐色土ベース。**遺物**：なし。

（10）1017号土坑跡

位置：調査区南東端。Ｘ325~330・Ｙ-760~765Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：北西－南東方向に長い楕円形状を呈する浅い土坑跡。長径1.48m・短径0.96m・深さ0.16m、断面は扁平な逆台形状を呈する。**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：埋土中より須恵器杯。

（11）1018号土坑跡

位置：調査区南東端付近。Ｘ320・Ｙ-760Gr．　**重複**：222号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形を呈する浅い土坑跡。長径1.3m・短径0.79m・深さ0.15m、断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：埋土中より須恵器甕片。

（12）1019号土坑跡

位置：調査区中央、やや南西寄り。Ｘ345・Ｙ-810Gr．　**重複**:226号竪穴建物跡に掘り込まれる。**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形を呈する。226号竪穴建物跡の床下から検出。長径0.6m・短径0.5m・深さ0.26m、断面はやや扁平な長方形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（13）1020号土坑跡

位置：調査区南東端付近。Ｘ325・Ｙ-765Gr．　**重複**：202・221号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：西側半分以上を202号竪穴建物跡に破壊されており、北側も221号竪穴建物跡に破壊されているため、全容は不明である。確認長径（2.6）m・確認短径（0.9）m・確認最大深度0.4m。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：埋土中より須恵器杯。

（14）1021号土坑跡

位置：調査区南東端付近。Ｘ315~320・Ｙ-775Gr．**重複**：206号竪穴建物跡に掘り込まれる。1022号土坑跡を掘り込む。　**規模と形状**：北東－南西方向に長い不整楕円形状を呈し、中央が一段深く掘り窪められている。長径3.02m・短径2m・深さ0.6m。**埋土**：暗褐色土ベース。 **特色**：埋土中に多量の縄文土器片が混入していたが、１層及び２層から轆轤成形された須恵器高台付碗や杯が出土していることから、平安時代に掘削された土坑とみられる。埋土中から出土した大量の縄文土器は、近接する縄文時代の遺構からの流れ込みと考えられる。　**時期**：７Ｃ～９Ｃ。　**遺物**：埋土中に散在。須恵器杯、椀、甕など。「入田」の墨書土器が出土。

（15）1023号土坑跡

位置：調査区中央からやや南端近く。Ｘ340~345・Ｙ-805Gr．　**重複**：62号掘立柱建物跡、232号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：北東－南西方向に長い楕円形状を呈する。長径1.5m・短径1.26m・深さ0.32m。　**埋土**:暗褐色土ベース。　**遺物**:なし。

（16）1030・1031号土坑跡

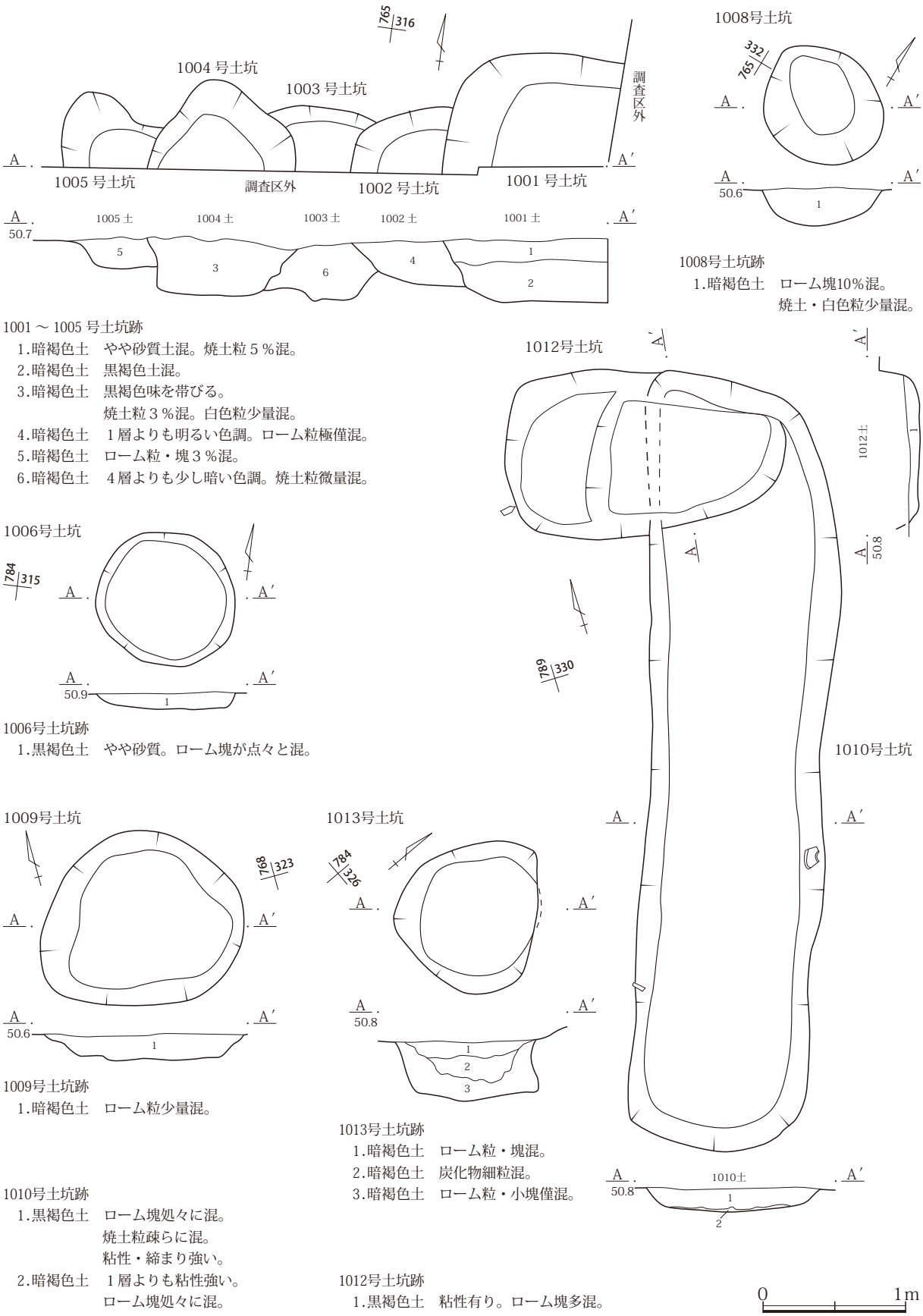
位置：調査区南西壁際中程。Ｘ345・Ｙ-815Gr．　**重複**:1031号土坑跡が1030号を掘り込む。　**規模と形状**:ともに北東－南西方向に長い楕円形状を呈する。1030号土坑跡長径0.71m・短径0.6m・深さ0.21m。1031号土坑跡長径0.62m・短径0.48m・深さ0.34m。**埋土**:両土坑跡ともに暗褐色土ベース。　**遺物**:なし。

（17）1032・1033号土坑跡

位置:調査区南西壁際中程。Ｘ345・Ｙ-815Gr．　**重複**:両土坑跡ともに南西側に隣接する大道東遺跡で検出された掘立柱建物跡に掘り込まれ、さらに237号竪穴建物跡と1033号土坑跡が1032号を掘り込む。　**規模と形状**：1032号土坑跡は南北に長い楕円形状を呈する。長径（0.58）m・短径（0.4）m・深さ0.41m。1033号土坑跡は北東－南西方向に長い隅丸長方形状を呈する。長径1.5m・短径1.22m・深さ0.36m。断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：両土坑跡ともに暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

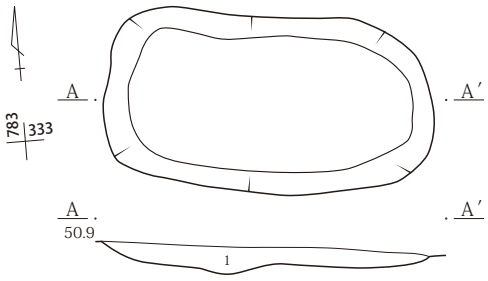
（18）1034・1035・1037号土坑跡

位置：調査区南西壁際中程。Ｘ340~345・Ｙ-815Gr．　**重複**:いずれも237号竪穴建物跡に掘り込まれる。1037号土坑を1034号土坑跡が掘り込み、さらに1034号土坑跡を1035号土坑跡が掘り込む。　**規模と形状**:最も新しい1035号土坑跡は東西に長い楕円形状を呈し、口縁が漏斗状に浅く広がって、西壁寄りの部分が一段と深くなり、オーバーハングしてフラスコ状の断面を呈している。長径1.7m・短径1m・一段深


1004 号土坑
1003 号土坑
1005 号土坑
調査区外
1002 号土坑
1001 号土坑
調査区外
765
316
A
A′
50.7
1005 土
1004 土
1003 土
1002 土
1001 土
1008号土坑
332
765
50.6
1008号土坑跡
1.暗褐色土　ローム塊10％混。
焼土・白色粒少量混。
1001 ～ 1005 号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質土混。焼土粒５％混。
2.暗褐色土　黒褐色土混。
3.暗褐色土　黒褐色味を帯びる。
焼土粒３％混。白色粒少量混。
4.暗褐色土　１層よりも明るい色調。ローム粒極僅混。
5.暗褐色土　ローム粒・塊３％混。
6.暗褐色土　４層よりも少し暗い色調。焼土粒微量混。
1012号土坑
1012土
50.8
789
330
1006号土坑
784
315
50.9
1006号土坑跡
1.黒褐色土　やや砂質。ローム塊が点々と混。
1010号土坑
1009号土坑
768
323
50.6
1009号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒少量混。
1013号土坑
784
326
50.8
1013号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊混。
2.暗褐色土　炭化物細粒混。
3.暗褐色土　ローム粒・小塊僅混。
1010土
1010号土坑跡
1.黒褐色土　ローム塊処々に混。
焼土粒疎らに混。
粘性・締まり強い。
2.暗褐色土　１層よりも粘性強い。
ローム塊処々に混。
1012号土坑跡
1.黒褐色土　粘性有り。ローム塊多混。
0
1m

第429図　土坑跡（１）

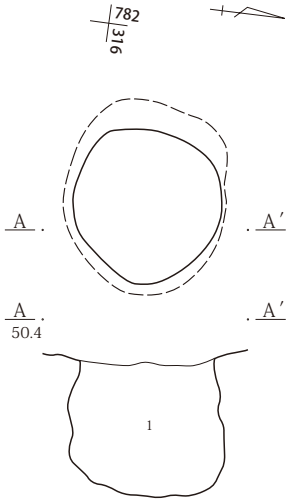
1014号土坑



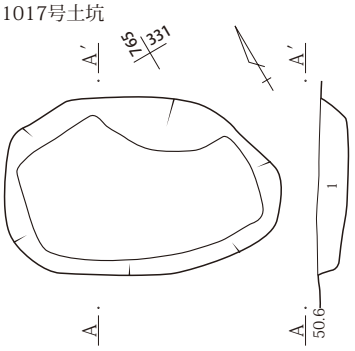
1014号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒少量混。

1016号土坑跡
1.鈍い黄褐色土　やや砂質。

1016号土坑

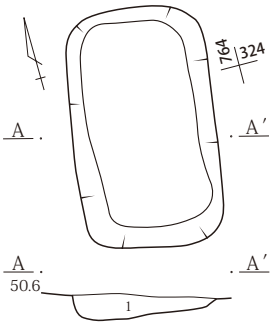


1017号土坑



1017号土坑跡
1.暗褐色土　ローム塊少量混。

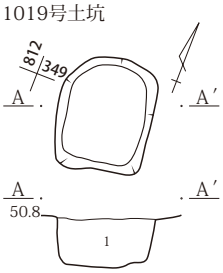
1018号土坑



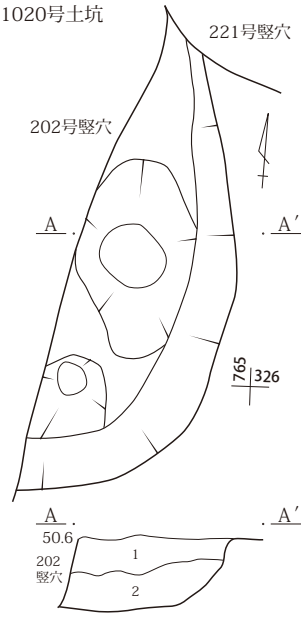
1018号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒少量混。

1019号土坑跡
1.暗褐色土　黒褐色土粒混。
ローム粒・小塊
10%混。

1019号土坑

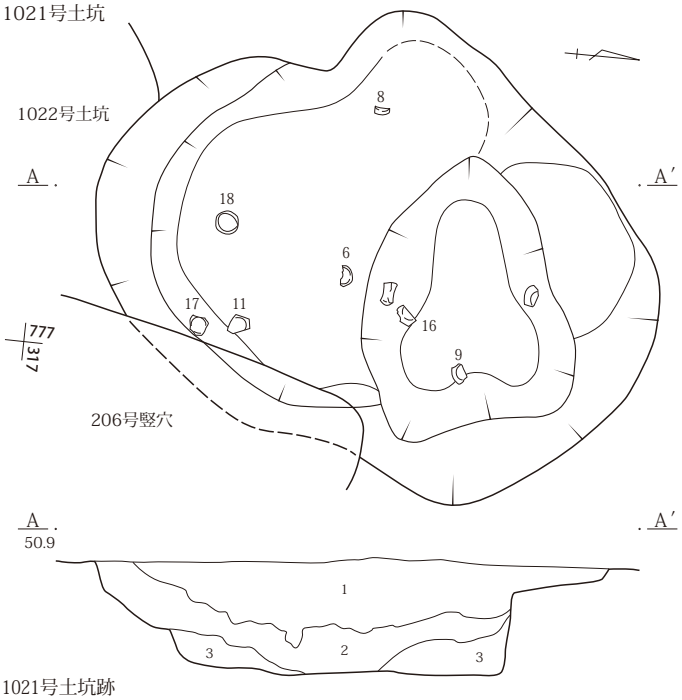


1020号土坑



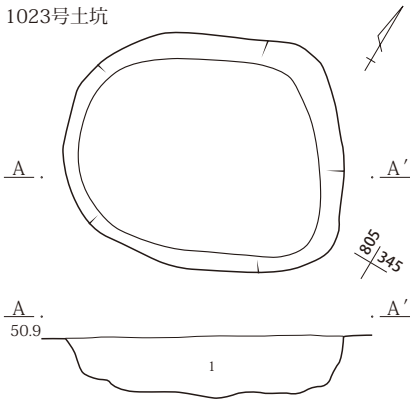
1020号土坑跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒少量混。
2.黒褐色土　ローム小塊少量混。

1021号土坑



1021号土坑跡
1.暗褐色土　焼土粒・小塊多混。
炭化物・白色粒、ローム粒・小塊少量混。
2.暗褐色土　焼土・ローム粒少量混。
3.暗褐色土　やや黒味が強い。ローム粒・小塊多混。

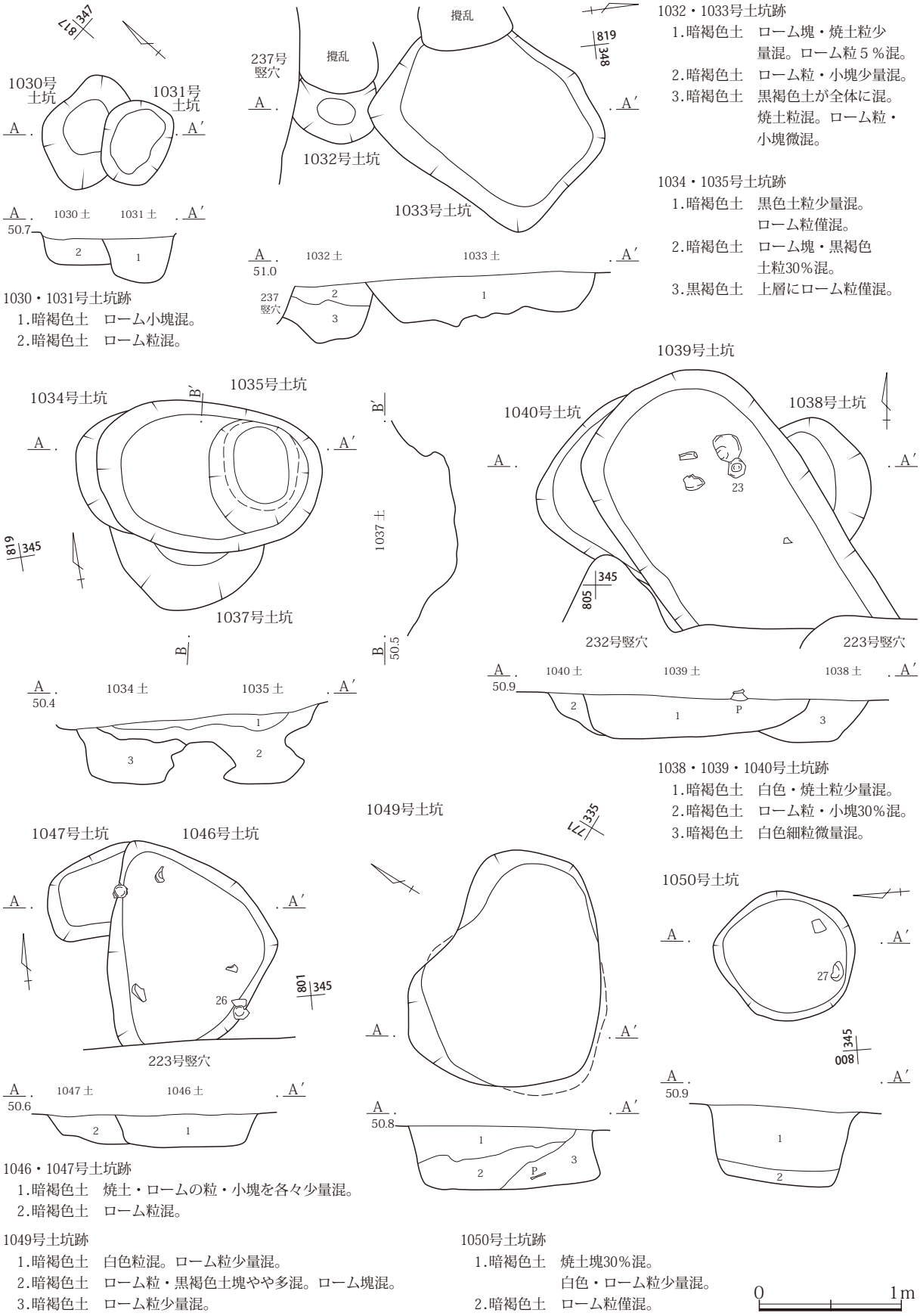
1023号土坑



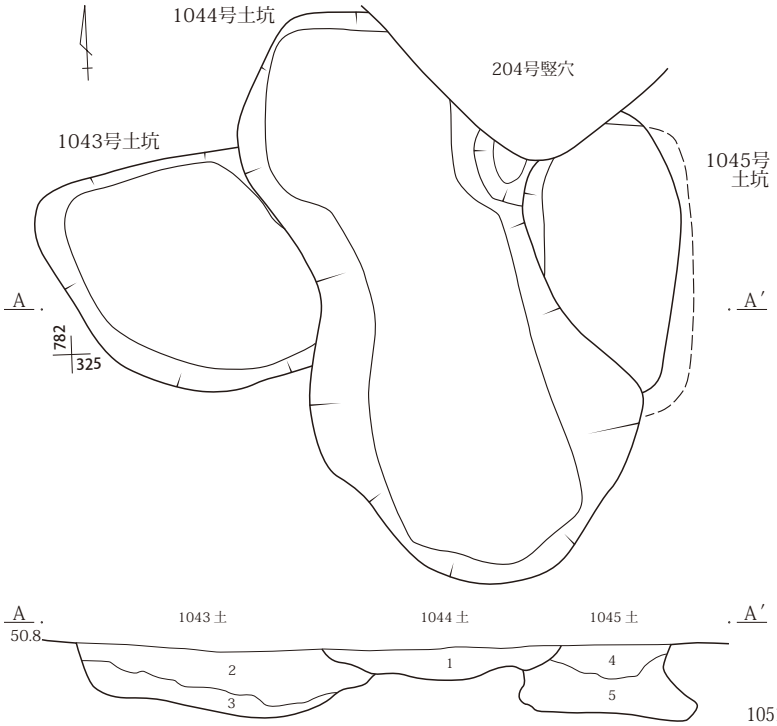
1023号土坑跡
1.暗褐色土　ローム・焼土粒少量混。

0　1m

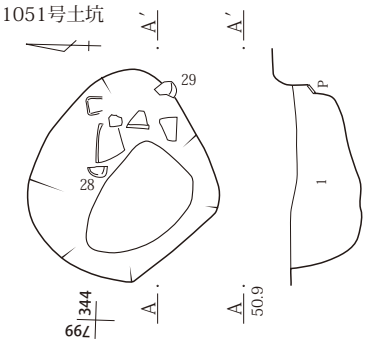
第430図　土坑跡（２）


817 347
1030号土坑
1031号土坑
A
A′
1030 土
1031 土
50.7
1
2
1032・1033号土坑跡
1.暗褐色土　ローム塊・焼土粒少量混。ローム粒５％混。
2.暗褐色土　ローム粒・小塊少量混。
3.暗褐色土　黒褐色土が全体に混。焼土粒混。ローム粒・小塊微混。
237号竪穴
攪乱
819 348
1032号土坑
1033号土坑
1032 土
1033 土
51.0
3
1034・1035号土坑跡
1.暗褐色土　黒色土粒少量混。ローム粒僅混。
2.暗褐色土　ローム塊・黒褐色土粒30％混。
3.黒褐色土　上層にローム粒僅混。
1030・1031号土坑跡
1.暗褐色土　ローム小塊混。
2.暗褐色土　ローム粒混。
1034号土坑
1035号土坑
B′
B
819 345
1037号土坑
1037 土
1034 土
1035 土
50.4
1039号土坑
1040号土坑
1038号土坑
23
345 805
232号竪穴
223号竪穴
1040 土
1039 土
1038 土
50.9
P
1038・1039・1040号土坑跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒少量混。
2.暗褐色土　ローム粒・小塊30％混。
3.暗褐色土　白色細粒微量混。
1047号土坑
1046号土坑
26
801 345
223号竪穴
1047 土
1046 土
50.6
1049号土坑
335 171
50.8
1050号土坑
27
345 008
50.9
1046・1047号土坑跡
1.暗褐色土　焼土・ロームの粒・小塊を各々少量混。
2.暗褐色土　ローム粒混。
1049号土坑跡
1.暗褐色土　白色粒混。ローム粒少量混。
2.暗褐色土　ローム粒・黒褐色土塊やや多混。ローム塊混。
3.暗褐色土　ローム粒少量混。
1050号土坑跡
1.暗褐色土　焼土塊30％混。白色・ローム粒少量混。
2.暗褐色土　ローム粒僅混。
0
1m

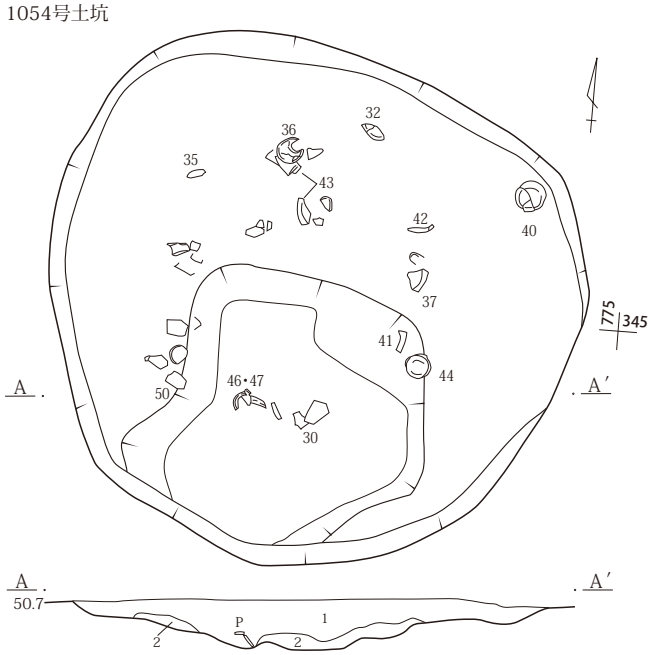
第431図　土坑跡（３）

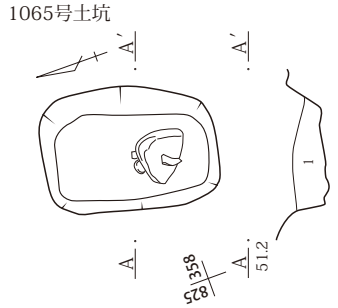


1043・1044・1045号土坑跡
1.暗褐色土　やや明るい色調を呈する。
ローム粒・小塊少量混。
2.暗褐色土　やや暗い色調を呈する。
白色粒混。ローム粒僅混。
3.暗褐色土　やや暗い色調を呈する。
白色粒混。ローム粒僅混。
4.暗褐色土　やや暗い色調を呈する。
白色粒混。ローム粒僅混。
5.暗褐色土　ローム・黒褐色土・
炭化物粒少量混。

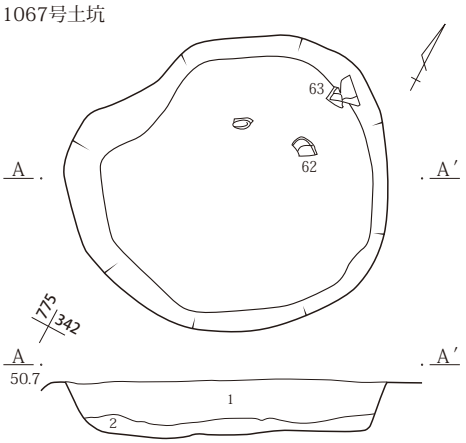


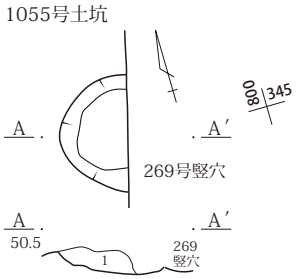
1051号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒少量混。白色粒微量混。





1065号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒少量混。締まり無く柔らか。





1054号土坑跡
1.暗褐色土　白色粒混。
ローム粒少量混。
2.暗褐色土　ローム粒・小塊やや多混。

1055号土坑跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒少量混。

1067号土坑跡
1.暗褐色土　焼土・炭化物の粒・小塊をやや多混。白色粒混。
2.暗褐色土　ローム粒・小塊やや多混。

0　1m

第432図　土坑跡（４）

い部分の口径約0.5m・深さ0.54m。この1035号土坑跡に掘り込まれる1034号土坑跡は円形ないし楕円形状を呈していたものと考えられ、断面は逆台形状を呈し、ほぼ1035号竪穴建物跡と同様の深さを呈している。長径0.8m・短径（0.4）m・深さ0.5m。最も古く掘削された1037号土坑跡は、南北に長い楕円形状を呈しており、長径（1.08）m・短径（0.5）m・深さ0.36m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：1035・1037号土坑跡は暗褐色土ベース。1034号土坑跡は黒褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（19）1038・1039・1040号土坑跡

位置：調査区中央南寄り。X340~345・Y-800~-805Gr.　**重複**：1039号土坑は223・232・248号竪穴建物跡に掘り込まれ、1038・1040号土坑跡を掘り込む。1038号土坑跡は248号竪穴建物跡、1039号土坑跡に掘り込まれる。1040号土坑跡は232号竪穴建物跡、1039号土坑跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：最も新しい1039号土坑跡は北西－南東方向に長い長円形状を呈していたものと思われるが、南側を223・232号竪穴建物跡によって掘り込まれているため、全容は不明である。長径（2.2）m・短径1.4m・深さ0.32m。断面は扁平な逆台形状を呈する。1038号土坑跡と1040号土坑跡は、共に1039号土坑跡の掘り込みによって全容は類推不能である。1038号土坑跡長径（0.92）m・短径（0.4）m・深さ0.3m。1040号土坑跡長径（1.1）m・短径（1）m・深さ0.3m。なお、1038号土坑跡と1040号跡の新旧関係は明らかにしがたい。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：1039号土坑埋土中より。

（20）1043・1044・1045号土坑跡

位置：調査区南東端寄り。X320~325・Y-775~-780Gr.　**重複**：1043号土坑は1044号土坑跡に、1044号土坑跡は204号竪穴建物跡に、1045号土坑跡は204号竪穴建物跡、1044号土坑跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：最も新しい1044号土坑跡は南北に長い不整長円形状を呈する浅い土坑跡。長径3.2m・短径1.92m・深さ0.18m。断面は扁平な半レンズ状を呈する。1043号土坑跡は、1044号土坑に東辺を浅く掘り込まれるが、全容類推はほぼ可能である。不整円形状を呈し、深い掘り込みを有する。長径(1.32)m・短径1.32m・深さ0.36m。断面は扁平な逆台形状を呈する。1045号土坑跡は204号竪穴建物跡と1044号土坑跡によって、全容は不明なくらいに破壊されているが、南北に長い楕円形状を呈し、断面はフラスコ状にオーバーハングしていた様子がうかがえた。長径1.5m・短径0.86m・深さ0.4m。なお、1044号土坑跡に掘り込まれている1043号土坑跡と1045号跡との新旧関係は明らかにしがたい。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：1044号土坑跡埋土中より。

（21）1046・1047号土坑跡

位置：調査区中央南寄り。X340~345・Y-800Gr.　**重複**：1046号土坑は223号土坑跡に掘り込まれ、1047号土坑跡の東側を掘り込む。両土坑跡は北側を250号竪穴建物跡によって掘り込まれ、248号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：1046号土坑跡は隅丸不等辺逆三角形状を呈する浅い土坑跡。長径(1.44)m・短径1.2m・深さ0.22m。断面は扁平な逆台形状を呈する。1047号土坑跡は1046号土坑に東側を掘り込まれており、全容は不明。長径（0.7）m・短径（0.66）m・深さ0.2m。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：1046号土坑跡埋土中より。

（22）1049号土坑跡

位置：調査区南東寄り。X330~335・Y-770Gr.　**重複**：254号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：東北東－西南西方向に長い不整台形状を呈する。長径1.65m・短径1.36m・深さ0.44m。断面は長方形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（23）1050号土坑跡

位置：調査区中央やや南寄り。X345・Y-795Gr.　**重複**：265・269号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：南北に若干長いほぼ円形状を呈する。長径1m・

短径0.9m・深さ0.55m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：埋土中より須恵器椀。

（24）1051号土坑跡

位置：調査区中央やや南寄り。X340・Y-795Gr.　**重複**:223・266号竪穴建物跡が重複する部分を上から掘り込む。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.12m・短径1m・深さ0.46m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：埋土中より須恵器杯２。

（25）1054号土坑跡

位置：調査区南東端寄り。X340~345・Y-775Gr.　**重複**:338号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**:東西に若干長い不整円形状を呈する。本遺跡最大の面積を有する土坑跡であり、形状から、一見、縄文時代の竪穴建物跡の可能性も疑われたが、出土遺物や遺構の状況から古代の遺構と判断された。長径2.94m・短径2.7m・深さ0.26m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**:暗褐色土ベース。　**時期**：８Ｃ。　**遺物**：埋土中に散在。やや多くの土器が出土。

（26）1055号土坑跡

位置：調査区中央南寄り。X340~345・Y-800Gr.　**重複**:248・269号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：東側約半分を破壊されているため全容は不明。残存長径（0.62）m・残存短径（0.38）m・深さ0.14m。　**埋土**:暗褐色土ベース。　**遺物**:なし。

（27）1061・1062号土坑跡

位置：調査区中央南東寄り。X345・Y-770~-775Gr.　**重複**:1061号土坑跡は1062号土坑跡を掘り込む。1062号土坑跡は241号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：両土坑とも南北に長い隅丸長方形状を呈する、ほぼ同規模、同形状を呈する土坑跡である。並列して構築されており、1062号土坑跡の掘り直しが1061号土坑跡である可能性も考えられる。規模や形状から墓壙の可能性が類推できるところであるが、そのような証左となるような土層の堆積状況や遺物はなかった。ただし、埋土中に焼土粒が非常に多く混入する点が特徴的である。1061号土坑跡は長径2.58m・短径2.04m・深さ0.32m。1062号土坑跡は長径2.74m・短径（1.6）m・深さ0.38m。両土坑跡とも断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：1061号土坑跡８Ｃ３、1062号土坑跡８Ｃ。　**遺物**：1061号土坑跡埋土中より土師器杯、須恵器杯、甕など。1062号土坑跡埋土中より須恵器杯。

（28）1065号土坑跡

位置：調査区西端付近。X355・Y-820Gr.　**重複**:なし。　**規模と形状**：北東－南西方向に長い隅丸方形状を呈する浅い土坑跡。長径0.95m・短径0.68m・深さ0.26m。断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（29）1067号土坑跡

位置：調査区中央より南東。X340・Y-770~-775Gr.　**重複**:なし。　**規模と形状**：北東－南西方向に長い不整円形状を呈する。長径1.74m・短径1.58m・深さ0.32m。断面は扁平な逆台形状を呈するが、しっかりとした掘方を有している。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：９Ｃ前。　**遺物**：埋土中より須恵器杯、鉢など。

（30）1069号土坑跡

位置：調査区の中央若干東寄り。X365・Y-780~-785Gr.　**重複**:１号粘土採掘坑跡を掘り込む。　**規模と形状**：東西に長大な隅丸長方形状を呈する。長径4.08m・短径1.02m・深さ0.9m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：南側に並列する、重複する1078・1079号土坑跡も、本遺構ほど長大ではないが、同様の形状・特徴を示す。特異な形状であるが、土坑の用途・機能を明確に出来るような埋土堆積状況や出土遺物は見出せなかっ

1061号土坑　1062号土坑

1061・1062号土坑跡
1.暗褐色土　焼土粒多量混。白色粒混。
2.暗褐色土　やや明るい色調を呈する。ローム粒少量混。
3.暗褐色土　焼土粒多量混。白色粒混。
4.暗褐色土　焼土・ローム粒少量混。

1069号土坑

1070号土坑

1071号土坑

1069号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒・As-B軽石少量混。
2.暗褐色土　ローム塊10％混。As-B軽石少量混。
3.暗褐色土　黒褐色土粒僅混。As-B軽石少量混。

1070号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒少量混。焼土粒・白色細粒僅混。

1071号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒混。

1072号土坑　1073号土坑

1074号土坑

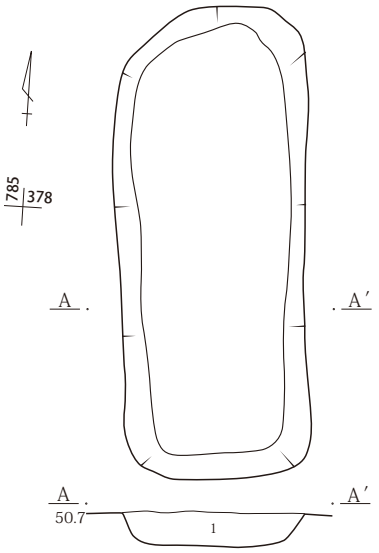
1072・1073号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒僅混。
2.暗褐色土　ローム粒混。

1074号土坑跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒・As-B軽石少量混。

0　1m

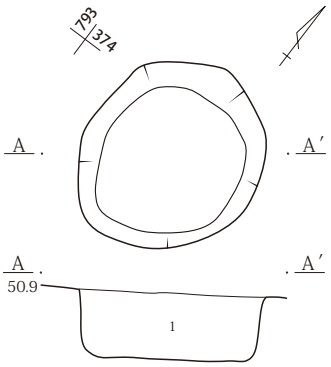
第433図　土坑跡（５）

1075号土坑



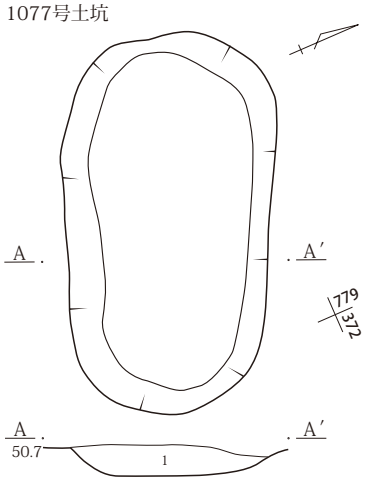
1075号土坑跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒・
As-B軽石少量混。

1076号土坑



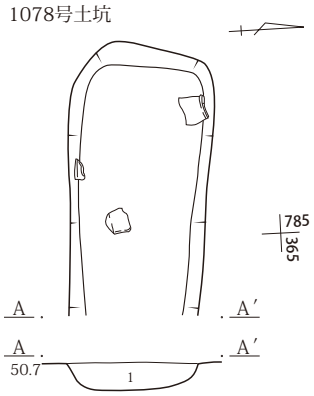
1076号土坑跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒・
As-B軽石少量混。

1077号土坑



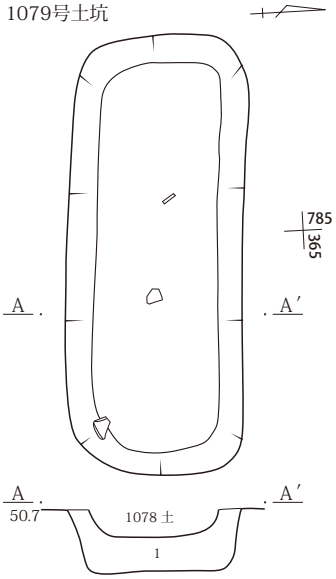
1077号土坑跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒・
As-B軽石少量混。

1078号土坑



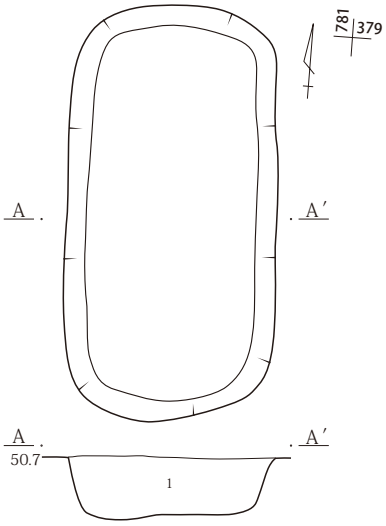
1078号土坑跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒僅混。

1079号土坑



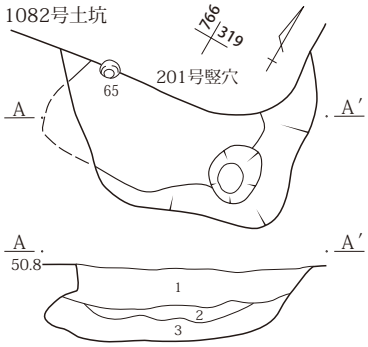
1079号土坑跡
1.暗褐色土　ローム塊混粒少量混。

1080号土坑



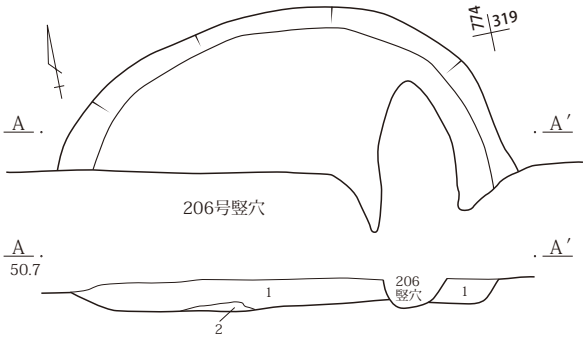
1080号土坑跡
1.暗褐色土　黒褐色砂質土・焼土粒少量混。
白色粒僅混。

1082号土坑



1082号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊少量混。
円礫やや多混。
2.黒褐色土　焼土・ローム細粒僅混。
3.暗褐色土　円礫少量混。ローム粒僅混。

1083号土坑



1083号土坑跡
1.暗褐色土　明るい色調を呈する。ローム粒少量混。
2.鈍い黄褐色土

0　1m

第434図　土坑跡（６）

た。このスタイルの東西ないし南北に長大な、隅丸長方形状を呈する土坑跡は、本調査区の限定された範囲に検出されており、この土坑跡をはじめ、1070～1075・1077～1080・1117～1127号土坑跡の計22基にのぼっている。規模や形状から伸展葬を含む墓壙の可能性が推測されるが、そのことを傍証づけるような出土遺物や土層の堆積状況は、同種のいずれの土坑跡でも特段見い出すことはできなかった。ただ、調査区内でも同種の特色を有する土坑跡の分布の範囲がある程度限定されることから考えるならば、墓壙の可能性は充分考えられよう。同種の土坑跡には、埋土中にAs-B軽石粒が混じるものが比較的多く、12世紀以降の時期と考えられるものも存在し、本遺跡で検出された一連の竪穴建物跡群や掘立柱建物跡群などよりも新しい遺構と見られる。ただし、上面を覆っていた表土や、遺構検出の状況からみて中世までは降らないものと考えられる。なお、西側に隣接する大道東遺跡の南側では、同種の土坑が纏まって検出されている。　**遺物**：なし。

（31）1070号土坑跡

位置：調査区北東寄り。X365~370・Y-780Gr.　**重複**：342号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：北東－南西方向に長い隅丸長方形状を呈する。長径1.58m・短径0.92m・深さ0.25m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：1069号土坑跡から比べるとかなり短いが、同様の形状・特徴を示す一連の土坑の範疇に入る。　**遺物**：埋土中より土師器杯出土。

（32）1071号土坑跡

位置：調査区中央北寄り。X370・Y-790Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い楕円形状を呈する。長径1.17m・短径0.72m・深さ0.18m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：1069号土坑跡よりはかなり小型であるが、同様の形状・特徴を示す一連の土坑の範疇に入る。　**遺物**：なし。

（33）1072・1073号土坑跡

位置：調査区中央北東寄り。X370・Y-780Gr.　**重複**：1072号土坑跡は342号竪穴建物跡、1073号土坑跡を掘り込む。　**規模と形状**：両土坑跡ともに東西に長い隅丸長方形状を呈する。先に掘り込まれた1073号土坑跡の南辺と西辺の一部をあたかも共有するかのように重なって、1073号土坑跡より小型の1072号土坑跡が掘り込まれている。1072号土坑跡は、1073号土坑跡の掘り直しと考えられる。1072号土坑跡は長径2.22m・短径1.1m・深さ0.25m。1073号土坑跡は長径2.67m・短径1.52m・深さ0.25m。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：1069号土坑跡と同様の形状・特徴を示す一連の土坑の範疇にはいる。　**遺物**：なし。

（34）1074号土坑跡

位置：調査区中央やや北東寄り。X375・Y-780Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈する浅い土坑跡。長径1.9m・短径0.96m・深さ0.2m。断面は扁平な逆台形状を呈する。1074号土坑跡と1127号土坑跡が東西に並列し、その北側に、あたかも雁行型に1075号土坑跡と1080号土坑跡とが並列するブロックに所在する。これらは一連の土坑跡として、形状や配置ばかりでなく用途や機能も類似したものと考えられる。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：1069号と類似の形状・特徴を示す一連の土坑の範疇にはいる。　**遺物**：なし。

（35）1075号土坑跡

位置：調査区中央北東寄り。X375・Y-780Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈する浅い土坑跡。長径2.7m・短径1.05m・深さ0.19m。断面は扁平な逆台形状を呈する。1074・1075・1080・1127号土坑跡が雁行型に並列するブロックに所在する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：1069号と類似の形状・特徴を示す一連の土坑の範疇にはいる。　**遺物**：なし。

（36）1076号土坑跡

位置：調査区のほぼ中央北寄り。X370・Y-790Gr.　**重複**：341号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：南北にやや長い楕円形状を呈する土坑跡。長径1.1m・短径0.92m・深さ0.27m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（37）1077号土坑跡

位置：調査区若干東北寄り。X370・Y-775~-780Gr.　**重複**:54号溝跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：北北西－南南東方向に長い隅丸長方形状を呈する浅い土坑跡。長径2.02m・短径1.14m・深さ0.18m。断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：1069号と類似の形状・特徴を示す一連の土坑の範疇にはいる。**遺物**：なし。

（38）1078・1079号土坑跡

位置：調査区中央若干北東寄り。X360・Y-780~-785Gr.　**重複**：１号粘土採掘坑跡を掘り込む。　**規模と形状**：北側に並列する1069号土坑跡同様、東西に長い隅丸長方形状を呈する浅い土坑跡。先に掘り込まれた1079号土坑跡の範囲に収まるかのように1078号土坑跡が掘り込まれているが、1078号土坑跡の東端は1079号土坑跡の掘り込みに同化して明瞭には検出できなかった。全く同位置に存在しているため、1078号土坑跡は1079号土坑跡を掘り直したものと考えられる。1078号土坑跡は長径（1.28）m・短径0.77m・深さ0.15m。断面は扁平な逆台形状を呈する。1079号土坑跡は長径2.34m・短径0.96m・深さ0.34m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：1069号と類似の形状・特徴を示す一連の土坑の範疇にはいる。　**遺物**：なし。

（39）1080号土坑跡

位置：調査区中央北東寄り。X375・Y-780Gr.　**重複**:1127号土坑跡を掘り込む。　**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈する浅い土坑跡。長径2.21m・短径1.12m・深さ0.34m。断面は扁平な逆台形状を呈する。1074・1075・1080・1127号土坑跡が東西南北に雁行型に並列するブロックに所在する。**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：1069号と類似の形状・特徴を示す一連の土坑の範疇にはいる。　**遺物**：なし。

（40）1082号土坑跡

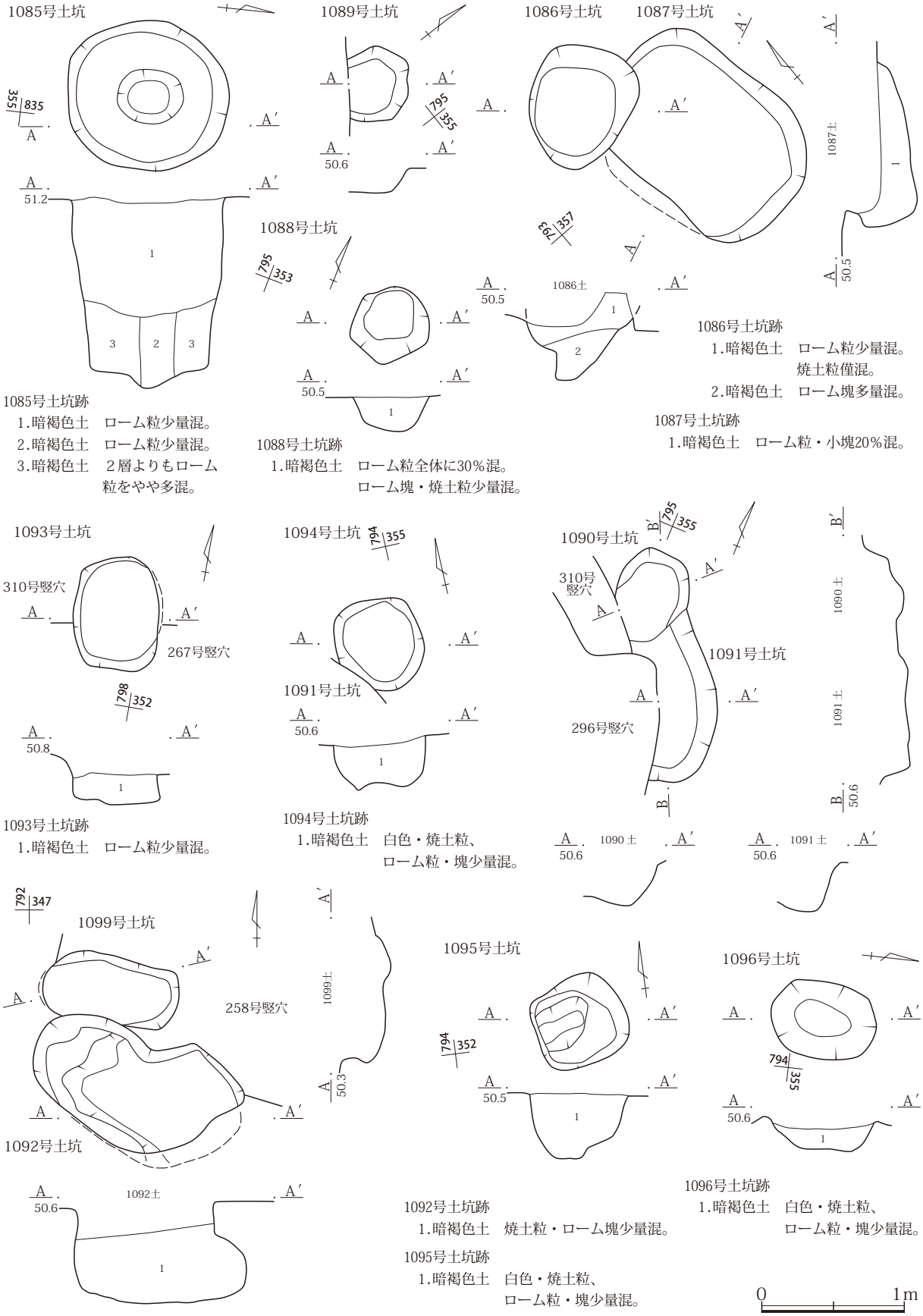
位置：調査区南東端付近。X315・Y-765Gr.　**重複**：201号竪穴建物跡に掘り込まれる。52・53号掘立柱建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：北側約半分が破壊されているため全容不明。残存長径1.38m・短径（0.6）m・深さ0.41m。断面は西側がオーバーハングする袋状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。**遺物**：埋土中より須恵器杯。

（41）1083号土坑跡

位置：調査区の南東端付近。X315・Y-770~-775Gr.　**重複**:206号竪穴建物跡に南約半分以上を掘り込まれる。　**規模と形状**：南側約半分以上が破壊されているため全容は不明。残存長径2.44m・短径（1.2）m・深さ0.2m。不整円形状を呈する、大きな浅い土坑跡。断面は扁平な逆台形状を呈する。**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

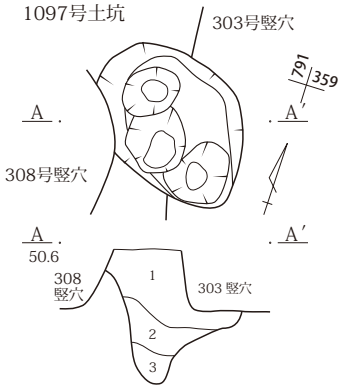
（42）1085号土坑跡

位置：調査区西端付近。X355・Y-830~-835Gr.　**重複**:294号竪穴建物跡、51号溝跡に掘り込まれる。**規模と形状**：南北にやや長いほぼ円形状を呈する深い土坑。底部の中央が一段深く掘り込まれ、柱痕様の形状を呈するが、規模からみて柱穴にしては巨大すぎ、柱穴とは見なしがたい。また、井戸の可能性も検討したが、深さや土層の堆積状況から井戸とも考えにくい。長径1.14m・短径1.05m・深さ1.32m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**:暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。


1085号土坑
1089号土坑
1086号土坑
1087号土坑
1088号土坑
1093号土坑
1094号土坑
1090号土坑
1091号土坑
1099号土坑
1095号土坑
1096号土坑
1092号土坑
310号竪穴
267号竪穴
296号竪穴
258号竪穴
1085号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒少量混。
2.暗褐色土　ローム粒少量混。
3.暗褐色土　２層よりもローム粒をやや多混。
1088号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒全体に30％混。ローム塊・焼土粒少量混。
1086号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒少量混。焼土粒僅混。
2.暗褐色土　ローム塊多量混。
1087号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊20％混。
1093号土坑跡
1.暗褐色土　ローム粒少量混。
1094号土坑跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒、ローム粒・塊少量混。
1092号土坑跡
1.暗褐色土　焼土粒・ローム塊少量混。
1095号土坑跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒、ローム粒・塊少量混。
1096号土坑跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒、ローム粒・塊少量混。
0　1m

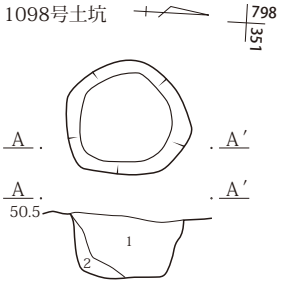
第435図　土坑跡（７）

1097号土坑



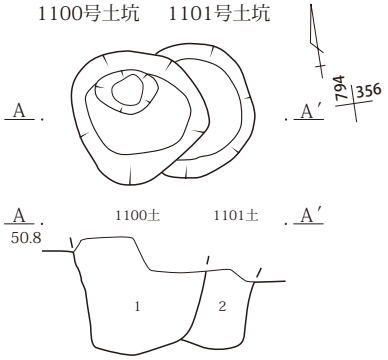
1097号土坑跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒、ローム粒・塊少量混。
2.暗褐色土　ローム塊多量混。
3.暗褐色土　ローム塊多量混。黒色土僅混。

1098号土坑



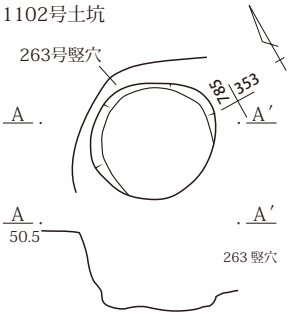
1098号土坑跡
1.暗褐色土　ローム塊60％混。白色細粒僅混。
2.暗褐色土　ローム塊30％混。黒褐色土僅混。

1100号土坑　1101号土坑

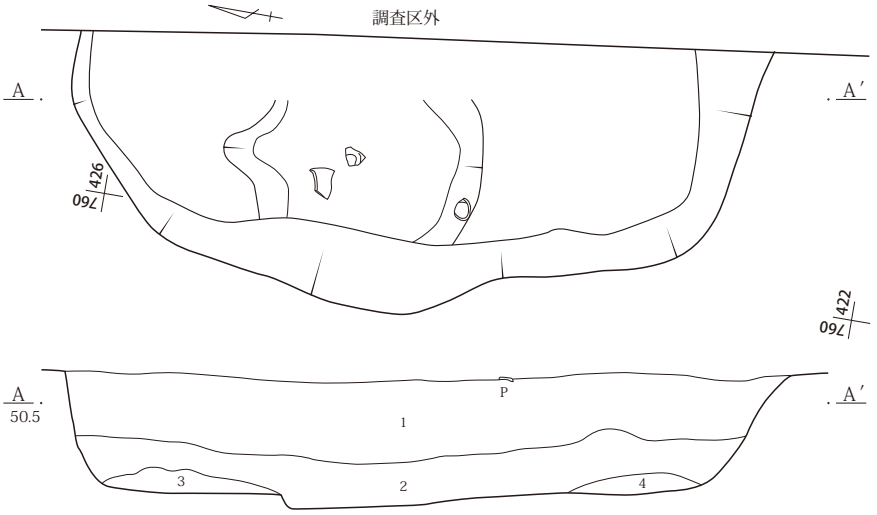


1100・1101号土坑
1.暗褐色土　ローム粒・塊、焼土・白色粒少量混。
2.暗褐色土　ローム塊・焼土粒少量混。白色粒僅混。

1102号土坑

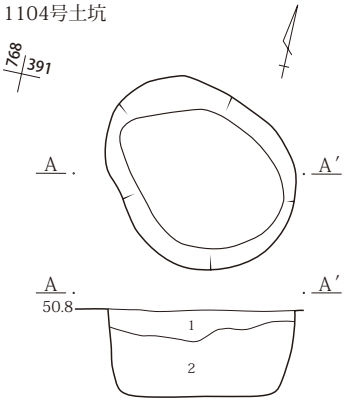


1103号土坑



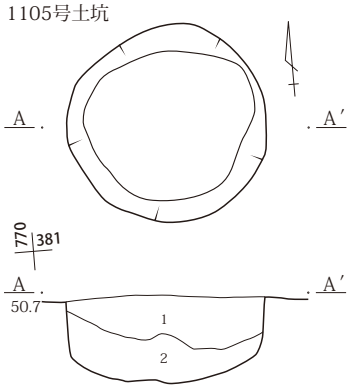
1103号土坑跡
1.暗褐色土　明るい色調を呈する。白色粒混。焼土粒少量混。
2.暗褐色土　ローム粒・小塊やや多混。焼土粒僅混。
3.暗褐色土　ローム粒・小塊多量混。
4.暗褐色土　ローム粒・小塊僅混。

1104号土坑



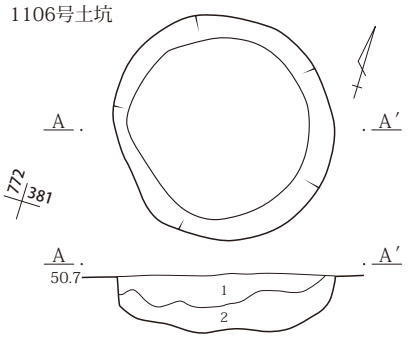
1104号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。ローム粒やや多混。As-B軽石混。
2.暗褐色土　ローム粒・小塊少量混。

1105号土坑



1105号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。ローム小塊やや多混。As-B軽石混。
2.暗褐色土　やや砂質。As-B軽石混。ローム粒・小塊少量混。

1106号土坑



1106号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。ローム小塊やや多混。As-B軽石混。
2.暗褐色土　やや砂質。As-B軽石混。ローム粒・小塊少量混。

0　1m

第436図　土坑跡（８）

（43）1086・1087号土坑跡

位置：調査区ほぼ中央。X355・Y-790Gr.　**重複**：1086号土坑跡は308号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：1086号土坑跡は北東－南西方向にやや長い不整円形状を呈し、しっかりとした掘方を有する。長径0.88m・短径0.72m・深さ0.33m。1087号土坑跡は南北に長い隅丸方形状を呈し、断面は西側がオーバーハングしている。長径1.5m・短径1.08m・深さ0.52m。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：1087号土坑跡埋土中から、横瓶、土錘。

（44）1088号土坑跡

位置：調査区ほぼ中央。X350・Y-790Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：北東－南西方向に若干長いほぼ円形状を呈し、断面は扁平な逆台形状を呈する。長径0.54m・短径0.52m・深さ0.24m。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（45）1089号土坑跡

位置：調査区ほぼ中央。X350~355・Y-795Gr.　**重複**：310号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：南西側を破壊されているので全容は不明であるが、不整円形状を呈するものと思われる。長径0.54m・短径（0.42）m・深さ0.18m。　**遺物**：なし。

（46）1090・91号土坑跡

位置：調査区ほぼ中央。X350・Y-790~-795Gr.　**重複**：296・310号竪穴建物跡に掘り込まれる。1091号土坑跡は、1090号土坑跡に掘り込まれ、1094号土坑跡を掘り込む。　**規模と形状**：両土坑跡共に西側を竪穴建物跡に掘り込まれて破壊されているため全容は不明である。1090号土坑跡は南北にやや長い楕円形状を呈していたものと考えられ、長径（0.66）m・短径0.5m・深さ0.28m。断面は逆台形状を呈する。1091号土坑跡は北西－南東方向に長い楕円形状を呈していたものと思われ、長径(1.06)m・短径（0.46）m・深さ0.34m。断面は逆台形状を呈する。　**遺物**：なし。

（47）1092号土坑跡

位置：調査区中央南東寄り。X345・Y-790Gr.　**重複**：258・312号竪穴建物跡に掘り込まれる。1099号土坑跡を掘り込む。　**規模と形状**：東西に長い円形状を呈し、しっかりとした掘方を有する。長径1.52m・短径0.9m・深さ0.7m。断面は南側が大きくオーバーハングし、袋状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：1092号土坑跡より土師器甕片が出土。

（48）1093号土坑跡

位置：調査区ほぼ中央。X350・Y-795Gr.　**重複**：267号竪穴建物跡に掘り込まれる。310号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈する。長径0.82m・短径0.52m・深さ0.22m。断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（49）1094号土坑跡

位置：調査区のほぼ中央。X350・Y-790Gr.　**重複**：1091号土坑跡に南西辺を掘り込まれる。　**規模と形状**：北東－南西方向に若干長い円形状を呈する。長径0.7m・短径0.64m・深さ0.38m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（50）1095号土坑跡

位置：調査区ほぼ中央。X350・Y-790Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：隅丸方形状を呈する。長径0.65m・短径0.62m・深さ0.45m。しっかりとした掘方を有し、断面は段のついた逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（51）1096号土坑跡

位置：調査区ほぼ中央。X350~355・Y-790Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.75・短径0.55m・深さ0.24m。断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（52）1097号土坑跡

位置:調査区ほぼ中央。X355・Y-790Gr.　**重複**:300・303・308号竪穴建物跡によって掘り込まれる。　**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.98m・短径0.7m・深さ0.72m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆三角形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（53）1098号土坑跡

位置:調査区ほぼ中央。X350・Y-795Gr.　**重複**:267号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.65m・短径0.62m・深さ0.34m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。　**埋土**:暗褐色土ベース。　**遺物**:なし。

（54）1099号土坑跡

位置:調査区ほぼ中央。X345・Y-790Gr.　**重複**:258号竪穴建物跡、1092号土坑跡によって掘り込まれる。**規模と形状**:東西に長い楕円形状を呈する。長径0.96m・短径0.5m・深さ0.34m。しっかりとした掘方を有し、断面はほぼ逆台形状を呈する。　**遺物**:なし。

（55）1100・1101号土坑跡

位置:調査区ほぼ中央。X355・Y-795Gr.　**重複**:1101号土坑跡は1100号土坑跡によって掘り込まれる。1100・1101号土坑跡は301号竪穴建物跡を掘り込む。**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈する。1100号土坑跡は長径0.75m・短径0.72m・深さ055m。1101号土坑跡は長径0.73m・短径(0.46)m・深さ0.52m。両土坑跡共にしっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。**遺物**：なし。

（56）1102号土坑跡

位置：調査区ほぼ中央東寄り。X350・Y-785Gr.**重複**:263号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：東西に若干長いほぼ円形状を呈する。長径0.71m・短径0.64m・深さ0.42m。しっかりとした掘方を有し、断面はほぼ逆台形状を呈する。　**遺物**:なし。

（57）1103号土坑跡

位置：調査区北東端。X420~425・Y-755~-760Gr.　**重複**:322号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**:東側が調査区外に出るため全容は不明である。確認長径3.7m・確認短径（1.45）m・深さ0.74m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

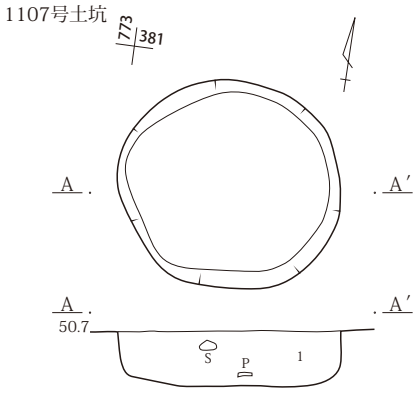
（58）1104号土坑跡

位置：調査区北東隅寄り。X390・Y-765Gr.　**重複**:なし。　**規模と形状**：北西－南東に若干長い歪な円形状を呈する。長径1.1m・短径0.9m・深さ0.48m。しっかりとした掘方を有し、断面はほぼ逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（59）1105号土坑跡

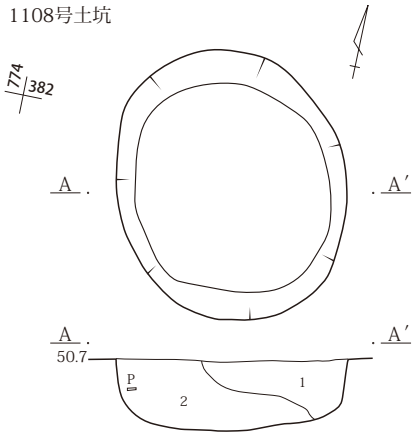
位置：調査区中央から北東寄り。X380・Y-765Gr.　**重複**:なし。　**規模と形状**：東西にやや長い歪な円形状を呈する。径1.06m・深さ0.45m。断面は分厚い半レンズ状を呈している。　**埋土**:暗褐色土ベース。　**特徴**：調査区の北東隅寄りの位置に、ほぼ同様の形状・規模を呈するほぼ円形状の土坑跡が1105～1111号まで７基集中して検出されている。深さも概ね浅く、出土遺物や土層の堆積状況等から、墓壙とはいささか考えにくいが、用途・機能を明確に出来る材料は得られなかった。あたかも1069～1075・1077～1080・1117～1127号土坑跡の計22基にのぼる、東西ないし南北に長大な、隅丸長方形状を呈する土坑跡が、本調査区で検出されているのによく似た状況である。また、これら７基の土坑跡の埋土中にはAs-B軽石が混じるものが多く、先掲の長大な隅丸長方形状を呈する一連の土坑群の埋土の状況ともよく類似しており、同時期と考えられ、竪穴・掘立柱建物跡群などよりも新しい遺構とみられる。ただし、一連の土坑群と同様に、上面を覆っていた

1107号土坑



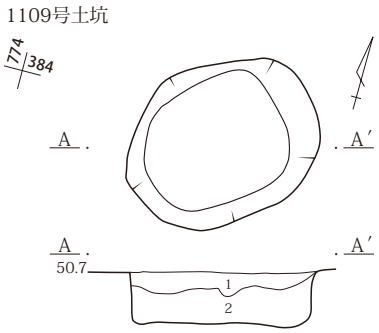
1107号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。
ローム小塊やや多混。
As-B軽石混。

1108号土坑



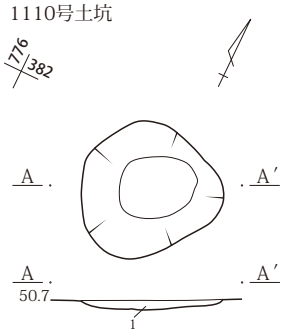
1108号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。
ローム小塊やや多混。
As-B軽石混。
2.暗褐色土　やや砂質。As-B軽石混。
ローム粒・小塊少量混。

1109号土坑



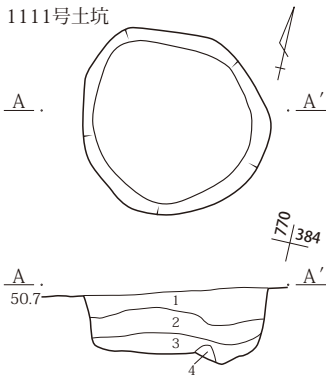
1109号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。
ローム小塊やや多混。
As-B軽石混。
2.暗褐色土　やや砂質。As-B軽石混。
ローム粒・小塊少量混。

1110号土坑



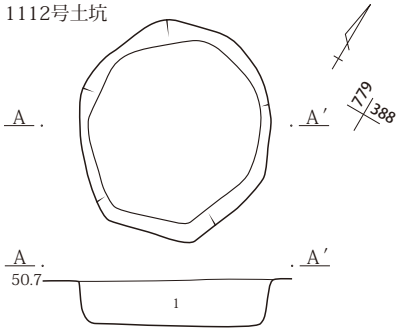
1110号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。
ローム小塊やや多混。
As-B軽石混。

1111号土坑

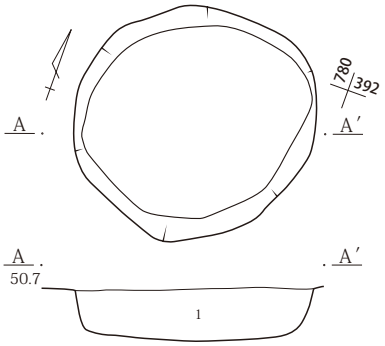


1111号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。
ローム小塊やや多混。
As-B軽石混。
2.暗褐色土　やや砂質。As-B軽石混。
ローム粒・小塊少量混。
3.暗褐色土　やや砂質。
ローム小塊やや多混。
As-B軽石混。
4.黄褐色粘質土　ローム塊。

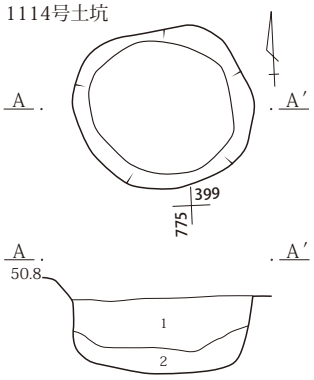
1112号土坑



1113号土坑



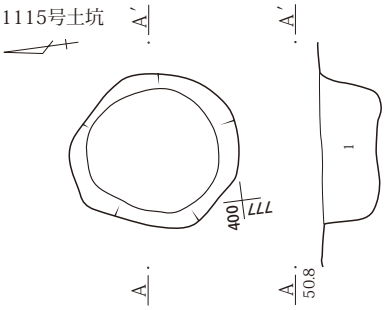
1114号土坑



1114号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。
ローム小塊やや多混。
As-B軽石混。
2.暗褐色土　やや砂質。As-B軽石混。
ローム粒・小塊少量混。

1113号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。
As-B軽石混。
ローム粒・小塊少量混。

1115号土坑



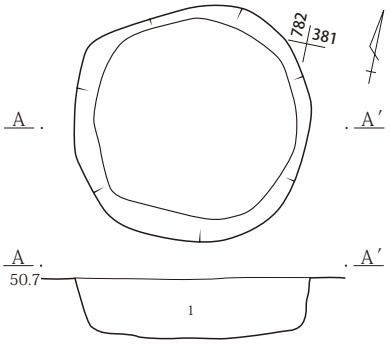
1112号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。
As-B軽石混。
ローム粒・小塊少量混。

1115号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。
As-B軽石混。
ローム粒・小塊少量混。

0　1m

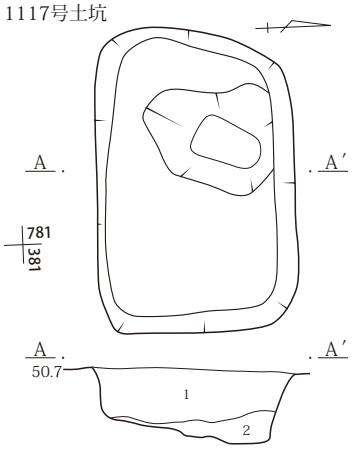
第437図　土坑跡（９）

1116号土坑



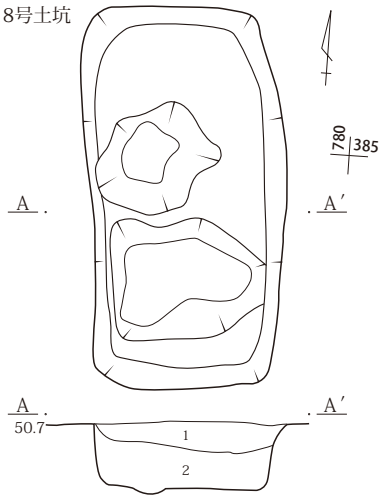
1116号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。ローム小塊
やや多混。As-B軽石混。

1117号土坑



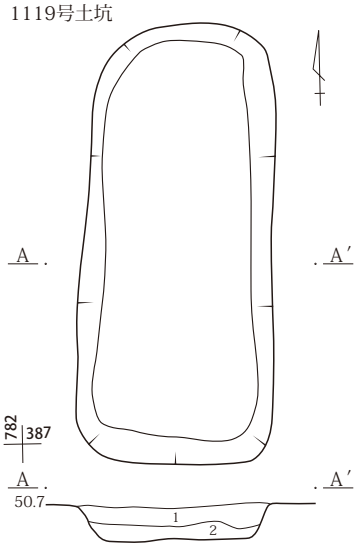
1117号土坑跡
1.暗褐色土　やや灰色味がかる。やや砂質。
As-B軽石混。
ローム小塊少量混。
2.暗褐色土　ローム小塊多混。

1118号土坑



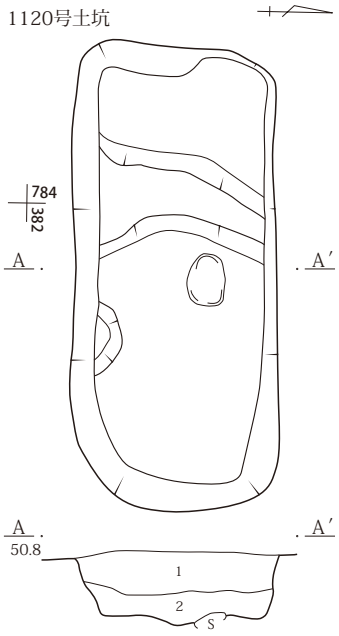
1118号土坑跡
1.暗褐色土　やや砂質。ローム小塊
やや多混。As-B軽石混。
2.暗褐色土　やや砂質。As-B軽石混。
ローム粒・小塊少量混。

1119号土坑



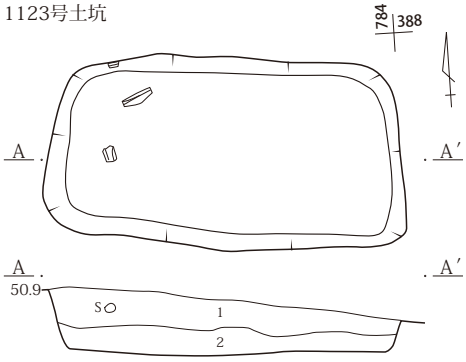
1119号土坑跡
1.暗褐色土　やや灰色味がかる。
やや砂質。As-B軽石混。
黒褐色土小塊少量混。
2.暗褐色土　ローム小塊やや多混。

1120号土坑

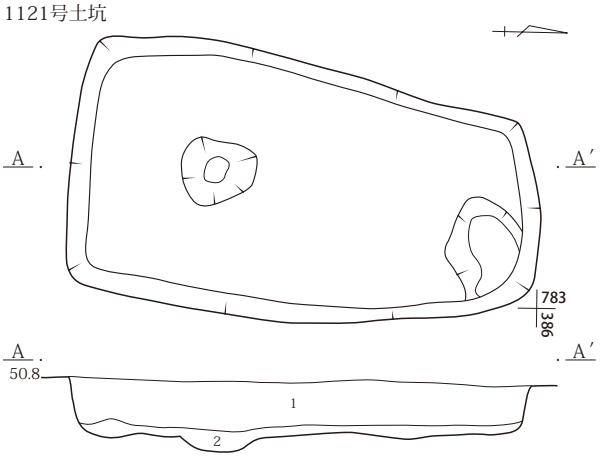


1120号土坑跡
1.暗褐色土　やや灰色味がかる。やや砂質。
As-B軽石混。ローム粒・小塊少量混。
2.暗褐色土　ローム塊やや多混。

1123号土坑



1121号土坑



1121号土坑跡
1.暗褐色土　やや灰色味がかる。やや砂質。
As-B軽石混。ローム粒・小塊少量混。
2.暗褐色土　ローム塊やや多混。

1123号土坑跡
1.暗褐色土　やや灰色味がかる。やや砂質。
As-B軽石混。ローム粒・小塊少量混。
2.暗褐色土　ローム塊やや多混。

0　1m

第438図　土坑跡（10）

表土や、遺構検出の状況からみて中世までは降らないものと考えられる。　**遺物**：なし。

（60）1106号土坑跡

位置：調査区北東隅寄り。X380・Y-770Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長いほぼ円形状を呈する浅い土坑跡。長径1.2m・短径1.12m・深さ0.32m。断面は分厚い半レンズ状を呈する。ほぼ同様の形状・規模を呈する1105～1111号土坑跡は、一連の土坑跡として、形状や配置ばかりでなく用途や機能も類似したものと考えられる。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：1105号と類似の形状・特徴を示す、一連の特徴的な形状を有する土坑の範疇にはいる。　**遺物**：なし。

（61）1107号土坑跡

位置：調査区北東寄り。X375~380・Y-770Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：東西に長いほぼ円形状を呈する浅い土坑跡。長径1.18m・短径1.1m・深さ0.3m。断面は逆台形状を呈する。ほぼ同様の形状・規模を呈する1105～1111号の一連の土坑跡。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（62）1108号土坑跡

位置：調査区北東寄り。X380・Y-770Gr.　**重複**：なし。　**規模と形状**：南北に長い円形状の浅い土坑跡。長径1.45m・短径1.22m・深さ0.39m。断面は逆台形状を呈する。ほぼ同様の形状・規模を呈する1105～1111号の一連の土坑跡。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（63）1109号土坑跡

位置：調査区北東隅寄り。X380・Y-770Gr.　**重複**：333号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：北東－南西方向にやや長い楕円形状を呈する浅い土坑跡。長径1.08m・短径0.85m・深さ0.3m。断面は逆台形状を呈する。ほぼ同様の形状・規模を呈する1105～1111号の一連の土坑跡。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（64）1110号土坑跡

位置：調査区北東寄り。X380・Y-770~-775Gr.　**重複**：333号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：不整円形状を呈する。上面を後世に削平され、極めて浅い。長径0.76m・短径0.74m・深さ0.05m。断面は極めて薄い半レンズ状を呈する。1105～1111号の一連の土坑跡の規模・形状に比してかなり小規模であるが、後世になされた上面の削平により、検出面が小規模になったものと考えられる。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（65）1111号土坑跡

位置：調査区北東寄り。X380・Y-770Gr.　**重複**：333号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：歪んだ円形状を呈する。径１m・深さ0.4m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。ほぼ同様の形状・規模を呈する1105～1111号の一連の土坑跡。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（66）1112号土坑跡

位置：調査区北東寄り。X385・Y-775~-780Gr.　**重複**：334号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：北西－南東方向に若干長い歪な円形状を呈する。長径1.15m・短径1.05m・深さ0.24m。断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（67）1113号土坑跡

位置：調査区北東寄り。X390・Y-780Gr.　**重複**：329号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：西南西－東北東方向に僅かに長い歪な円形状を呈する。長径1.3m・短径1.26m・深さ0.3m。断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（68）1114号土坑跡

位置：調査区北東隅寄り。Ｘ395・Ｙ-770Gr.　**重複**:81号掘立柱建物跡､331号竪穴建物跡を掘り込む。**規模と形状**:東西に僅かに長いほぼ円形状を呈する。長径0.97m・短径0.9m・深さ0.42m。しっかりとした掘方を有し､断面は逆台形状を呈する。　**埋土**:暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（69）1115号土坑跡

位置：調査区北東隅寄り。Ｘ400・Ｙ-775Gr.　**重複**:81号掘立柱建物跡､331号竪穴建物跡を掘り込む。**規模と形状**：南北に若干長い楕円形状を呈する。長径0.9m・短径0.85m・深さ0.34m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（70）1116号土坑跡

位置：調査区北東寄り。Ｘ375~380・Ｙ-780Gr.　**重複**:なし。　**規模と形状**：南北に僅かに長いほぼ円形状を呈する。長径1.28m・短径1.24m・深さ0.32m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（71）1117号土坑跡

位置:調査区北東寄り。Ｘ380・Ｙ-780Gr.　**重複**:1125号土坑跡を掘り込む。　**規模と形状**：東西に長い隅丸長方形状を呈する。北西寄りの部分が更に一段深く掘り込まれている。長径1.62m・短径1.08m・深さ0.4m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：長大な隅丸長方形状を呈する1069 ～ 1075・1077 ～ 1080・1117 ～ 1127号土坑跡等と同じような特徴を持つ一連の土坑群のなかの一つであり、規模や形状から伸展葬を含む墓壙の可能性が推測されるが、そのことを傍証づけるような出土遺物や埋土の堆積状況は、同種のいずれの土坑跡でも特段見い出すことはできなかった。ただ、分布の範囲がある程度限定されることから考えるならば、墓壙の可能性は充分考えられる。埋土中にAs-B軽石粒が混じるものが比較的多く、12世紀以降の時期と考えられるものも存在し、本遺跡で検出された一連の竪穴建物跡群や掘立柱建物跡群などよりも新しい遺構と見られる。ただし、上面を覆っていた表土や、遺構検出の状況からみて中世までは降らないものと考えられる。　**遺物**：なし。

（72）1118号土坑跡

位置：調査区北東寄り。Ｘ380~385・Ｙ-780Gr.　**重複**: 334号竪穴建物跡、1125号土坑跡を掘り込む。**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈する。中央部とその南側が一段深く掘り込まれている。長径2.04m・短径1.1m・深さ0.4m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：先掲した1117号土坑跡と同様の形状・特徴を有する。　**遺物**：なし。

（73）1119号土坑跡

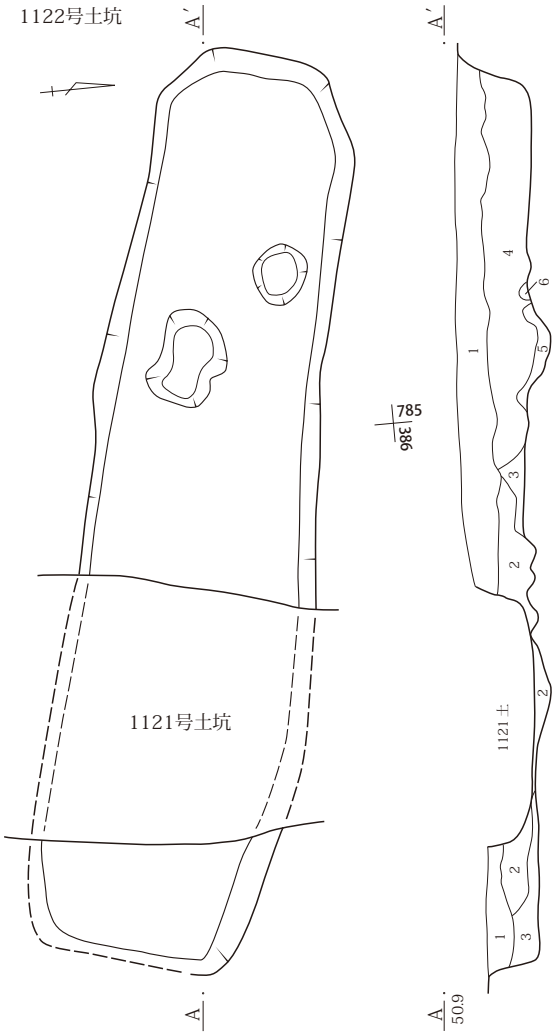
位置：調査区北東寄り。Ｘ385・Ｙ-780Gr.　**重複**:334号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈する。長径2.35m・短径1.06m・深さ0.21m。断面は扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**特徴**：先掲した1117号土坑跡と同様の形状・特徴を有する。　**遺物**：なし。

（74）1120号土坑跡

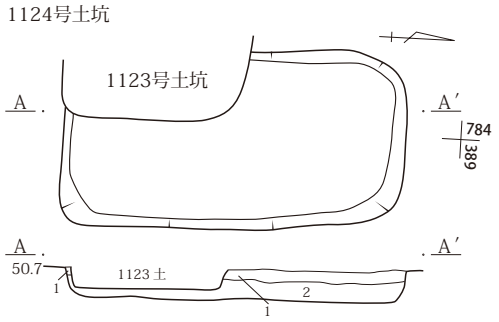
位置：調査区北東寄り。Ｘ380・Ｙ-780Gr.　**重複**:346号竪穴建物跡を掘り込む。　**規模と形状**：東西に長い隅丸長方形状を呈する。長径2.46m・短径1.11m・深さ0.4m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。**特徴**：1117号土坑跡と同様の形状・特徴を有する。　**遺物**：なし。

（75）1121号土坑跡

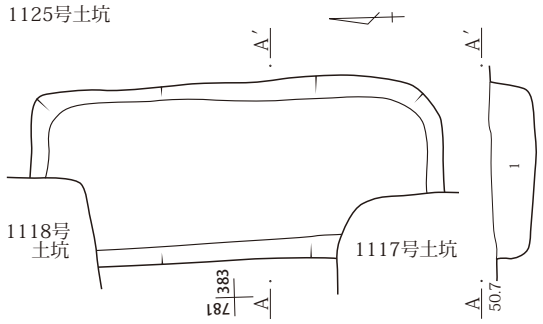
位置：調査区北東寄り。Ｘ380~385・Ｙ-780Gr.　**重複**: 1122号土坑跡を掘り込む。　**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈する。長径2.52m・短径1.42



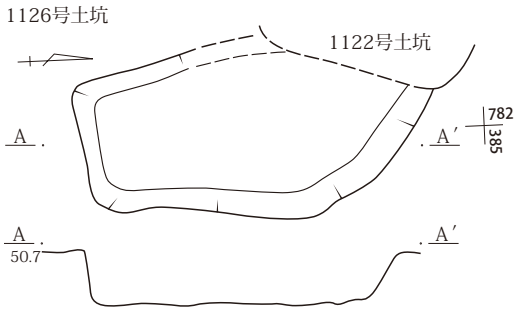
1122号土坑跡
1.暗褐色土　やや灰色味がかる。やや砂質。
As-B軽石混。
ローム粒・小塊少量混。
2.暗褐色土　ローム塊やや多混。
3.暗褐色土　明るい色調を呈する。
ローム塊多混。
4.暗褐色土　ローム粒・小塊少量混。
5.黒褐色土　ローム粒・小塊多混。
6.黄褐色粘質土　ローム塊。

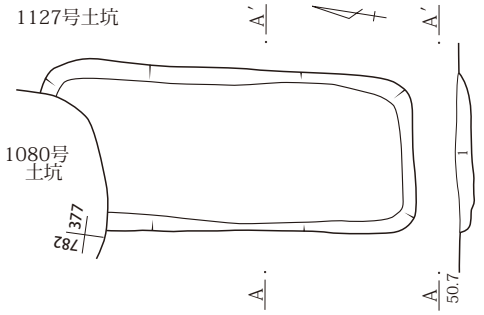


1124号土坑跡
1.暗褐色土　やや灰色味がかる。やや砂質。
As-B軽石混。
ローム粒・小塊少量混。
2.暗褐色土　ローム塊やや多混。



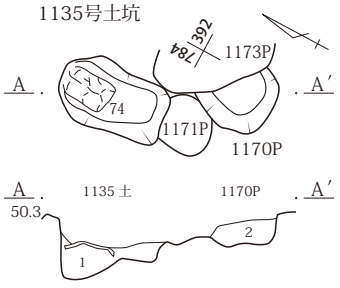
1125号土坑跡
1.暗褐色土　やや灰色味がかる。やや砂質。
As-B軽石混。
ローム粒・小塊少量混。





1127号土坑跡
1.暗褐色土　As-B軽石混土。

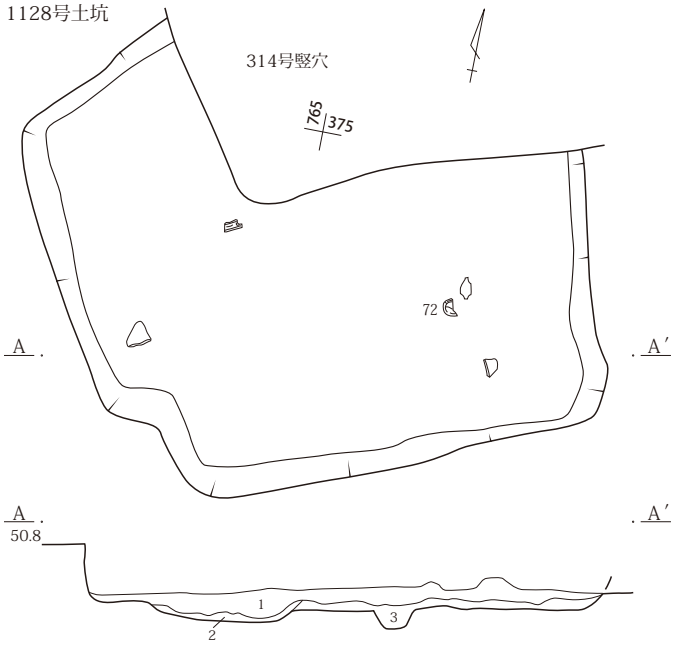
1135号土坑跡・1170号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒混。
2.暗褐色土　ローム粒少量混。



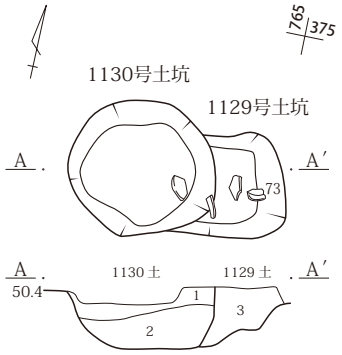
0　1m

第439図　土坑跡（11）

1128号土坑

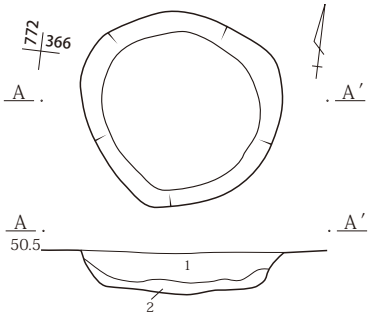


1128号土坑跡
1.暗褐色土　白色粒混。
　　ローム粒・小塊少量混。
　　焼土粒僅混。
2.暗褐色土　ローム小塊多混。
3.暗褐色土　やや明るい色調を呈する。
　　ローム粒・小塊少量混。



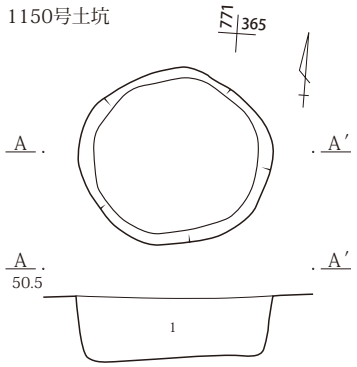
1129・1130号土坑跡
1.暗褐色土　白色粒僅混。
2.暗褐色土　ローム粒・小塊少量混。
3.暗褐色土　ローム粒少量混。

1149号土坑



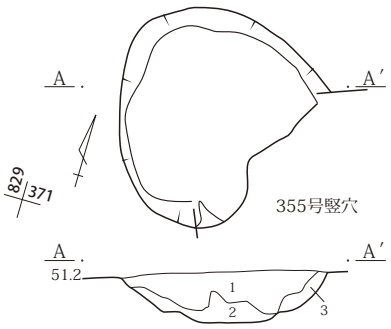
1149号土坑跡
1.暗褐色土　白色細粒・ローム粒若干混。
2.暗褐色土　ローム塊多混。

1150号土坑



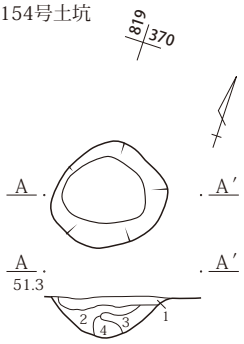
1150号土坑跡
1.暗褐色土　ローム塊混。白色粒細粒微量混。

1153号土坑



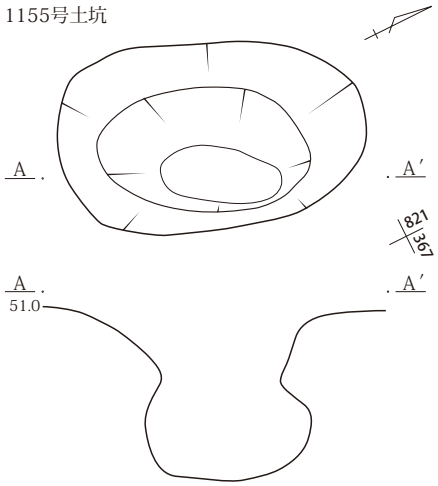
1153号土坑跡
1.暗褐色土　灰白色粒・砂礫混。
2.暗黄褐色土　ローム細粒大量混。
3.暗灰褐色土　細砂粒混。

1154号土坑



1154号土坑跡
1.暗褐色土　ローム細粒・細砂粒混。
2.褐灰色土　ローム細粒混。
3.灰黄褐色土
4.暗黄褐色土

1155号土坑



0　1m

第440図　土坑跡（12）

m・深さ0.38m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。 **埋土**:暗褐色土ベース。 **特徴**:1117号土坑跡と同様の形状･特徴を有する。 **遺物**:なし。

(76) 1122号土坑跡

位置：調査区北東寄り。X380~385・Y-780~-785Gr. **重複**:1121号土坑跡に掘り込まれる。346号竪穴建物跡を掘り込む。 **規模と形状**：東西に長い隅丸長方形状を呈する。類似した形状の1069～1075・1077～1080・1117～1127号土坑跡群の中でも最大規模を呈し、長径4.84m・短径1.26m・深さ0.52m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **特徴**：1117号土坑跡と同様の形状･特徴を有する。 **遺物**:なし。

(77) 1123号土坑跡

位置：調査区北東寄り。X385・Y-780~-785Gr. **重複**:1124号土坑跡を掘り込む。 **規模と形状**：東西に長い隅丸長方形状を呈する。長径1.94m・短径1.04m・深さ0.34m。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。 **埋土**:暗褐色土ベース。 **特徴**：1117号土坑跡と同様の形状・特徴を有する。 **遺物**：なし。

(78) 1124号土坑跡

位置：調査区北東寄り。X385・Y-785Gr. **重複**:1123号土坑跡に掘り込まれる。 **規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈する。長径1.82m･短径0.94m・深さ0.2m。断面は扁平な逆台形状を呈する。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **特徴**：先掲した1117号土坑跡と同様の形状・特徴を有する。 **遺物**：なし。

(79) 1125号土坑跡

位置：調査区北東寄り。X380・Y-775~-780Gr. **重複**: 1117・1125号土坑跡に掘り込まれる。 **規模と形状**:南北に長い隅丸長方形状を呈する。長径2.2m・短径0.98m・深さ0.25m。断面は扁平な逆台形状を呈する。 **埋土**：暗褐色土ベース。 **特徴**：1117号土坑跡と同様の形状･特徴を有する。 **遺物**:なし。

(80) 1126号土坑跡

位置：調査区の北東寄り。X380・Y-780Gr. **重複**: 1122号土坑跡に掘り込まれる。 **規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈していたものと思われるが、北東隅付近が一連の土坑跡群とはやや異質な形状である。長径1.88m・短径0.98m・深さ0.3m。断面は逆台形状を呈する。 **遺物**：なし。

(81) 1127号土坑跡

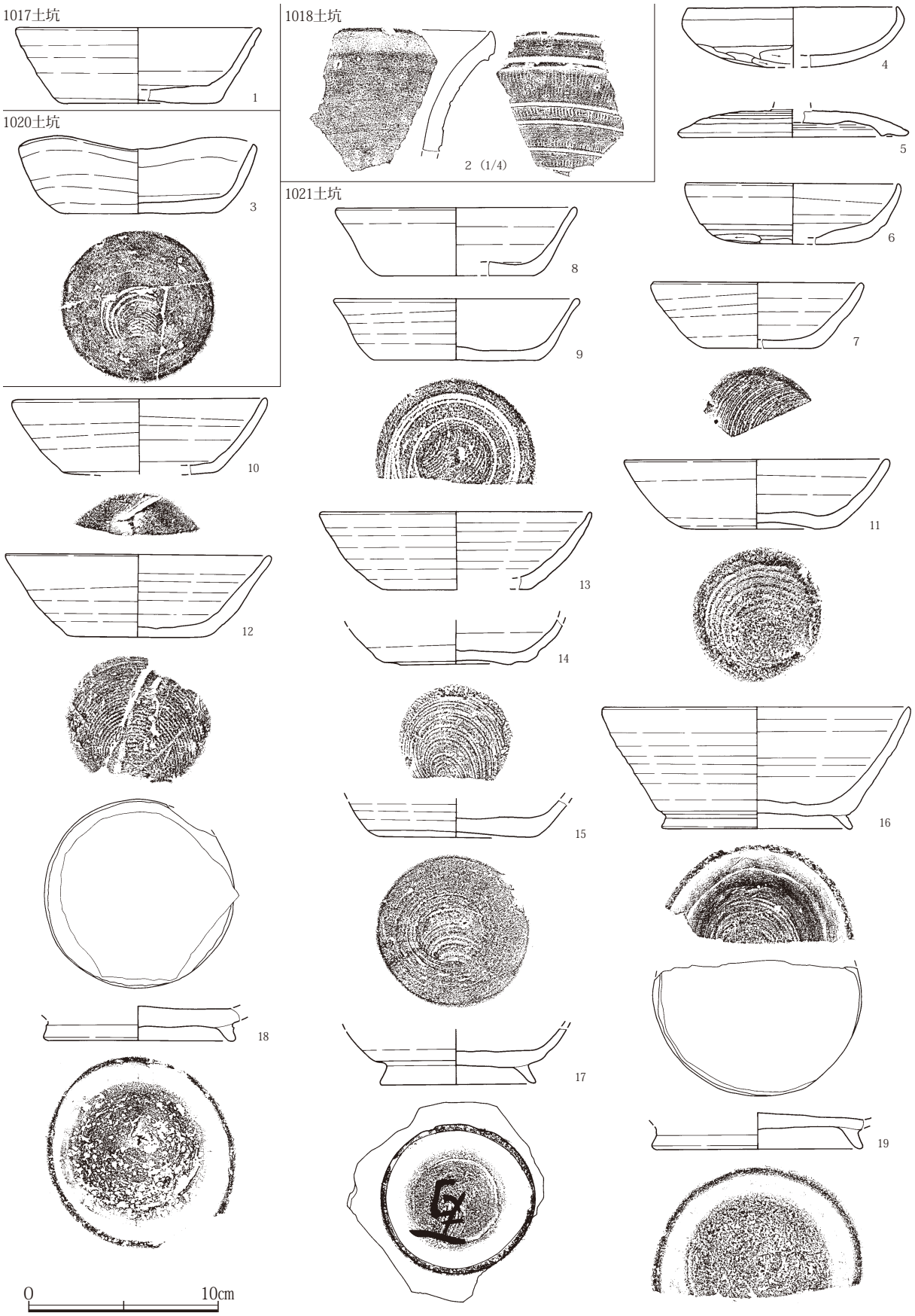
位置：調査区の北東寄りX375・Y-780Gr. **重複**:1080号土坑跡に掘り込まれる。 **規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈する浅い土坑跡。上面は後世の削平を受け、残存状態は良くない。長径1.96m・短径0.9m・深さ0.08m。断面は薄い半レンズ状を呈する。 **埋土**:暗褐色土ベース。 **特徴**:1069号土坑跡と類似の形状･特徴を有する。 **遺物**:なし。

(82) 1128号土坑跡

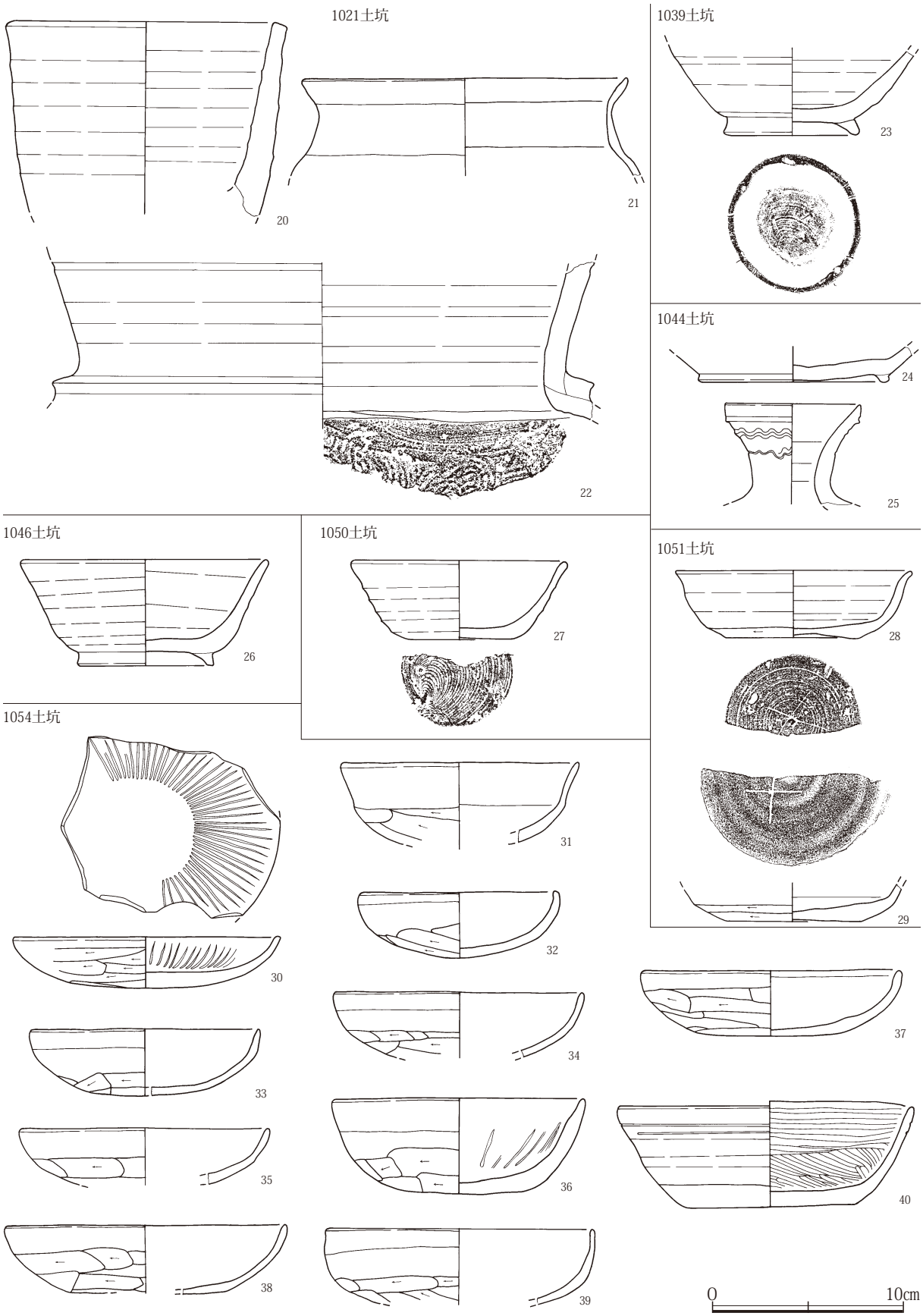
位置：調査区中央東壁際。X370~375・Y-760~-765Gr. **重複**:314号竪穴建物跡、54号溝跡に掘り込まれる。1129・1130号土坑跡を掘り込む。 **規模と形状**：東西にやや長い隅丸長方形状を呈する大きな土坑跡。上面は後世の削平を受け、残存状態は良くない。長径2.9m･短径2.56m･深さ0.34m。 **埋土**:暗褐色土ベース。 **特徴**：一見、竪穴建物跡ともみられなくもないが､規模や形状から土坑と判断した。 **遺物**：埋土中に散在。土師器、須恵器杯。

(83) 1129・1130号土坑跡

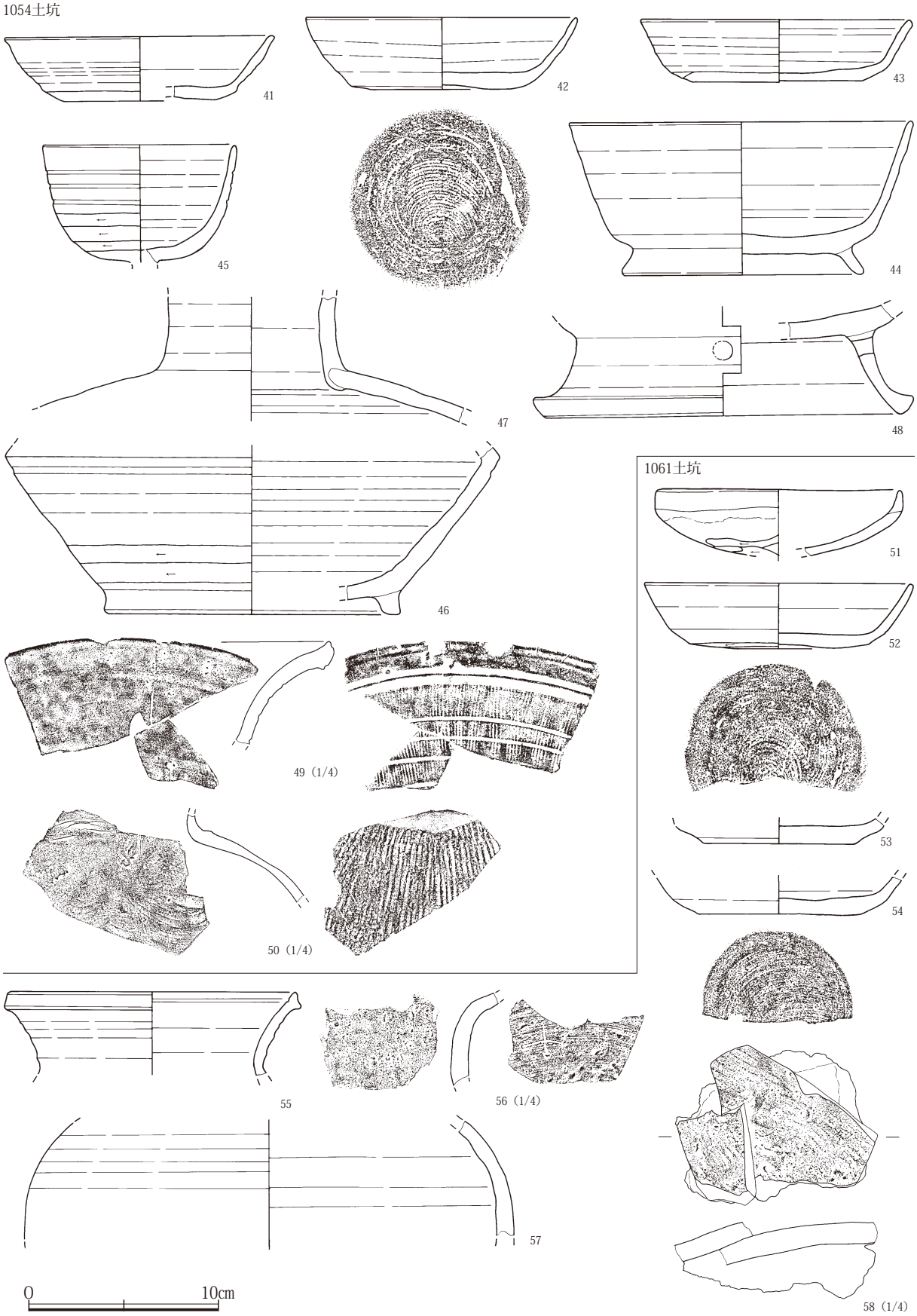
位置：調査区中央東壁際。X370・Y-760~-765Gr. **重複**:54号溝跡、1128号土坑跡に掘り込まれる。1130号土坑跡は、1129号土坑跡を掘り込む。 **規模と形状**：1130号土坑跡は東西に若干長い円形状を呈



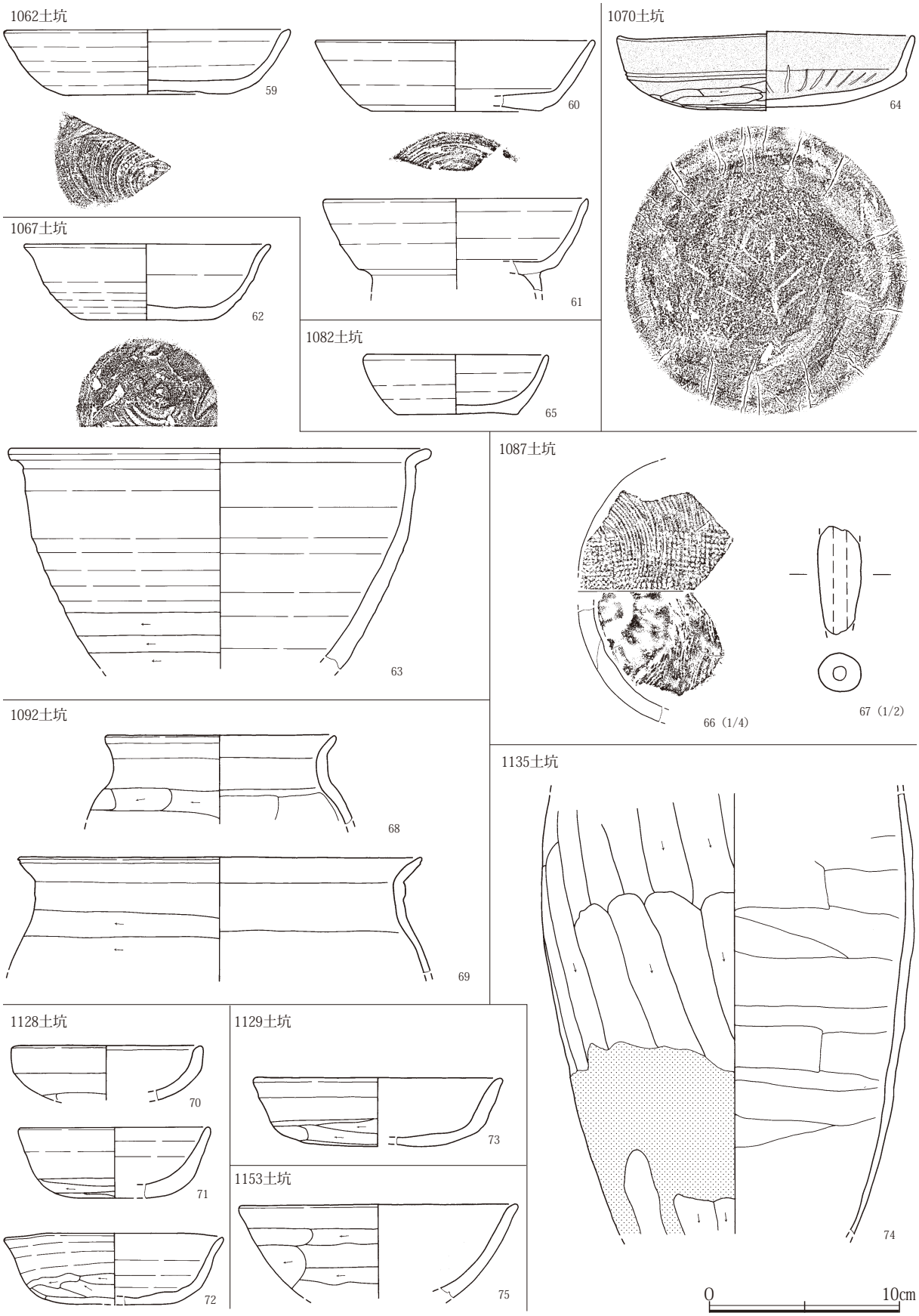
第441図　土坑跡出土遺物（１）



第442図　土坑跡出土遺物（２）



第443図　土坑跡出土遺物（３）



第444図　土坑跡出土遺物（４）

する。長径0.8m・短径0.74m・深さ0.32m。1129号土坑跡は全容は不明である。長径（0.6）m・短径0.56m・深さ0.32m。断面は共に逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：1129号土坑跡より土師器杯。

（84）1135号土坑跡

位置：調査区北壁際。X390・Y-780Gr.　**重複**:329号竪穴建物跡に掘り込まれる。1171号pitを掘り込む。　**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形状を呈する小規模な土坑跡。長径0.58m・短径0.39m・深さ0.34m。断面は逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：埋土中より土師器甕片。

（85）1149号土坑跡

位置：調査区中央東寄り。X365~370・Y-770Gr.　**重複**:なし。　**規模と形状**：東西に僅かに長いほぼ円形状を呈し、長径1.08m・短径1.04m・深さ0.23m。断面はやや扁平な逆台形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（86）1150号土坑跡

位置：調査区中央東寄り。X360・Y-770Gr.　**重複**:なし。　**規模と形状**：東西に僅かに長いほぼ円形状を呈し、長径1.04m・短径0.93m・深さ0.36m。断面は長方形状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：なし。

（87）1153号土坑跡

位置：調査区西寄り北壁際。X370・Y-825Gr.　**重複**:355号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**:ほぼ円形状を呈し、長径（1.17）m・短径1.12m・深さ0.28m。断面はやや厚い半レンズ状を呈する。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**遺物**：埋土中より土師器椀。

（88）1154号土坑跡

位置:調査区中央北西寄り。X365・Y-815Gr.　**重複**:なし。　**規模と形状**：東西に長い歪んだ円形状を呈し、長径0.63m・短径0.57m・深さ0.24m。断面は半円状を呈する。　**埋土**：暗褐色土・褐灰色土・灰黄褐色土・暗黄褐色土。　**遺物**：なし。

（89）1155号土坑跡

位置:調査区西北寄り。X365・Y-820Gr.　**重複**:361号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：南北に長い楕円形状を呈し、長径1.65m・短径1m・深さ0.92m。中段からオーバーハングし、中口径0.64m・オーバーハングした部分の最大径は0.88m・底長径0.65m・底短径0.27m。口径の断面は朝顔状に開き、側部の断面は袋状を呈している。井戸の可能性も考えたが、積極的な証左は存在しない。　**遺物**:なし。

第６項　pit跡

本調査区では370基のpit跡が検出されている。pitは調査区の全域で満遍なく検出されている。これらのpit跡は、調査時にも掘立柱建物跡の可能性を模索し、様々に試行を繰り返したが、平面形態や掘り方がまちまちであり、掘立柱建物跡や柱穴列跡と考えるには無理があるように思われた。

いずれも用途は不明の穴である。なお、整理作業上の検討で、井戸跡かとも考えられるものも若干存在しないではないが、調査時の所見に従って、そのように考えられるものについてもpit跡としてここに報告する。

出土遺物が少ないので、これらの時期は不明であるが、確認面や他の遺構との新旧関係から古墳時代後期～平安時代中期の遺構と考えられる。

なお、pitは膨大な数に上るので以下に一覧表で表示した。

表５　１区pit一覧表

番 号	pit番号	所 在 Gr. X・Y	平面形態	断面形態	長径m	短径m	深さm	備　　考
1	1038	340~345・-805~-810	楕円形	逆台形	0.66	0.62	0.52	216号竪穴を掘り込む。
2	1041	345~350・-815	ほぼ円形	逆台形	0.57	0.52	0.38	217号竪穴に掘り込まれる。
3	1043	345・-810	全容不明	不明	0.4	(0.2)	0.14	217号竪穴に掘り込まれる。
4	1044	345・-810	全容不明	逆台形	0.3	(0.21)	0.2	217号竪穴に掘り込まれる。
5	1045	345・-810	全容不明	不明	(0.2)	(0.2)	0.18	217号竪穴・1019号土坑に掘り込まれる。
6	1046	345・-805	楕円形	逆直角三角形	0.5	0.32	0.37	
7	1047	345・-810	全容不明	逆台形	0.35	(0.32)	0.28	1051号pitに掘り込まれる。
8	1050	345・-805	全容不明	不明	0.63	(0.6)	0.42	1052号pitに掘り込まれる。
9	1051	345・-810	歪な円形	逆台形	0.38	0.38	0.3	1047号pitを掘り込む。
10	1052	345・-805	歪な円形	平行四辺形	0.56	0.48	0.42	1050号pitを掘り込む。
11	1060	345・-805	楕円形	逆台形	0.48	0.36	0.33	1061号pitを掘り込む。
12	1061	345・-805	楕円形	逆台形	0.8	0.54	0.42	1060号pitに掘り込まれる。
13	1062	345・-805	楕円形	逆台形	0.84	0.6	0.47	
14	1064	345・-815	楕円形	階段状	0.54	0.46	0.32	227号竪穴に掘り込まれる。
15	1065	345・-815	長方形	長方形	0.68	0.58	0.34	227号竪穴に掘り込まれる。
16	1071	335・-795	ほぼ円形	逆台形	0.36	0.36	0.27	235号竪穴に掘り込まれる。
17	1072	330~335・-800	楕円形	逆台形	0.48	0.34	0.36	235号竪穴に掘り込まれる。
18	1073	335・-790	ほぼ円形	逆三角形	0.45	0.44	0.41	245号竪穴を掘り込む。
19	1077	335・-760~-765	楕円形	長方形	0.71	0.48	0.46	１号円形周溝に掘り込まれる。
20	1082	315・-780	歪な円形	逆台形	0.52	0.42	0.42	
21	1085	325・-780	歪な方形	逆三角形	0.44	0.43	0.4	
22	1089	330・-780	歪な方形	逆台形	0.52	0.47	0.21	底部が突起する。
23	1097	330・-785	楕円形	逆台形	0.32	0.25	0.24	1098号pitに掘り込まれる。
24	1098	330・-780~-785	楕円形	逆台形	0.6	0.52	0.28	1097号土坑を掘り込む。
25	1110	330・-785	楕円形	長方形	0.3	(0.28)	0.18	1111号pitに掘り込まれる。
26	1111	330・-785	ほぼ円形	逆台形	0.46	0.44	0.55	1110・1112pitを掘り込む。
27	1112	330・-785	ほぼ円形	逆台形	0.33	0.33	0.23	1111号pitを掘り込む。
28	1115	330・-785	楕円形	逆台形	0.61	0.43	0.29	
29	1117	360・-820	楕円形	円筒形	0.4	0.38	0.62	285号竪穴を掘り込む。
30	1118	360・-820	楕円形	逆台形	0.5	0.45	0.32	285号竪穴に掘り込まれる。
31	1153	350・-835	ほぼ円形	逆台形	0.23	0.23	0.32	280・307号竪穴に掘り込まれる。
32	1154	350・-835	長方形	逆三角形	0.4	0.3	0.35	280・307号竪穴に掘り込まれる。
33	1155	365・-805	楕円形	逆台形	0.54	0.43	0.41	298号竪穴に掘り込まれ、1156pitを掘り込む。
34	1156	365・-800	全容不明	円筒形	0.38	(0.36)	0.43	298号竪穴・1156号pit跡に掘り込まれる。
35	1160	350・-760	全容不明	逆三角形	(0.25)	(0.2)	0.42	277号竪穴・1161号pitに掘り込まる。
36	1161	350・-760	歪な円形	逆三角形	0.32	0.32	0.4	277号竪穴に掘り込まれ、1160pitを掘り込む。
37	1162	350・-785	歪な円形	逆台形	0.4	0.36	0.38	262号竪穴に掘り込まれる。
38	1163	350・-785	方形	不整逆半円形	0.34	0.3	0.28	262号竪穴に掘り込まれる。
39	1167	355・-805~-810	楕円形	逆台形	0.48	0.42	0.68	311号竪穴に掘り込まれる。
40	1168	355・-810	楕円形	逆台形	0.36	0.32	0.2	290号竪穴に掘り込まれる。
41	1169	395・-775	楕円形	逆台形	0.48	0.4	0.17	330号竪穴に掘り込まれる。
42	1170	390・-780	全容不明	不明	(0.4)	(0.36)	0.26	1173号pitに掘り込まれ、1171号pitを掘り込む。
43	1171	390・-780	全容不明	不明	(0.3)	(0.3)	0.18	1135号土坑・1170・11730号pitに掘り込まれる。
44	1172	355・-795	隅丸台形	逆台形	0.43	0.37	0.72	301号竪穴に掘り込まれる。
45	1173	390・-780	不整円形	段付逆三角形	0.7	0.5	0.34	1170・1171号pit跡を掘り込む。
46	1174	330・-765	ほぼ円形	逆台形	0.3	0.3	0.19	
47	1175	350・-765	楕円形	逆三角形	0.57	0.52	0.22	
48	1176	330・-765	楕円形	逆半レンズ状	1.11	0.8	0.23	234号竪穴に掘り込まれる。
49	1177	330・-765	楕円形	逆台形	0.43	0.36	0.21	
50	1178	345・-765	楕円形	逆台形	0.49	0.46	0.37	
51	1179	330・-765~-770	全容不明	逆台形	1.78	0.77	0.2	234号竪穴に掘り込まれる。
52	1180	330・-765	楕円形	突起状逆半円形	0.23	0.2	0.2	
53	1181	340・-765	ほぼ円形	逆半円形	0.28	0.25	0.18	
54	1182	345~350・-765	ほぼ円形	逆台形	0.5	0.48	0.52	
55	1183	345・-760	ほぼ円形	段付逆三角形	0.33	0.3	0.2	
56	1184	345・-765	ほぼ円形	逆台形	0.38	0.34	0.22	
57	1185	340・-770	全容不明	逆台形	0.35	(0.26)	0.17	275号竪穴に掘り込まれる。
58	1186	345・-765	ほぼ円形	逆台形	0.42	0.37	0.2	
59	1187	345・-765	ほぼ円形	逆三角形	0.38	0.33	0.2	
60	1188	350・-770	ほぼ円形	逆半円形	0.44	0.44	0.17	
61	1189	345・-770	円形	逆台形	0.54	0.52	0.18	

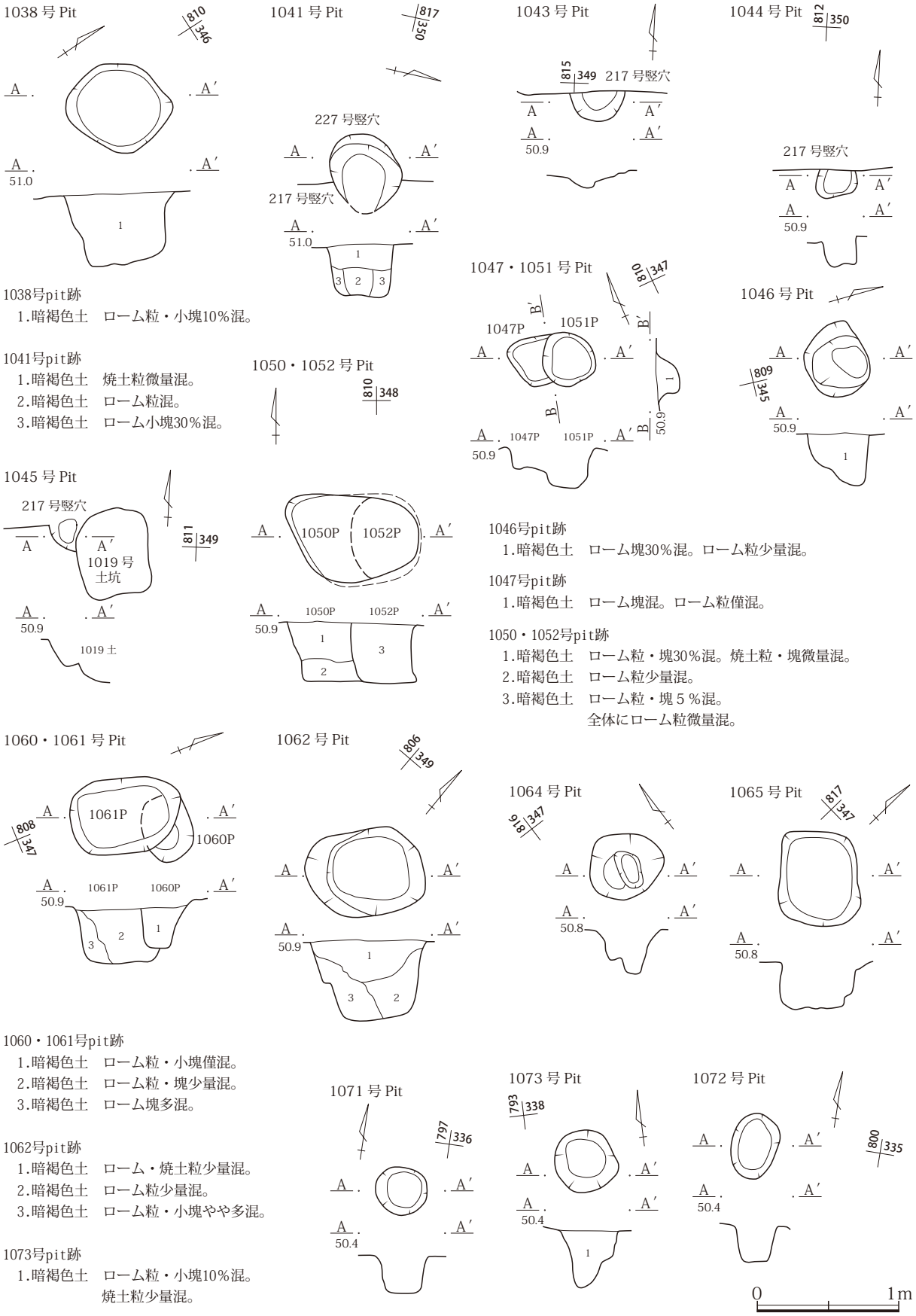
番 号	pit番号	所 在 Gr. X・Y	平面形態	断面形態	長径m	短径m	深さm	備　　考
62	1190	345・-770	楕円形	逆台形	0.53	0.45	0.22	
63	1191	350・-770	楕円形	逆台形	0.35	0.27	0.28	241号竪穴に掘り込まれる。
64	1192	350~355・-770	不整形	―	0.65	0.65	0.26	
65	1195	350・-770	楕円形	逆台形	0.56	0.48	0.33	
66	1199	350・-765~-770	ほぼ円形	三角形	0.42	0.42	0.37	
67	1200	350・-770	不整円形	逆半円形	1.02	0.73	0.38	
68	1202	355・-770	楕円形	逆台形	0.45	0.4	0.13	
69	1208	350・-775	楕円形	逆台形	0.6	0.46	0.26	
70	1209	350・-775	楕円形	逆台形	0.55	0.48	0.38	
71	1211	350・-775	不整円形	逆台形	0.62	0.49	0.17	
72	1215	350~355・-765	全容不明	不明	(0.47)	(0.28)	0.46	72号掘立1号柱穴に北側を掘り込まれる。
73	1216	350・-775	東西に重複	逆台形	0.9	0.63	0.2	
74	1217	355・-775	楕円形	逆台形	0.44	0.36	0.42	
75	1218	350~355・-775	楕円形	半円形	0.41	0.34	0.26	
76	1219	355・-775	楕円形	逆三角形	0.47	0.39	0.21	1230号pit跡に西端を掘り込まれる。
77	1222	350~355・-775	―	―	2.1	1.02	0.57	78号掘立6号柱穴を入れてpit ４基が連続
78	1223	350・-775	楕円形	半円形	0.5	0.42	0.4	
79	1224	355・-775	―	―	0.92	0.66	0.25	２基のpitがほぼ東西に並列。
80	1226	355・-775	不整円形	逆台形	0.36	0.3	0.26	
81	1228	355・-775	楕円形	半円形	0.24	0.2	0.49	
82	1229	355・-775	―	逆台形	0.94	0.54	0.3	２基のpitが南北に並列。
83	1230	355・-775	歪な円形	袋状	0.48	(0.44)	0.68	1231号pit跡に掘り込まれる。
84	1231	355・-775	ほぼ円形	逆台形	0.34	0.32	0.16	1230号pit跡を掘り込む。
85	1232	355~360・-775	歪な円形	逆台形	0.43	0.42	0.36	
86	1233	355・-775	楕円形	段付逆台形	1.1	0.92	0.38	
87	1235	355・-770~-775	楕円形	逆台形	0.72	0.53	0.35	
88	1237	345・-765	歪な円形	逆台形	0.98	0.98	0.8	
89	1241	360・-775	不整円形	逆台形	0.56	0.54	0.26	
90	1242	360・-770~-775	不整円形	逆台形	0.97	0.71	0.6	
91	1243	335・-770~-775	ほぼ円形	段状	0.68	0.66	0.38	
92	1246	360・-770	楕円形	逆三角形	0.88	0.75	0.44	
93	1248	360・-770	楕円形	逆台形	0.52	0.44	0.44	71号掘立１号柱穴を掘り込む。
94	1249	360・-775	楕円形	不整形	(1.08)	0.88	0.6	71号掘立１号柱穴を掘り込まれる。
95	1251	355・-775	ほぼ円形	逆半円形	0.38	0.38	0.38	
96	1252	355・-775	ほぼ円形	逆半円形	0.34	0.34	0.39	
97	1253	360・-775	不整円形	逆台形	0.57	0.57	0.28	底部に窪みあり。
98	1254	355・-760~-765	楕円形	漏斗形	1.1	0.9	0.7	
99	1257	355・-760	ほぼ円形	逆台形	0.68	0.68	0.44	
100	1258	355・-760	ほぼ円形	逆台形	0.38	0.36	0.25	
101	1259	360・-760	楕円形	逆台形	0.45	0.37	0.24	
102	1260	365・-760	不整円形	逆三角形	0.64	0.64	0.23	
103	1261	365・-765	不整円形	逆台形	0.82	0.72	0.32	底部の一部に窪みあり。
104	1262	360・-770	ほぼ円形	逆半円形	0.56	0.52	0.28	
105	1263	360・-770	楕円形	逆台形	0.4	0.34	0.22	
106	1265	365・-770	楕円形	逆半円形	0.5	0.4	0.3	
107	1266	360・-760	楕円形	逆台形	1.17	0.97	0.44	
108	1270	370・-770	歪な円形	逆台形	0.29	0.28	0.17	
109	1271	375・-775	楕円形	逆台形	0.42	0.4	0.48	
110	1272	370・-775	楕円形	逆台形	0.94	0.88	0.3	
111	1274	370・-775	楕円形	逆台形	0.87	0.63	0.44	
112	1275	370・-775	不整円形	逆台形	1.5	1.32	1.14	
113	1276	370・-780	楕円形	逆半円形	0.82	0.75	0.75	
114	1278	375・-770	ほぼ円形	逆台形	0.38	0.37	0.24	
115	1279	375・-775	ほぼ円形	逆台形	0.4	0.4	0.4	
116	1280	375・-775	楕円形	逆三角形	0.33	0.28	0.32	
117	1282	370・-765	楕円形	逆台形	0.5	0.44	0.4	
118	1283	375・-775	歪な円形	逆台形	0.4	0.4	0.33	
119	1284	380・-775	楕円形	逆台形	0.4	0.32	0.26	底部に扁平な石あり。
120	1285	375・-775	歪な円形	逆台形	0.46	0.44	0.39	
121	1286	360・-775	楕円形	逆台形	0.42	0.35	0.3	
122	1288	375・-775	ほぼ円形	逆台形	0.52	0.52	0.32	底部に扁平な石あり。
123	1289	380・-775	ほぼ円形	逆台形	0.43	0.4	0.3	

番 号	pit番号	所 在 Gr. X・Y	平面形態	断面形態	長径m	短径m	深さm	備　　考
124	1290	380・-770	楕円形	逆台形	0.32	0.3	0.3	
125	1291	380・-775	隅丸菱形	逆台形	0.74	0.54	0.2	
126	1292	385・-775	楕円形	逆台形	0.56	0.43	0.35	
127	1293	385・-765	楕円形	逆台形	0.43	0.4	0.23	
128	1294	385・-765	楕円形	段付	0.4	0.38	0.25	
129	1295	390・-760	楕円形	逆台形	0.38	0.35	0.34	
130	1297	385・-760	楕円形	逆台形	0.4	0.36	0.36	
131	1300	395・-760	楕円形	半円形	0.44	0.38	0.34	
132	1301	390・-760	ほぼ円形	半円形	0.63	0.63	1.17	
133	1302	395・-780	歪な円形	逆台形	0.38	0.38	0.23	
134	1303	395・-780	ほぼ円形	逆台形	0.55	0.54	0.46	
135	1304	395・-775	楕円形	逆台形	0.35	0.3	0.34	
136	1307	400・-775	楕円形	漏斗状に開く	0.63	0.44	0.54	
137	1308	405・-775	歪な円形	逆台形	0.34	0.3	0.38	
138	1309	395・-775	楕円形	逆台形	0.34	0.3	0.25	
139	1312	400・-775	楕円形	逆台形	0.37	0.28	0.3	
140	1313	395・-770	楕円形	逆台形	0.45	0.39	0.26	
141	1314	395・-765	ほぼ円形	逆台形	0.32	0.32	0.28	
142	1315	400・-770	ほぼ円形	逆台形	0.25	0.25	0.36	
143	1316	395・-765	楕円形	逆台形	0.44	0.4	0.33	
144	1317	400・-770	楕円形	逆台形	0.28	0.24	0.2	
145	1318	400・-770	楕円形	逆台形	0.28	0.23	0.35	
146	1319	395・-770	楕円形	逆台形	0.37	0.33	0.23	
147	1320	400・-770	楕円形	逆半円形	0.6	0.56	0.96	
148	1321	400・-770	ほぼ円形	逆台形	0.34	0.3	0.24	
149	1324	400・-765	歪な円形	逆半円形	0.36	0.36	0.35	
150	1326	390・-775	楕円形	逆台形	0.52	0.37	0.28	
151	1327	380・-780	歪な円形	逆半円形	0.38	0.32	0.16	
152	1328	375・-780	歪な円形	逆台形	0.52	0.52	0.4	
153	1329	380・-780	全容不明	逆三角形	0.48	0.4	0.55	1126号土坑跡に掘り込まれる。
154	1330	375・-775	不整形	逆台形	0.48	0.43	0.25	底に扁平な石あり。
155	1331	375・-775	逆三角形	逆三角形	0.38	0.34	0.36	
156	1332	385・-780	不整楕円形	―	0.64	0.45	0.28	上部が漏斗状に開く。
157	1333	350・-820	楕円形	逆台形	1	0.86	0.24	
158	1334	385・-780	ほぼ円形	逆台形	0.34	0.34	0.22	
159	1335	375・-795	楕円形	逆半円形	0.33	0.28	0.34	
160	1337	380・-790	楕円形	逆台形	0.44	0.39	0.35	
161	1338	380・-790	楕円形	逆半円形	0.36	0.32	0.3	
162	1339	380・-790	楕円形	逆半円形	0.3	0.27	0.17	
163	1340	380・-790	楕円形	逆台形	0.66	0.6	0.29	
164	1341	380・-790	ほぼ円形	逆台形	0.3	0.3	0.22	
165	1342	380・-790	楕円形	逆台形	0.66	0.53	0.38	
166	1343	380・-785	ほぼ円形	逆台形	0.34	0.32	0.22	
167	1347	375・-785	楕円形	逆三角形	0.39	0.35	0.28	
168	1348	375・-785	楕円形	逆台形	0.4	0.34	0.22	底部がやや盛り上がっている。
169	1352	370・-785	ほぼ円形	逆台形	0.4	0.4	0.48	
170	1353	370・-780 ~-785	全容不明	逆台形	(0.61)	(0.48)	0.67	1073号土坑跡に掘り込まれる。
171	1354	370・-785	ほぼ円形	逆台形	0.46	0.46	0.55	底部に小さな窪みあり。
172	1358	375・-790	楕円形	逆台形	0.4	0.32	0.26	
173	1360	380・-785	楕円形	段状	0.55	0.4	0.28	
174	1361	370・-785	楕円形	逆半円形	0.4	0.35	0.22	
175	1362	365~370・-790	楕円形	逆台形	0.6	0.4	0.6	
176	1363	365・-785	ほぼ円形	逆台形	0.46	0.46	0.35	
177	1364	370・-785	楕円形	逆三角形	0.32	0.27	0.33	
178	1365	370・-785	円形	逆台形	0.25	0.25	0.38	
179	1366	365・-790	楕円形	丸逆台形	0.42	0.36	0.42	
180	1367	370・-790	楕円形	逆台形	(0.53)	0.5	0.32	67号掘立９号柱穴に掘り込まれる。
181	1368	365~370・-790	楕円形	逆台形	0.44	0.34	0.32	
182	1369	365~370・-790	ほぼ円形	逆台形	0.36	0.36	0.52	
183	1371	365・-795	楕円形	逆半円形	(0.46)	0.36	0.33	291号竪穴に掘り込まれる。
184	1374	370・-800	楕円形	逆台形	0.35	0.3	0.21	
185	1376	370・-795	楕円形	逆台形	0.76	0.54	0.24	

番 号	pit番号	所 在 Gr. X・Y	平面形態	断面形態	長径m	短径m	深さm	備　　考
186	1378	365・-795~-800	楕円形	逆半円形	0.44	0.4	0.3	291号竪穴に掘り込まれる。
187	1379	365・-795	不整方形	逆台形	0.4	0.4	0.38	
188	1381	370・-795	不整方形	逆台形	0.52	0.45	0.38	
189	1382	370・-795	楕円形	逆台形	0.46	0.4	0.16	63号掘立4号柱穴に掘り込まれる。
190	1384	370・-795	楕円形	逆台形	0.6	0.52	0.54	
191	1387	370・-795	楕円形	逆台形	0.54	0.36	0.25	
192	1388	370・-795	楕円形	逆台形	0.5	0.4	0.28	1389号pitを掘り込む。
193	1389	370・-795	不整円形	逆台形	0.38	(0.36)	0.34	1388号pitに掘り込まれる。
194	1397	365・-790	ほぼ円形	逆台形	0.3	0.28	0.22	
195	1398	365・-795	長方形	逆三角形	0.58	0.4	0.17	上面を54号溝に掘り込まれる。
196	1400	365・-790~-795	pit並列	逆三角形	1.08	0.64	0.73	円形のpitが２基東西に並列。
197	1402	360・-790~-795	歪な円形	逆台形	0.66	0.64	0.22	
198	1403	360・-790	ほぼ円形	逆台形	0.52	0.52	0.2	
199	1407	360~365・-795	楕円形	半円形	0.46	0.4	0.3	
200	1409	365・-810	楕円形	逆台形	0.28	0.21	0.15	
201	1410	365・-805	楕円形	逆台形	0.3	0.21	0.19	
202	1411	365・-805	楕円形	逆台形	0.38	0.21	0.25	
203	1412	365・-805	楕円形	逆半円形	0.32	0.22	0.13	
204	1413	365・-795	楕円形	逆半円形	0.46	0.37	0.27	
205	1414	365・-805	楕円形	逆半円形	0.58	0.44	0.39	
206	1415	365・-805	楕円形	逆三角形	0.54	0.32	0.29	
207	1416	365・-805	楕円形	逆台形	0.34	0.25	0.33	上面を54号溝に掘り込まれる。
208	1417	365・-805	歪な円形	逆半円形	0.46	0.43	0.16	上面を54号溝に掘り込まれる。
209	1418	360・-805	ほぼ円形	逆半円形	0.43	0.43	0.39	
210	1419	360・-800	楕円形	逆台形	0.44	0.28	0.18	
211	1420	360・-800	楕円形	逆半円形	0.5	0.45	0.35	
212	1421	360・-800	ほぼ円形	逆半円形	0.37	0.36	0.34	
213	1422	355・-800	楕円形	逆台形	0.31	0.21	0.13	
214	1423	355・-800	楕円形	逆台形	0.26	0.25	0.17	
215	1424	355・-800	楕円形	逆半円形	0.36	0.28	0.22	
216	1425	360・-800	楕円形	逆台形	0.64	0.58	0.43	
217	1426	360・-800	ほぼ円形	逆台形	0.48	0.46	0.25	
218	1427	360・-795~-800	楕円形	逆台形	0.46	0.42	0.47	
219	1428	360・-795	楕円形	逆台形	0.4	0.35	0.11	
220	1429	355・-800	歪な円形	逆三角形	0.49	0.46	0.23	
221	1430	365・-810	楕円形	段状	0.45	0.41	0.34	
222	1431	355・-795	楕円形	逆台形	0.6	0.52	0.16	
223	1432	355・-795	歪な円形	逆台形	0.48	0.46	0.46	
224	1433	355・-795	楕円形	逆三角形	0.58	0.42	0.32	
225	1435	355・-800	楕円形	逆半円形	0.53	0.46	0.25	
226	1436	355・-800	歪な円形	逆三角形	0.38	0.36	0.2	
227	1438	355・-800	楕円形	逆台形	0.82	0.6	0.19	
228	1439	355・-800	楕円形	逆台形	0.54	0.4	0.25	
229	1440	355・-795~-800	楕円形	逆台形	0.4	0.3	0.38	
230	1441	355・-795	楕円形	逆台形	0.44	0.24	0.2	
231	1442	355・-795	楕円形	逆台形	0.56	0.44	0.53	
232	1443	355・-795	楕円形	逆三角形	0.27	0.2	0.25	
233	1445	350・-800	歪な円形	逆台形	0.44	0.38	0.34	
234	1449	365・-785	歪な円形	逆半円形	0.9	0.8	0.87	
235	1450	400~405・-765	全容不明	逆台形	1.06	(0.42)	0.25	336号竪穴に掘り込まれる。
236	1451	400~405・-760	楕円形	逆半円形	0.48	0.42	0.21	343号竪穴を掘り込む。
237	1452	350・-805	楕円形	逆台形	0.5	0.42	0.23	
238	1453	360~365・-810	歪な円形	逆台形	0.54	0.54	0.26	上面を54号溝に掘り込まれる。
239	1457	365・775~-780	楕円形	逆台形	0.7	0.58	0.29	
240	1458	355・-800	楕円形	フラスコ状	0.55	0.46	0.97	井戸か？
241	1461	360・-790	楕円形	円筒形状	0.5	0.32	0.77	
242	1463	360・-790	楕円形	逆半円形	0.8	0.63	0.6	
243	1465	350・-780	楕円形	逆半円形	0.61	0.55	0.3	
244	1466	365・-795	楕円形	逆半円形	0.41	0.38	0.22	
245	1467	360・-790	全容不明	逆台形	(0.72)	(0.22)	0.31	攪乱に破壊される。
246	1468	360・-810	ほぼ円形	逆三角形	0.45	0.42	0.22	
247	1469	365・-780	楕円形	逆台形	0.38	0.3	0.24	

番 号	pit番号	所 在 Gr. X・Y	平面形態	断面形態	長径m	短径m	深さm	備　　考
248	1470	365・-780	楕円形	逆台形	0.52	0.46	0.22	
249	1473	360・-790	楕円形	円筒形	0.5	0.46	0.68	
250	1474	365・-795	楕円形	逆三角形	0.26	0.24	0.35	
251	1475	350・-795	楕円形	逆台形	0.8	0.64	0.42	1476号pitを掘り込む。
252	1476	350・-795	楕円形	逆台形	0.92	0.72	0.39	1475号pitに掘り込まれる。
253	1478	345・-805	歪な円形	逆台形	0.38	0.36	0.25	
254	1479	360・-780	楕円形	逆台形	0.75	0.6	0.35	
255	1480	360・-780	楕円形	段付逆台形	0.56	0.5	0.37	
256	1481	360・-780	楕円形	逆半円形	0.48	0.38	0.22	
257	1482	360・-780	歪な円形	逆半円形	0.42	0.4	0.18	
258	1483	360・-780	楕円形	逆台形	0.58	0.48	0.17	
259	1485	355・-775	歪な円形	逆台形	0.38	0.34	0.18	
260	1486	355・-775	歪な円形	逆半円形	0.3	0.3	0.18	
261	1489	360・-775	楕円形	逆台形	0.46	0.39	0.32	
262	1497	350・-780	不整円形	逆台形	0.74	0.52	0.42	1498号pitを掘り込む。1500号pitに掘り込まれる。
263	1498	350・-780	楕円形	オーバーハング	0.64	0.45	0.98	1497号pitに掘り込まれる。井戸か？。
264	1499	350・-780	楕円形	逆台形	0.82	0.58	0.46	1500号pitに掘り込まれる。
265	1500	350・-780	楕円形	逆台形	0.82	0.55	0.48	1497・1499号pitを掘り込む。
266	1502	360・-770	楕円形	逆台形	0.58	0.42	0.22	
267	1504	360・-780	楕円形	逆台形	0.59	0.51	0.32	
268	1505	360・-780	ほぼ円形	逆台形	0.32	0.32	0.3	
269	1507	345・-780	楕円形	不整多角形	1	0.68	0.26	
270	1508	355・-775	楕円形	逆台形	0.42	0.36	0.29	
271	1509	345・-780	歪な円形	逆半円形	0.48	0.42	0.38	
272	1512	355・-765~-770	ほぼ円形	逆台形	0.85	0.8	0.58	
273	1513	360・-760	楕円形	逆台形	1	0.8	0.42	
274	1514	370・-765	楕円形	逆台形	0.42	0.35	0.74	54号溝跡の下層。
275	1517	365・-760	楕円形	逆台形	0.48	0.38	0.34	
276	1520	370・-755~-760	楕円形	逆台形	0.72	0.65	0.23	
277	1521	370・-765	楕円形	円筒形	0.46	0.4	0.75	54号溝跡の下層。
278	1522	380・-760	楕円形	逆台形	0.42	0.34	0.28	
279	1523	380・-760	楕円形	逆台形	0.36	0.28	0.32	
280	1525	395・-760	ほぼ円形	逆台形	0.29	0.27	0.22	
281	1527	395・-760	ほぼ円形	逆台形	0.3	0.3	0.16	
282	1528	385・-760	楕円形	円筒形	0.44	0.42	0.66	６Ｃ後の出土遺物。
283	1529	375・-785	楕円形	段付逆台形	0.45	0.39	0.35	
284	1532	380・-760	楕円形	三角フラスコ形	0.77	0.58	0.88	井戸跡か？
285	1533	370・-780	ほぼ円形	逆半円形	0.3	0.28	0.25	
286	1534	365・-780	楕円形	逆台形	0.64	0.48	0.44	
287	1535	370・-785	楕円形	逆半円形	0.46	0.4	0.22	
288	1536	360・-790~-795	楕円形	逆三角形	0.58	0.53	0.52	
289	1537	360・-790	歪な円形	逆台形	0.76	0.74	0.2	
290	1538	360・-795	菱形	逆台形	1.22	0.9	0.24	
291	1539	360・-795	歪な円形	逆台形	0.52	0.52	0.17	
292	1540	375・-780	楕円形	逆三角形	0.35	0.3	0.35	
293	1541	360・-780	楕円形	円筒形	0.42	0.34	0.65	
294	1548	380・-780~-785	歪な円形	逆三角形	0.4	0.36	0.22	346号竪穴に掘り込まれる。
295	1549	380・-785	楕円形	段付逆三角形	0.34	0.3	0.34	346号竪穴に掘り込まれる。
296	1550	380・-785	楕円形	逆半円形	0.37	0.3	0.2	340号竪穴に掘り込まれる。
297	1552	380・-795	全容不明	円筒形	(0.37)	(0.22)	0.94	北側が調査区外に出る。
298	1553	370・-780	歪な円形	逆台形	0.44	0.44	0.38	342号竪穴に掘り込まれる。
299	1555	375~380・-795	楕円形	逆三角形	1	0.83	0.42	65号掘立10号柱穴に掘り込まれる。
300	1556	375~380・-795	楕円形	逆台形	0.66	0.56	0.22	65号掘立７号柱穴に掘り込まれる。
301	1557	380・-790	楕円形	逆台形	0.62	0.48	0.18	
302	1563	365・-780	楕円形	逆半円形	0.68	0.58	0.6	
303	1566	360・-780	楕円形	逆台形	0.43	0.38	0.4	
304	1567	360・-780	楕円形	逆台形	0.55	0.5	0.38	
305	1568	350・-790~-795	歪な円形	段付逆半円形	0.62	0.62	0.25	296号竪穴に掘り込まれる。
306	1569	350・-790	不整長円形	逆台形	0.82	0.44	0.36	296号竪穴に掘り込まれる。
307	1571	350~355・-770	歪な円形	逆半円形	0.47	0.43	0.15	
308	1573	360・-805	楕円形	逆台形	0.43	0.36	0.4	
309	1574	360・-805	ほぼ円形	逆半円形	0.32	0.32	0.25	

番 号	pit番号	所 在 Gr. X・Y	平面形態	断面形態	長径m	短径m	深さm	備　　考
310	1575	360・-805	歪な円形	半円形	0.38	0.34	0.35	
311	1576	360・-805	歪な円形	逆半円形	0.48	0.43	0.38	
312	1577	350・-805	歪な円形	逆三角形	0.56	0.52	0.28	
313	1578	355・-800	歪な円形	逆台形	0.29	0.27	0.23	
314	1579	355・-800	楕円形	逆半レンズ状	0.64	0.5	0.2	
315	1580	355・-800	双円形	不整形	0.82	0.54	0.46	
316	1581	350・-795	楕円形	逆台形	0.38	0.3	0.15	
317	1582	350・-800	歪な円形	逆半円形	0.34	0.32	0.15	
318	1584	350・-800	歪な円形	逆台形	0.3	0.3	0.14	
319	1586	350・-800~-805	歪な円形	逆半円形	0.32	0.32	0.13	
320	1587	355・-805	ほぼ円形	逆台形	0.4	0.4	0.26	
321	1588	355・-805	長円形	逆台形	1.3	0.56	0.32	61号掘立１号柱穴及び76号掘立５号柱穴に堀り込まれる。
322	1589	355・-800	全容不明	全容不明	―	―	0.36	1588号pit、61号掘立１号柱穴に掘り込まれる。
323	1590	370・-795	ほぼ円形	逆半円形	0.46	0.4	0.42	
324	1591	360・-775	双楕円形	逆台形	0.63	0.47	0.38	
325	1594	370・-795	ほぼ円形	逆半円形	0.58	0.56	0.42	341・347号竪穴に掘り込まれる。
326	1596	365~370・-800~-805	楕円形	逆台形	1.03	0.73	0.13	298・349号竪穴に掘り込まれる。
327	1598	365・-800	楕円形	不整形	0.6	0.45	0.68	291・298号竪穴に掘り込まれる。
328	1599	365・-810	ほぼ円形	逆台形	0.72	0.7	0.54	
329	1601	370・-815	歪な円形	逆半円形	0.35	0.35	0.38	354号竪穴を掘り込む。
330	1602	375・-805~-810	楕円形	逆台形	0.8	0.7	0.2	
331	1603	375・-805	楕円形	逆台形	1.25	1.18	0.34	
332	1604	370・-815	楕円形	段付逆台形	0.4	0.37	0.32	
333	1605	370・-810	楕円形	逆台形	0.5	0.43	0.36	
334	1606	370・-820	楕円形	段付逆台形	0.54	(0.38)	0.3	北側が調査区外に出る。
335	1608	370・-800	ほぼ円形	逆半円形	0.44	0.42	0.37	363号竪穴に掘り込まれる。
336	1609	370・-800	楕円形	逆半円形	0.44	0.37	0.44	363号竪穴に掘り込まれる。
337	1610	365・-800	楕円形	逆台形	0.52	(0.43)	0.16	350号竪穴に掘り込まれる。
338	1611	370・-805	歪な円形	逆半円形	0.32	0.3	0.18	
339	1612	370・-815	楕円形	逆三角形	0.6	0.54	0.32	353号竪穴に掘り込まれる。
340	1613	370・-815	楕円形	逆台形	0.62	0.45	0.31	353号竪穴に掘り込まれる。
341	1614	370・-815	楕円形	逆台形	0.48	0.42	0.28	
342	1615	370・-810	歪な円形	逆台形	0.29	0.26	0.2	
343	1616	370・-810	楕円形	逆台形	0.37	0.32	0.24	
344	1617	370・-810	ほぼ円形	ほぼ長方形	0.32	0.32	0.15	
345	1618	370・-810	楕円形	逆三角形	0.44	0.38	0.26	
346	1619	370・-815	楕円形	逆台形	0.44	0.37	0.2	
347	1620	370・-810	歪な円形	逆台形	0.3	0.3	0.21	
348	1621	370・-815	楕円形	逆台形	0.36	0.34	0.18	
349	1623	365・-825	楕円形	段付逆三角形	0.3	0.22	0.32	
350	1624	365・-830	楕円形	逆台形	0.45	0.4	0.38	
351	1625	365・-830	歪な円形	円筒形	0.64	0.6	1.08	井戸跡か？
352	1626	370・-825	楕円形	逆台形	0.48	0.42	0.2	
353	1627	370・-825	全容不明	逆三角形	(0.38)	(0.24)	0.48	356号竪穴に掘り込まれる。
354	1628	370・-820	楕円形	逆台形	0.3	0.24	0.14	
355	1629	370・-825	楕円形	逆三角形	0.26	0.2	0.1	
356	1630	365・-825	楕円形	逆台形	0.35	0.3	0.18	
357	1631	365・-825	楕円形	逆台形	0.72	0.48	0.16	
358	1632	365~ 370・-840	楕円形	逆台形	0.72	0.35	0.16	
359	1633	365・-835	楕円形	逆台形	0.45	0.41	0.14	
360	1634	365・-815	楕円形	不整形	0.65	0.55	0.32	
361	1636	370・-815	ほぼ円形	逆台形	0.32	0.32	0.2	
362	1638	365・-815~-820	全容不明	逆台形	(0.56)	(0.42)	0.23	57号溝の下層。北側が調査区外に出る。
363	1639	365・-840~-845	楕円形	逆半円形	0.33	0.26	0.2	
364	1640	365・-845	楕円形	逆台形	0.35	0.3	0.18	
365	1641	365・-845	楕円形	逆半レンズ状	0.71	0.65	0.24	
366	1642	365・-845	楕円形	逆台形	0.36	0.32	0.28	
367	1643	365・-845	楕円形	逆台形	0.52	0.46	0.32	
368	1644	365・-845	楕円形	半円形状	1.05	0.48	0.24	
369	1645	365・-840	楕円形	逆台形	0.3	0.28	0.24	
370	1646	365・-845	楕円形	半円形	0.4	0.38	0.34	



1038号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊10%混。

1041号pit跡
1.暗褐色土　焼土粒微量混。
2.暗褐色土　ローム粒混。
3.暗褐色土　ローム小塊30%混。

1046号pit跡
1.暗褐色土　ローム塊30%混。ローム粒少量混。

1047号pit跡
1.暗褐色土　ローム塊混。ローム粒僅混。

1050・1052号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊30%混。焼土粒・塊微量混。
2.暗褐色土　ローム粒少量混。
3.暗褐色土　ローム粒・塊５%混。
全体にローム粒微量混。

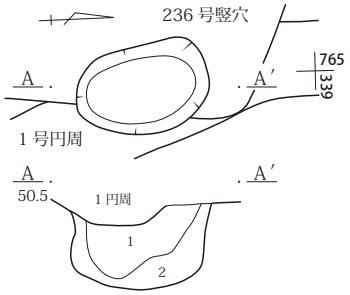
1060・1061号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊僅混。
2.暗褐色土　ローム粒・塊少量混。
3.暗褐色土　ローム塊多混。

1062号pit跡
1.暗褐色土　ローム・焼土粒少量混。
2.暗褐色土　ローム粒少量混。
3.暗褐色土　ローム粒・小塊やや多混。

1073号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊10%混。
焼土粒少量混。

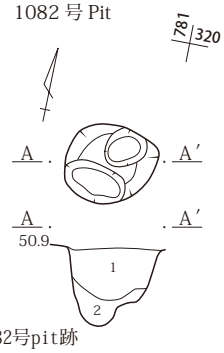
第445図　pit跡（１）

1077 号 Pit



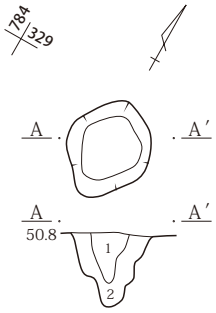
1077号pit跡
1.暗褐色土　白色粒混。
　　ローム粒少量混。
2.暗褐色土　ローム粒・小塊多混。

1082 号 Pit



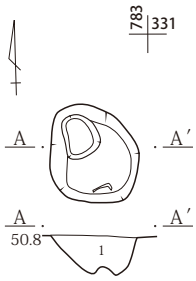
1082号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。
　　ローム粒少量混。
2.黒褐色土　ローム小塊少量混。

1085 号 Pit



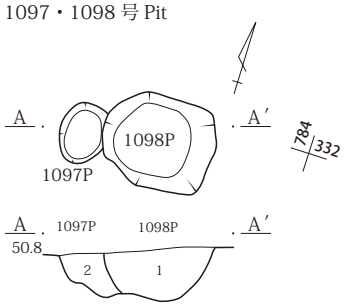
1085号pit跡
1.暗褐色土　ローム・焼土粒少量混。
2.暗褐色土　ローム粒・小塊多量混。

1089 号 Pit



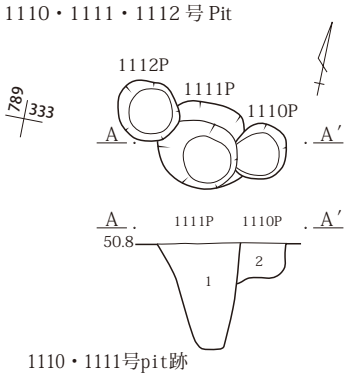
1089号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊やや多混。

1097・1098 号 Pit



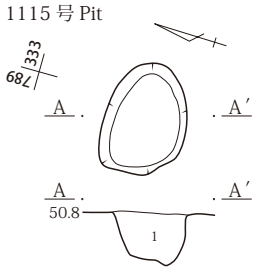
1097・1098号pit跡
1.暗褐色土　ローム小塊少量混。
2.暗褐色土　やや明るい色調。
　　ローム粒・小塊やや多混。

1110・1111・1112 号 Pit

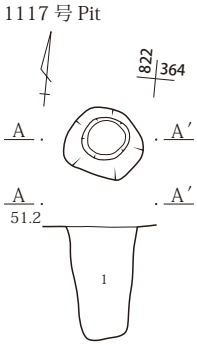


1110・1111号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒少量混。
2.黒褐色土　ローム粒僅混。

1115 号 Pit

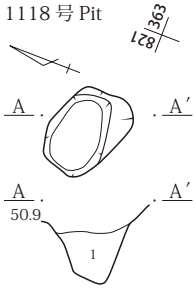


1117 号 Pit

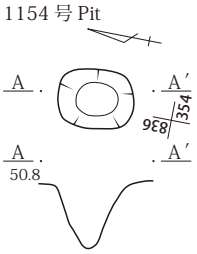


1117号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒少量混。
1115号pit跡
1.黒褐色土　ローム・焼土粒少量混。

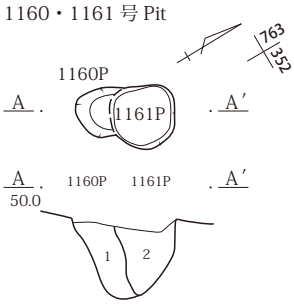
1118 号 Pit



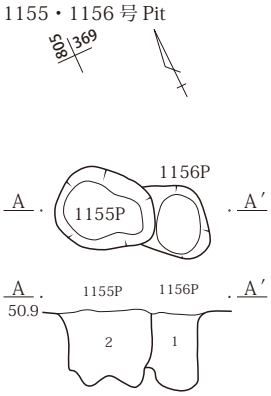
1154 号 Pit



1160・1161 号 Pit



1155・1156 号 Pit

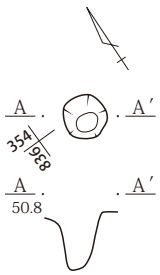


1118号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊少量混。

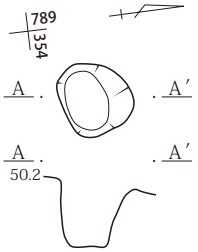
1160・1161号pit跡
1.暗褐色土　ローム・焼土粒少量混。
2.暗褐色土　１層よりもローム粒の径が大。

1155・1156号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒混。白色細粒僅混。
2.暗褐色土　ローム粒混。

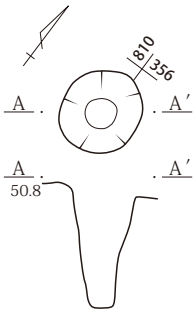
1153 号 Pit



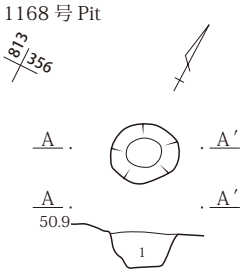
1162 号 Pit



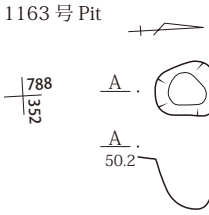
1167 号 Pit



1168 号 Pit



1163 号 Pit

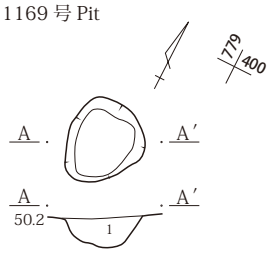


1168号pit跡
1.暗褐色土　粒子細かく粘質。

0　1m

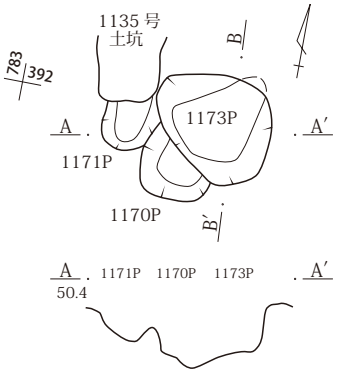
第446図　pit跡（２）

1169 号 Pit



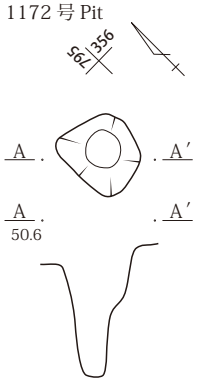
1169号pit跡
1.黒褐色土　ローム粒・少塊少量混。

1170・1171・1173 号 Pit



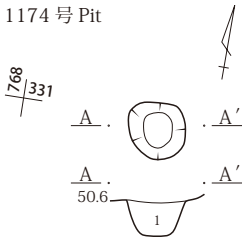
1173号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒僅混。

1172 号 Pit

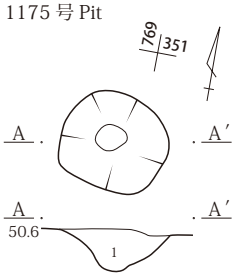


1174号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土粒混。

1174 号 Pit

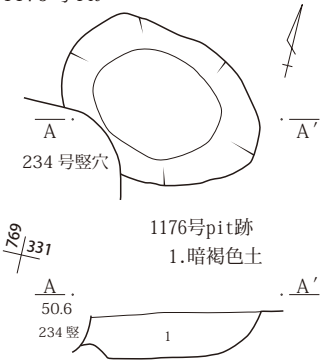


1175 号 Pit



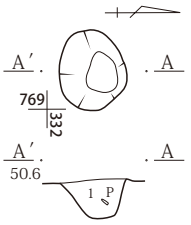
1175号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1176 号 Pit



1176号pit跡
1.暗褐色土

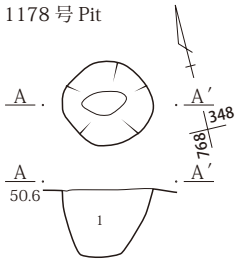
1177 号 Pit



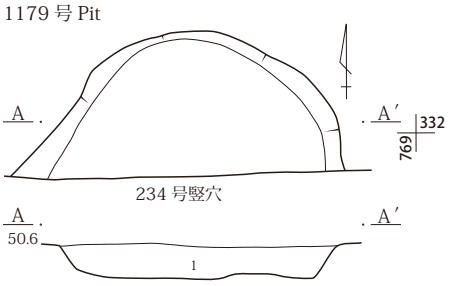
1177号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土粒混。

1178号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土粒混。

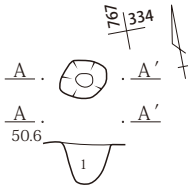
1178 号 Pit



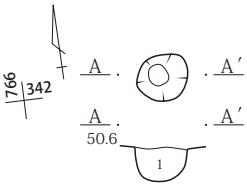
1179 号 Pit



1180 号 Pit



1181 号 Pit



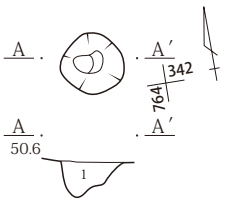
1181号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

1179号pit跡
1.黒褐色土　白色粒・焼土粒混。

1180号pit跡
1.黒褐色土　白色・ローム粒混。

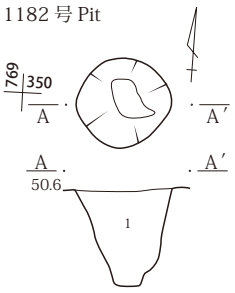
1182号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土粒混。

1183 号 Pit

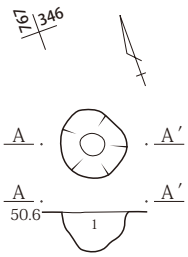


1183号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

1182 号 Pit

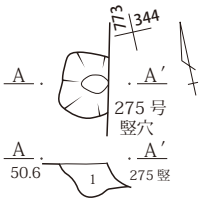


1184 号 Pit

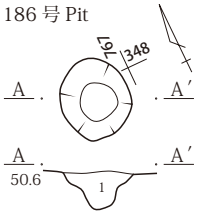


1184号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

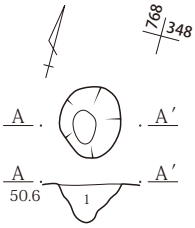
1185 号 Pit



1186 号 Pit



1187 号 Pit



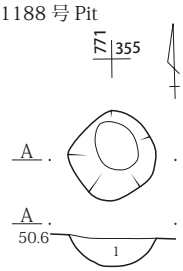
1185号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1186号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

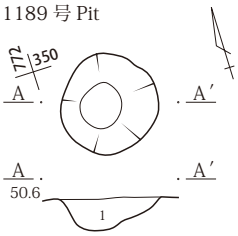
1187号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土粒混。

1188号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒混。

1188 号 Pit



1189 号 Pit

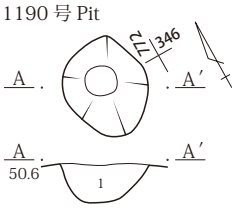


1189号pit跡
1.黒褐色土 白色・焼土粒混。

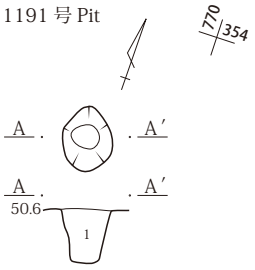
0　1m

第447図　pit跡（３）

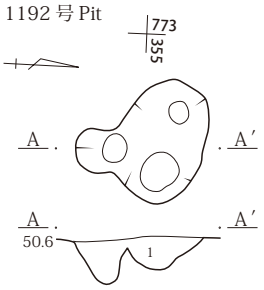
1190 号 Pit



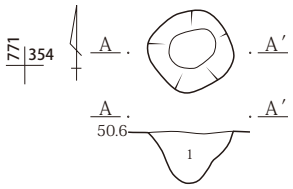
1191 号 Pit



1192 号 Pit



1199 号 Pit

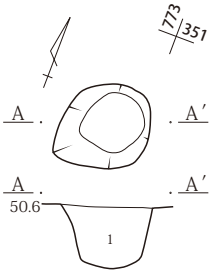


1190号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土粒混。

1191号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒混。

1192号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒混。

1195 号 Pit



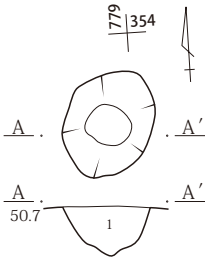
1195号pit跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒混。

1199号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

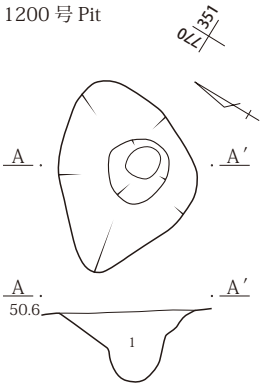
1209号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1208号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒混。

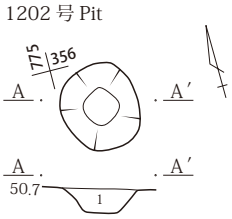
1208 号 Pit



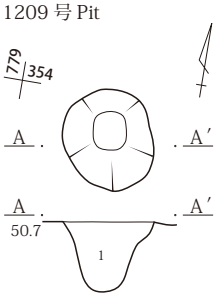
1200 号 Pit



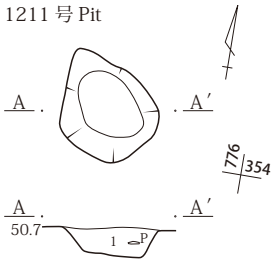
1202 号 Pit



1209 号 Pit



1211 号 Pit



1200号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

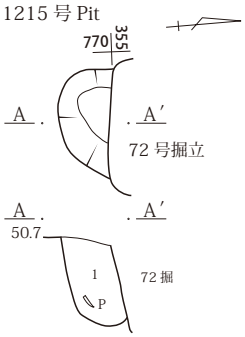
1202号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒混。

1215号pit跡
1.暗褐色土

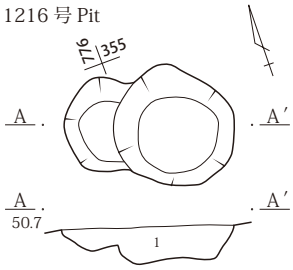
1216号pit跡
1.黒褐色土　焼土粒混。

1211号pit跡
1.黒褐色土　焼土粒混。

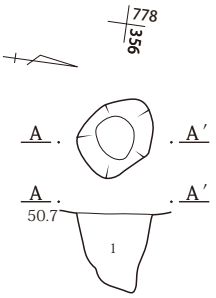
1215 号 Pit



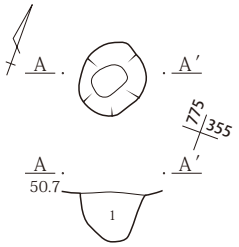
1216 号 Pit



1217 号 Pit



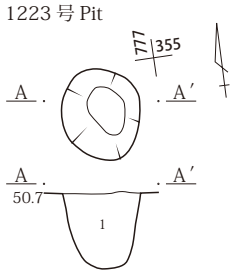
1218 号 Pit



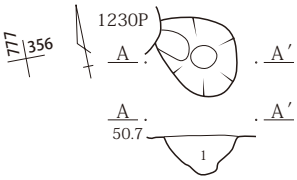
1217号pit跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒混。

1218号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

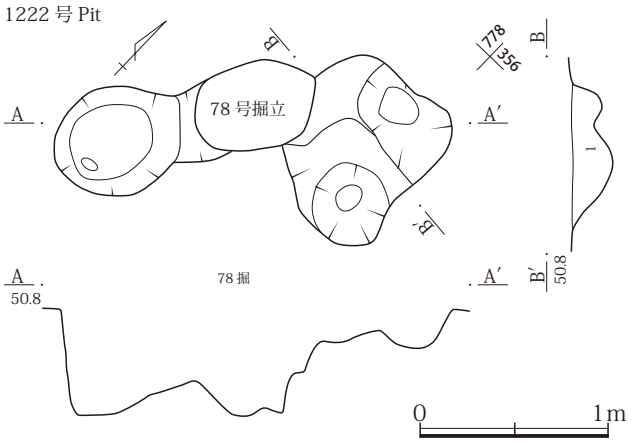
1223 号 Pit



1219 号 Pit



1222 号 Pit



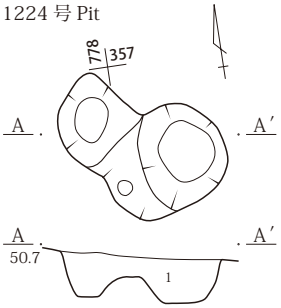
1219号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1222号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土粒混。

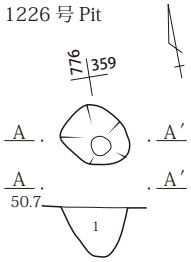
1223号pit跡
1.暗褐色土　炭化物・ローム粒混。

第448図　pit跡（４）

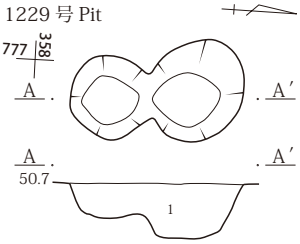
1224 号 Pit



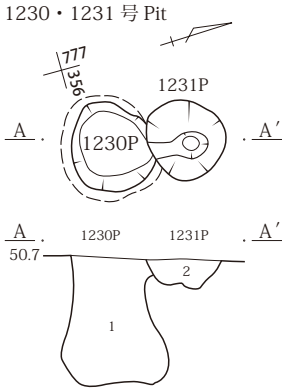
1226 号 Pit



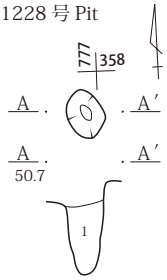
1229 号 Pit



1230・1231 号 Pit



1228 号 Pit



1224号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1226号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土粒混。

1233号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1228号pit跡
1.黒褐色土　白色・ローム粒混。

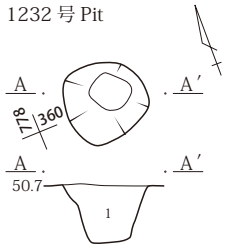
1229号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1230・1231号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土・ローム粒混。
2.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

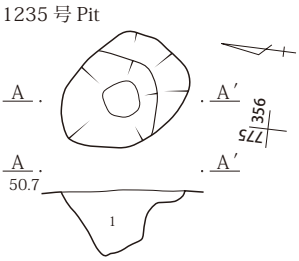
1232号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1241号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

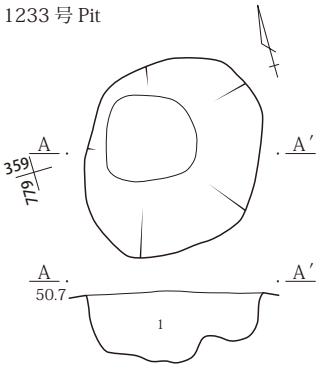
1232 号 Pit



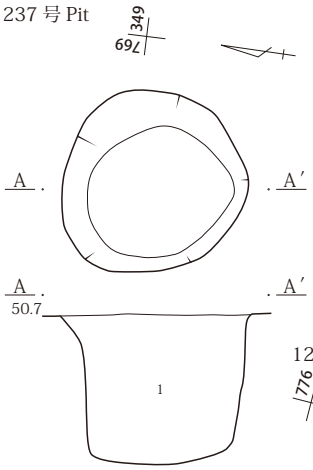
1235 号 Pit



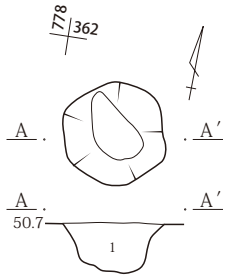
1233 号 Pit



1237 号 Pit



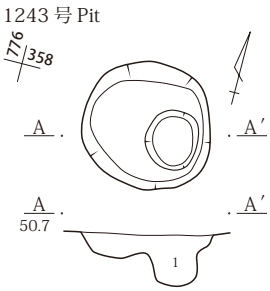
1241 号 Pit



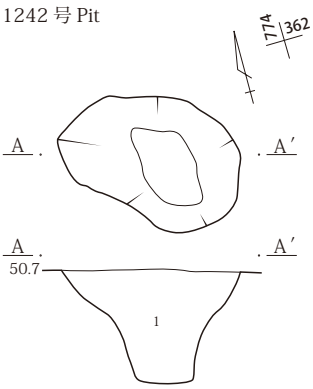
1235号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1237号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

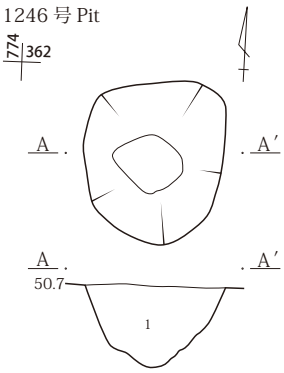
1243 号 Pit



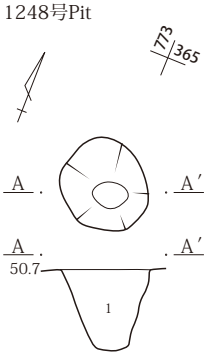
1242 号 Pit



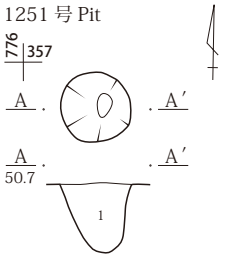
1246 号 Pit



1248号Pit



1251 号 Pit



1242号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1243号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1246号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

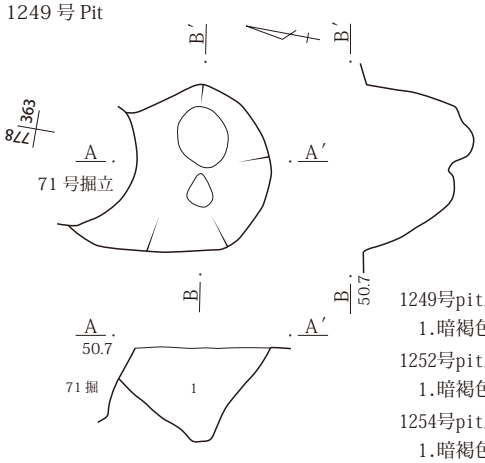
1248号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1251号pit跡
1.暗褐色土　白色・ローム粒混。

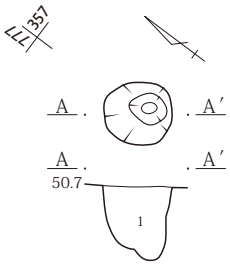
0　1m

第449図　pit跡（５）

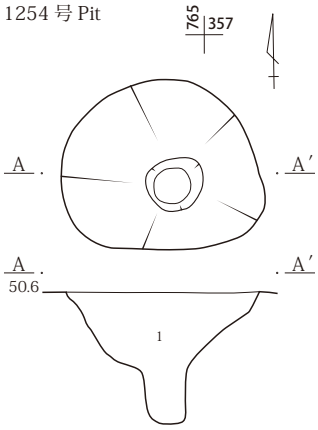
1249 号 Pit



1252 号 Pit



1254 号 Pit

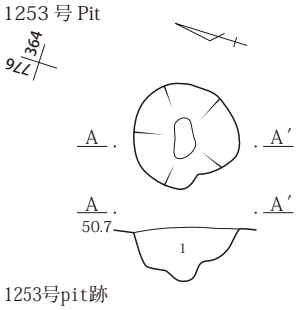


1249号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

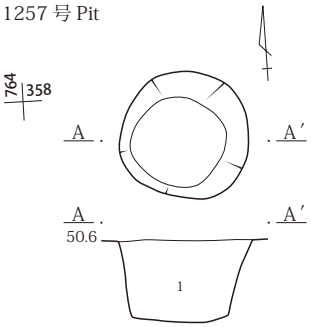
1252号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1254号pit跡
1.暗褐色土　白色・ローム粒混。

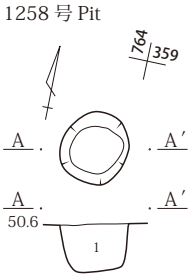
1253 号 Pit



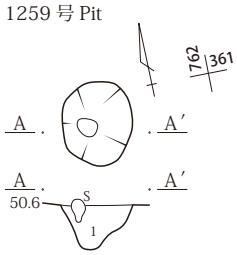
1257 号 Pit



1258 号 Pit



1259 号 Pit



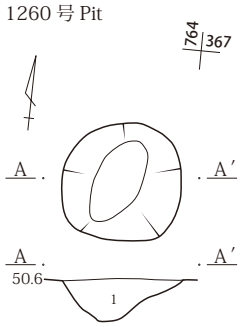
1253号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1257号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

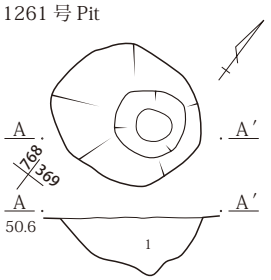
1258号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1259号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

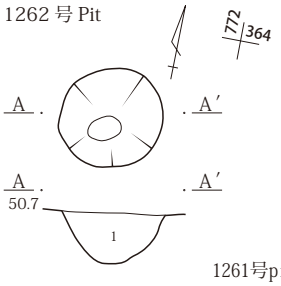
1260 号 Pit



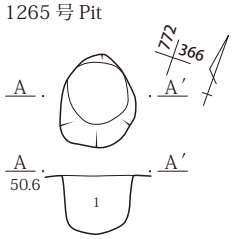
1261 号 Pit



1262 号 Pit



1265 号 Pit



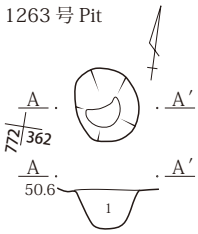
1260号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1261号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

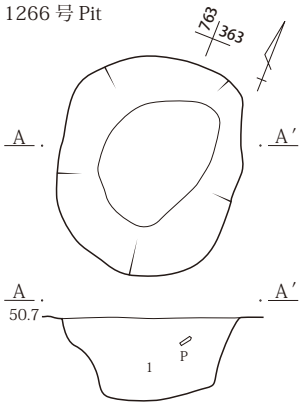
1262号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1265号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

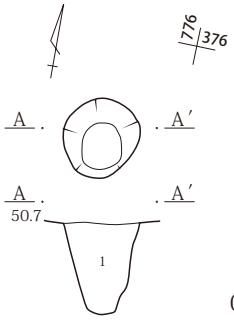
1263 号 Pit



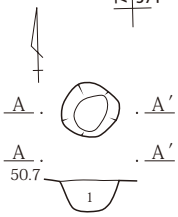
1266 号 Pit



1271 号 Pit



1270 号 Pit



1263号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1266号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

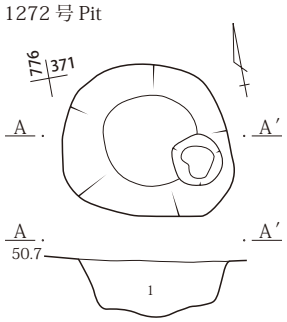
1270号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1271号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

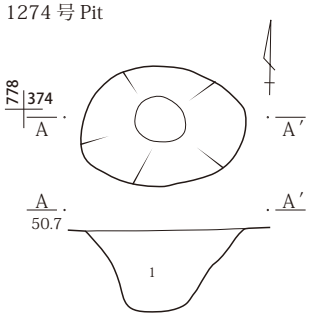
0　1m

第450図　pit跡（６）

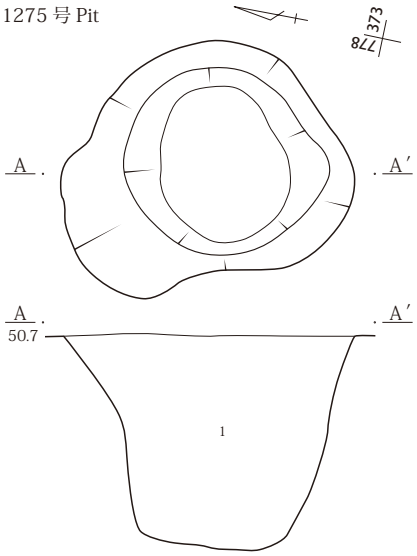
1272 号 Pit



1274 号 Pit



1275 号 Pit



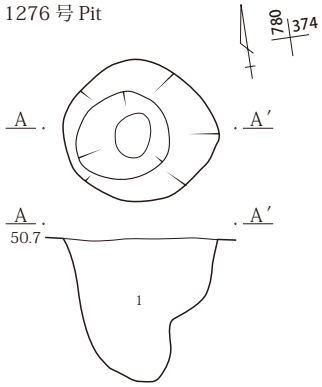
1272号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

1274号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

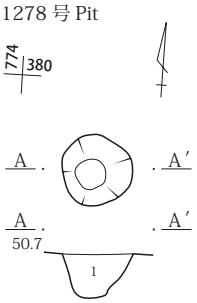
1275号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

1276号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

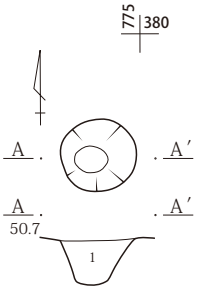
1276 号 Pit



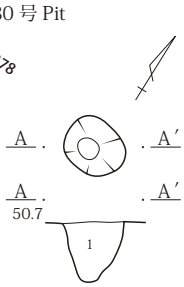
1278 号 Pit



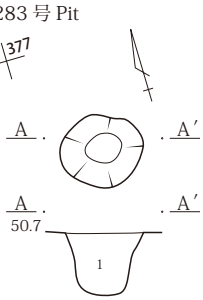
1279 号 Pit



1280 号 Pit



1283 号 Pit



1278号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

1279号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

1282号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

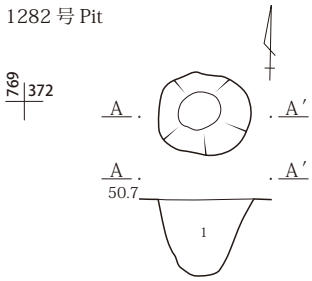
1280号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

1283号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

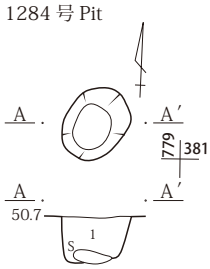
1284号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

1285号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

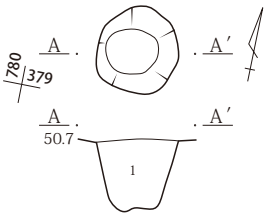
1282 号 Pit



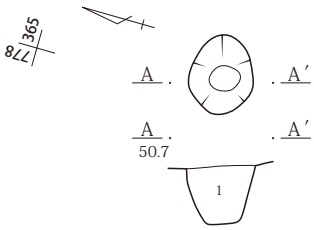
1284 号 Pit



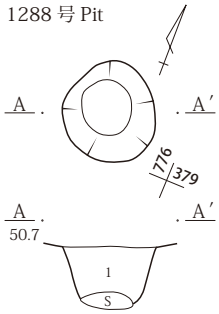
1285 号 Pit



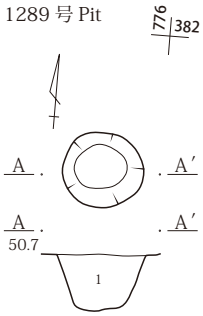
1286 号 Pit



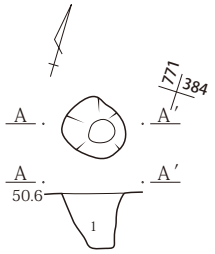
1288 号 Pit



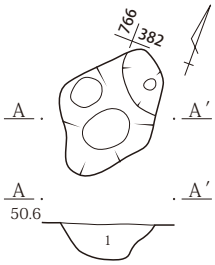
1289 号 Pit



1290 号 Pit



1291 号 Pit



1286号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1288号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

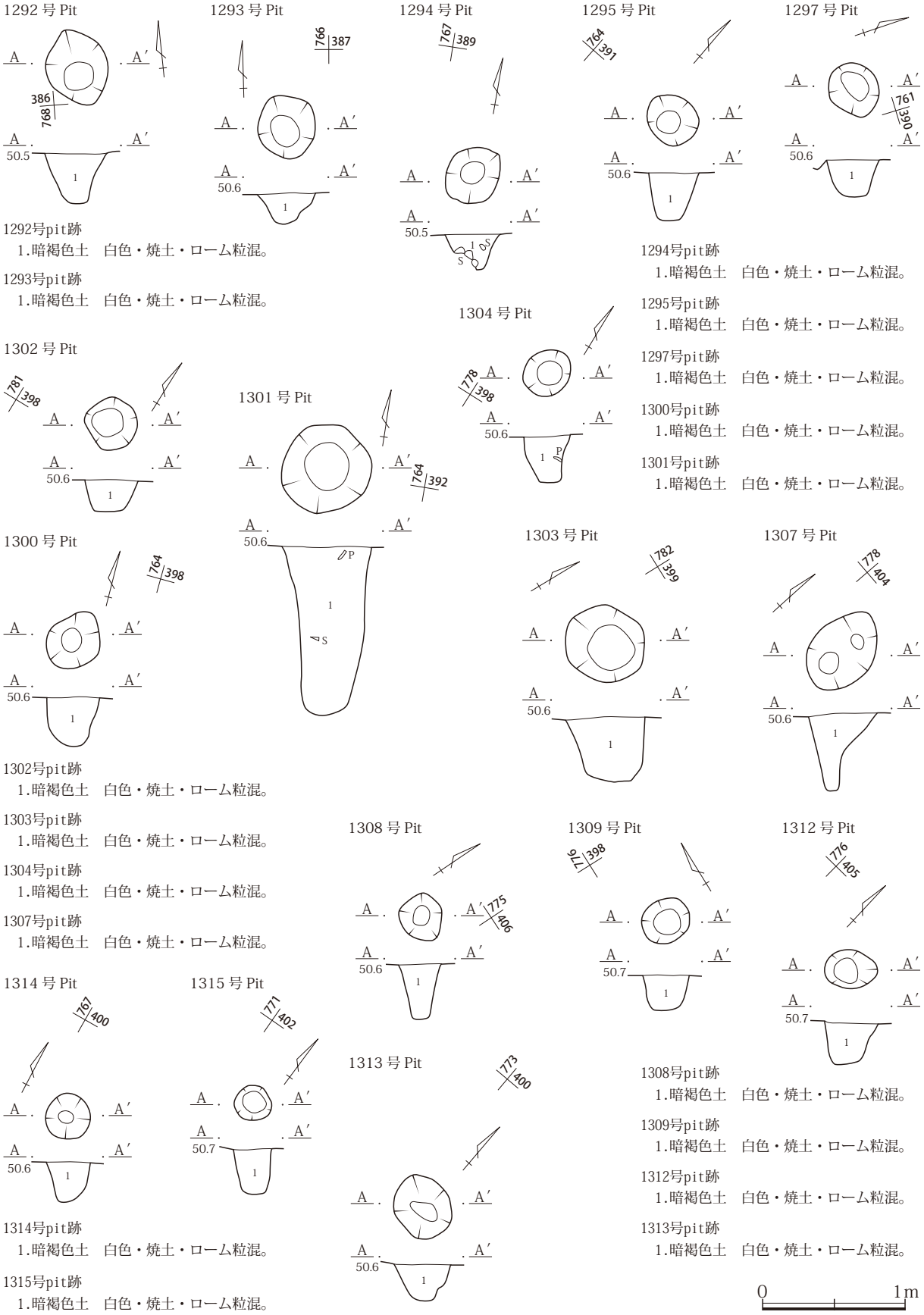
1290号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1289号pit跡
1.黒褐色土　白色粒混。

1291号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

0　1m

第451図　pit跡（７）



1292号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1293号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1294号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1295号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1297号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1300号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1301号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1302号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1303号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1304号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1307号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1308号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1309号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

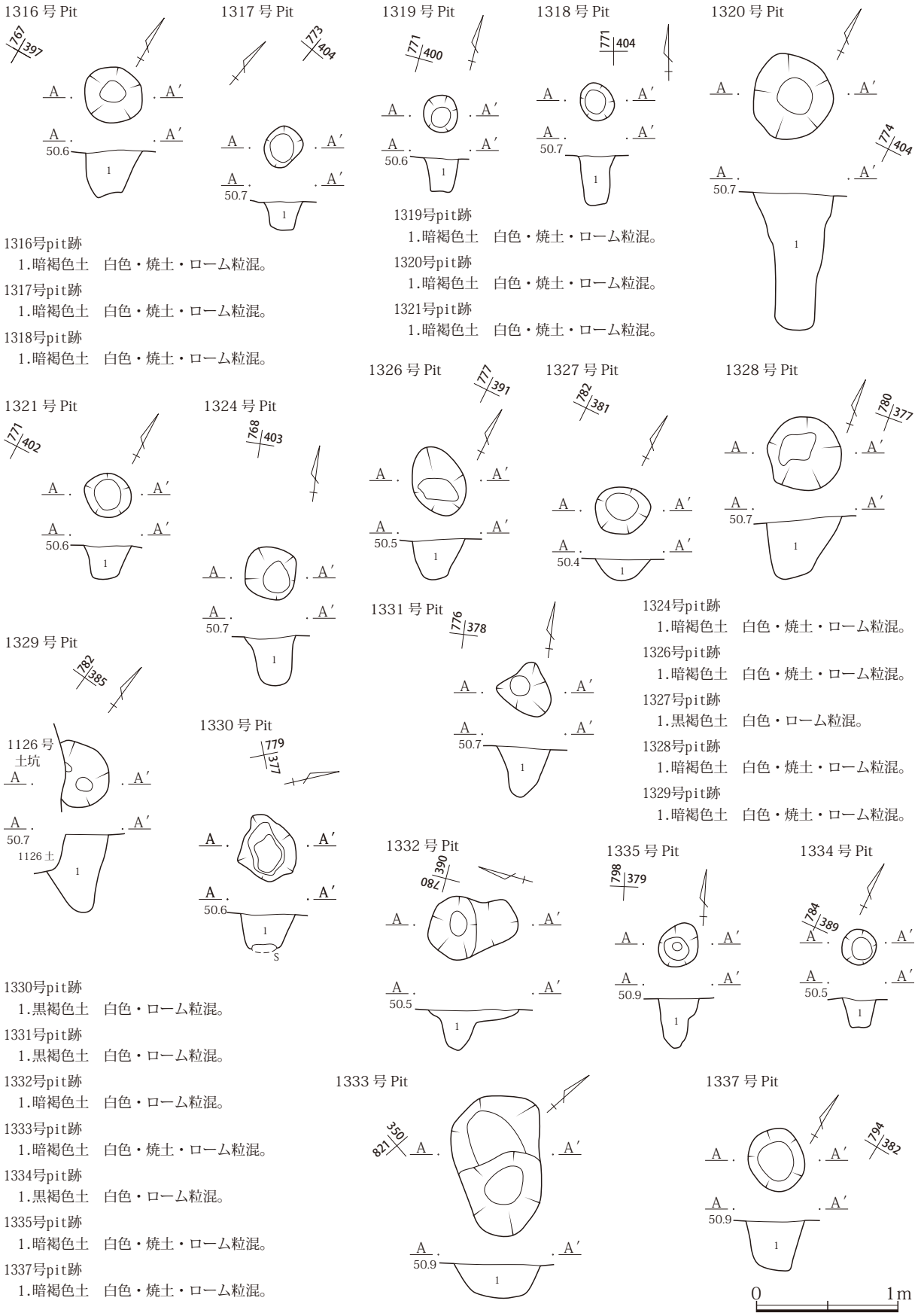
1312号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1313号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1314号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1315号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

第452図　pit跡（８）



1316号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1317号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1318号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1319号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1320号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1321号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1324号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1326号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1327号pit跡
1.黒褐色土　白色・ローム粒混。

1328号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1329号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1330号pit跡
1.黒褐色土　白色・ローム粒混。

1331号pit跡
1.黒褐色土　白色・ローム粒混。

1332号pit跡
1.暗褐色土　白色・ローム粒混。

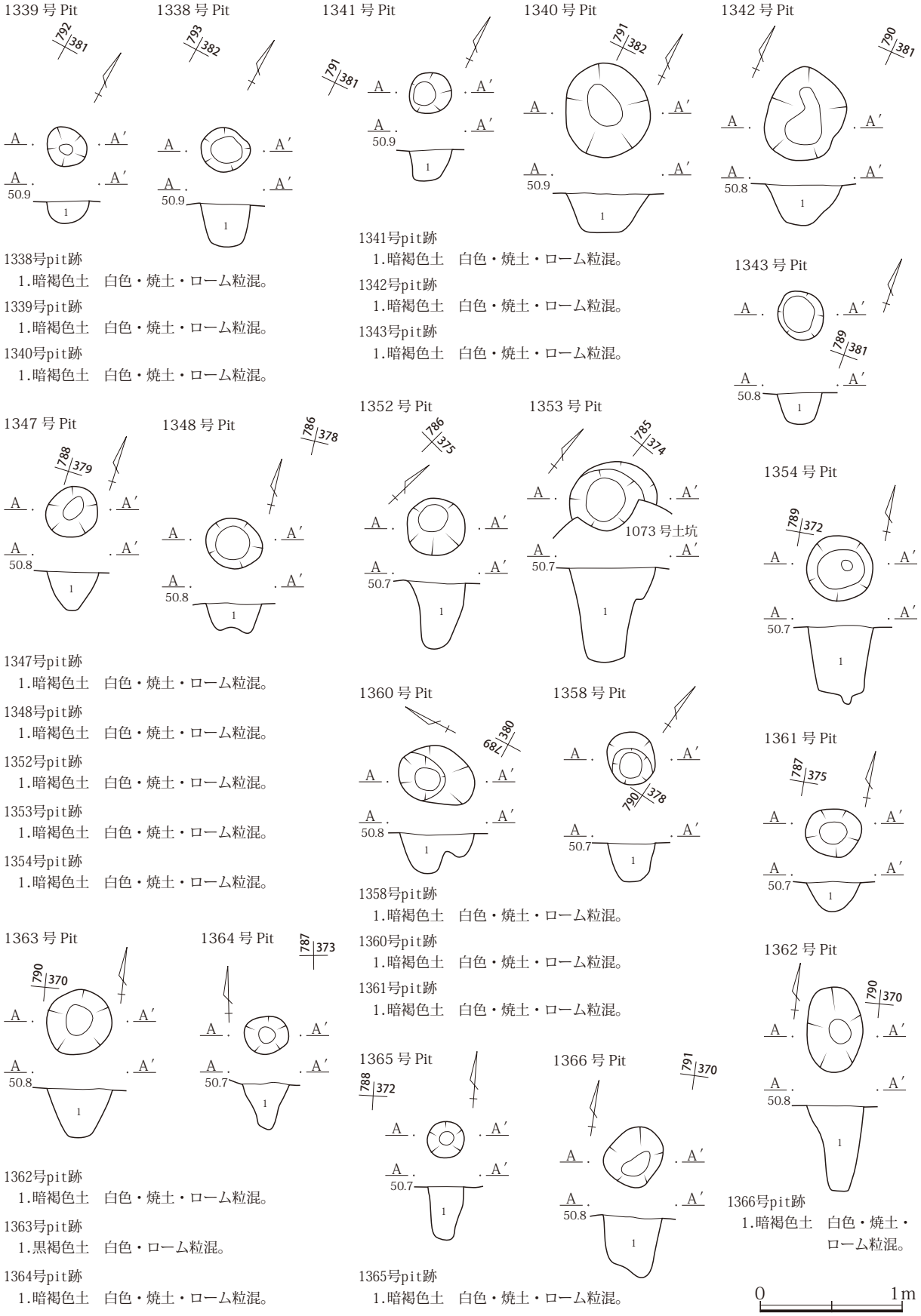
1333号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1334号pit跡
1.黒褐色土　白色・ローム粒混。

1335号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1337号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

第453図　pit跡（９）



1338号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1339号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1340号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1341号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1342号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1343号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1347号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1348号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1352号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1353号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1354号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1358号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1360号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1361号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1362号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1363号pit跡
1.黒褐色土　白色・ローム粒混。

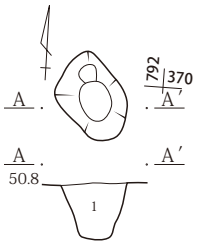
1364号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1365号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

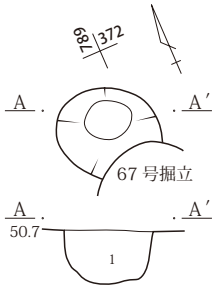
1366号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

第454図　pit跡（10）

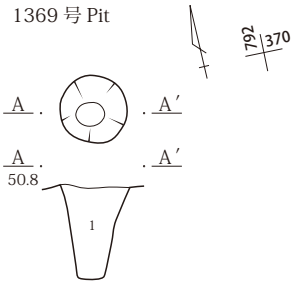
1368 号 Pit



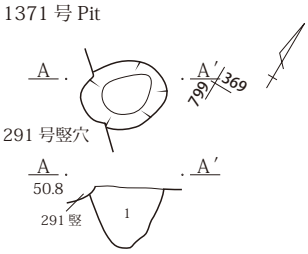
1367 号 Pit



1369 号 Pit



1371 号 Pit



1367号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1368号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1369号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1371号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

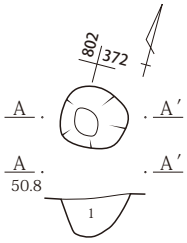
1374号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1376号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

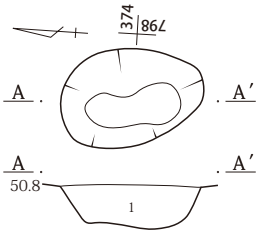
1378号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1387号pit跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒混。
2.黄褐色土　ローム塊多量混。

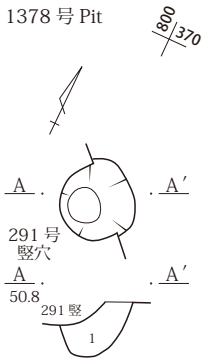
1374 号 Pit



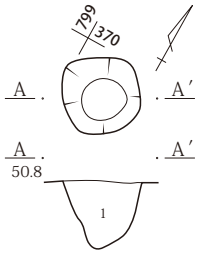
1376 号 Pit



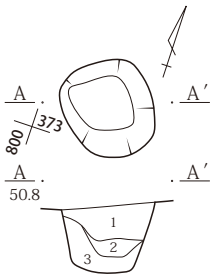
1378 号 Pit



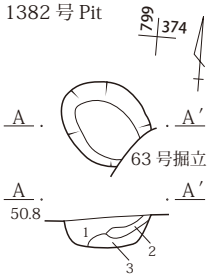
1379 号 Pit



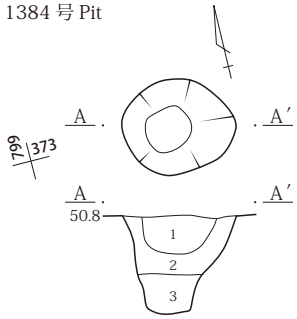
1381 号 Pit



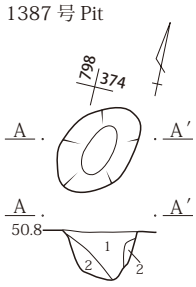
1382 号 Pit



1384 号 Pit



1387 号 Pit



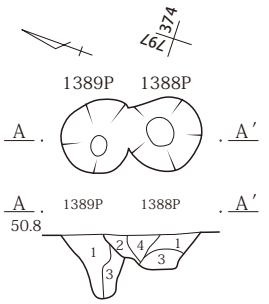
1379号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1381号pit跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒混。
2.暗黄褐色土　ローム粒・塊混。
3.黄褐色土　ローム塊多量混。

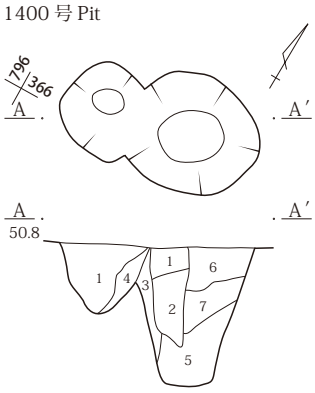
1382号pit跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒混。
2.暗黄褐色土　ローム粒・塊混。
3.黄褐色土　ローム塊多量混。

1384号pit跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒混。
2.暗黄褐色土　ローム粒・塊混。
3.黄褐色土　ローム塊多量混。

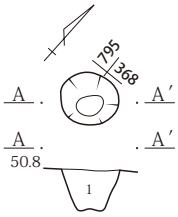
1388・1389 号 Pit



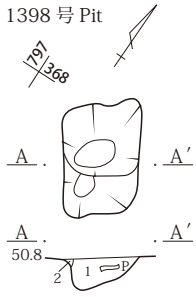
1400 号 Pit



1397 号 Pit



1398 号 Pit



1397号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒多量混。

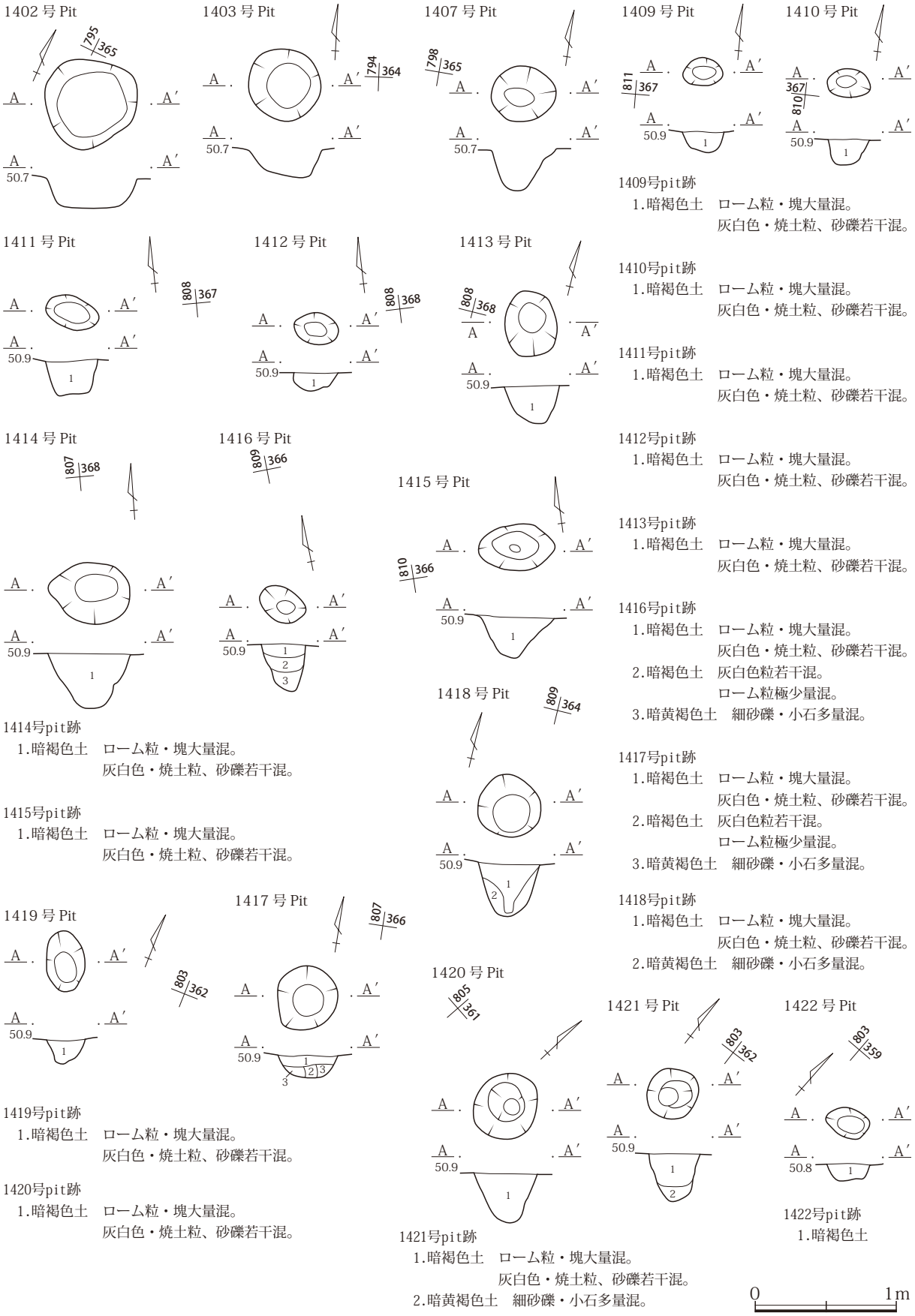
1398号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒多量混。

1388・1389号pit跡
1.暗褐色土　焼土・ローム粒混。
2.暗黄褐色土　ローム粒・塊混。
3.黄褐色土　ローム塊多量混。
4.暗黒褐色土　灰白色粒混。

1400号pit跡
1.暗褐色土　灰白色・焼土・ローム粒多量混。
2.暗黄褐色土　ローム粒多量混。
3.黄褐色土　暗褐色粒若干混。
4.暗褐色土
5.黄褐色土　砂礫混。
6.暗褐色土　灰白色・砂粒混。
7.暗褐色土　小石混。

0　1m

第455図　pit跡（11）



1409号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。

1410号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。

1411号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。

1412号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。

1413号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。

1416号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。
2.暗褐色土　灰白色粒若干混。
ローム粒極少量混。
3.暗黄褐色土　細砂礫・小石多量混。

1417号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。
2.暗褐色土　灰白色粒若干混。
ローム粒極少量混。
3.暗黄褐色土　細砂礫・小石多量混。

1418号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。
2.暗黄褐色土　細砂礫・小石多量混。

1414号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。

1415号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。

1419号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。

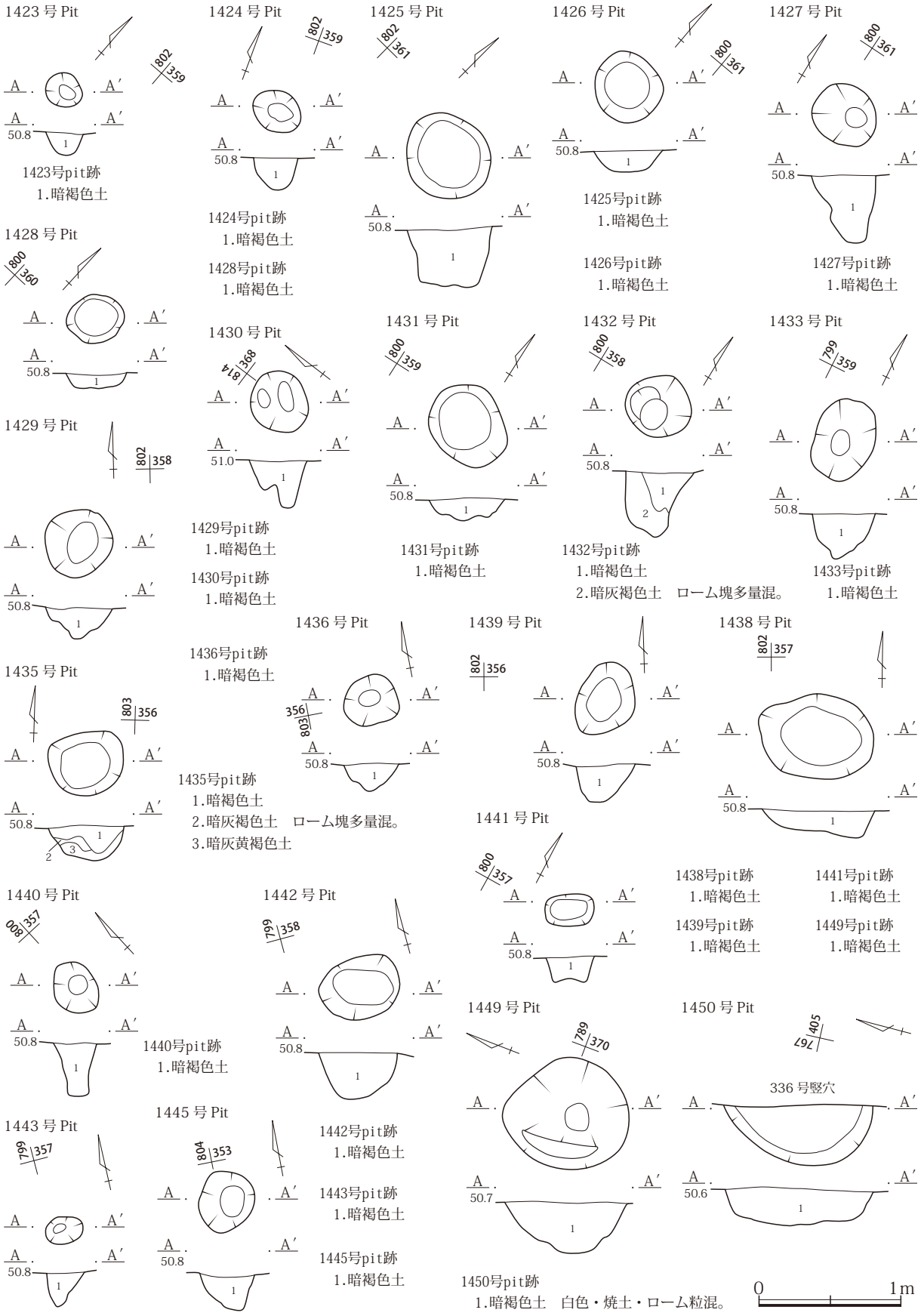
1420号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。

1421号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊大量混。
灰白色・焼土粒、砂礫若干混。
2.暗黄褐色土　細砂礫・小石多量混。

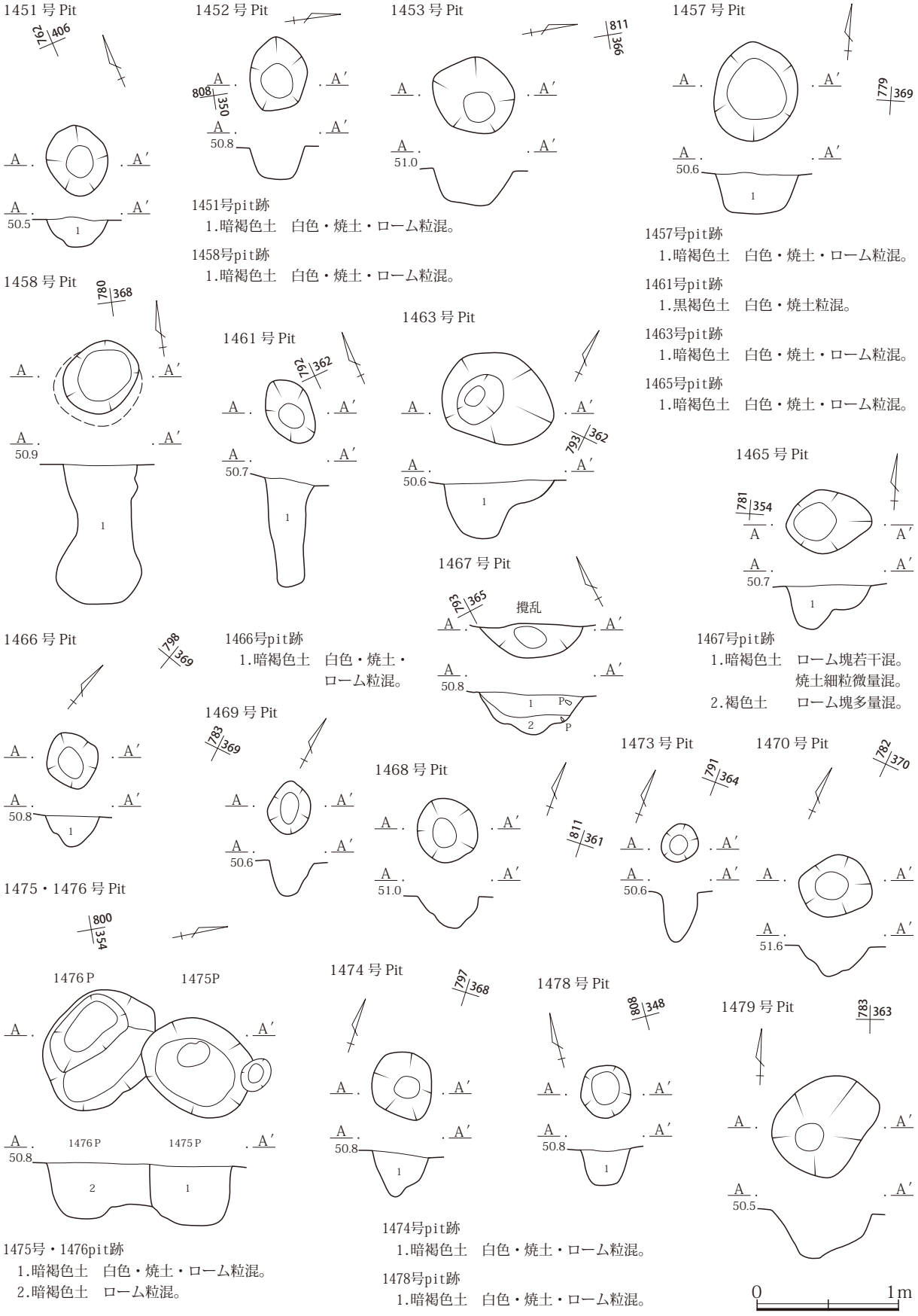
1422号pit跡
1.暗褐色土

0　1m

第456図　pit跡（12）

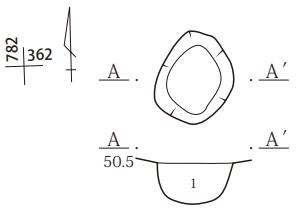


第457図　pit跡（13）

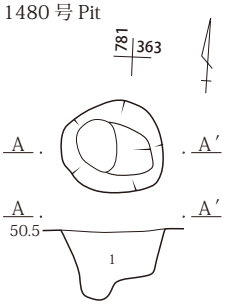


第458図　pit跡（14）

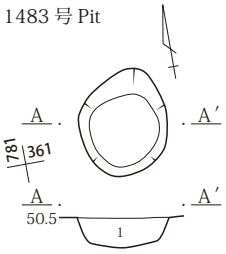
1481 号 Pit



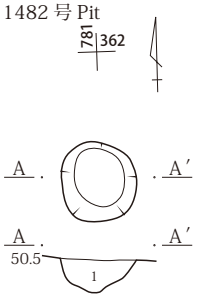
1480 号 Pit



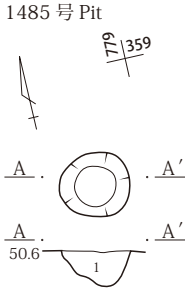
1483 号 Pit



1482 号 Pit



1485 号 Pit



1481号pit跡
1.黒褐色土　白色・焼土粒混。

1480号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

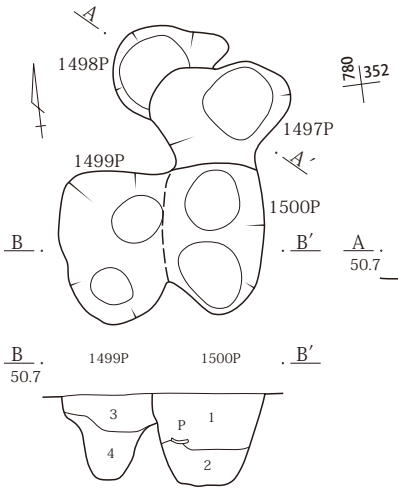
1482号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

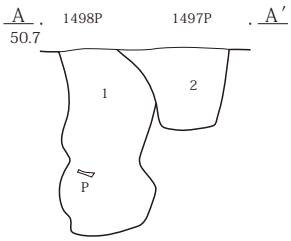
1483号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1485号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

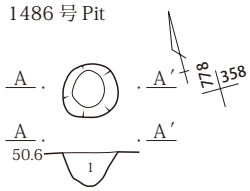
1486号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1497・1498・1499・1500 号 Pit

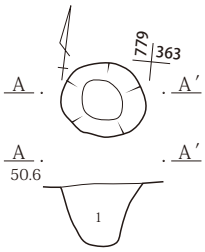




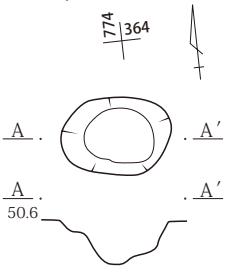
1486 号 Pit



1489 号 Pit



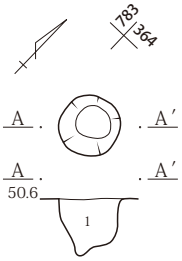
1502 号 Pit



1497・1498号pit跡
1.暗褐色土　白色細粒、ローム・炭化物粒混。
2.暗褐色土　白色細粒・粒、焼土粒微量混。

1499・1500号pit跡
1.暗褐色土　白色細粒・粒、焼土粒微量混。
2.暗褐色土　褐色土塊微量混。
3.暗褐色土　白色細粒・粒、焼土粒微量混。
4.褐色土　白色粒細粒・粒、暗褐色土塊若干混。

1505 号 Pit

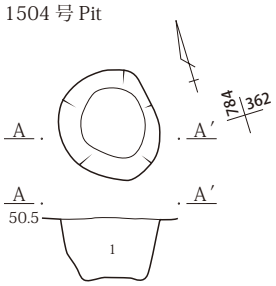


1489号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

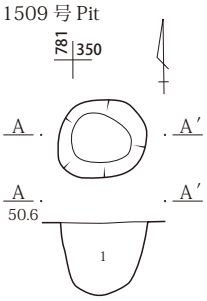
1504号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1505号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

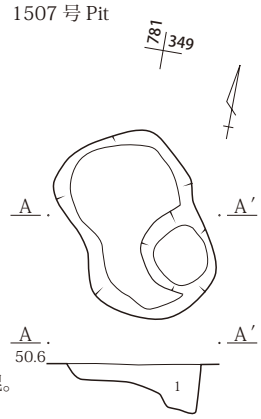
1504 号 Pit



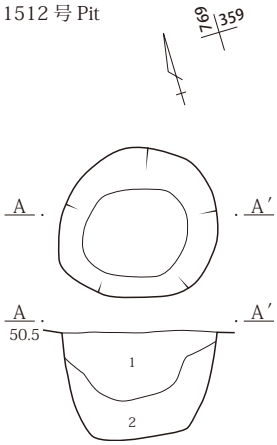
1509 号 Pit



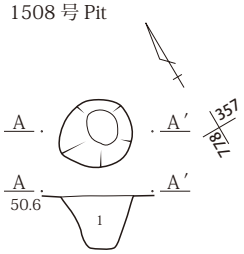
1507 号 Pit



1512 号 Pit



1508 号 Pit



1507号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

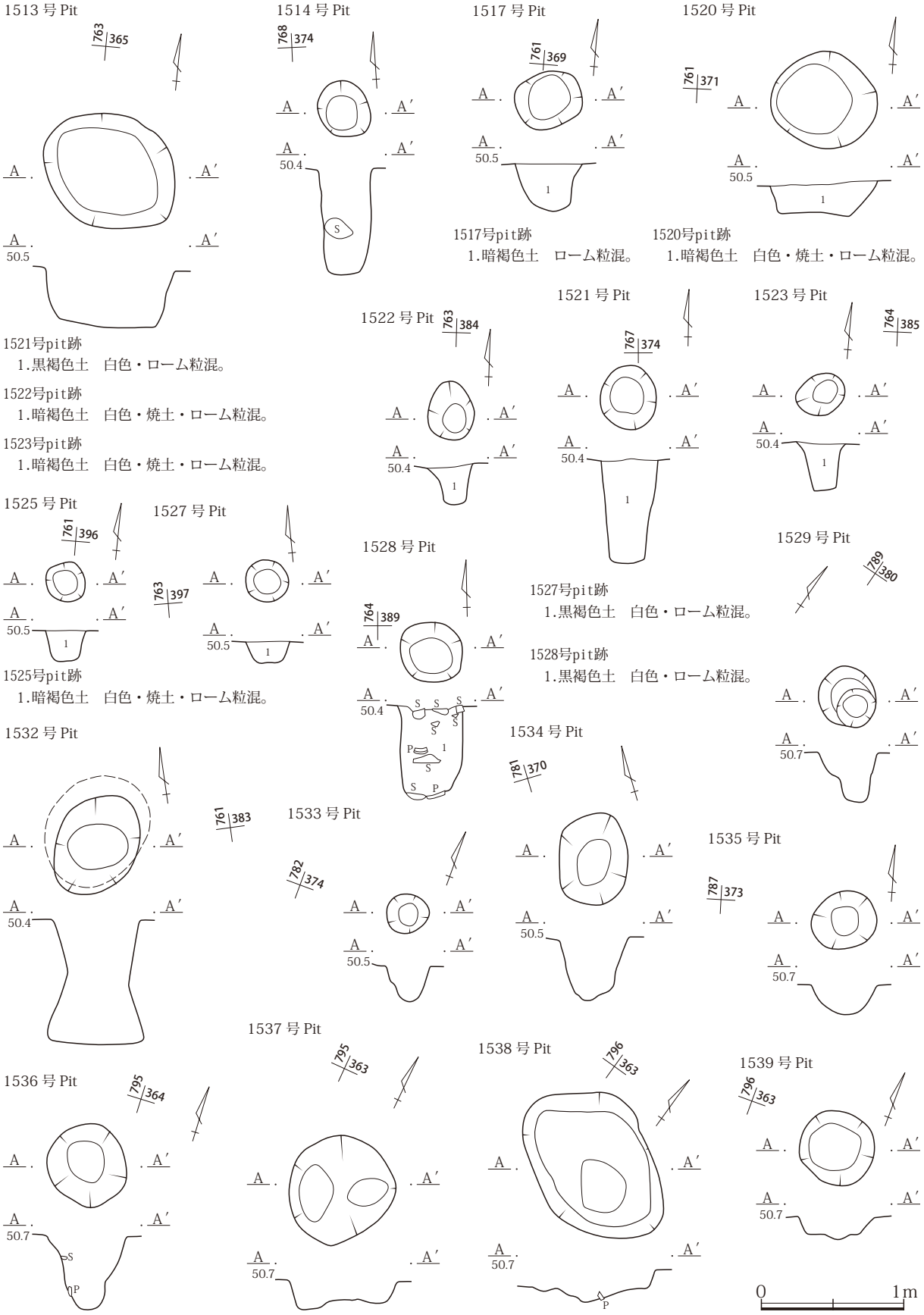
1508号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1509号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1512号pit跡
1.暗褐色土　小礫若干混。
2.暗褐色砂質土

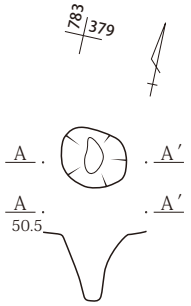
0　1m

第459図　pit跡（15）

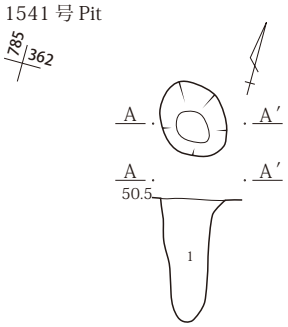


第460図　pit跡（16）

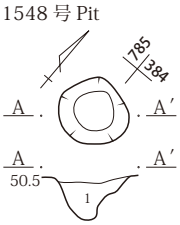
1540 号 Pit



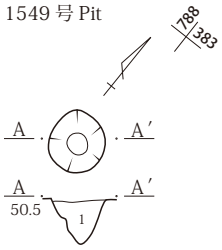
1541 号 Pit



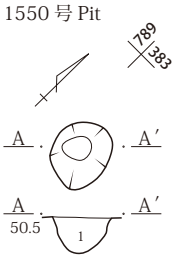
1548 号 Pit



1549 号 Pit



1550 号 Pit



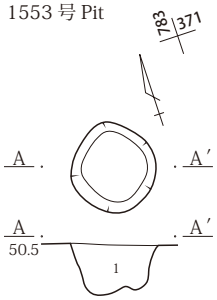
1541号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊多混。

1548号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊多混。

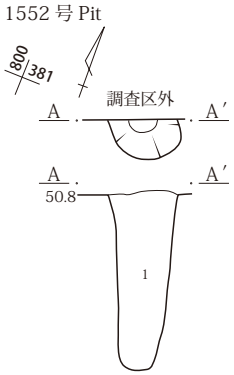
1549号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊多混。

1550号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊多混。

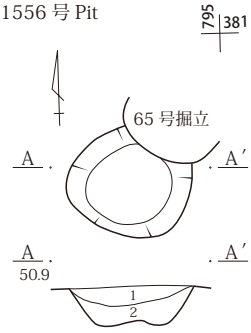
1553 号 Pit



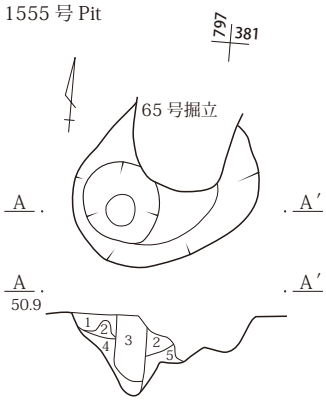
1552 号 Pit



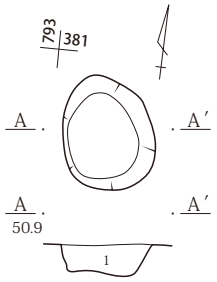
1556 号 Pit



1555 号 Pit



1557 号 Pit



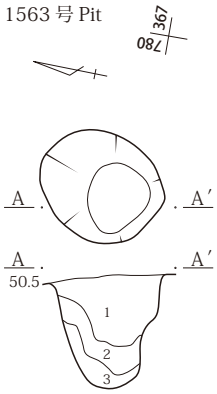
1552号pit跡
1.暗褐色土　ローム・焼土粒・塊多混。
　　灰白色粒・砂礫若干混。

1553号pit跡
1.黒褐色土　砂礫若干混。
　　灰白色・ローム粒極少量混。

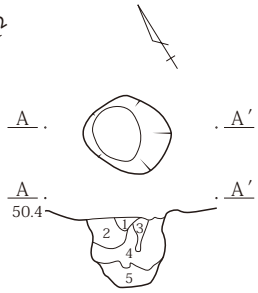
1557号pit跡
1.暗黄褐色土　細砂粒微量混。

1555号pit跡
1.暗黄褐色土　細砂粒微量混。
2.暗黄褐色粘質土　灰白色・ローム細粒、細砂粒少量混。
3.暗灰褐色土　砂礫・小石やや多混。
4.暗黄褐色粘質土　砂礫極少量混。
5.黄褐色粘質土　ローム粒・砂粒やや多混。

1563 号 Pit



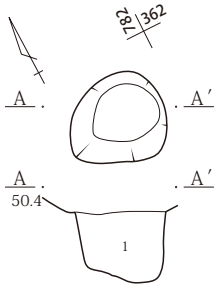
1566 号 Pit



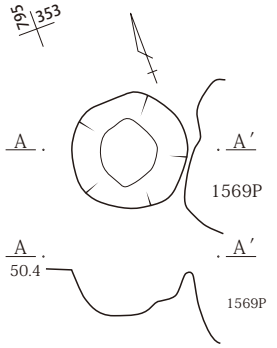
1556号pit跡
1.暗黄褐色土　細砂粒微量混。
2.暗黄褐色粘質土　灰白色・ローム細粒、細砂粒少量混。

1563号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒、ローム粒・
　　小塊若干混。
2.暗褐色土　ローム塊多混。焼土粒微量混。
3.黒褐色土　ローム細粒微量混。

1567 号 Pit



1568 号 Pit



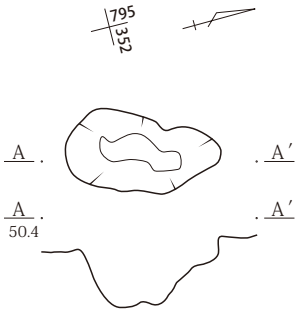
1566号pit跡
1.暗褐色土　焼土粒多混。白色粒・炭化物細粒少量混。
2.暗褐色土　焼土粒多量混。
3.褐色粘質土　ローム塊。
4.暗褐色土　焼土粒、ローム粒・塊若干混。
5.褐色土　ローム粒多量混。

1567号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒微量混。

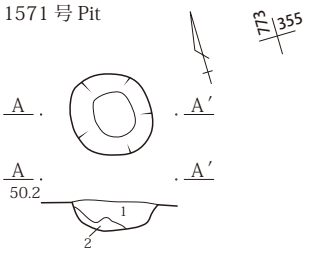
0　1m

第461図　pit跡（17）

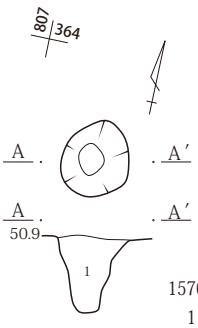
1569 号 Pit



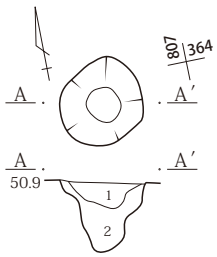
1571 号 Pit



1573 号 Pit



1576 号 Pit



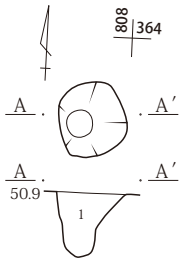
1571号pit跡
1.灰褐色土　砂礫多量混。
2.灰色砂質土

1575号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

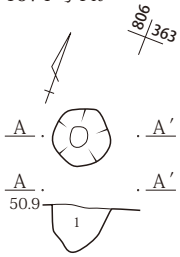
1576号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・小塊混。
2.黄褐色粘質土　暗褐色土塊混。

1573号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1575 号 Pit

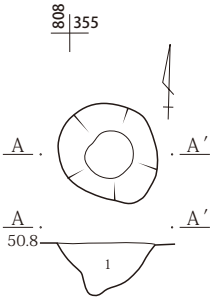


1574 号 Pit

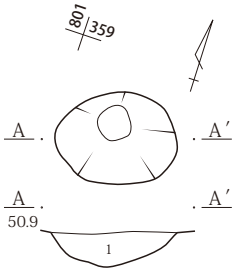


1574号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒混。

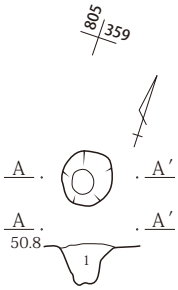
1577 号 Pit



1579 号 Pit



1578 号 Pit

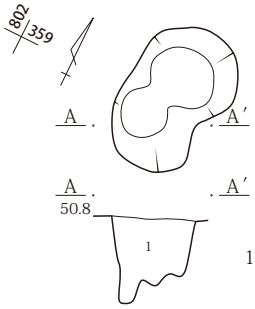


1577号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

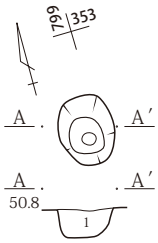
1578号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1579号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

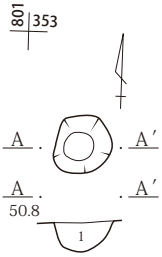
1580 号 Pit



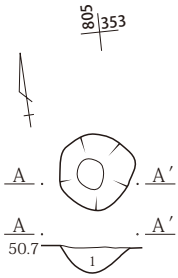
1581 号 Pit



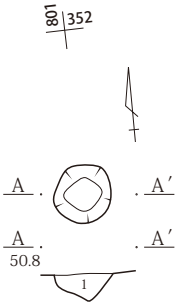
1582 号 Pit



1586 号 Pit



1584 号 Pit



1580号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

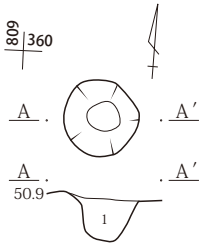
1581号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1582号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

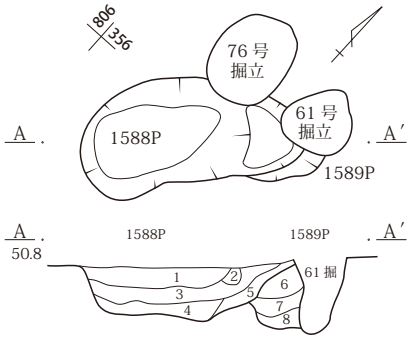
1584号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1586号pit跡
1.黒褐色土　白色・ローム粒混。

1587 号 Pit



1588・1589 号 Pit



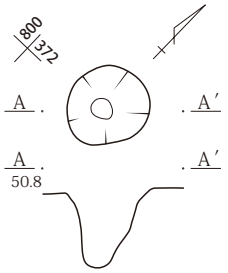
1588・1589号pit跡
1.暗褐色土　焼土粒、ローム粒・塊やや多混。
2.暗褐色土　焼土・ローム粒多混。
3.暗褐色土　焼土・ローム粒多量混。
4.暗褐色土　ローム粒・塊多混。
5.暗黄褐色粘質土　ローム塊多量混。
6.暗黄褐色粘質土　灰白色・ローム粒・塊多混。
7.暗黄褐色粘質土　暗褐色土塊やや多混。
8.暗黄褐色粘質土　黒褐色土・暗褐色土塊大量混。

1587号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒混。

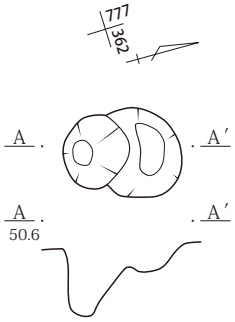
0　1m

第462図　pit跡（18）

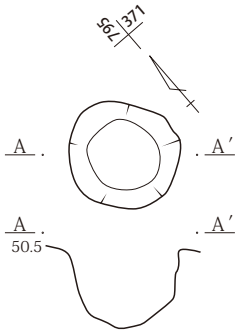
1590 号 Pit



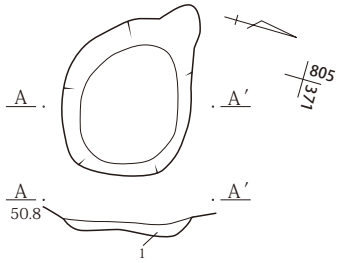
1591 号 Pit



1594 号 Pit

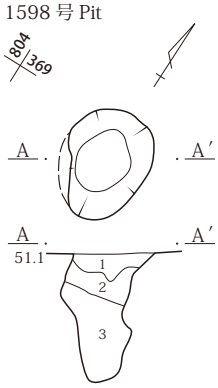


1596 号 Pit



1596号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒多混。

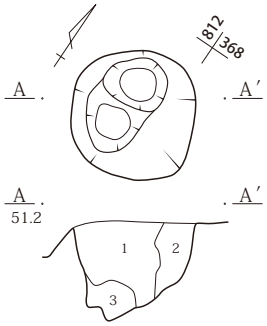
1598 号 Pit



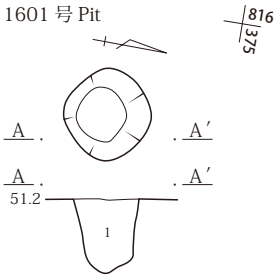
1598号pit跡
1.黒褐色土　白色細粒微量混。
2.黒褐色土　ローム細粒多混。
3.黒褐色土　ローム粒少量混。

1599号pit跡
1.暗褐色土　焼土粒、ローム粒・小塊少量混。
2.暗褐色土　ローム塊多混。
3.暗褐色土　ローム塊２層よりも多混。

1599 号 Pit

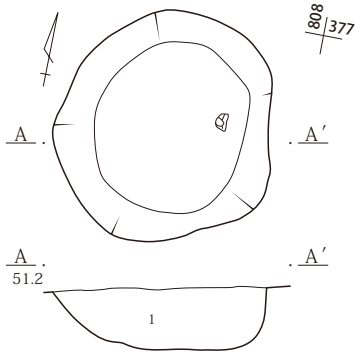


1601 号 Pit



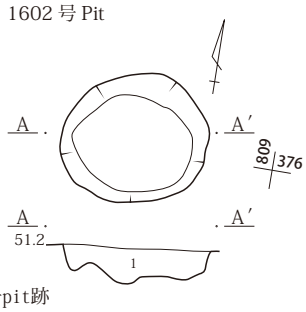
1601号pit跡
1.黒褐色土

1603 号 Pit



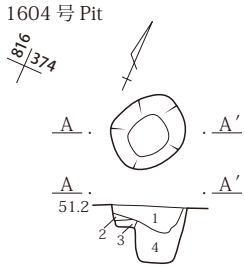
1603号pit跡
1.暗褐色土　灰白色・ローム粒やや多混。

1602 号 Pit



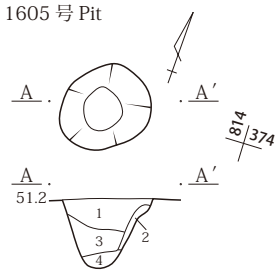
1602号pit跡
1.暗黄褐色土　ローム細粒多量混。
焼土粒極少量混。

1604 号 Pit



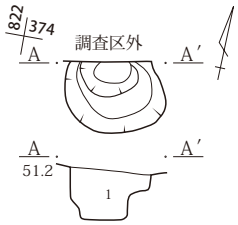
1604号pit跡
1.暗褐色土　ローム細粒・細砂礫少量混。
2.暗黄褐色土
3.暗黄褐色粘質土
4.暗灰黄褐色土　砂礫やや多混。

1605 号 Pit



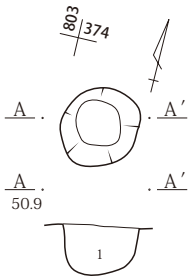
1605号pit跡
1.暗褐色土　灰白色・ローム粒やや多混。
2.暗灰褐色土　砂礫やや多混。
3.暗灰黄褐色土　焼土・ローム粒極少量混。
4.暗黄褐色土　砂礫極少量混。

1606 号 Pit



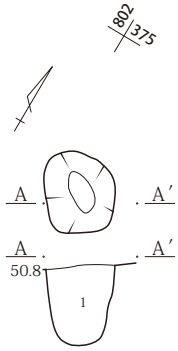
1606号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1608 号 Pit



1608号pit跡
1.暗褐色土　ローム細粒・細砂礫混。
灰白色粒極少量混。
焼土粒微量混。

1609 号 Pit

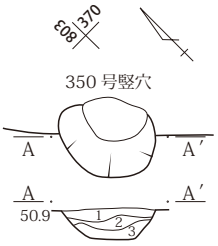


1609号pit跡
1.暗黄褐色土　暗褐色土塊多混。

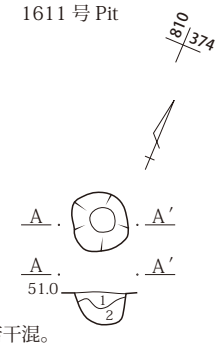
0　1m

第463図　pit跡（19）

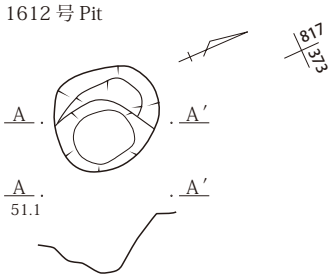
1610 号 Pit



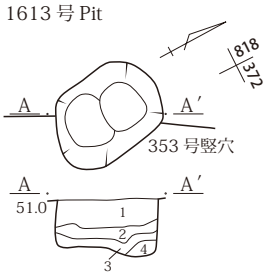
1611 号 Pit



1612 号 Pit



1613 号 Pit



1610号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊若干混。
2.暗褐色土　ローム粒・塊を１層よりも多混。
3.暗褐色土　ローム粒若干混。

1611号pit跡
1.暗褐色土　ローム細粒微量混。
2.暗褐色土

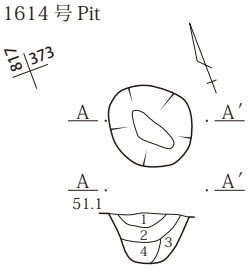
1613号pit跡
1.黒褐色土　ローム粒微量混。
2.黒褐色土　ローム粒を１層よりも若干多混。
3.黒褐色土
4.黒褐色土　粘土塊混。

1614号pit跡
1.暗褐色土　ローム細粒僅混。
2.暗褐色土　ローム粒を１層よりも多混。
3.暗褐色土　ローム粒の割合が１層よりも少。
4.黄褐色土　ローム粒多量混。

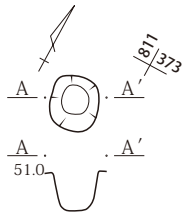
1616号pit跡
1.暗褐色土　ローム細粒微量混。
2.暗褐色土
3.黄褐色土　ローム粒多混。

1619号pit跡
1.暗褐色土　ローム細粒多混。
焼土細粒微量混。
2.黄褐色土　ローム粒多混。

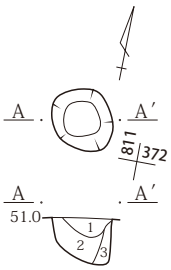
1614 号 Pit



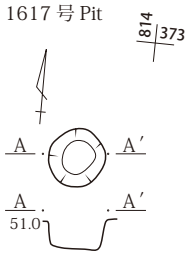
1615 号 Pit



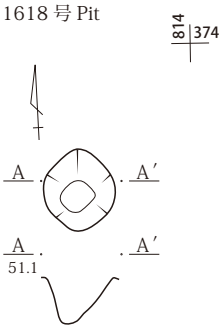
1616 号 Pit



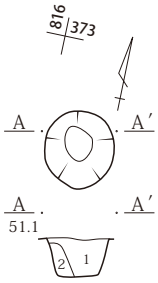
1617 号 Pit



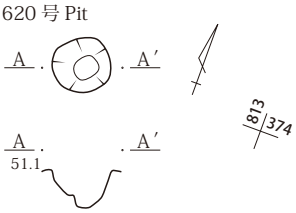
1618 号 Pit



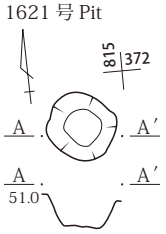
1619 号 Pit



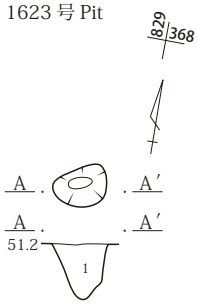
1620 号 Pit



1621 号 Pit

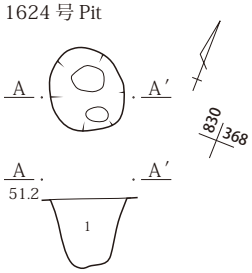


1623 号 Pit

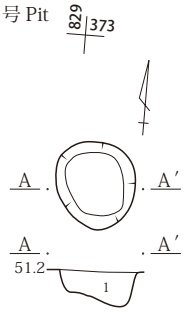


1623号pit跡
1.暗褐色土　白色粒・焼土・ローム粒混。

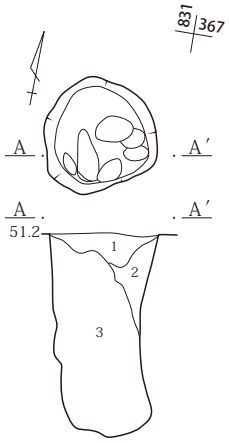
1624 号 Pit



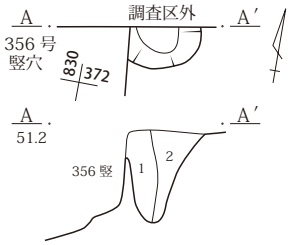
1626 号 Pit



1625 号 Pit



1627 号 Pit



1624号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

1625号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒若干混。
2.暗褐色土　ローム粒多混。
3.暗褐色土　白色粒・焼土細粒、ローム粒少量混。

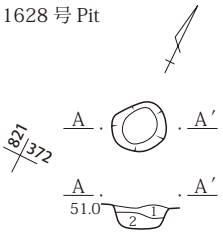
1626号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土粒若干混。

1627号pit跡
1.暗褐色土　焼土粒微量混。
2.暗褐色土　白色細粒・焼土粒少量混。

0　1m

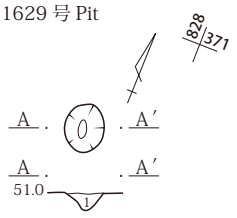
第464図　pit跡（20）

1628 号 Pit



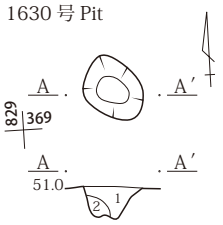
1628号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒微量混。
2.黄褐色土　ローム粒・塊少量混。

1629 号 Pit



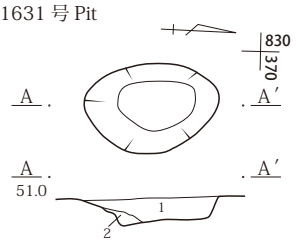
1629号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒混。

1630 号 Pit



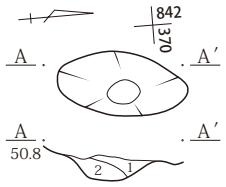
1630号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒・塊多混。
2.暗褐色土　白色細粒微量混。

1631 号 Pit



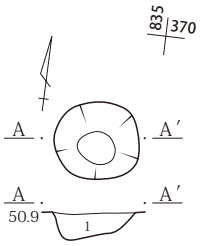
1631号pit跡
1.黒褐色土　ローム細粒・塊少量混。
2.暗褐色土　ローム塊多混。

1632 号 Pit



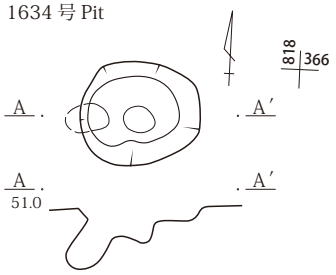
1632号pit跡
1.黄褐色土　ローム塊多量混。
2.黄褐色土　暗褐色土塊多混。

1633 号 Pit

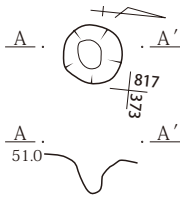


1633号pit跡
1.黄褐色土　ローム塊多量混。

1634 号 Pit

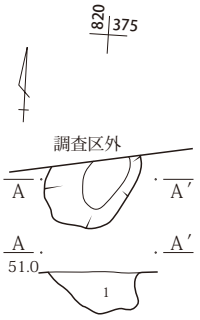


1636 号 Pit



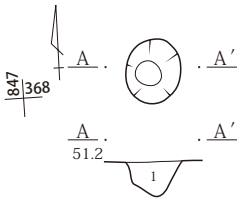
1638号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒混。

1638 号 Pit



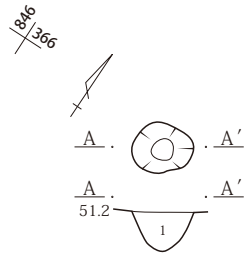
1639号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒混。

1640 号 Pit

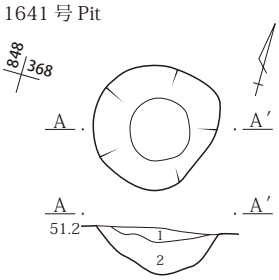


1640号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒混。

1639 号 Pit

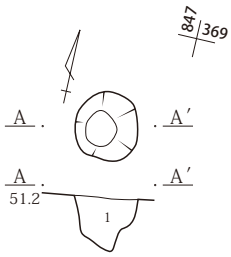


1641 号 Pit



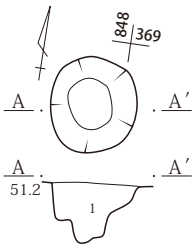
1641号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒少量混。
2.暗褐色土　ローム粒・塊少量混。

1642 号 Pit



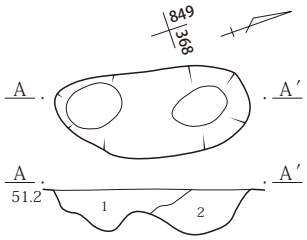
1642号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒混。

1643 号 Pit



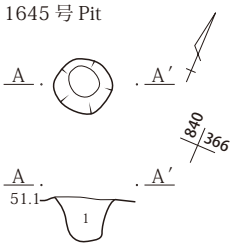
1643号pit跡
1.暗褐色土　ローム粒混。

1644 号 Pit



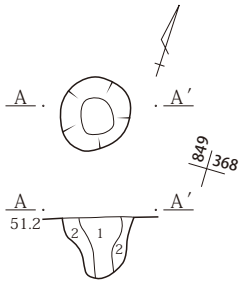
1644号pit跡
1.暗褐色土　ローム塊多混。
2.暗褐色土　ローム粒微量混。

1645 号 Pit



1645号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土・ローム粒混。

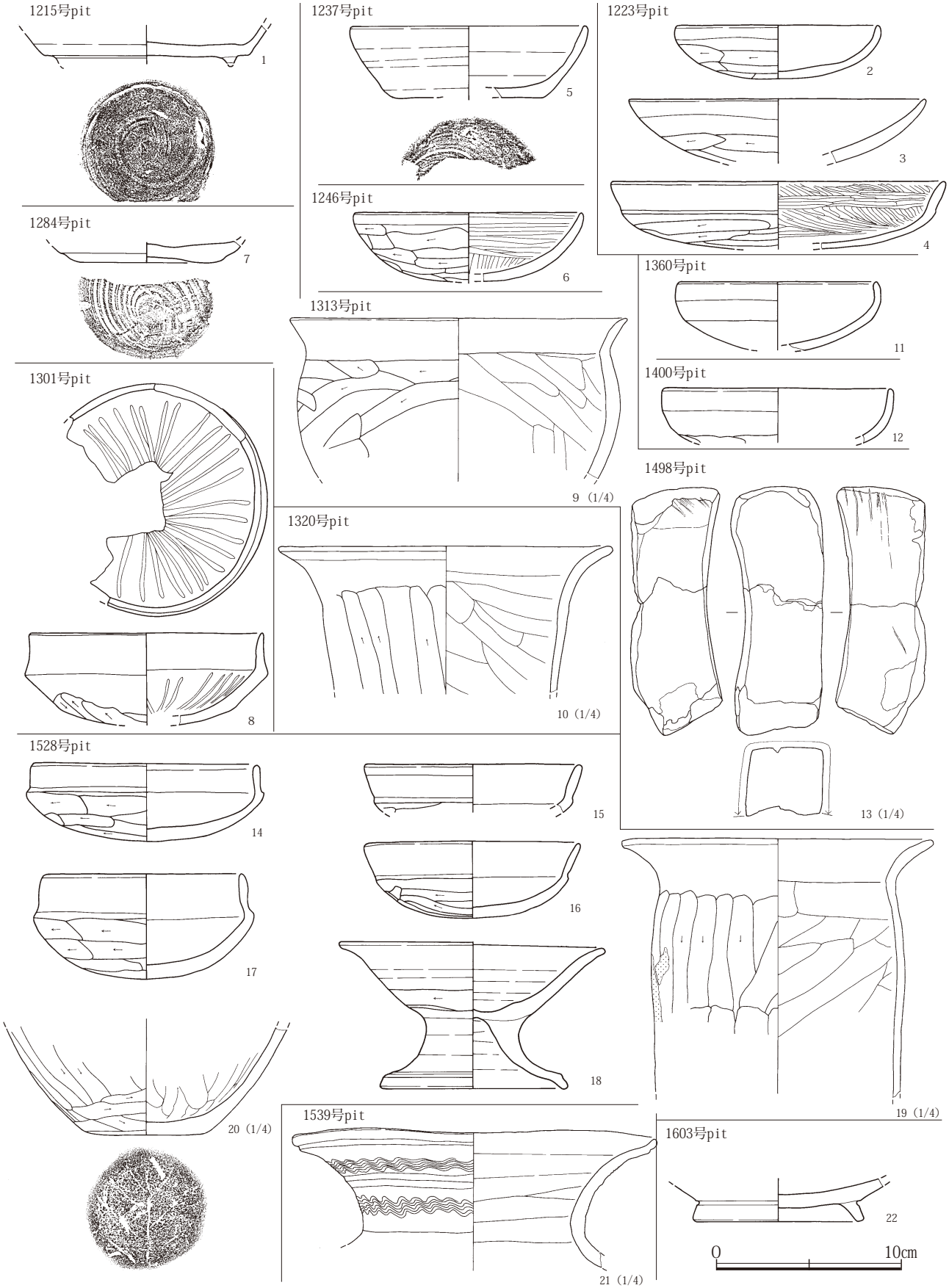
1646 号 Pit



1646号pit跡
1.暗褐色土　白色・焼土細粒微量混。
2.黄褐色土　黒色土塊多混。

0　1m

第465図　pit跡（21）



第466図　pit跡出土遺物

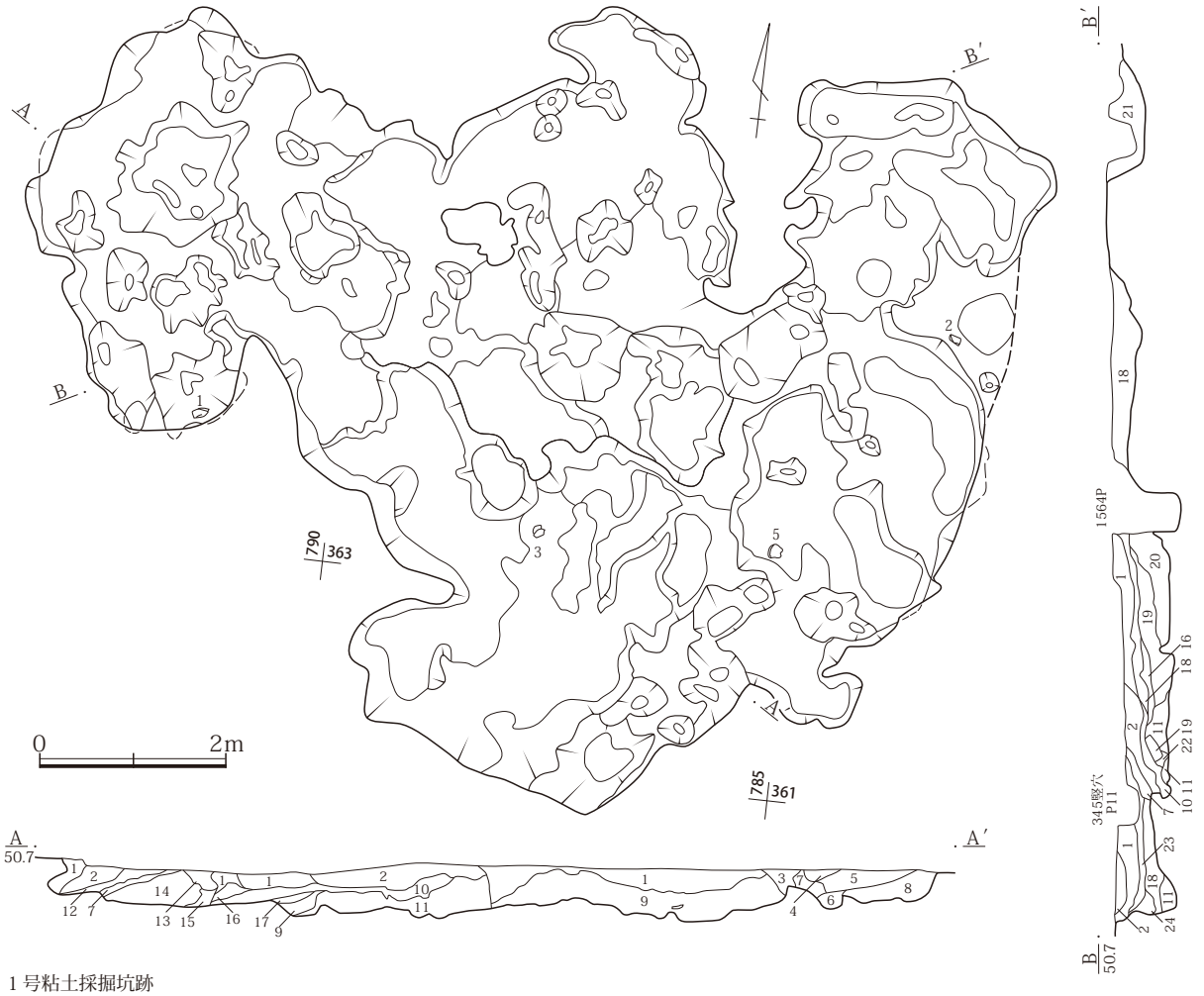
第７項　粘土採掘坑跡

１区では２基の粘土採掘坑跡が検出されている。２区では計６基が、いずれも西側の台地が現・太田市道下に位置する谷に落ち込む傾斜変換点に沿って掘り込まれており、不整形状を呈している。粘土の所在層から、深さは大体一定であるが、大きさは不定である。

１区で検出された２基の粘土採掘坑跡も、規模や形状は２区で検出されたものと良く類似している。不整楕円形が連続したような形状を呈しており、深さは粘土の所在層によるものと考えられ、基本土層Ⅳ層を採取したものだろう。

本遺跡の西側に近接する大道西遺跡でも検出されている。

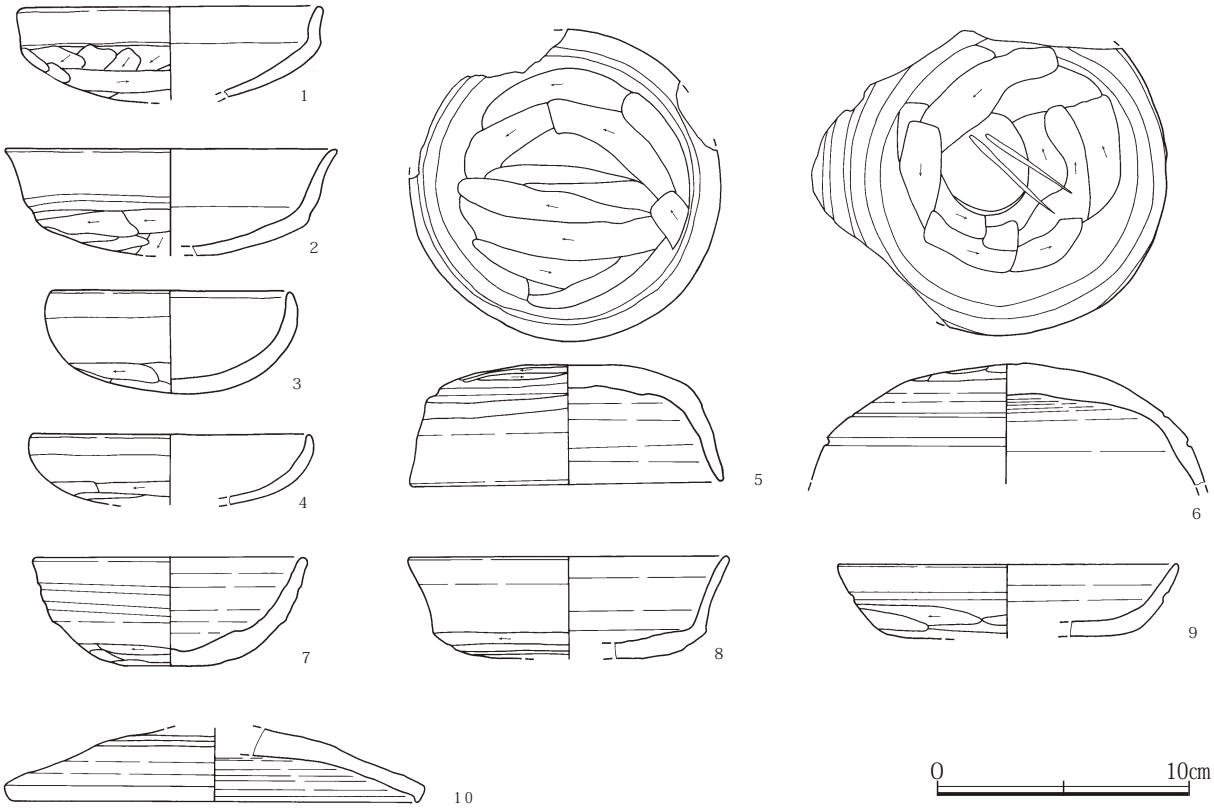
ただし、本遺跡においても１区と２区下面でのみ



１号粘土採掘坑跡

1.暗褐色土　白色・焼土粒、ローム粒・塊若干混。
2.暗褐色土　ローム粒・塊若干混。
3.暗褐色土　１層とほぼ同じ。ローム塊の大きさが１層より大。
4.暗褐色砂質土　ローム細粒微量混。
5.暗褐色土　ローム塊多混。
6.黒褐色砂質土　ローム塊少量混。
7.褐色粘質土　暗褐色土塊混。採掘した粘土を引き上げた痕跡。
8.褐色粘質土　ローム塊混。
9.褐色土　ローム塊多混。
10.暗褐色土　焼土粒・ローム塊混。白色・ローム粒若干混。
11.暗褐色土　ローム塊多混。
12.暗褐色土　白色・焼土粒、ローム粒・塊若干混。
13.褐色土　ローム塊。
14.暗褐色土　ローム塊若干混。
15.暗褐色土　焼土粒・ローム塊混。白色・ローム粒若干混。
16.ローム塊多混。
17.褐色砂質土　ローム塊多混。
18.暗褐色土　焼土粒・ローム塊混。
19.暗褐色土　ローム・焼土塊混。
20.褐色土　やや粘質。炭化物粒、焼土粒・塊若干混。
21.暗褐色土　ローム粒多混。
22.暗褐色土　ローム粒微量混。
23.暗褐色土　ローム塊少量混。
24.暗褐色土　焼土粒少量混。ローム粒微量混。

第467図　１号粘土採掘坑跡



第468図　１号粘土採掘坑跡出土遺物

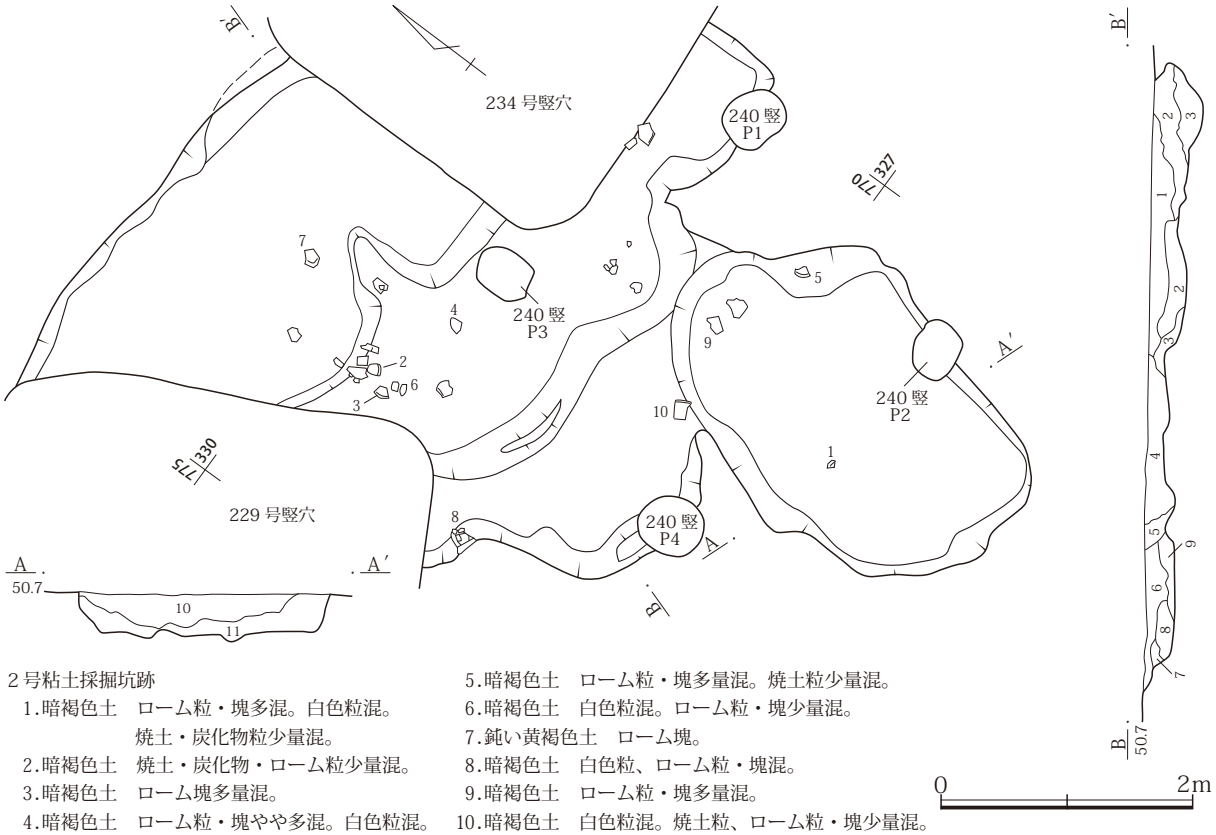
検出されており、西側に隣接する大道東遺跡及び南東に隣接する鹿島浦遺跡の調査範囲においては検出されていない。１区で検出された竪穴建物跡との新旧関係から古墳時代後期～飛鳥時代頃のものと考えられる。金山丘陵で検出された須恵器窯跡の操業年代とも矛盾せず、両者の一体的な関係が想定できる。

（１）１号粘土採掘坑跡

位置：調査区中央やや北東寄り。X360・Y-780~-790Gr.　**重複**：67・75号掘立柱建物跡、303・342・344・345・347号竪穴建物跡、69・78・79号土坑跡等に掘り込まれる。　**規模と形状**：東西に長い不整楕円形状を呈する。土坑連結状に何カ所も段掘りされている。南北最大径8.54m・東西径12.5m・深さ0.62m。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：出土遺物は７Ｃ代中心であるが、６Ｃ後半の遺物が中心の344・345号竪穴建物跡に掘り込まれている。大きな窪地である遺構ゆえ年代観が異なる多様な遺物の流れ込みや、長期にわたる粘土採掘による前後の遺構との重複関係に不明確な点はあり得るところであろう。　**遺物**：いずれも埋土中から。

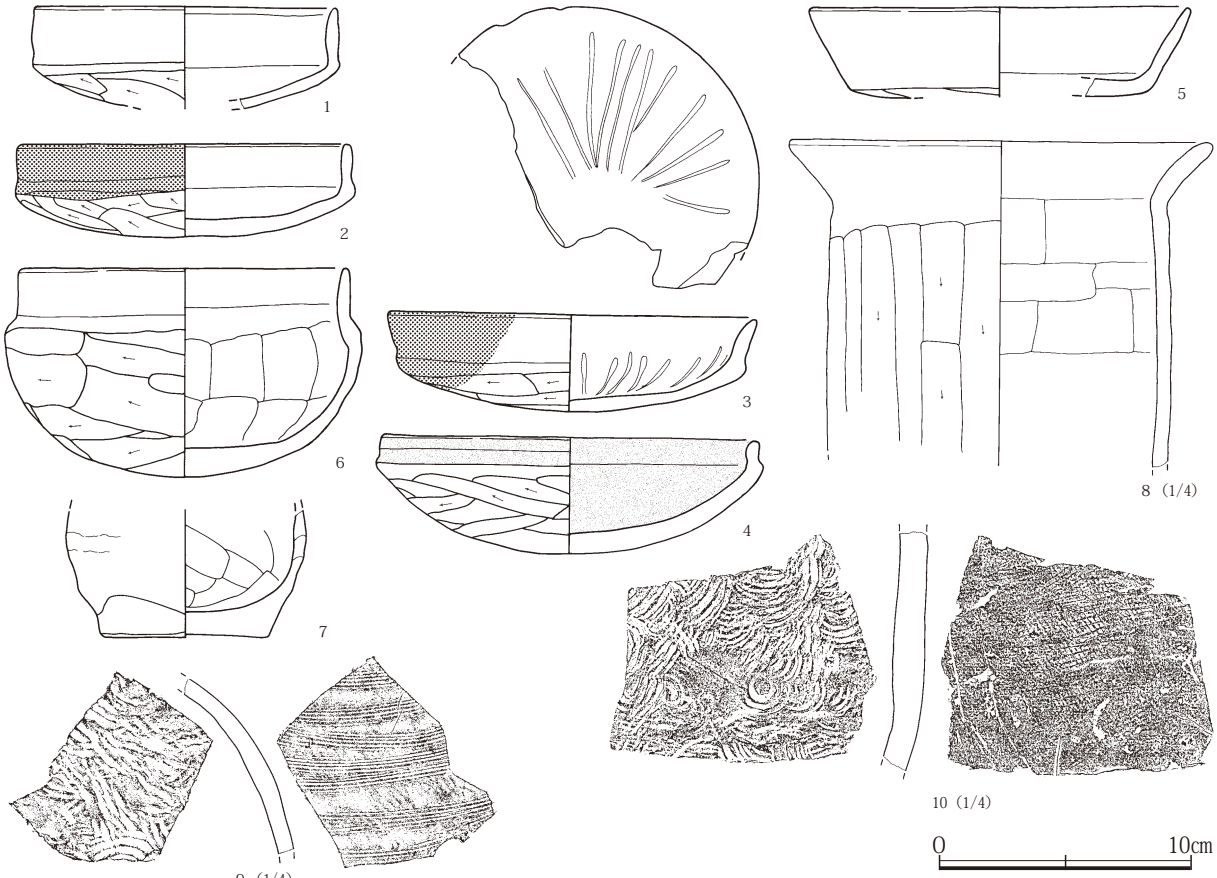
（２）2号粘土採掘坑跡

位置：調査区南東寄り。X325~330・Y-770~-775Gr.　**重複**：229・234・240・244号竪穴建物跡に掘り込まれる。　**規模と形状**：南北に長い不整楕円形状を呈する。土坑連結状に何カ所も段掘りされている。南北最大径7.2m・残存東西最大径（4.2）m・深さ0.38m。　**埋土**：暗褐色土ベース。　**時期**：出土遺物は７Ｃ代中心であるが、６Ｃの遺物が出土する229号竪穴建物跡によって掘り込まれている。また、９Ｃ後半の遺物も混入している。１号粘土採掘坑同様、大きな窪地である遺構ゆえ年代観が異なる多様な遺物の流れ込みや、長期にわたる粘土採掘による前後の遺構との重複関係に不明確な点はあり得るところであろう。　**遺物**：いずれも埋土中から。

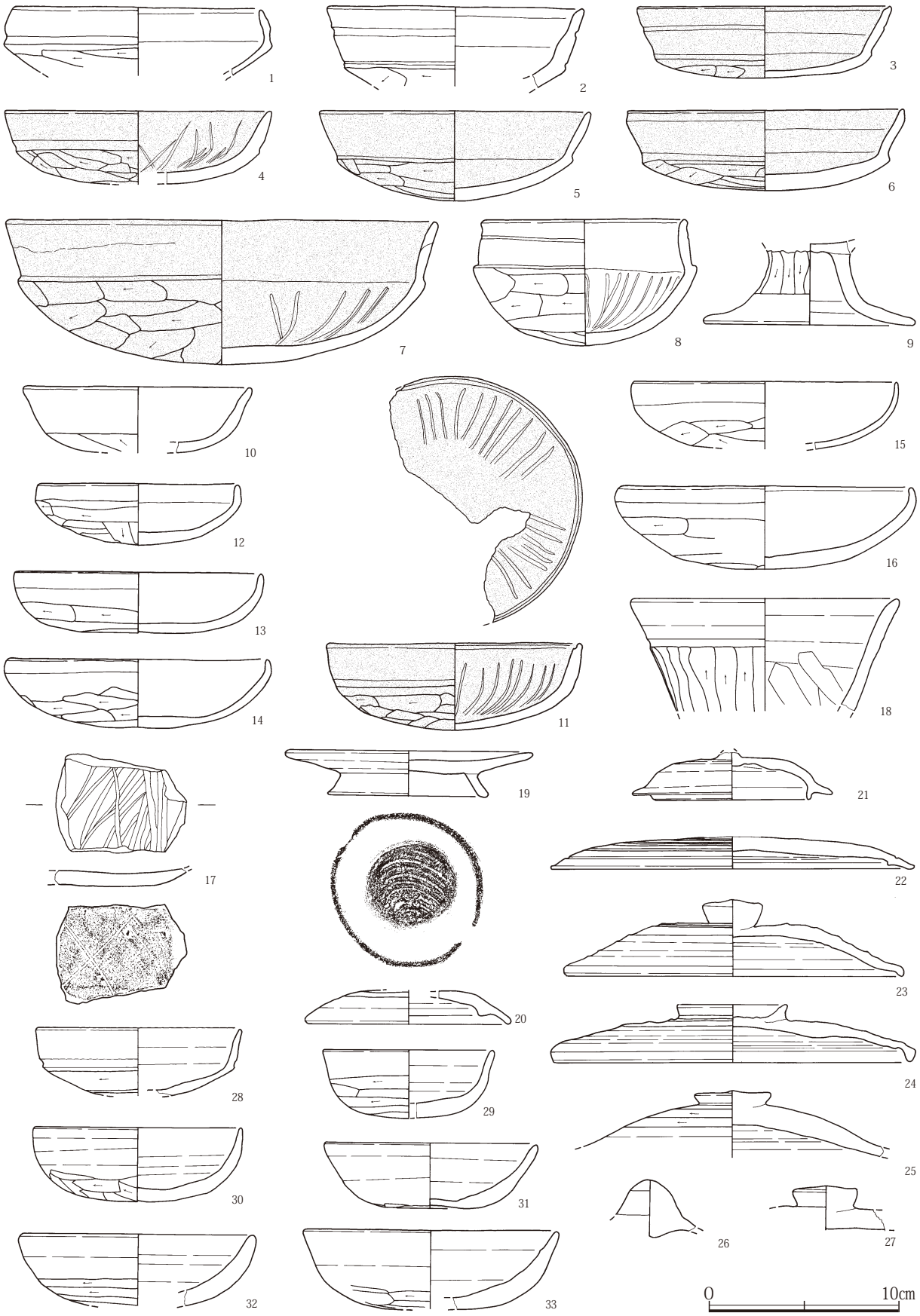


２号粘土採掘坑跡

1.暗褐色土　ローム粒・塊多混。白色粒混。焼土・炭化物粒少量混。
2.暗褐色土　焼土・炭化物・ローム粒少量混。
3.暗褐色土　ローム塊多量混。
4.暗褐色土　ローム粒・塊やや多混。白色粒混。焼土・炭化物粒少量混。
5.暗褐色土　ローム粒・塊多量混。焼土粒少量混。
6.暗褐色土　白色粒混。ローム粒・塊少量混。
7.鈍い黄褐色土　ローム塊。
8.暗褐色土　白色粒、ローム粒・塊混。
9.暗褐色土　ローム粒・塊多量混。
10.暗褐色土　白色粒混。焼土粒、ローム粒・塊少量混。
11.暗褐色土　ローム塊多混。

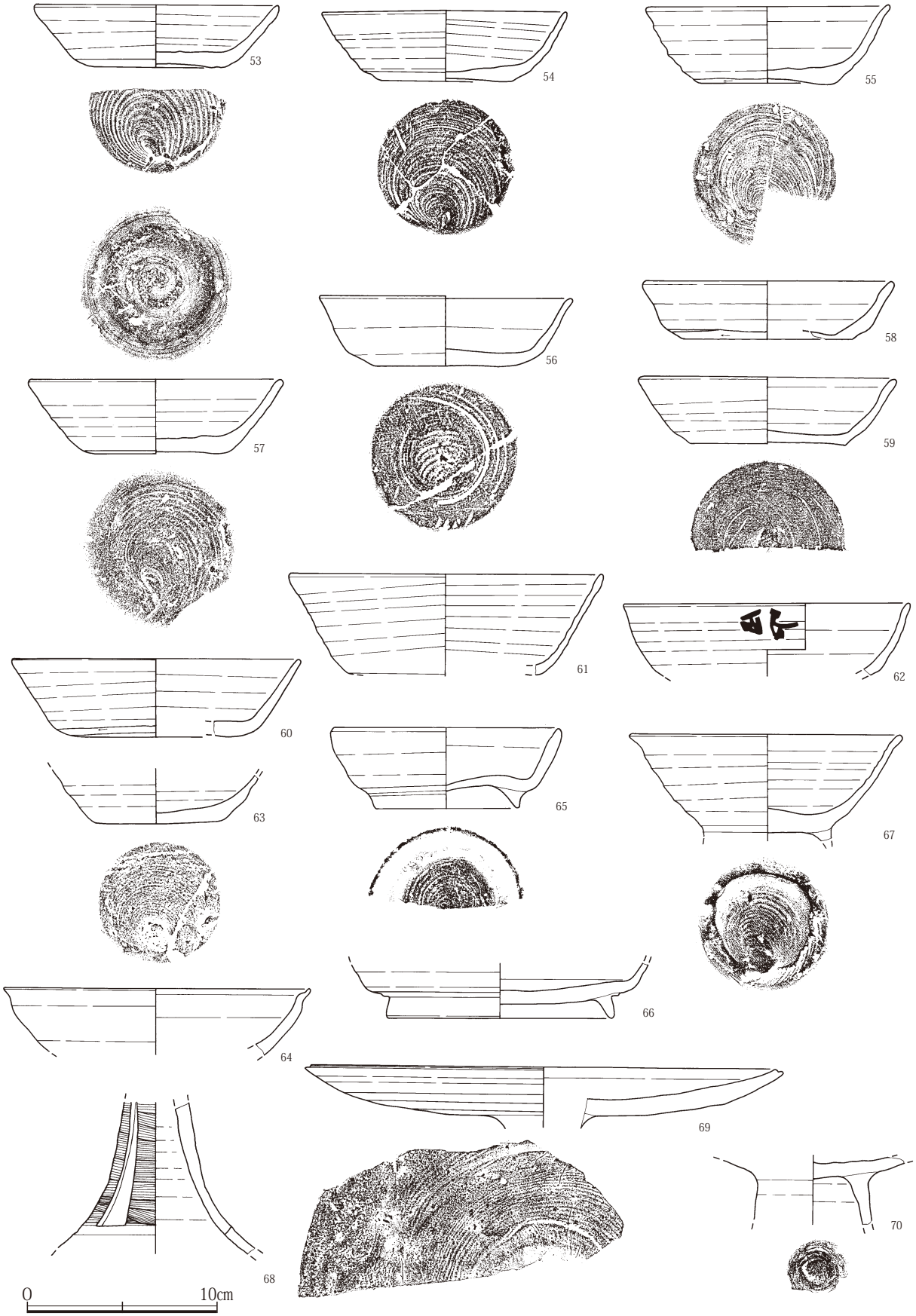


第469図　２号粘土採掘坑跡・出土遺物

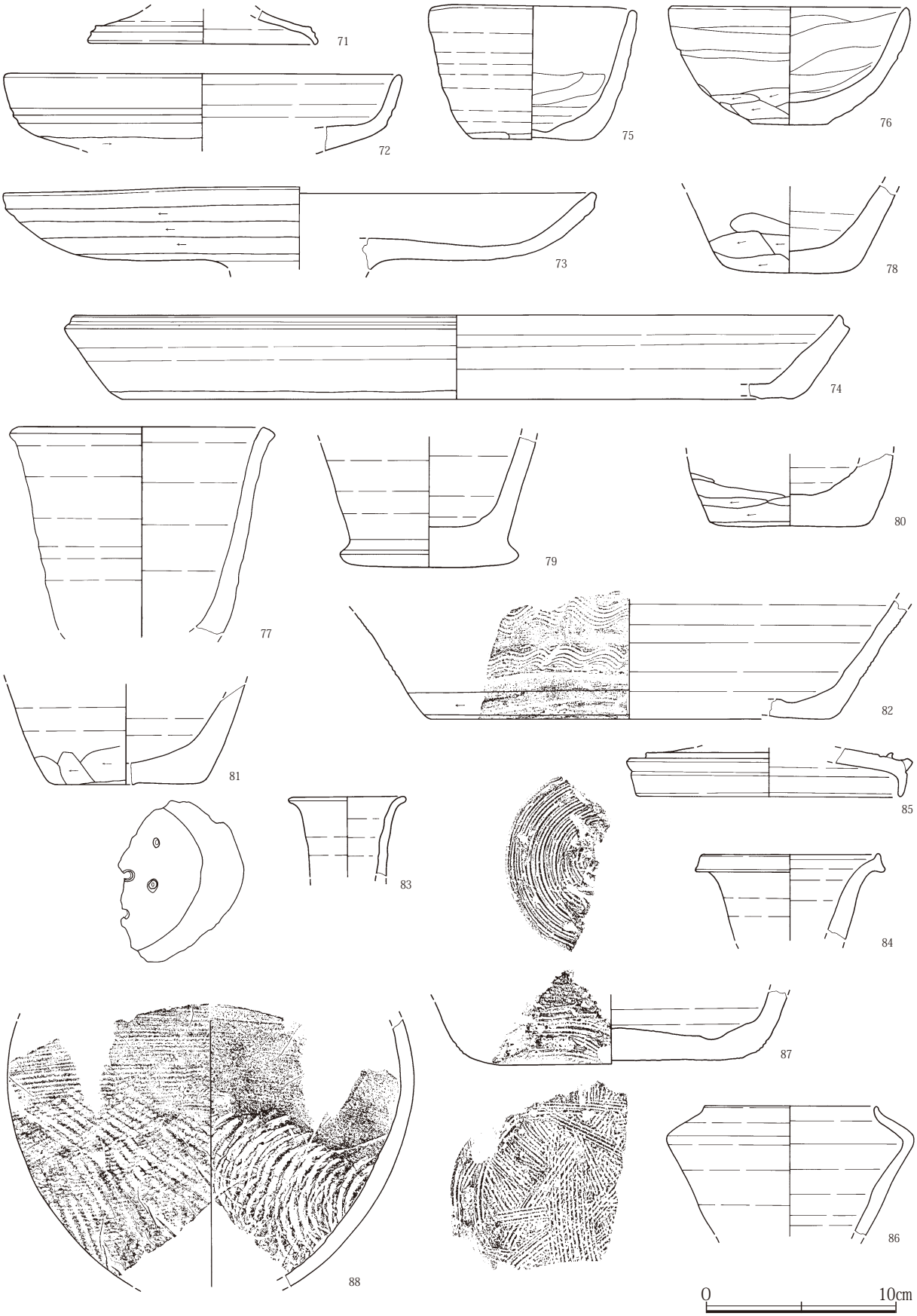


第470図　遺構外出土遺物（１）

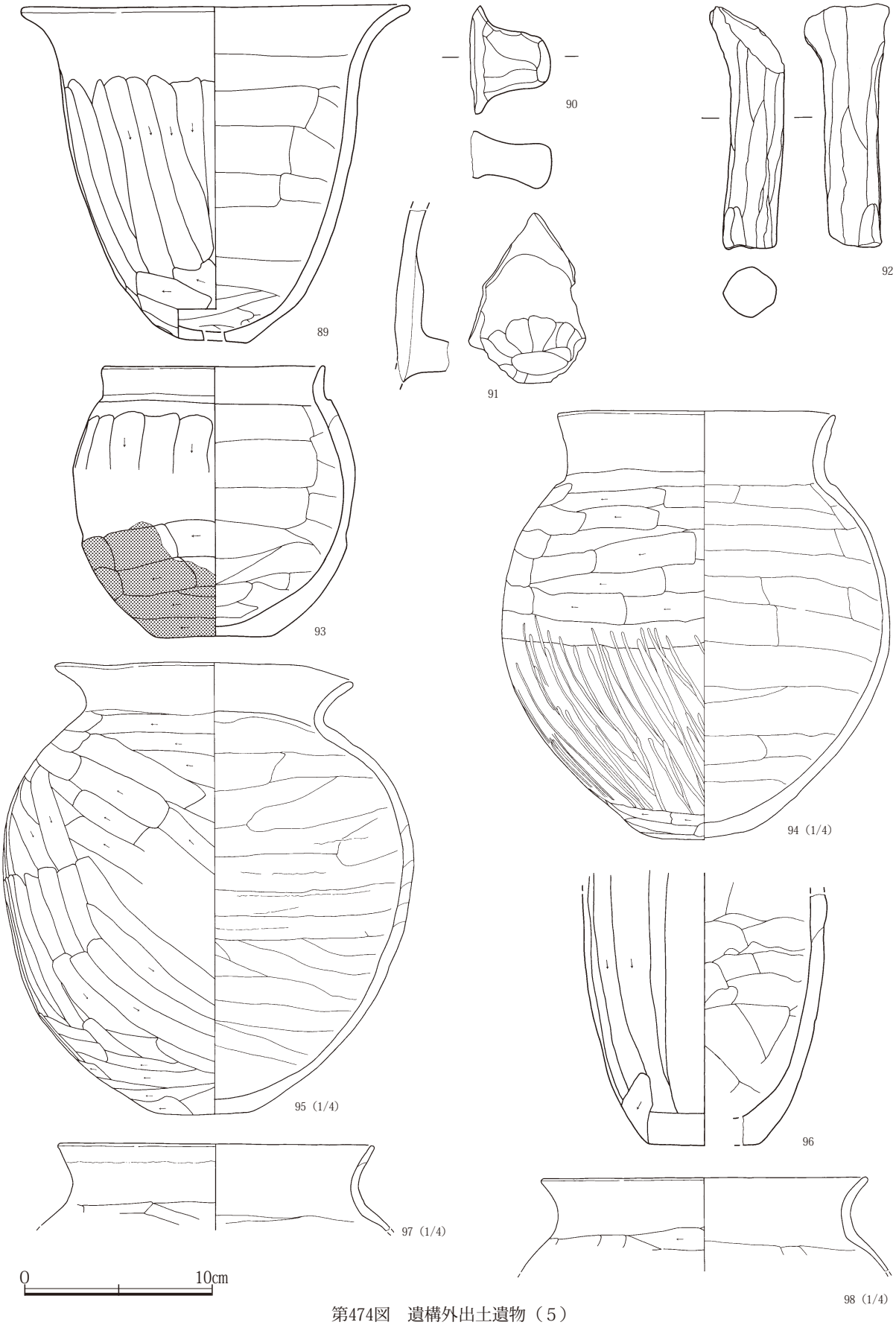
第471図　遺構外出土遺物（２）



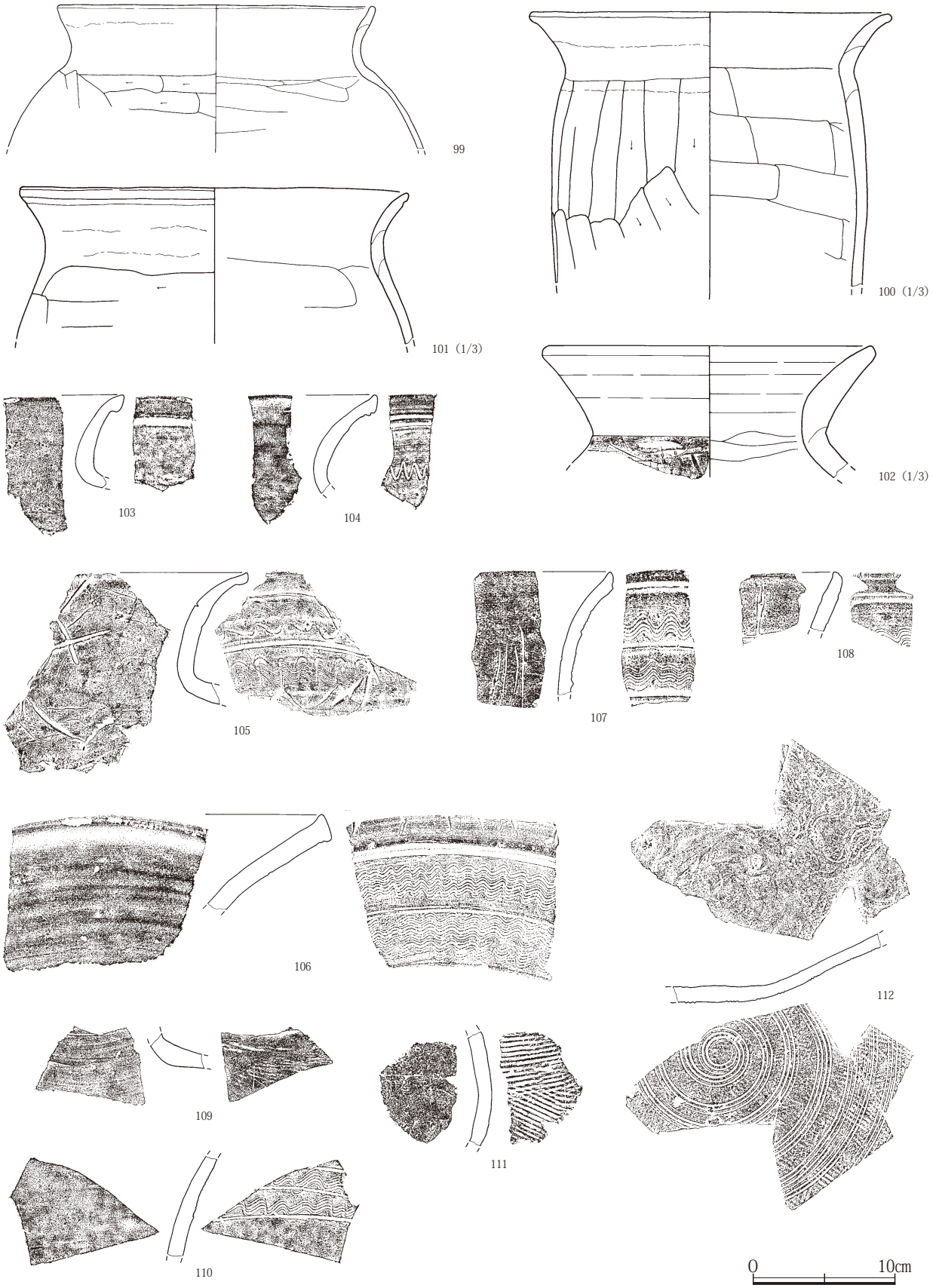
第472図　遺構外出土遺物（３）



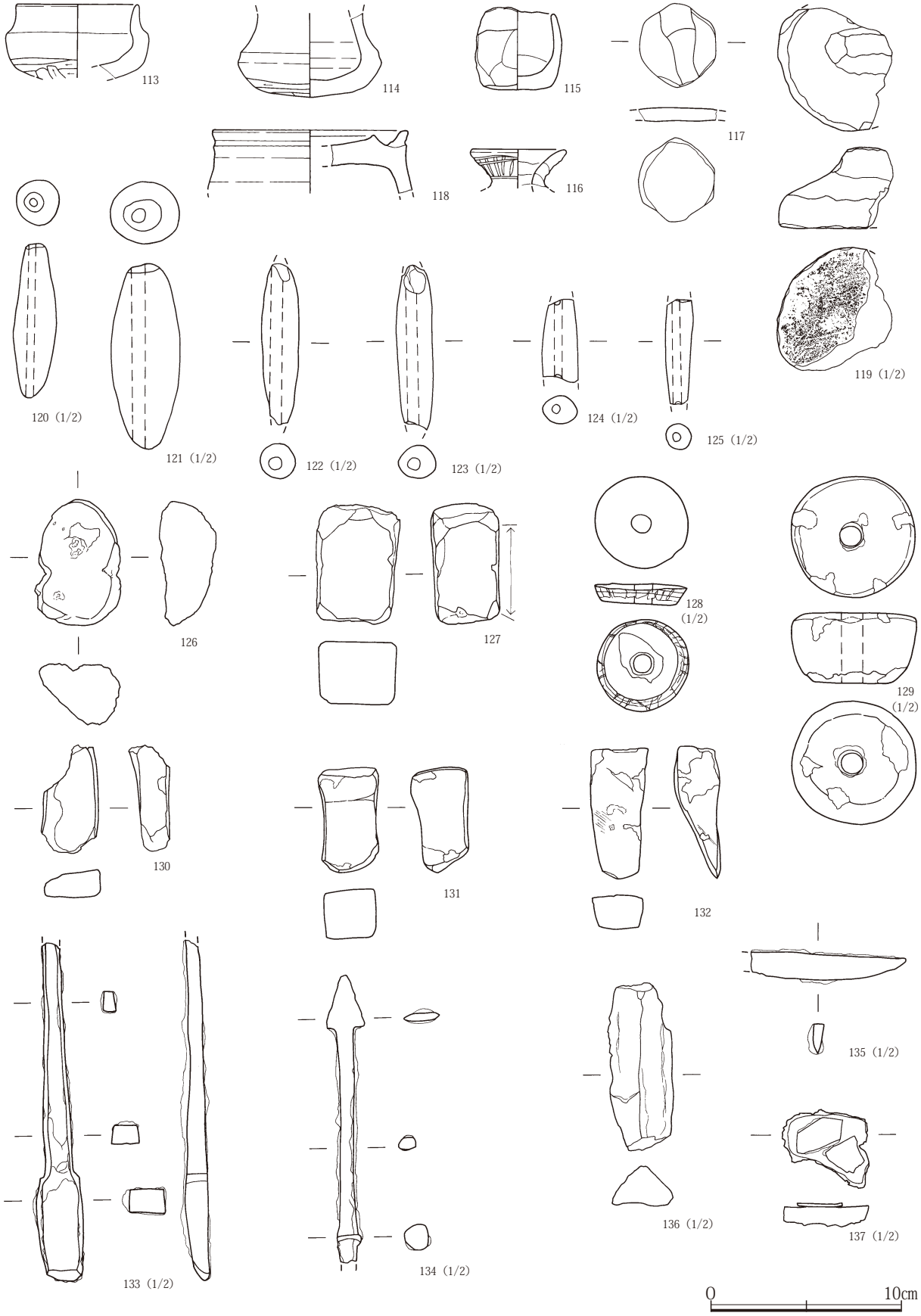
第473図　遺構外出土遺物（４）



第474図　遺構外出土遺物（５）

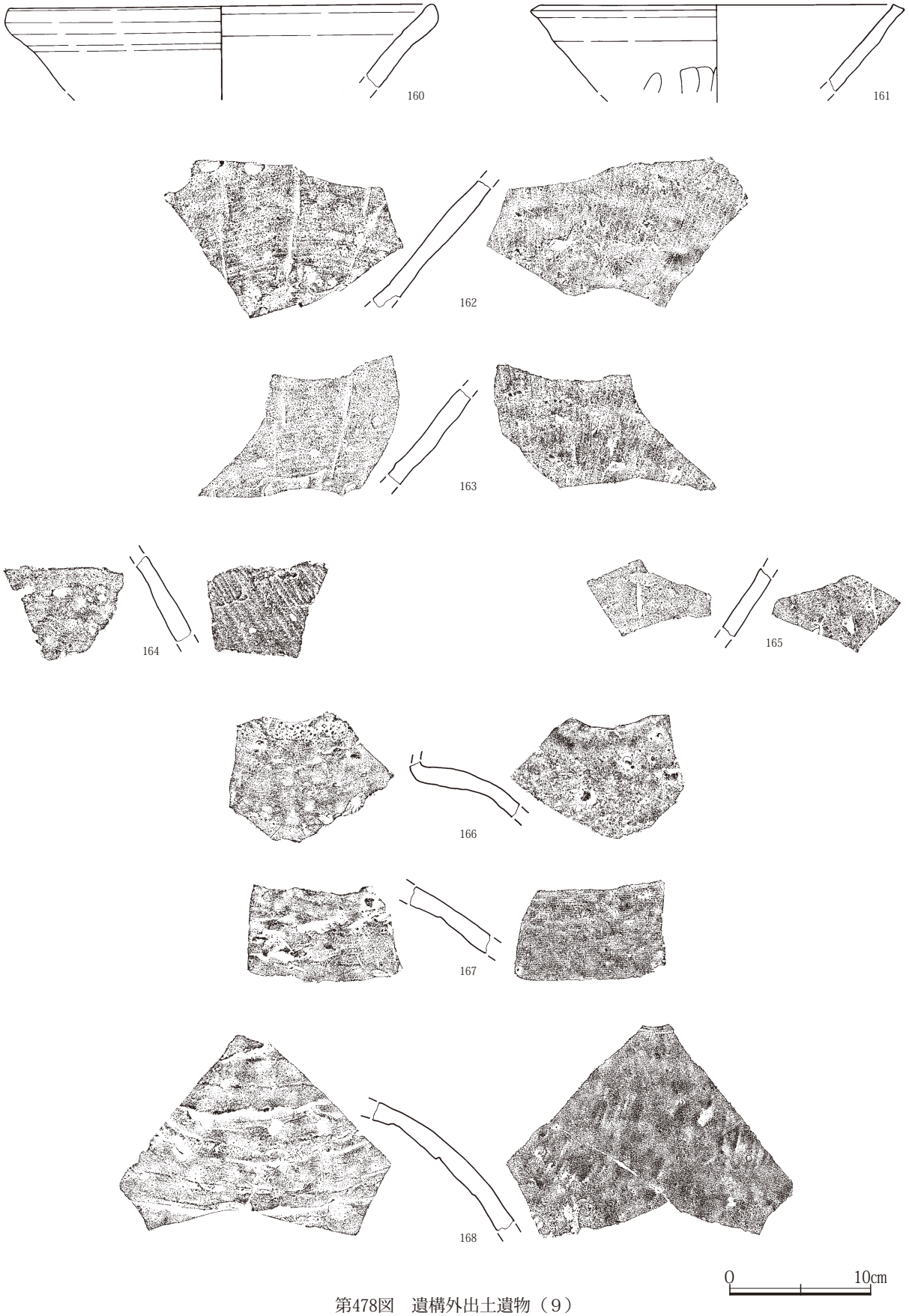


第475図　遺構外出土遺物（６）

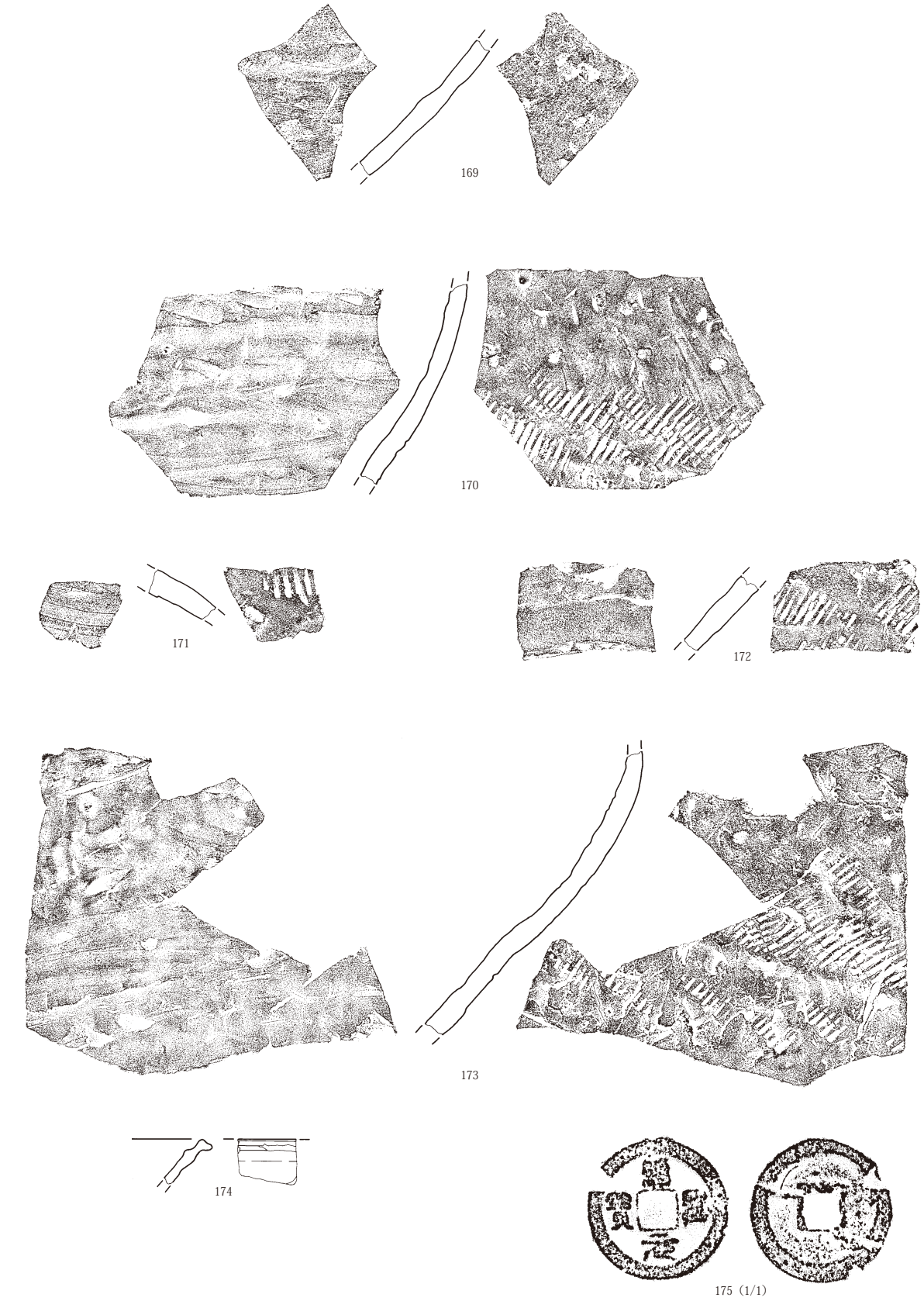


第476図　遺構外出土遺物（７）

第477図　遺構外出土遺物（８）



第478図　遺構外出土遺物（９）



第479図　遺構外出土遺物（10）

第4章　調査成果の整理とまとめ

第１節　縄文時代の土器・石器

１区で検出された縄文時代の遺構は、後世の攪乱・削平を大きく受け、残存状態は不良であった。

出土した遺物は、土器片18,903点、剥片・礫・礫片を含む石器595点であった。先述したように時期的には中期後葉加曾利ＥⅢ式段階の破片が圧倒的に多く、破片点数からみれば、おそらく大型集落跡の一角にかかるものと考えられる。西側に隣接する大道東遺跡、４区の南側に隣接する鹿島浦遺跡等における縄文時代の遺構・遺物の検出出土状況の傾向ともよく共通する特色であり、本遺跡の縄文時代遺構・遺物も周辺遺跡における同時代の状況と相俟って理解されるべきである。

出土した石器は概ね渡良瀬川流域の縄文時代遺跡の石材組成と同様、ホルンフェルス・チャートを多用、これに利根川流域の黒色頁岩・黒色安山岩や産地不明の赤碧玉・玉髄、信州産黒曜石が少量である。

器種は、分銅型の打製石斧を主に、狩猟具である石鏃、網漁を示唆する石錘、加工具としての削器類・石錐、製粉具類としての磨石・凹石・石皿・多孔石が出土しており、隣接する大道東と同様の石器組成である。磨石の出土量が少ない。

１区出土の打斧は53点あり、その内訳は、短冊型８点、撥型２点、分銅型40点、石鍬２点、不明１点である。また、石鏃は22点あり、その内訳は凹型無茎鏃16点、凸基有茎鏃2点、不明4点である。

この中で、包含層出土の石鏃56図13は「アメリカ式石鏃」で、弥生時代の所産である。

また、同じく包含層出土の石鏃56図８は晩期に多い五角形鏃様だが、大形であり、先端部リダクションによる形状変形である。

包含層出土の石鏃56図１は局部磨製石鏃。研磨後に剥離整形するあり方は後期局部磨製石鏃とされるものの典型である。

包含層出土の加工痕ある剥片57図37は、剥離面構成および石材から旧石器（細石刃段階）の可能性があり、同様に、土器集中Aブロック出土の石刃様の剥片33図15も旧石器の可能性を有する。

包含層出土の砥石60図68は、縄文時代の多孔石を転用したもの。金属器様の鋭い刃部を整形した細い溝が数条背面側と下端破損面にある。古代の転用砥石か。

なお、打製石斧には石鍬様の大形品が３点があり、注意を要する。

第２節　土師器・須恵器の数量

楽前遺跡1区では、遺構から破片数にして総16,819点・380.746kg分の土師器・須恵器が出土している。これら以外にグリッドから出土した土師器・須恵器片が212.42kg分ある。

遺構から出土したもののの内訳は、

・竪穴　甕　6,116片・229.735kg・杯　8,863片・106.845kg
　　・計 14,979片・336.58kg
・掘立 甕 10片・0.23kg・杯 3片・0.04kg
　　・計 13片・0.27kg
・溝　甕 124片・3.225kg・杯 86片・1.085kg
　　・計 210片・4.31kg
・井戸 甕134片・5.97kg・杯292片・3.666kg
　　・計 426片・9.636kg
・土坑 甕404片・17.78kg・杯652片・8.24kg
　　・計 1,056片・26.02kg
・粘採 甕79片・3.36kg・杯56片・0.57kg
　　・計 135片・3.93kg
・遺構出土土器片計甕 6,867片・260.3kg・杯9,952片・
　　120.446kg・計 16,819片・380.746kg
・（参考）グリッド出土土器片数 甕 152.875kg・杯59.545kg
　　・計 212.42kg

となる。

竪穴建物跡からの出土量が圧倒的に多いが、この点は、一般的な古代集落遺跡に共通する特徴であり、特記には価しない。また、須恵器の割合が多いことは先述したとおりで、大規模な窯業生産域を至近の位置に抱えるという地理的な要件による入手のし易さが関係していると考えられる。

第３節　楽前遺跡の金属器生産

はじめに

楽前遺跡では金属器生産を直接示す遺構は検出されてなかったが、７世紀後半から８世紀前半の竪穴建物跡や遺構外から多量の金属器生産に伴う滓や羽口や坩堝が出土した。滓には、鉄器生産に伴う椀形鍛冶滓のような概観形状をもつものと銅の酸化色である緑青噴きの滓とが混在している。

ここでは、これまでの発掘調査から整理作業で明らかとなった楽前遺跡の金属生産に関連する遺物の特徴や出土状況をまとめる。

楽前遺跡で出土した金属器生産に関連する主な遺物は次頁に一覧で示した。

（１）出土状況

楽前遺跡で、出土した金属器生産に関わる遺物は、１区中央北に集中する。遺物は、257・303・341号竪穴建物跡から出土したものもあるが、出土状況から、竪穴建物跡に帰属する遺物と言うよりは、混入した可能性が高い。遺構の検出状況からみれば、金属器を加工した工房の痕跡は見いだせず、滓を排出した建物を特定することは出来なかった。

（２）本遺跡出土金属器生産関連遺物の特徴

出土した金属器生産関連の遺物は、羽口、椀形滓、内面に被熱痕のある土器片、坩堝、棒状土製品、緑青の吹いた滓などである。

羽口は先端部の破片が多く、完存するものはない。内径は２～３㎝である。特徴的な羽口としてはNo.147・148があり、外面に縦筋痕が確認できる。この縦筋は所謂「簀巻状羽口」と称されるもので、律令期前後の銅器や鉄器などの金属器を加工する官営工房からの出土が多い、特徴的な遺物である(村上恭通「日本古代の製鉄炉と国家政策」『鉄と古代国家－今治に刻まれた鉄の歴史－』2006)。

椀形滓は小～中型のものが多くみられ、薄手で表面に赤錆が浮かび上がっているものが多い。滓質は密で、鍛造鉄製品生産時に生じる椀形鍛冶滓のような外観的な特徴がある。ただし、大澤正巳氏によると、流通する銅は未熟銅で、不純物の鉄を残すので、これが鋳込みの時に再溶解されてウスタイト(酸化鉄)となって分離排出されると、銅の鋳込みで生じる滓も鉄の鍛錬鍛冶作業で排出される滓も非常に似通っているという指摘があり(大澤正巳「古代銅精錬復元実験から確認できた銅・鉄共存の様相」『古代銅精錬復元実験報告書』美東町教育委員会 2008)、本遺物が、緑青を吹く滓や坩堝など銅器生産に関わる遺物とほぼ同位置で出土していることから、一義的に鍛造鉄製品の鉄器生産に伴う椀形鍛冶滓と判断することはできない。

坩堝は、器形が復元できるものが３点出土しているが、それぞれの器形の特徴は異なる。この点が用途の相違に伴うのか、それともただ単に、坩堝にあまり規格性がなかっただけのことなのか、明確ではない。３点とも器体の外面に滓が付着している。内面はやや荒れているものの、滓の付着はない。

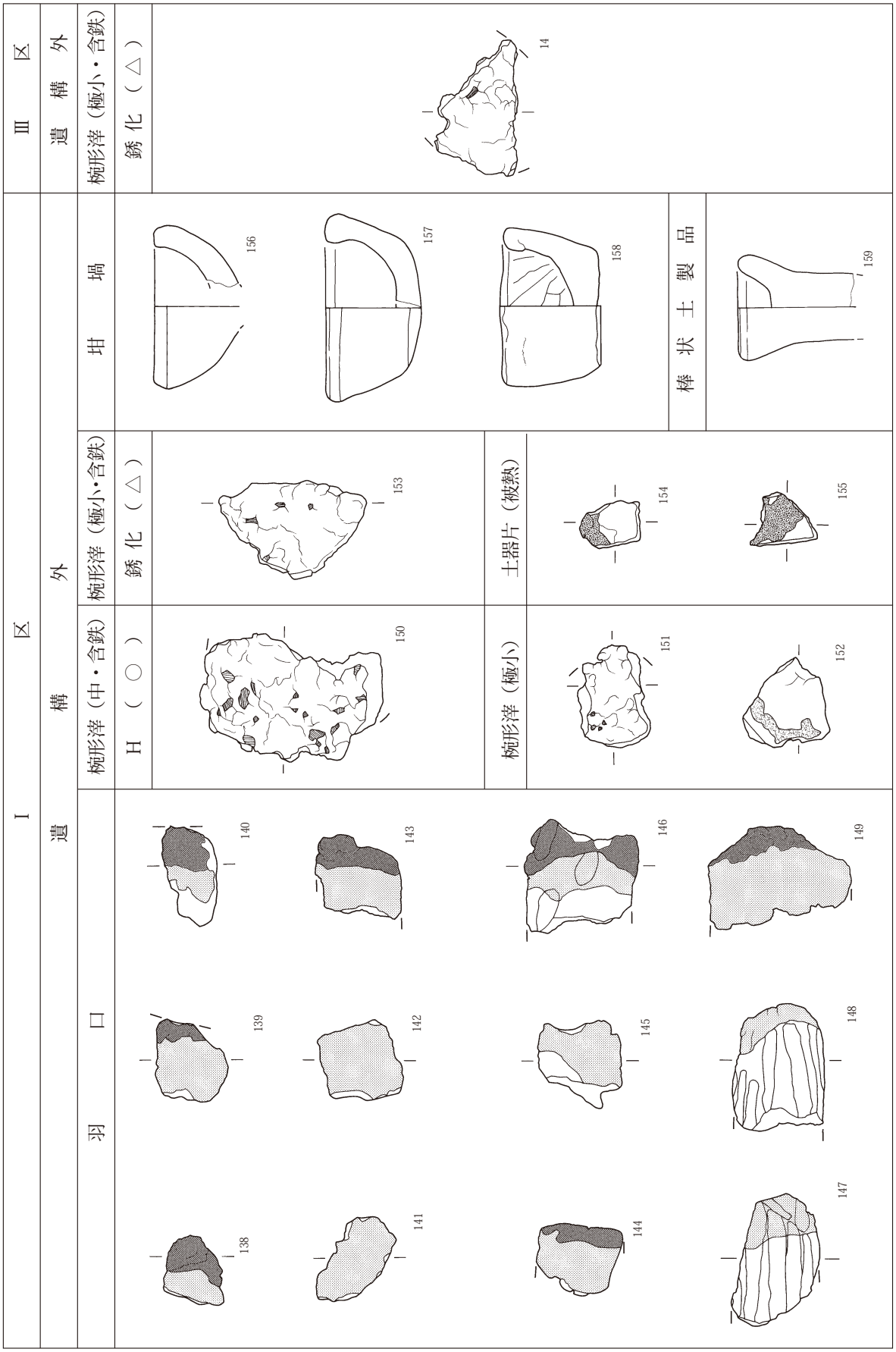
棒状土製品は、円筒形の端部を皿状に開いた形状で、用途は不明である。坩堝と同様、外面に滓は付着するが、皿状に開いた端部の内面には滓の付着はない。

まとめ

遺物の分類・整理をすすめていくと、本遺跡から出土した滓は、銅器生産が主体であることが明らかにできた。滓の中には鍛造鉄製品制作時に排出される椀形鍛冶滓と差異のない椀形滓が出土しているが、大澤氏の指摘（大澤先掲論文）があり、鉄器生産時の椀形鍛冶滓と明確に位置付けることは出来なかった。楽前遺跡で銅器生産が行われていたことは、考古学的には明らかにできたわけであるが、それが、鉄器生産と複合的におこなわれていたのか否かについては、自然科学的な視点からの研究も必要になってくる。今後の研究課題としていきたい。

参考文献

・村上恭通『古代国家成立過程と鉄生産』青木書店 2007



第480図　金属器生産遺物構成図

第４節　１区204号竪穴建物跡で検出された臼玉工房跡と石製模造品について

１　はじめに

204号竪穴建物跡は、５世紀末～６世紀初頭の臼玉と紡錘車の工房跡である。珪質粘板岩を使った点が最大の特徴で、作業は原石から完成品に至るまで一貫して行われている。隣接して大道東遺跡にも２軒の工房がある。原石の産出地は近い。これをいかしての立地であろう。これまでに出土例は少なくて、前橋市大屋敷遺跡、伊勢崎市原之城遺跡など10遺跡ほどである。生産の場が明らかとなって、今後への展開に手掛かりを得たといったところである。

まずは、周辺遺跡との関係。次いで工房が遺跡単位で点在するのか、それとも地域で一群をなしていたのかに関心がある。

さらに課題をあげれば、臼玉と紡錘車を作っていたことは明らかとなったが、この２つの器種に終始していたのであろうか。勾玉やほかの玉類も必要とされていた時期である。相当する工房があったのか。そして、肝心の生産が開始されたきっかけとは、さらに珪質粘板岩を使った理由である。

臼玉の製作工程は、杉山林継氏が４つに分類をしたうちのＢ類にあたる（1971）。これは、「偏平長方形の細長い板材を次々と切断し正方形の材を作り、整形、穿孔するもの」で、滑石と同じ特徴をみることができる。

生産の契機については、篠原祐一氏の指摘が参考となる（1995）。石製模造品について、栃木県では①三波川帯から原石の供給を受け、５世紀初頭～前半に生産が開始される。②生産の画期は６世紀前後、集団・専業の体制が終わり、集落内自給の体制へと変化する。③その後は、滑石に代わり頁岩あるいは粘板岩が採用されるが、工房の跡は認められていない、と指摘している。本遺跡の特徴も、時期や石材の点で栃木県の内容に合致する。以下、その特徴について述べる。

２　器種分類

出土した遺物の数は、大小片2000余である。この中から388点を掲載した（詳細は観察表参照）。

分類は、以下のとおりである。

Ａ類　石核と不定形剥片
　①厚さが１㎝前後～２㎝と大型のもの
　②中型・③小型の端部破片
　Ａ’短冊形をしたもの
Ｂ類　有孔大型成品未完成品
Ｃ類　①方形無孔、②多角無孔
Ｄ類　①多角有孔
　②ａ多角有孔破損品・調整なし
　②ｂ多角有孔破損品・調整あり
　③多角未通孔破損品
　④方形有孔破損品
Ｅ類　方形有孔
Ｆ類　丸形有孔（完成品）

以上のほかに、図示していないが各工程からでた大量の削片がある。米粒状のものから２㎝近いものまで、形状はまちまちで、剥片の端部や側面を截断した破片とみられる。

３　製作工程について

臼玉は、①石核→②荒割→③分割→④形割→⑤穿孔→⑥研磨の各工程を経て完成する（第481図参照）。しかし、遺物は工程別に分かれて出土したのではなく、工作用の台石のまわりで混在していた。１人か２人が、割って、敲いて、穿孔し、そして最後に研磨までして仕上げていたのではないか。

工房の内部は、真ん中にポツンと工作台が置いてあって、いかにも作業場という雰囲気である。あるのは石ばかり、生活感に乏しい。１つしかない台石の数はもちろんであるが、砥石、錐など道具の数からの推定でもある（ＰＬ21・22参照）。

紡錘車は、臼玉の荒割工程からでる剥片を使い作

られている。しかし、大量に生産するというものではないからか､適当な大きさに整えた剥片くらいで、製作工程を特定できたものはない。Ｂ類の中にある91、92は、その大きさと穿孔位置からの推定であるし、厚さが１㎝以下の94や95を紡錘車ではなく有孔円板の未成品とみるかは、見解の分かれるところであろう。98は紡錘車とわかるが、破損品でしかも滑石製である。

原石の珪質粘板岩は、軟らかいのと、板状に割れやすい性質がある。これを選ぶにあたっては、滑石を使った経験がヒントになったのは間違いないところであろう。しかし、軟らかさは加工するには便利であるが、反面割れやすいというのも事実である。節理面が多くて、ものによっては縦だけでなく横にも入っている。扱いやすいようではあるが、その扱いには経験の要る石材ではなかったか。足尾山地の中・古生代の地層に包含されていて、地表近くに露出している。かつて桐生市梅田地区では、砥石として切り出されていた（註１）。

砥石の採掘をヒントにすれば、採取地には梅田地区に近い桐生川、松田川など渡良瀬川の支流域が候補地にあげられる。遺跡からは、直線距離にして10～15㎞で上流部に達する。原石は、風化の状態からみて直接露頭で抜き取ったか、露頭に近い沢で採取していたとみられる（註２）。

太田市史には、八王子丘陵の北東側でも粘板岩の分布することが報告されている（1996）。近い所では１㎞足らず、当時では日常の生活圏内ではなかったろうか。丘陵の斜面には古墳、埴輪窯が築かれている。こういった日常の生活を通じて石を知ることになり、利用は始まったのではないか。ここも採取候補地のひとつである。

①石核

採取地で適度に加工・整形がされていた、とみられる。これには、搬入前にまず品質を確認するのが第一で、次に作る量の見当をつける、運びやすくするという目的があったろう。大きさとしては、手の平大の大きさから拳大程度に復元される。

最大のものは、47と48の接合資料である。長さが22㎝、幅12㎝、厚さ６㎝、重さは２㎏に近い。これから加工をはじめようという段階で、搬入時の状態に最も近く、節理面の様子や側面の調整具合、分割されたところまでを見ることが出来る。側面のひとつには鑿か刀子で削り出した痕があり、分割には太い棒状のものが使用されている。

12はＡ①類の９と接合した。節理面の利用の仕方がわかる好例である。

欠点であった節理面は、側面や表裏の平坦面にそのまま生かされている｡本来が割れやすい石である。整形は、ただすればよいというのではなく、石の目を当然計算してのことである。

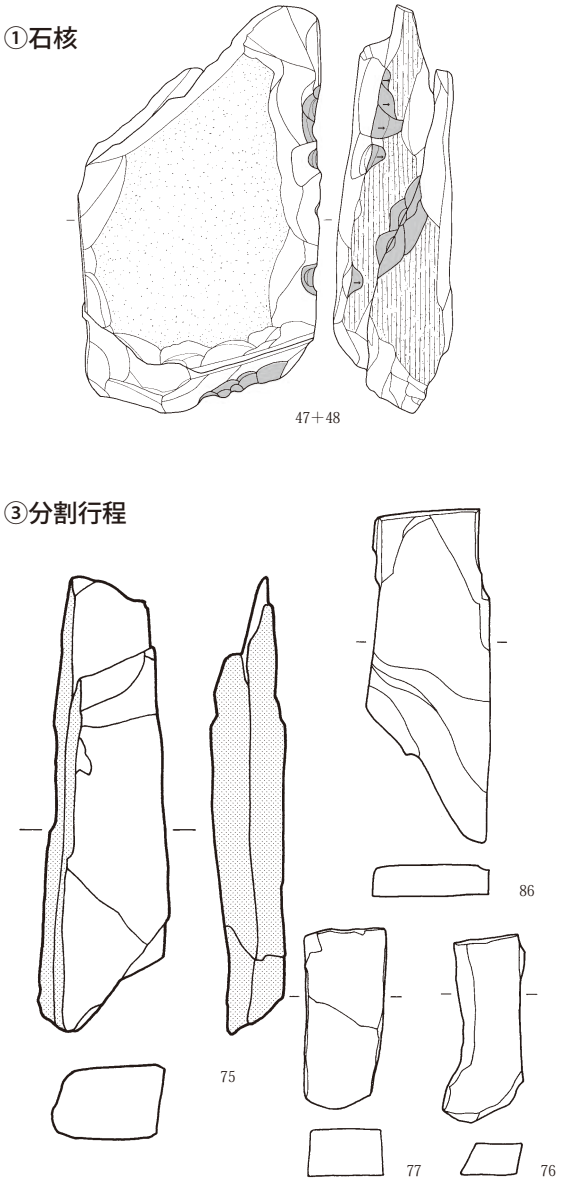
基準があったとすれば、大きさを揃えることではなく、石の目、これを長軸方向にすることである。これは、縦に長く剥離するためで、節理面を水平か垂直にして幅を決め、小口面にして一方の端を決めている。表裏に節理の平坦面が使われるのも、これが理由ではないか。

②荒割工程

石核から素材となる剥片を剥離する工程で、Ａ①類の中でも特に大型のものを考えている｡方法には、偶然によるところもあろうが直接敲打するか、当てた工具を敲いて割るかの２つが考えられる。

12と９の接合資料からわかるのは、剥離が節理面ではなく、上下の小口側からであること。これを手前から順に繰り返すことで剥片を得ていたようで、９がその１枚である。長方形を意図したのに三角形となってしまい、そのままとされたらしいが、12からは少なくとも同程度のものが３枚剥離されている。剥片を規格的に、しかも量産しようとした方法と考えておきたい。

しかし、割った痕跡となると、石質にもよるのかほとんどの剥片にそれらしいものが見当たらない。整理の過程では、剥片の断面にひびが入っているのを多数見ることができた。これを利用すれば板状に



第481図　204号竪穴建物跡臼玉製作工程図

するのは簡単そうで、軽く敲くか、押しをかける程度でも剥がすことができるという印象である。むしろ、この段階では、小口などにはこだわらず石の目にだけ注意して、適当なところから押して剥がすという方が石の性質には合っているのであろうか。以上のように割り方を特定するには疑問があって、課題を残している。

③分割工程

荒割した剥片から、短冊形やそれに近い形状のものを得ようとした工程である。75が短冊形の好例で、２枚の剥片が接合している。このような剥片の１枚が76、77、86などではないか。共通するのは、いずれも縦長で端部には節理面や石の目が効果的に使われている。

Ｂ類の中には、不定型な剥片に穿孔したものがある。穿孔は、截断する位置を特定するのと、截断を容易にしたいというのが目的で、貫通したものと途中までとがある。99は、その後者、75のような短冊形を取った本体、残りである。節理面には見事に直交しているのがわかる。

④形割工程

短冊形の剥片を切り取り正方形にしたもので、Ｃ①、Ｃ②類が相当する。基準は大きさにあったようで、断面形には方形と三角形とがある。厚さも一定していない。基本は正方形の角を取り、八角形やそれ以上にしたもの。角はこまめに削るか、敲いてつぶしているようである。

それは、サイズが一定で熟練者の技を感じさせるが、工具には何を使ったのか。刀子か鑿をあげるのが一番であるが、敲打と同様、相当する痕跡がない。見落としているのであろうか。また、この段階で研磨されたものはない。

⑤穿孔工程

片面穿孔、Ｄ類、Ｅ類が相当する。錐は、直径が３㎜前後、円筒棒状である。穿孔途中のものを見る

と先端に尖りはない。一気に穿孔するのではなく、最後に力を抜いて剥離するのを待っているのがわかる。また、穿孔する前に孔面の中央に目安となるキズや短く線を引いたものがある。破損も相当量があり、全工程の中では最も注意を必要とする工程ではないか。

⑥研磨工程

Ｄ類の一部、Ｆ類が相当する。側面だけに限られ、孔面にあるのは稀である。横方向が多く、砥石に小刻みに回転させながら磨り付けている。擦痕は、およそ１㎜程度の間隔である。研磨の方向、間隔に違いは見られず、砥石、工人ともに限られていたのであろう。

⑦完成

側面だけを研磨して完成形としている。直径は１㎝前後、側面に稜線はない。篠原氏が分類するＣ類臼玉状である（1995）。厚さは、５㎜を超すものから２㎜前後まで一定しない。真円にこだわらず、側面の研磨にも磨き残しが多い。

また、この段階でも表裏の平坦面は研磨されず、剥離してできた平坦な面のままとしている。厚みが不揃いなのは、これが理由である。量産のために生じた特徴であろうか。

⑧道具組成

台石１点、敲石１点、砥石１点が出土している。393は、粗粒輝石安山岩の台石である。長さ36.8㎝、幅17.2㎝、全体は磨滅していて砥石と考えたが目立った痕跡はない。床の中央に置かれ、周囲には剥片や各工程品が集中していた。

394は、粗粒輝石安山岩の置き砥石である。砥面は表裏両面ともに同じ縦方向、平滑である。断面形は表が凸面、裏が凹面で対象の違いを感じさせる。表面には、砥面のほかに稜線にかけるように刃物の先端を研ぎ出したような線状痕がある。また、上下両端には敲いた痕がある。

395は、敲石である。長さ19.2㎝の棒状、容結凝灰岩である。上下両端には連続して敲いた痕がある。使用頻度は高い。

最も重宝したのは、割る、削る工程での刀子か鑿、穿孔の錐である。出土していないが、砥石に残る線状痕や石核の整形痕から推定することができる。

註１　山田郡誌には、「桐生市の北部より梅田村にわたり粘板岩が所々に分布し、殊に梅田村大字浅部字九升坊、同高澤寺山等に露出するものは灰青色緻密にして、砥石として採掘利用せり」、と記載（Ｐ87）。九升坊は、良質の合砥を産出し江戸時代からの歴史がある（Ｐ954）。

註２　松田川ダム湖畔にある遊歩道では、斜面で珪質粘板岩の露頭を観察することができる。石は、色調、硬さで３種類がある。出土遺物とは似ている。割った時の印象では、力の入れ加減によっては砕けるといった方が正しく、規則的に剥ぎ取るには熟練の技が必要に思えた。また、水につけるまでもなく、コンクリートでも簡単に磨くことができ、遺物と同じような擦痕となる。

参考文献

『山田郡誌』山田郡教育会　1939
『桐生市史』上巻　桐生市史編纂委員会　1958
寺村光晴『古代玉作の研究』吉川弘文館　1966
杉山林継「臼玉の未成品とその製作工程について」『神坂峠』阿智村教育委員会　1971
『原之城遺跡発掘調査報告書』伊勢崎市教育委員会　1987
坂井　隆「飾り玉の製作と使い方」『八寸大道上遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1989
松村和男「紡錘車・臼玉等の製作技法について」『本郷山根遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1989
『大屋敷遺跡Ⅱ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1994
篠原祐一　「臼玉研究私論」『研究紀要』第３号Ｐ17－50　財団法人栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『二之宮宮下西遺跡』1995
『太田市史』通史編原始古代・自然　太田市　1996
寺村光晴編『日本玉作大観』吉川弘文館　2006
『加賀塚遺跡Ⅰ（第１～３次調査）』安中市教育委員会　2007

第５節　１区352号竪穴建物跡から出土したクルル鉤について

１．古代の鍵

洋の東西を問わず、鍵は「富の象徴」としてとらえられる。鍵をかけるという行為は、ものそのものが私有であると共有であるとを問わず、ものに対する所有の意志を強く主張することに他ならない。

人類史上、確実な最古の鍵は、古代エジプトで使用された「エジプト錠」で、紀元前３世紀にまで遡る。閂と錠本体とを数本のピンで固定し、外から解錠するときは、扉の穴から鍵を差し込んで、ピンを押し上げて閂を動かす仕組みである。

わが国の古代において使用された鍵は、大きくみて２種類ある。

一つはいわゆる「海老錠」と呼ばれるもので、今日一般的に「南京錠」と呼ばれて広く使用されている錠とほぼ同じ原理のカギである。錠前（Lock）と鍵（Key）のセットで機能し、すでに紀元前１世紀頃からローマから西アジア地方、中国大陸でも使用されている。わが国では正倉院に奈良時代の実物が伝わっているのを初めとして、飛鳥京・平城京・長岡京などの古代都城の遺跡や、大宰府・多賀城・武蔵国府など地方官衙跡から多くの類例が出土しており、遅くとも７世紀後半頃から使用されていたことが判明している。この種類の鍵は、中国・朝鮮半島から伝えられ、国内に広まっていったのであろう。わが国における古代の海老錠には、正倉院に伝存しているものを含めて、非常に精巧に作られているものが少なくなく、精密な装飾や鍍金が施されていたりする例が有り、材質も金銅製･銅製･鉄製など様々である。それらは正倉院の伝世品はもちろんのこと、出土品も都城や官衙・寺院などの遺跡からみつかったものがほとんどで、言わば高級品と言えるものが多い。これまでわが国で伝存・出土しているものには、比較的小型のものが多いので、それらは建物の扉に付けられた鍵ではなく、厨子や櫃などの鍵として使われたものとみられる。

また、今ひとつは、一般に「クルル（リ）鉤」と言われ、かぎの手状に直角に大きく折り曲げた細長い鉄棒に木質の柄を付けた鍵である。折れ曲げられた鉄棒の先端は、さらに小さく折り曲げられフック状になっているものが多く、扉に開けられた小さな鉤孔から鉤を差し込んで、先端のフックを内側に取り付けられた桟や閂に引っかけて、上下ないし左右に動かすことによって解施錠する。金属製の鍵と錠がセットになって使用される海老錠のような錠前とは全く異なる原理・構造である。これらは海老錠に比べて格段にサイズも大きく、また現代まで使用されている例からみても建物の扉の鉤と限定できる。

古代の鍵について、専門的に考古学的な研究を進めておられる合田芳正氏によれば、奈良・平安時代の史料にあらわれる各種の鍵に関する用語のうち、「鎰」「鑰」は倉の内側にある桟や門閂を外側から操作して開けるカギ、「鉤匙」「匙」は錠前に差し込む鍵（Key)、「鎖子」は厨子・唐櫃などに取り付けた錠前（Lock）をそれぞれ指すことが明らかにされている。史料上あらわれる「鎰」「鑰」の数え方が「勾」「柄」であることからみれば、それらが折れ曲がった形状を呈し、柄が付いている様子が容易に察せられ、それら「鎰」「鑰」が、具体的にはクルル鉤を指していることが判明する。　また、一方、「鎖子」の数え方がセットを意味する「～具」であるところからみれば、それらが鍵と錠前との組み合わせであることは明白である。

クルル鉤は、「くるくる」と回転させて使われることからそのように言われるようになったとか、あるいはクラ＝倉庫のカギ､「クラのカギ」の語が訛って「クルル鉤」と呼ばれるようになったとか、名称の由来についてはいろいろと言われているが、正確なところは定かではない。鉤を回転させて使うと言う点については､扉の内側から見ると鍵穴の周囲に、クルル鉤を回すことで付けられた円形の傷跡が残っていることが多いことによっても裏付けられる。現在でも古い土蔵や民家、神社の社殿や寺院の堂宇の

扉の鉤として使用されている。

クルル鉤の起源は今のところ定かではないが、構造が非常に単純で、言わば誰にでも考え付くような仕組みであり、さまざまな時期・場所でそれぞれ別個に使用されていても決しておかしくはない。ただ、現在までのところ、わが国以外の類例はない。

奈良時代から平安時代にかけてのクルル鉤は、本遺跡出土事例を含めて、全国各地の遺跡から45例が出土している(表２)。現在までの出土事例は、概ね関東地方に偏っており、甲信地域まで含めると45例の内の40例が関東甲信地域からの出土である。なお、関東甲信地域からの出土事例は、それらの９割９分が竪穴建物跡から出土している。近畿地方からの出土事例が５例あるが、この時代、西日本地域ではすでに竪穴建物は使用されないので、いずれも井戸跡や溝跡からの出土である。現在までのところ、東北・北陸・東海・中国・四国・九州地方からの出土例は報じられていない。

このような現在までの出土事例の分布状況が、必ずしも古代社会におけるクルル鉤の使用の多寡を示しているとは到底考えられず、掘方の深い竪穴建物跡の多用によって、東日本各地の方が遺物が比較的残存しやすい環境にあるとか、鉄という素材故の再利用の可能性など、全国的にみて、残存数が少ないなりの理由は想定できる。

近畿地方出土の５例には、いずれも柄部に装着された木製の把手まで残存しており、とくに、京都府向日市長岡京跡・奈良県奈良市平城京跡・大阪府藤井寺市はさみ山遺跡・兵庫県豊岡市但馬国分寺跡などから出土したクルル鉤は、木製の柄部から鉤爪部の先端に至るまで完存している。水分が多く、土中での木製品の残存に適した井戸跡や溝跡からの出土であるが故のことであり、ほぼ竪穴建物跡からの出土である関東甲信地域の類例では、柄部木製把手の完存は望みにくい状況であろう。先述したように、これらクルル鉤が、家具や調度品ではなく建物の扉の鉤と限定できることからすれば、クルル鉤の出土は、周辺に掘立柱建物跡、とくに倉庫の存在を想定させる資料ということになろう。

なお、本クルル鉤出土直後に、合田芳正氏に実見していただいた上で、種々の貴重な御教示や、類例の紹介など情報の提供を頂いた。

２．本遺跡から出土したクルル鉤

クルル鉤は、竪穴建物跡の床面から出土しており、共伴した土器の年代観から、８世紀後半頃のものとみられる。解錠部の長さ22㎝・軸部の長さ7.6㎝、柄部の端は欠損しており残存長４㎝。軸部の断面はほぼ方形状を呈し、解錠部先端鉤爪部のフックの部分は、小さくほぼ直角に曲がる。

各地から出土した類例の鉤爪部には、直角ないし鈍角に小さく折り曲げられているものと、鉤爪部が直角に曲げられた上でさらに直角に折り込まれるように加工され「コ」の字状に造ったものの２形態があるが、本遺跡出土事例は前者のタイプにあたる。

合田芳正氏によれば、鉤爪部が小さく折り曲げられているタイプのものの軸部の断面は、方形・長方形・円形・多面形とバラエティに富むが、フック状、いわゆる鉤の手状に湾曲されるタイプの軸部の断面は一様に長方形状を呈するという。本遺跡出土事例は、鉤爪部が小さく曲がるタイプのものであり、軸部の断面の形状も、それらのタイプの鉤の特徴とよく合致している。

鉤の大きさとしては、解錠部の長さ51㎝以上の高槻城下層のような例から、平城京右京二条三坊十坪出土あるいは神奈川県伊勢原市東大竹市場遺跡・同天王原Ⅲ遺跡出土の資料のように解錠部が40㎝を越える例がある反面、兵庫県豊岡市但馬国分寺跡・大阪府藤井寺市はさみ山遺跡・千葉県八千代市白幡前遺跡・栃木県宇都宮市下谷田遺跡などの出土資料のように20㎝前後とそれらの半分程度のものもある。本遺跡出土のものは、解錠部の長さが22㎝であるから、全国の類例から見れば小型の部類に入る。施錠対象の大小により、クルル鉤そのものの大小長短がある程度関わっていたとは予想されるが、クルル鉤の大きさは扉に空けられた鉤孔と落とし桟との位置

関係によるところが最も大きい。

群馬県内では、東吾妻町小泉天神遺跡、渋川市三原田三反田遺跡での出土例に次いで３例目の出土例であった。その後、前橋市元総社蒼海遺跡でも１点クルル鉤が出土し、県内での出土例は4例になった。

本遺跡出土事例は、出土した際に解錠部２ヶ所と柄部１ヶ所が折損し、本来は木質の内側に入る柄部の先端も欠失しているが軸部と柄部の関の鉄輪は残っている。東吾妻町小泉遺跡出土のクルル鉤は鉤爪部が欠失しており、渋川市三原田三反田遺跡及び前橋市蒼海遺跡出土のクルル鉤は鉤爪部と柄部の先端が共に欠失している。本遺跡出土事例は、解錠部と軸部全体と柄部のあらかたが残存しており、県内出土４例のクルル鉤のうちで最も状態が良好である。

本遺跡では、クルル鉤は竪穴住居跡から出土したわけであるが、出土した竪穴住居そのものの鉤であるとは考えにくい。クルル鉤という名称が「クラのカギ」の語の転訛と考えられるくらいであるから、当然のことながら生産物・財物等の収納場所の鉤として使用されたものであろう。たまたま、集落の中のどこかの倉の鉤が、この竪穴住居の中に捨てられたとも考えられるし、また、この竪穴住居に、そうした倉の鉤を預かり、管理する人物が居住していた可能性も考えられる。

楽前遺跡では、倉庫とみられる総柱の掘立柱建物跡が３棟(63 ～ 65号)検出されており、この場所で何らかの生産物や財産が収納・保管されていた様子が伺える。竪穴住居から出土したクルル鉤は１点のみであったが、それら倉庫群のうちのいずれかの鉤であったと考えられる。

本遺跡で見つかった掘立柱建物跡群は、決して整然として配置されているわけではなく、それぞれの大きさもまばらであり、建物の規則性・企画性は伺えないので、この場所が役所や有力者の居宅などのような公的な施設であるとは考えにくい。しかしながら古代社会においては、借倉など集落の中にある倉が公的機関の使用のために借り上げの対象になることも存在しているため、倉庫の用途を特定することは難しい。後述するように、本遺跡及び周辺隣接遺跡からは郡名が記載された土器や円面硯、漆紙文書など、官衙との関連を強く伺わせるような遺物がまとまって出土しており、そうした状況も勘案しながら、本遺跡出土からクルル鉤が出土したことの歴史的な意義を考えるべきであろう。

なお、鉤が機能するために必要な金具として、扉の内側に装着される閂状の金具や、鉤穴を保護・補強するための鉤座金具なども、鉤とセットで出土している事例が多く、鉤を考える上で不可欠な器具であるが、本遺跡からは出土していない。

なお、本クルル鉤出土直後に、古代の鍵の研究者である合田芳正氏に実見していただいた上で、種々の貴重な御教示や、類例の紹介など情報の提供を頂いた。本報告の記載も合田氏の教示によるところがきわめて大きいことを明記しておく。

（参考文献）

・合田芳正「いわゆる鎰(クルリ鍵)について」（『青山史学』13 、青山学院大学文学部史学科研究室、1992）
・後藤喜八郎「古代集落出土の『カギ』状大型『L』字型鉄製品について－古代集落研究によせて－」（『古代史研究』12、立教大学古代史研究会、1993）
・合田芳正『古代の鍵』考古学ライブラリー66、ニューサイエンス社、1998
・合田芳正「武蔵国府・国分寺跡出土の施錠具とその関連遺物」（『坂詰秀一先生古稀記念論文集・考古学の諸相』Ⅱ、匠出版、2005）
・松田富美子「閂金具の出土事例－千葉県内の集成－」(『多知波奈の考古学－上野恵司先生追悼論集－』、橘考古学会、2008)

表６　出土した主な古代のクルル鉤 ＊合田芳正氏提供の集成表を元に加筆

	出土遺跡	出土遺構	鉤の状態	鉤の大きさ(cm) 解錠部	軸部	柄部	出土遺構時期	備考
1	群馬県東吾妻町 小泉天神	２号竪穴	鉤爪部欠	(21.2)	14		８Ｃ中	軸部と柄部の関不明瞭
2	群馬県渋川市　三原田三反田	13号竪穴	鉤爪部・柄部端欠	(10.0)	(7)		８Ｃ後	〃
3	群馬県前橋市　元総社蒼海	６区Ｈ－１竪穴	鉤爪部・柄部端欠	(22)	(5.4)		古代	〃
4	群馬県太田市　楽前	352号竪穴	柄部端欠	22	4.5	(4)	８Ｃ前	柄部木質ごく一部残存、関金具
5	栃木県宇都宮市 西下谷田	SI315竪穴	完形	20.2	7.6	6.6	８Ｃ前	柄部木質残存せず
6	栃木県小山市　金山	019A竪穴	鉤爪部欠	41	10.3	(5.6)	９Ｃ後	柄部木質一部残存
7	茨城県水戸市　堀	２号竪穴	報告書未掲載	未掲載	未掲載	未掲載	不明	報告書未掲載
8	茨城県つくば市 島名八幡前	84号竪穴	完形	36.1	18.5		８Ｃ	軸部と柄部の関不明瞭
9	茨城県鹿嶋市　厨台No.26	６号竪穴	完形	28.8	7	7.4	８Ｃ	断面先端六角形、解錠部八角形、軸部四角形の面取
10	埼玉県本庄市　今井D	４号竪穴	鉤爪部・柄部端欠	24	6.6	－	８～９Ｃ	
11	埼玉県深谷市　北坂	13号竪穴	完形	37	8	7	８Ｃ前	柄頭・柄尻青銅金具径3cm、柄尻に鎖3連
12	埼玉県和光市　花ノ木	７号竪穴	鉤爪部欠	(28)	6.5	(10.3)	９Ｃ後	柄部木質残、柄尻端鎖あり
13	東京都北区　田端不動坂	２号土坑	鉤爪部~解錠部先端部欠	(21.9)	8	12.6	９Ｃ後	柄部木質残
14	東京都板橋区　栗原	５号竪穴	鉤爪部欠	(26.7)	6.5	11	平安	
15	東京都府中市 武蔵国府関連(日鋼地区)	15号竪穴	鉤爪部・軸部欠	34.8	－	13.6	9C末~10C初	柄部木質残、柄尻端鎖
16	〃	80号竪穴	鉤爪部・軸部欠	(23.8)	－	－	９Ｃ初	
17	〃	〃	鉤爪部・解錠部一部~軸部・柄部欠	(12)	－	－	９Ｃ初	
18	〃　(駅南地区)	M-60SI155竪穴	完形	26.5	7.5	10	８Ｃ	柄部木質一部残
19	東京都日野市　落川	72号竪穴	鉤爪部・柄部欠	(34)	9.3	(3)	10Ｃ後	
20	神奈川県伊勢原市 東大竹市場	８号竪穴	鉤爪部欠	(41.2)	6	10	９Ｃ後	
21	神奈川県伊勢原市 天王原Ⅲ	11号竪穴	完形	40	5.5	12.2	８Ｃ後	閂金具出土
22	〃	74号竪穴	軸部・柄部欠	30	－	－	９Ｃ前	〃
23	神奈川県伊勢原市 田名塩田原	８号竪穴	鉤爪部・柄部欠	(24.2)	4	(2)	９Ｃ前	
24	千葉県八千代市 白幡前	236号竪穴	先端・軸部・柄部	17.4	17		９Ｃ前	軸部と柄部の関不明瞭
25	千葉県八千代市 向境	遺構外	鉤爪部・柄部欠	(20)	(2.4)		不明	閂金具出土
26	千葉県八千代市 上谷	A211竪穴	鉤爪部欠	(22)	3.1	(5.4)	９Ｃ後	閂金具出土、関環状金具
27	千葉県成田市　野毛平植出2	３号竪穴	柄部端欠	(22.4)	8	(6.8)	９Ｃ中	閂金具出土
28	〃	〃	解錠部一部	(11.8)	－	－	９Ｃ中	柄部木質残
29	千葉県我孫子市 野守	４号竪穴	ほぼ完形	26.5	18		９Ｃ後	軸部と柄部の関不明瞭
30	千葉県船橋市　印内台	008台地	鉤爪部・柄部欠	(17)	(10)		不明	閂金具出土軸部と柄部の関不明瞭
31	千葉県千葉市　観音塚	製鉄P27	鉤爪部・柄部欠	(10.3)	(7.8)		８Ｃ	閂金具出土、
32	〃	製鉄P27	鉤爪部・柄部欠	(8.4)	(6)		８Ｃ	〃
33	千葉県四街道市 小屋ノ内	SI098竪穴	鉤爪部・柄部欠	(34.1)	8		９Ｃ	閂金具出土
34	千葉県東金市　久我台	188号竪穴	解錠部一部	(11.6)	(13.8)	－	９Ｃ前	閂金具出土
35	千葉県東金市　作畑	162号竪穴	柄部欠	33	9	－	８Ｃ	閂金具出土
36	千葉県東金市　大網山田台	H-128A竪	柄部一部欠	26	4	(3.6)	９Ｃ前	関部突起、柄部木質残
37	山梨県山梨市　日下部	１号竪穴	鉤爪部欠	(33)	5	16	平安	柄尻環状金具
38	長野県千曲市　更埴条里屋代	包含層	完形	37.5	10	6.5	不明	関部鉄輪
39	長野県御代田町 根岸	28号竪穴	鉤爪部・柄部一部欠	24	8	－	９Ｃ末	
40	長野県箕輪町　中道	30号竪穴	完形	20.8	6	8.2	８Ｃ	柄部木質残
41	京都府向日市　長岡京(左京13次)	溝SD1301	〃	30	6	12	８Ｃ末	柄部木質完存径3.4cm
42	奈良県奈良市　平城京	井戸SE504	〃	44.5	9.2	13.4	８Ｃ後	柄部木質完存径3.2cm、関及び柄尻に環状金具
43	大阪府高槻市　高槻城下層	３号井戸	鉤爪部欠	51	10	11.5	8C後～9C	柄部木質完存径4cm
44	大阪府藤井寺市 はさみ山	井戸	完形	21.7	4.7	9.3	８Ｃ	柄部木質残
45	兵庫県豊岡市　但馬国分寺	井戸SE04	完形	19.2	3.6	8	８Ｃ後	柄部木質完存径3cm。柄尻に環状金具

＊**文献1.**吾妻町(当時)教育委員会『町内遺跡Ⅲ 小泉天神遺跡』2004、**2.**赤城村(当時)教育委員会『三原田三反田遺跡』2001、**3.**前橋市教育委員会『元総社蒼海遺跡群』2010、**4.**(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『楽前遺跡』(2)2010、**5.**栃木県教育委員会『西下谷田遺跡』2003、**6.**栃木県教育委員会『金山遺跡』Ⅱ1994、**7.**水戸市教育委員会『堀遺跡』1994、**8.**(財)茨城県教育財団『島名八幡前遺跡』2003、**9.**(財)鹿嶋市文化スポーツ振興事業団『鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告』ⅩⅡ 1996、**10.** (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『立野南・八幡太神南・熊野太神南・今井遺跡群・一丁田・川越田・梅沢』1985、**11.**(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『清水谷・安光寺・北坂』1981、**12.**(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『花ノ木・向原・柿の木坂・水久保・丸山台』1994、**13.**北区教育委員会『田端不動坂遺跡』2003、**14.**立教大学文学部『栗原』1975、**15～17.**日本製鋼所遺跡調査会『武蔵国府関連遺跡調査報告-日鋼地区-』1995、**18.**府中市教育委員会『武蔵国府関連遺跡調査報告34-国府地域の調査26-』2005、**19.**落川区画整理地区(中村マンション)遺跡調査団『落川遺跡』2001、**20.**諏訪間伸「東大竹・市場(V)遺跡」(伊勢原市教育委員会『文化財ノート』(2)) 1992、**21～22.**天王原遺跡(Ⅲ)発掘調査団『伊勢原市天王原遺跡発掘調査報告書-第Ⅲ地点-』1996、**23.**田名塩田原遺跡調査団『田名塩田原遺跡群』1993、**24.**(財)千葉県文化財センター『八千代市白幡前遺跡』1991、**25.**八千代市遺跡調査会『向境遺跡』2004、**26.**八千代市教育委員会『上谷遺跡』2004、**27～28.**(財)印旛郡市文化財センター『ニュー東京空港ゴルフ場造成地域内埋蔵文化財発掘調査報告０』Ⅲ1990、**29.**我孫子市教育委員会『平成12年度市内遺跡発掘調査報告書』2001、**30.**船橋市教育委員会『印内台遺跡群』(32)2003、**31～32.**千葉県文化財センター『千葉市観音塚遺跡』2004、**33.**(財)千葉県教育文化財団埋蔵文化財センター『四街道市小屋ノ内遺跡』(2)2006、**34.**(財)千葉県文化財センター『東金市久我台遺跡』1988、**35.**作畑遺跡調査会『千葉県東金市作畑遺跡発掘調査報告書』1986、**36.** (財)山武郡市文化財センター『大網山田台遺跡群』Ⅱ1995、**37.**山梨市教育委員会『日下部－日下部遺跡発掘調査報告書』1987、**38.**(財)長野県埋蔵文化財センター『更埴条里遺跡・屋代遺跡群、古代2・中世・近世編』2000、**39.**御代田町教育委員会『鋳物師屋遺跡群根岸遺跡』1989、**40.**長野県教育委員会『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－上伊那箕輪町・昭和48年度』1974、**41.**向日市教育委員会『向日市埋蔵文化財発掘調査報告書』4 1978、**42.**奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財発掘調査概報平成8年度』1997、**43.**高槻市教育委員会『高槻市文化財年報 平成2年度』・『同 平成4年度』1991・1993、**44.**大阪府教育委員会『外環状線遺跡発掘調査概要』Ⅰ 1974、**45.**日高町(当時)教育委員会『但馬国府と但馬国分寺 発掘調査からその謎に迫る』2002

第６節　出土した文字資料からみた古代の山田郡と新田郡

１．概況

本遺跡２～４区から出土した文字資料は、墨書土器７点と刻書土器１点、刻書紡錘車が２点であった。今回報告する１区では墨書土器が９点出土している。刻書土器の出土はなかった。

墨書・刻書土器は総点数にして17点になるが、いずれにしても総面積15,652㎡、掘立柱建物跡42棟、竪穴建物跡202棟からなる大集落にしては、出土した墨書・刻書土器の数は極めて少ない。

今回報告する１区を含めて、墨書・刻書土器は、１点以外竪穴建物跡・溝跡・土坑跡の埋土中からの出土であり、また、１点は攪乱土からの出土である。各資料の出土状況にさしたる特徴はない。

文字は１文字ないし２文字のみの記載である。文字が記入されている部位に関して言えば、底部が４例、体部が５例、蓋外面が１例となり、まちまちである。一般的に、関東地方における集落遺跡出土の墨書・刻書土器では、体部に記入される例が多いのに対し、官衙遺跡出土の墨書土器では底部外面に記されるものが多いという傾向がある。

器種の点で言えば、本遺跡出土の墨書・刻書土器17点中15点を須恵器が占める。この点は、墨書・刻書土器の全般的な傾向としてはやや異例である。墨書・刻書土器の出土が特に顕著な関東地方の奈良・平安時代集落遺跡出土資料の全般的な傾向では、概して土師器の方が多いという特色がある。ただし、文字が記された土器の器種は、その遺跡出土土器全体の傾向と同様なのであり、特に、須恵器ないし土師器のどちらかが選ばれて、文字が記入されたというような事例は全く見受けられない。本遺跡においても、須恵器の流通・消費の頻度が一般に比べて高かったために、文字が記入された土器にも須恵器の割合が高いというだけのことであろう。本遺跡が所在する群馬県太田市一帯は、上野国内でも須恵器生産が盛行した地域であり、本遺跡の約２㎞南東に位置する金山丘陵には須恵器窯が多く造られていた。実際、須恵器窯が多い静岡県西部、愛知県、岐阜県、島根県などの地域においては、奈良・平安時代集落遺跡出土土器における須恵器の占める割合の高さに比例して、墨書土器にも須恵器が多い傾向が指摘されている。

２．記載内容

今回報告する１区出土の墨書土器では、218号竪穴建物跡出土の判読不明のもの以外では、１文字のみが記されているのは、同じく218号竪穴建物跡出土の須恵器蓋外面に大きく１文字「人」と記されたもの、及び底部外面と体部外面に2箇所に墨書のある332号竪穴建物跡出土の須恵器杯の、体部外面に記された「井」の文字で、他はすべて２文字である。

「山田」と記されたものが、210号竪穴建物跡出土のものと340・-733Gr.攪乱内出土のものの２点ある。他には、「人田」と記された235号竪穴建物跡出土のものと、「入多」と記された357号竪穴建物跡出土のもの、「入田」と記された313号竪穴建物跡及び1021号土坑跡出土のもの、「上井」と記された332号竪穴建物跡出土のものなどがある。

「山田」は本遺跡が所在する古代の郡名であり、本遺跡から約1.5㎞西に位置する太田市緑町の、金山丘陵北東麓の台地上に「古氷」の大字名が遺っており、古くから山田郡家の故地に比定されている。郡家の存在を立証するような遺構・遺物は現在のところ全く確認されていないものの、「堂上」「堂下」「石倉」などの郡家及び関連寺院の施設を連想させるような小字名が遺っており、有力な比定地である。

『楽前遺跡』（１）に掲載できず、本報告書で報告した３区１号溝跡出土の「山田」の２文字が底部外面に墨書された須恵器椀があり、また、『楽前遺跡』（１）で報告した４区１号竪穴建物跡出土の須恵器杯の底部外面に「山」と記されたものは、同報告書では「正」と釈読しているが、実物に当たって改め

て釈読し直し、「山」の１文字が記されたものであることが判明したので、本報告書によって釈文を改める。このように、本遺跡では、山田郡の郡名に関わる文字が記された墨書土器が4点出土している。

357号竪穴建物跡から出土した「入多ヵ」の墨書土器と、313号竪穴建物跡及び1021号土坑跡から出土した「入田」の墨書土器は、ともに新田郡の郡名の表記と考えられる。新田郡の郡名を「入田」あるいは「入」一文字で記した例は、これまでも太田市境ヶ谷戸遺跡、新田郡家郡庁院跡天良七堂遺跡などから出土しており、類例はあるが、「入多」の表記ははじめての出土である。

先述したように、本遺跡は明らかに古代の山田郡の領域内にあり、その山田郡内から隣郡・新田郡の郡名が記された土器が出土していることの意味は重要である。

昨年度刊行した『楽前遺跡』（１）では、４区１号溝跡から出土した「田人」の２文字が記された墨書土器と、４区11号竪穴建物跡から出土した、上部が欠損していて不明ながらも下の文字は「人」と判読できる墨書土器とが、同じ内容である可能性が高いとして、それらが人名の一部である可能性を指摘した。今回報告する１区でも、235号竪穴建物跡から「人田」と、前回報告した４区１号溝跡出土の墨書土器の文字順を逆にした文言が記された須恵器杯が出土しており、関連を印象づける。

ただ、今回新たに報告する1区235号竪穴建物跡出土の「人田」と記された墨書土器は、字形からみれば間違いなく「人田」という表記であるが、同じく１区313号竪穴建物跡及び1021号土坑跡から「入田」と記された墨書土器が出土していることと考え合わせれば、「入田」の意をもって、結果的には「人田」と判読できる字形によって記された可能性をも想定できるのではないだろうか。また、そのように考えて良いとすれば、１区218号竪穴建物跡から出土した須恵器蓋に墨書された「人」の１文字も、新田郡の郡名を意とする「入」の文字として記入された可能性も否定できない。

なお、本遺跡４区の南側に隣接する鹿島浦遺跡においても「入」と記された新田郡関連の文言が記された墨書土器（７区８号竪穴建物跡埋土出土）とともに、字形からみれば明らかに「人」と記された墨書土器が出土しており（１・２区50号竪穴建物跡埋土出土）、本遺跡出土の墨書土器とともに、実際には新田郡の郡名ないしその一部を記した可能性がある。

また、『楽前遺跡』（１）で報告した４区１号溝跡出土の「田人」と記された墨書土器２点も、「入田」という表記の新田郡名との関連で考える必要も生じよう。新潟県長岡市八幡林官衙遺跡出土郡司符木簡などの例にみられるように、古代において、単語の文字順を入れ替えて表記することは往々にして行われており、あながち荒唐無稽な想定とは言い難い。

そのようにみれば、本遺跡出土の墨書・刻書土器で、判読可能な16点のうち、12点が郡名関連、そのうちの４点が遺跡地が所在する山田郡、８点が隣郡・新田郡の郡名関連ということになる。

３．県内出土の郡名記載墨書・刻書土器

本遺跡出土の判読可能な墨書・刻書土器16点のうちの12点の記載内容が郡名を関連とすると、現在のところ、群馬県内では1遺跡で最も多く郡名記載土器が出土した例になる。南側に隣接する鹿島浦遺跡や東今泉鹿島遺跡においても山田・新田両郡の郡名が記された墨書土器が数点出土していることを考え合わせれば、その傾向は一段と顕著である。

また、本遺跡が古代山田郡の地にありながらも、隣郡の郡名に関わる墨書土器が半数を占めており、むしろ当該郡名を記載したものの倍の量が出土していることも、全国における郡名記載土器の出土状況からみれば極めて特異である。

郡名が記載された墨書・刻書土器は、静岡県の郡家遺跡からの出土がとくに顕著であるが、全国各地から出土しており、郡家や、郡家の出先機関などの存在、さらには郡家の構造や機能などを類推する上での手がかりとなっている。しかしながら、近年で

は、郡家やその関連の官衙あるいは施設、郡司層豪族の居宅などとは明らかに考えにくい場所から単独で郡名が記された土器が出土する事例も少なくなく、さしたる遺構が検出されていないケースにおいても、郡名が記された墨書・刻書土器が出土することによって、その場所が郡関係の官衙の出先機関などの施設と直ちに解釈されるような、記載された郡名が一人歩きして遺跡の解釈を歪めてしまうようなケースさえ存在している。

県内では、これまでその種の資料の出土はあまり多くはなかったが、ここ数年の間に相次いで古代の郡名が記された墨書・刻書土器の出土が報じられるようになってきた。

県内出土の郡名記載墨書・刻書土器62点の内、刻書土器は３点のみであり､他は全て墨書土器である。本県内では現在までのところ、佐位郡家正倉院の遺構が発見された三軒屋遺跡と、新田郡家郡庁院及び正倉院跡が検出された天良七堂遺跡の２箇所しか確実な郡家遺跡は発見されておらず、三軒屋遺跡では郡名に関わる文字が記された土器は今のところは出土していない。

周知のように古代の上野国には和銅４年(711)に新設された多胡郡を含めて14郡が存在していたが、県内の遺跡から出土した郡名記載土器は、このうちで、群馬・勢多・佐位・新田・山田・邑楽・甘楽・多胡・碓氷の９郡にかかわるものであった。

（１）「新田」郡名記載土器

県内からこれまでに出土した郡名記載土器で最も数量的に多いのは、新田郡に関わるものである。

『和名抄』では、新田郡は、新田･滓野･石西･祝人･淡甘・駅家の６郷からなる中郡とされている。新田郡の郡名に関わる文言が記された墨書･刻書土器は、本遺跡出土の「人田」「人」「田人」などと記された墨書土器を含めて、県内から出土した郡名記載土器62点の内、その半数以上の32点になる。そのうち刻書土器は、郡家に程近い太田市成塚町成塚住宅団地遺跡から出土した土師器椀体部外面に正位で「入田」と記されたものと、同市市野井境ヶ谷戸遺跡から出土した須恵器杯の底部外面に「入」と記載されたものの２点のみで、他はいずれも墨書土器である。

「入田」の文字が刻書された土師器椀が出土した太田市成塚町の成塚住宅団地遺跡及び「新田」の文字が記された須恵器杯と「入田」の文字が記された土師器杯が出土した石橋地蔵久保遺跡は郡家跡天良七堂遺跡の東側にごく近接する郡家周辺集落遺跡であり、位置的にも郡名記載土器が出土して自然な場所ではある。

また、先述した「入」の文字が刻書された須恵器杯が出土した太田市市野井境ヶ谷戸遺跡は、小規模な範囲にわたる調査であり遺跡の性格は明確にできておらず、また、郡家跡天良七堂遺跡の西南西約２㎞と郡家からもやや離れるが、集落遺跡からは出土することがあり得ない唐三彩陶枕片が出土しており、郡家との密接な関連を想定できる。須恵器蓋の内面に「入田」と記されたものが1点、ほかに「入」の1文字が記された資料が8点、計９点の郡名記載墨書・刻書土器が出土している。

それら郡家周辺近接遺跡から出土した郡名記載土器に比して、「新」1文字が墨書された土器が３点出土した太田市上田中の前六供遺跡と「入」の１文字が底部外面に墨書された須恵器杯が出土した太田市中江田の中江田原遺跡は、ともに郡家の南西にやや離れた位置に位置している。しかしながら、前六供遺跡からは郡家ないし荘所における物資の検収に関わる記録木簡がこれら郡名記載墨書土器と共伴して同じ井戸跡から出土している。また、この井戸跡の構造は堅固精緻であり、およそ一般集落のものとは見なしがたい。

このように、新田郡の郡名記載土器は、みどり市宮久保遺跡３号竪穴建物跡から出土した「入田」と底部外面に墨書された須恵器皿と、本遺跡及び隣接する鹿島浦遺跡出土の一連の資料以外、郡家跡天良七堂遺跡から比較的近い範囲の遺跡か、あるいは郡家と関連する官衙の出先機関等と考えられる遺跡からの出土に限られている。記載された文字は、本遺跡から出土した「人田」「人」「田人」と記された

墨書土器を含めて、「入田」ないしその１文字「入」が、新田郡名記載土器全30点のうちの26点を占めている。『延喜式』や『和名抄』の現存する写本では、いずれも「新田」と表記し、近代に至るまで「新田」の語が使用されているが、『万葉集』の写本では「爾比多」、平安時代の『延喜式』や『和名抄』では「尓布多」と読みが振られており、「ニヒタ」「ニフタ」と発音されていたようである。郡内所在遺跡から出土している「入田」と記された墨書・刻書土器が多く出土していることは、「ニフタ」と発音されていたことを裏付ける。

「入田」「新田」の郡名ないしその一部が記載された墨書・刻書土器30点のうち16点が底部外面への記入であり、一般的に言われてきた官衙遺跡出土墨書・刻書土器の全般的な文字記入部位傾向によく合致している。また、８割強という須恵器の占有率の高さは、新田・山田両郡が一大窯業生産地域であることから考えれば当然のことと言えよう。

（２）「山田」郡名記載土器

山田郡の郡名が記されたものは、現在のところ全て墨書土器で、本遺跡から出土した「山」１文字が底部外面に記された4区1号竪穴建物跡出土の須恵器杯と、「山田」の郡名がフルに記された１区出土の須恵器杯２点・３区１号溝跡出土の椀１点の計４点に、４区の南側に隣接する鹿島浦遺跡のさらに南東側に隣接する東今泉鹿島遺跡から出土した須恵器杯の底部外面に「山田」の郡名が墨書されたものが１点の計５点ある。

この両遺跡における遺構の検出状況からみれば、営まれた建物群を官衙ないしその関連遺跡とみることは到底考えにくい。しかしながら東今泉鹿島遺跡では郡の官人から郡家に宛てられた文書が漆紙として出土しており、約1.5km西方の太田市緑町古氷地区に所在が想定される山田郡家から漆容器の蓋紙として払い下げられた文書の反故がもたらされていることからも、郡家との密接な関連が伺える。

４．移動する郡名記載土器

ところで、静岡県内の郡家遺跡からは、遺跡出土の全郡名記載土器中に占める割合は極めて少ないながらも、当該郡に隣接する郡の厨家を示す文字が記された資料が往々にして出土している。例えば、駿河国有度郡家跡(静岡市ケイセイ遺跡)からは、隣郡・安倍郡を示す「安」の文字、駿河国益頭郡家跡(藤枝市郡遺跡)からも隣郡・安倍郡家厨家を意味する「安厨」の文字、同じく志太郡家跡御子ヶ谷遺跡からはやはり隣郡・益頭郡家厨家を意味する「益厨」の文字、などがそれぞれ記された墨書土器が各１点ずつ出土している。また、遠江国敷智郡家・栗原駅家跡と考えられている浜松市伊場遺跡からも、「布知厨」と記された墨書土器の他に、隣郡・長下郡家厨家を意味する「下厨南」と記された墨書土器が出土している。

さらに、上総国分尼寺に隣接する集落遺跡・千葉県市原市坊作遺跡からは、所在郡「市原厨」と記された墨書土器と共に、隣郡・海上郡家厨家を示す「海上厨」と記された墨書土器が出土している。同遺跡は、全くの集落遺跡ながら、立地条件や出土遺物などから上総国分尼寺建立に関わる集落と考えられ、出土したのが官衙そのものの遺跡ではなくとも、国の施設に関連する場所では、当該郡以外の郡厨家記載土器が出土するケースがあり得るということを示している。

郡名記載土器が郡境を越えて移動するケースがあることについては、まず、国府ないし郡家における恒例・臨時の行事に伴う饗宴に当たって、当該官衙にとどまらず、国府においてはその管轄郡厨家が、また郡家にあっては近隣郡郡家厨家が動員されたケースが想定できる。儀制令元日国司条にみえるように、元日朝賀の饗宴に際しては、国司が国府の財政の中から経費を支出して郡司等に酒食を供することになっており、さらに、郡司告朔の儀、吉祥悔過法会などの恒例行事及び臨時の行事に際しては様々な饗宴の場が設定されていた。国厨の職掌の第一は、こうした国府内で行われる儀礼に伴う公的な饗宴に際して食膳供給を行うことにあった。

また、様々な史料から、国司館やあるいは国府外における饗宴や、部内巡行・赴任等の国司の公務旅行に際して、出張先に「国厨之饌」が届けられるケースも想定することができ、「郡厨」あるいは「（某）郡厨」と記された土器についても、およそ同様の機能を想定することが可能である。

「国厨」・「（某）郡厨」と記された土器の意味は、平川南氏が指摘しておられるように、そこに盛られた酒食類が「国厨之饌」あるいは「（某）郡厨之饌」であることを表示したものである。諸官衙厨家保管の食器は膨大な数ににのぼると考えられるが、それにもかかわらず、出土土器全体の中で「（某）厨」と表記された土器数があまりにも少ないことや、「国厨」・「（某）郡厨」、あるいは郡名が記された土器が、それぞれの国府や郡家からかけ離れた場所から出土することも少なくないことから考えるならば、「厨」あるいは郡名等を土器に記入することの意味を、従来言われてきたように「厨施設がその食器を保管・管理する上で食器の所有・所属を明示するために記銘した」という点のみに集約しきれるものではない。

また、国厨や各郡厨からは、各官衙内外に酒食が供給されたわけであるから、「国厨」・「（某）郡厨」・郡名記載土器などが出土した場所が、それらの官衙、あるいは官衙内の厨施設そのものと即断することは出来ない。「国厨之饌」「（某）郡厨之饌」が供給され、酒食が消費された饗宴の場であった可能性もあろうし、また、国府・郡家の出先機関や下部組織が置かれた場所であるとの想定も成立しよう。

さらに、国府に上番、あるいは労働徴発された徭丁等に対して、各出身郡厨家が食料を供給することがあったか、あるいは徭丁たちが出身郡単位に編成されて、これに関わる厨家が「某郡厨」という形で国府内に設置されていたことに因る可能性も平川南氏によって提示されている。

一方、郡家遺跡において、当該郡厨家名を記した土器と共に近隣郡厨家名を記した土器が出土するような事例については、まず、国司の部内巡行の際の接待など郡家における大きな饗宴に当たって、当該郡厨家が弁備できる労働力や食材・食器だけでは間に合わずに、近隣郡厨家の労働力と食器等が臨時的に動員されるような場合や、他郡厨家から食膳や食器そのものが運び込まれた場合、などが想定できる。

また、郡家が伝馬を利用した官人の交通支援機能、宿泊・給食・供給にあたった施設でもあったことからみれば、国司や伝使の移動、あるいは郡司相互の通交に伴って、他郡郡家厨家で調達した食事や食器が携行され、持ち込まれた場合なども考えられる。

上総国分尼寺造営に関わる集落である千葉県市原市坊作遺跡から隣郡厨家を示す墨書土器が出土した事例は、国分尼寺造営という郡を越えた国レヴェルの事業に際して、食膳供給等の面で、他郡厨家が動員されるような場合があったことを物語っている。

このように某郡厨記載土器の出土には様々なケースが考えられる。ただ単に郡名、ないし郡名の一部が記された土器の中には、「某郡厨」の省略表記も存在していたであろう。某郡名表記土器の解釈の一つの可能性として提示しておきたい。

いずれにしても「某郡厨」表記土器が表記郡の境を越えて出土することは当時の様々な状況から充分に説明の付くことであり、不自然な事態では無いことが判明するのである。さらに、そこから敷延すれば、郡名ないしその一部の文字が記された土器が、郡境を越えて当該郡以外の場所や、あるいは郡内であっても明らかに郡家ないしその関連官衙のある場所とは考えにくい場所から出土するケースについては、やはり同様に、郡名記載土器の移動が想定可能な様々なケースの中で解釈することが可能である。

なお、静岡県内の郡家遺跡である藤枝市御子ヶ谷・秋合両遺跡や、浜松市伊場遺跡、同市井通遺跡などにおける大溝からの大量の土器出土状況からは、祭祀・儀礼における郡名記載土器の使用の可能性も想定できるところである。

その際に、それら「国厨之饌」・「（某）郡厨之饌」が供された先は、現実世界の貴顕に止まらず、神仏などに対するケースも考えられる。さらに言うなれば、実際には、「国厨之饌」・「（某）郡厨之饌」で

なくとも、そのようなブランドを騙って国・（某）郡厨銘、あるいは郡名記載土器が供えられたケースさえ存在していた可能性が考えられる。

５．本遺跡における郡名記載土器の出土の意味

本遺跡から山田・新田両郡に関係する墨書土器が出土していることの意味や理由については、上述してきたような、様々なケースが想定できるところである。しかしながら、先述したように、当該郡隣郡の郡名が１～２点、当該郡名記載土器に混じって出土するケースはこれまでもあったが、本遺跡及び周辺遺跡のように、当該郡名記載土器よりも隣郡名記載土器の方が多く出土しているようなケースは、これまでのところ全国的にも類例がない。その特異性こそが、本遺跡の特質の一つと言えよう。

本遺跡からは脚付きの円面硯の破片などが数点出土しており、墨痕及び摩耗痕の顕著な硯の存在は、当地における識字層の存在を示唆するところである。また、4区の南側に隣接する鹿島浦遺跡からは、一般集落ではおよそ使用されにくいような獣足付円面硯が出土していたり、さらにその南東に隣接する東今泉鹿島遺跡からは漆紙文書が出土し、郡家で廃棄された反故紙が容易に入手できる環境としての郡家との密接な関連が想定される。

本遺跡及びその隣接遺跡では、このように、郡家との密接な関連を示すような顕著な遺物の出土が見られる反面、検出された遺構の状況からみれば官衙的な様相は全く見出しがたい。

出土した当該郡及び隣郡名表記墨書土器の数が伯仲している点からみれば、まず第一には、国レベルの官衙関連施設か、国司の巡行先と見るのがまず自然なところであろうが、先述したように、遺構の検出状況から見れば、本遺跡はもちろん、西に隣接する大道東･大道西遺跡、南側に隣接する鹿島浦遺跡･東今泉鹿島遺跡とも、全くそのような性格の遺跡とは見なしがたく、また、当然、郡家の出先機関等とも考えにくい。

本遺跡１・３・４区及び鹿島浦遺跡では、竈を軸として縦長の長方形状を呈する所謂工房型と称される竪穴建物跡がいくつも検出されている。それらの竪穴建物跡は、規則的に整然と配置され、如何にも官衙工房的な配置をされているわけではないが、一般的な住居とは考えにくい、特色有る形状を呈する竪穴建物跡が多いことは特筆できる。

また、１・２区では計８基の粘土採掘坑跡が検出されており、多数の須恵器・瓦窯跡が発見され、古代の一大窯業・製鉄業集積地として著名な金山丘陵から至近の位置にある本遺跡でも、土器生産の一翼が担われていたことが判明している。今回、発掘調査された範囲においては、あまり明瞭な手工業生産の痕跡を見出すことは出来なかったが、本遺跡及び周辺の地において、大規模な手工業生産が展開されていた可能性は強いと言えよう。

さらに、４区の南側に隣接する鹿島浦遺跡や、さらにその南東に隣接する東今泉鹿島遺跡などから漆紙文書が出土していることからみれば、漆塗り作業工房の存在も示唆されるところである。

本遺跡及び周辺遺跡からの郡名記載土器の出土は、本遺跡及び周辺の地に展開した手工業生産の経営主体としての郡の存在が想定できるのではないだろうか。

ただ、当該郡のみならず隣郡名記載の土器が、当該郡名記載土器を上回って出土していることの理由については、そのように想定してもなお、整合的に解釈することは難しい。

山田郡の郡家所在地は、あくまでも現存地名を根拠にしての推定に過ぎないが、仮にその推定が正しいとすると、隣接する新田郡の郡家とは不自然なくらいに、かなり近い位置に所在することになる。また、現・桐生市北部の山間部まで範囲としていた山田郡の領域からみれば、郡家の位置は、郡域の南端に非常に偏った位置にある。

窯業生産と製鉄という手工業生産を基軸産業として成立したであろう山田郡の郡家所在地は、郡域全体から見れば不自然な位置になるわけで、そう言った場所に郡家が設置された背景には、多分に地域首

長同士の、あるいはさらにその上のレベルの国ないし中央政府などとの間のパワーバランスによる政治的な要素が強く想定できるかもしれない。

また、７世紀中葉には造営されたであろう、八ヶ入～大道東・西～鹿島浦遺跡で検出された初期東山道駅路の路線設定とも絡んでくる問題でもあろう。

金山丘陵北麓で展開された窯業及び生産が、あるいは山田郡一郡のレベルではなく、隣郡・新田郡をも巻き込んだ二郡体制で操業された可能性や、あるいは、一国レベルの経営であった可能性さえも、想定するべきではないだろうか。本遺跡から出土した山田・新田両郡の郡名記載土器は、そのことを示す一つの歴史的な根拠となるであろう。

（参考文献）

清水みき 1991「食料供給官司名を記す墨書土器に関する一考察」『京都考古』59(京都考古刊行会)pp1~5

杉山秀宏・高井佳弘2008「住谷コレクション瓦類資料の基礎調査の成果について」『群馬県立歴史博物館紀要』29(群馬県立歴史博物館)　pp25~42

関本寿雄・高島英之・川原秀夫2006「大泉町出土の墨書土器について-邑楽郡家推定地とその周辺-」『館林市史研究おはらき』2(館林市)pp45~72

高井佳弘 1999「上野国分寺跡出土の郡郷名押印文字瓦について」『古代』107 早稲田大学考古学会pp35~48

高島英之 2000「群馬県前橋市元総社寺田遺跡出土の墨書土器・墨書木製品」『古代出土文字資料の研究』(高島英之)東京堂出版pp227~247

平川南 2000a「『厨』墨書土器論」『墨書土器の研究』(平川南)吉川弘文館pp102~139、初出1993

平川南 2000b「墨書土器からみた役所と古代村落」『墨書土器の研究』(平川南)吉川弘文館pp158~201、初出1988~2000

平川南 2000c「墨書土器とその字形」墨書土器の研究』(平川南)吉川弘文館pp259~324、初出1991

表７　楽前遺跡出土文字資料一覧

遺物番号	出土遺構	器種	文字部位・方向	釈文	年代
1-210竪- 1	1区210号竪穴建物跡埋土	須恵器・杯	体部外面・正位	山田	9後
1-218竪-19	1区218号竪穴建物跡埋土	須恵器・杯	体部外面	□	8中
1-218竪- 2	1区218号竪穴建物跡埋土	須恵器・蓋	天井部外面	人	8中
1-235竪-38	1区235号竪穴建物跡埋土	須恵器・杯	底部外面	人田	8後
1-313竪-37	1区313号竪穴建物跡埋土	須恵器・椀	体部外面・倒位	入田	7後
1-332竪- 7	1区332号竪穴建物跡埋土	須恵器・杯	底部外面／体部外面・正位	上井／井	9中
1-357竪- 5	1区357号竪穴建物跡埋土	須恵器・杯	底部外面	入多	9中
1-1021坑-17	1区1021号土坑埋土	須恵器・椀	底部外面	入田	8後
1-外-62	1区340・-733Gr.攪乱埋土	須恵器・椀	体部外面・横位	山田	
3-10竪3	3区10号竪穴建物跡埋土	須恵器・杯	体部外面・正位(刻書二箇所)	王	8後
3-11竪2	3区11号竪穴建物跡埋土	土師器・杯	体部外面・横位	朝	9前
3-1溝	3区1号溝埋土	須恵器・皿	底部外面	山田	9後
4-1竪1	4区1号竪穴建物跡埋土	須恵器・杯	底部外面	山(『楽前遺跡』(1)で提示した釈文を訂正)	9前
4-11竪2	4区11号竪穴建物跡埋土	須恵器・杯	体部外面・正位	×人	9前
4-14竪6	4区14号竪穴建物跡埋土	須恵器・杯	体部外面・正位	乙	8後
4-1溝10	4区1号溝跡埋土	須恵器・杯	底部外面	田人	8中
4-1溝35	4区1号溝跡埋土	須恵器・蓋	外面	田人	8中

表８　群馬県内出土郡名記載土器一覧

番	出土遺跡名	出土遺構	釈文	器種	文字部位方向	年代
1	前橋市元総社寺田遺跡(国府関連)	Ⅵ区6溝埋土	邑厨	須恵・杯	底外	古代
2	〃	Ⅵ区河道埋土	佐	須恵・杯	体外正	古代
3	前橋市青梨子金古境遺跡	2号竪穴埋土	車(焼成後刻書)	土師・杯	底内	古代
4	前橋市荒子小学校校庭遺跡	14号竪穴埋土	車／車	須恵・杯	底外／体内横	古代
5	前橋市前山Ⅱ遺跡	2号竪穴埋土	車 車 火 火	土師・杯	底外	古代
6	〃	〃	車 東院／車	土師・杯	底内／底外	古代
7	〃	3号竪穴埋土	車	土師・杯	底外	古代
8	〃	3号竪穴埋土	車／車	土師・杯	底内／底外	古代
9	前橋市堤沼上遺跡	37号竪穴埋土	勢多	須恵・椀	体外横	9末
10	伊勢崎市十三宝塚遺跡	32号竪穴埋土	佐／佐	須恵・椀	底内外	古代
11	〃	37号竪穴埋土	家佐	須恵・杯	体外横	古代
12	〃	02溝埋土	左	須恵・蓋	摘	古代
13	みどり市宮久保遺跡	3号竪穴埋土	入田	須恵・皿	底外	9
14	太田市成塚住宅団地遺跡(新田郡家関連)	E151号竪穴埋土	入田(焼成前刻書)	土師・椀	体外正	9
15	太田市石橋地蔵久保遺跡(新田郡家関連)	4区2号竪穴埋土	新田　梔ヵ	須恵・杯	底外	8
16	〃	4区5号竪穴埋土	入田	土師・杯	底外	8
17	太田市境ヶ谷戸遺跡(新田郡家関連)	1次2号竪穴埋土	入	須恵・杯	底外	8
18	〃	〃	入田	須恵・蓋	内	8

番	出土遺跡名	出土遺構	釈文	器種	文字部位方向	年代
19	〃	１次９号竪穴埋土	入	須恵・椀	底外	8
20	〃	〃	入	須恵・杯	底外	8
21	〃	〃	入	土師・杯	底内	8
22	〃	〃	入ヵ	土師・杯	底内	8
23	〃	１次１号土坑埋土	入（焼成前刻書）	須恵・杯	底外	8
24	〃	４次１号竪穴埋土	入	須恵・杯	底外	8
25	〃	〃	入	須恵・椀	底外	8
26	太田市村田本郷Ⅲ遺跡（新田郡家関連）	１号溝埋土	入ヵ田	須恵・杯	底外	8
27	太田市前六供遺跡（新田郡家関連）	３号井戸埋土	新 新	須恵・皿	体内外正	９後
28	〃	〃	新	須恵・椀	体外正	９後
29	〃	〃	新	須恵・杯	体外正	９後
30	太田市中江田原遺跡（新田郡家関連）	E6号溝埋土	入	須恵・杯	底外	8
31	太田市天良七堂遺跡（新田郡家跡）	２次１号溝埋土	入田	須恵・杯	体外横	9
32	〃	〃	入田	須恵・皿	底外	9
33	〃	〃	入田	須恵・椀	底外	9
34	〃	２次３号溝埋土	入田ヵ	須恵・杯	体外正	9
35	〃	〃	入田	須恵・皿	底外	9
36	〃	２次14号竪穴埋土	入田	須恵・皿	底外	9
37	太田市楽前遺跡	１区210号竪穴埋土	山田	須恵・杯	体外正	９後
38	〃	１区218号竪穴埋土	人（「入」の意か？）	須恵・蓋	外	８中
39	〃	１区235号竪穴埋土	人田（「入田」の意か？）	須恵・杯	底外	８後
40	〃	１区313号竪穴埋土	入田	須恵・碗	体外倒	７後
41	〃	１区357号竪穴埋土	入多ヵ	須恵・杯	底外	９中
42	〃	１区1021号坑埋土	入田	須恵・椀	底外	８後
43	〃	１区攪乱	山田	須恵・椀	体外横	
44	〃	３区１号溝埋土	山田	須恵・皿	底外	９後
45	〃	４区１号竪穴埋土	山	須恵・杯	底外	９前
47	〃	４区11号竪穴埋土	×人（「入田」の意か？）	須恵・杯	体外正	９初
48	〃	４区１号溝跡埋土	田人（「入田」の意か？）	須恵・杯	底外	８中
49	〃	４区１号溝跡埋土	田人（「入田」の意か？）	須恵・蓋	外	８中
50	太田市鹿島浦遺跡	１・２区50号竪穴埋土	人（「入」の意か？）	須恵・杯	底外	９前
51	〃	７区８号竪穴埋土	入／入	須恵・碗	体外正／底外	９後
52	太田市東今泉鹿島遺跡	50号溝埋土	山田	須恵・杯	底外	8
53	大泉町専光寺付近遺跡	10号墳周溝埋土	上邑厨	須恵・高台皿	底外	９後
54	藤岡市上栗須寺前遺跡	62号竪穴埋土	多胡	灰釉・皿	底外	９後
55	〃	〃	多	須恵・椀	底外	９後
56	〃	73号竪穴埋土	多	須恵・杯	底外	９後
57	〃	93号竪穴埋土	多	須恵・杯	体外横	９後
58	〃	118号竪穴埋土	多	須恵・椀	体外倒	９後
59	〃	163号竪穴埋土	多	須恵・椀	体内	９後
60	〃	5255号土坑埋土	多	須恵・椀	体内外正	９後
61	高崎市多胡蛇黒遺跡	39号竪穴埋土	甘	須恵・杯	体外正	８後
62	安中市西裏遺跡	H2号竪穴埋土	碓×	須恵・椀	底外	９前

＊**文献1・2**.（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『元総社寺田遺跡』Ⅲ 1996、**3**.県央第一水道遺跡調査会『青梨子金古境遺跡』1995、**4**.前橋市埋蔵文化財発掘調査団『荒子小学校校庭Ⅱ・Ⅲ遺跡』1990、**5～8**.前橋市埋蔵文化財発掘調査団『前山Ⅱ遺跡』1990、**9**.（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『堤沼上遺跡』2008、**10～12**.群馬県埋蔵文化財調査事業団『史跡十三宝塚遺跡』1992、**13**.笠懸村教育委員会『笠懸村宮久保遺跡』1989、**14**.太田市教育委員会『成塚住宅団地遺跡』1990、**15～16**.（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『石橋地蔵久保遺跡』2008、**17～25**. 新田町教育委員会『境ヶ谷戸・原宿・上野井Ⅱ遺跡』1994、**26**.太田市教育委員会『市内遺跡ⅩⅡ』1996、**27～29**.新田町教育委員会『前六供遺跡・後谷遺跡・西田遺跡』2000、**30**.（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『中江田八ッ縄遺跡』1996、**31～36**.新田町教育委員会11『天良七堂遺跡』Ⅱ 2004・太田市教育委員会『天良七堂遺跡』2008、**37～49**.（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『楽前遺跡』（1）（2）2009・2010、**50～51**.（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『鹿島浦遺跡』2010、**52**.（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『東今泉鹿島遺跡』2007、**53**.大泉町教育委員会『専光寺付近遺跡』1987～1992、**54～60**.（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『上栗須寺前遺跡群』Ⅲ、**61**.（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『多胡蛇黒遺跡』1993、**62**.安中市埋蔵文化財発掘調査団西裏遺跡』2005

第７節　まとめ

第１項　本遺跡検出遺構の時期

これまでみてきたように、本書で報告する楽前遺跡の調査では、奈良時代を主体とし、縄文時代中～後期の竪穴建物跡・埋設土器が少量と古墳時代中期から平安時代中期の集落が検出された。古墳時代中後期~平安時代中期の遺構確認面と縄文時代中後期のそれとが、ほぼ同一レベルの確認面であるため、縄文時代の遺構の大部分は古墳～平安時代の集落形成によって破壊されてしまったものと考えられる。縄文時代の遺構の僅少さは、本遺跡の特色ではなく、あくまでも結果的なものと言えよう。

関東地方の古代集落遺跡では、おおむね、古墳時代後・末期、飛鳥・白鳳期頃から形成され、古墳時代後・末期と平安時代９世紀頃が集落のピークであるという消長過程をとることが多い。先に刊行した『楽前遺跡』（１）で報告したように、２～４区で検出された集落遺構の主体は7世紀末から８世紀代にかけてであった。

今回報告する１区では、集落は６世紀後半から９世紀代までほぼ連綿と継続している様子がうかがえた。西に隣接する大道東遺跡（（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団『大道東遺跡』（２）2010)、さらにその西に隣接する大道西遺跡））報告書未刊）から続く集落と考えられる。

大道西遺跡から続く集落は、大道東遺跡・本遺跡１区北側に展開した県営渡良瀬川流域地区公害防除特別土地改良事業に伴って太田市教育委員会が昭和61（1986）年から翌62年（1987）にかけて調査を行った箇所（太田市教育委員会『渡良瀬川流域遺跡群楽前遺跡発掘調査報告書』1994）及び本遺跡１区を経て、本遺跡２区の東寄りに南北に入る谷まで続いていたものと考えられ、谷を隔てる本遺跡３・４区及びその南側に隣接する鹿島浦遺跡、さらにその南側に隣接する東今泉鹿島遺跡などと近接し、大集落を形成していた様子が判明する。

実際、大道西遺跡では古墳時代後期～平安時代の竪穴建物跡約20棟、大道東遺跡では同時期の竪穴建物跡約350棟、本遺跡１区北側の太田市教育委員会調査箇所からは同時期の竪穴建物跡195棟・掘立柱建物跡13棟、鹿島浦遺跡からは同時代の竪穴建物跡約110棟・掘立柱建物跡約10棟が検出されている。

第２項　東山道駅路に近接する集落

『楽前遺跡』（１）で報告したように、本遺跡の西に隣接する大道東遺跡、そのさらに西側に隣接する大道西遺跡及び本遺跡４区の南側鹿島浦遺跡において幅12 ～ 13mに及ぶ、両側に側溝を有する古代の道路跡が検出されており、この道路遺構は、古代の宮都から東日本内陸部の諸国を縦貫し、東北地方の陸奥国府多賀城（現・宮城県多賀城市）に到る古代の一級幹線道路である東山道駅路の遺構と考えらる。

西に隣接する大道東遺跡の調査成果に因れば、この地域における古代官道の創設は、遺構の重複関係からみて7世紀中葉と考えられている。

本県における古代道路遺跡の調査研究の概要及び歴史的意義については、『楽前遺跡』（１）報告書の総括を参照されたいが、古代国家が設定した幹線道に近接する集落としての特質は、本遺跡の性格として特筆すべき点であろう。

第3項　出土文字資料

前節でみたように、本遺跡では、郡名ないしその一部が記載された土器が比較的纏まって出土している。郡名及びその関連の文字が記された墨書土器が出土する場合、なんらかの郡の施設の遺跡である可能性が高いのであるが、本遺跡の場合、所在する山田郡の郡名関連の文字よりも、西に隣接する新田郡

の郡名関連の文字が書かれているもののほうがむしろ多いという、全国でも今まで類例がないような出土の仕方をしている。

前節で述べたように、そのような状況からみれば、本遺跡は国関係の施設か、国司の出張先ということになるが、遺構の構成等からはそのようにはとても見なしがたい。

ただ、本遺跡周辺の金山丘陵北東麓一帯では大規模な窯業及び製鉄生産が行われていたことが判明しており、本遺跡や西に近接する大道西遺跡の発掘調査では粘土採掘坑跡が検出され、本遺跡の地も、そうした生産活動の一翼を担っていたことは明白である。また、本遺跡及び本遺跡４区の南側に隣接する鹿島浦遺跡では東側に竈が取り付く、東西に長い長方形状の工房様と称される特異な形状を呈した竪穴建物跡がいくつも検出されており、手工業生産との関連が強く想定されるところである。

山田郡内にある本遺跡や鹿島浦遺跡で、隣接する新田郡の郡名に関わる文字が記された土器がいくつも出土し、しかも当該郡・山田郡の郡名関連のものを上回る数量が出土していることから鑑みるならば、金山丘陵北東麓一帯で操業された大規模な窯業生産及び製鉄事業の経営主体が、上野国レベル、あるいは西に隣接する新田郡と山田郡との両郡協業による生産体制であった可能性すら想定できるであろう。また、そうした、金山丘陵及び八王子丘陵周辺で展開された手工業生産は、東山道駅路の設定とも関連して操業されたであろう。

いずれにしてもその辺りに、古代社会における本遺跡周辺の歴史的特色が存在するようである。

（参考文献）

・伊藤廉倫「群馬県下新田遺跡の道路遺構」（『季刊考古学』46　1994）
・茨城県考古学協会編『茨城県考古学協会シンポジウム　古代地方官衙周辺における集落の様相－常陸国河内郡を中心として』 2005
・太田市史編纂委員会編『太田市史　通史編　原始古代』 太田市　1996
・太田市教育委員会編『天良七堂遺跡』 2008
・柏瀬順一「上野国・下野国間における東山道の駅路の性格について」（『群馬文化』196 1984）
・金坂清則「上野国府とその付近の東山道、および群馬・佐位駅家について」（『歴史地理学紀要』16 1974）
・金坂清則「上野国」（藤岡謙二郎編『日本古代の交通路』Ⅱ大明堂1978）
・木下良「上野・下野両国と武蔵国における古代東山道駅伝路の再検討」（『栃木史学』4　1990）
・木下良編『古代を考える 古代道路』吉川弘文館 1996
・木本雅康「宝亀二年以前の東山道武蔵路について」（『古代交通研究』創刊号 1992）
・木本雅康『古代の道路事情』吉川弘文館 2000
・群馬県史編纂委員会編『群馬県史 通史編２ 原始古代２』群馬県　1991
・群馬県立歴史博物館編『第70回企画展　古代のみち－たんけん！東山道駅路－』2001
・小池浩平「東山道駅路に関する一考察－武蔵路の設置の意味について－」（『群馬県立歴史博物館紀要』21 2000）
・古代交通研究会編『日本古代道路事典』八木書店　2004
・小宮俊久「新田町市宿通遺跡の道路状遺構」（『群馬文化』223　1990）
・埼玉考古学会編『埼玉考古学会シンポジウム　坂東の古代官衙と人々の交流』2002
・坂爪久純「境町『牛堀』遺跡について」（『群馬文化』203 1984）
・坂爪久純・小宮俊久「上野国の古代道路」（『古代交通研究』創刊号1992）
・坂爪久純「上野国の古代道路－牛堀・矢ノ原ルートとそれをめぐる道路遺構について－」（『古代文化』47　1995）
・坂爪久純「上野国の東山道駅路－最近の発掘成果から－」（『古代文化』49　1997）
・坂爪久純「東山道駅路と牛堀」（『境町史3 歴史編』1997 ）
・財団法人古代學協会『東山道武蔵路の調査研究 道路遺構等確認調査報告』2001
・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編『年報』22~27　2003~2008
・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編『東今泉鹿島遺跡』2006
・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編『向矢部遺跡』2007
・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編『鹿島浦遺跡』2010
・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編『大道東遺跡』（2）2010
・静岡県考古学会編『静岡県考古学会2005年度シンポジウム　古代の役所と寺院－郡衙とその周辺』2006
・下新田遺跡発掘調査団『群馬県新田郡下新田遺跡』1992
・鈴木景二「都鄙間交通と在地秩序」（『日本史研究』379 日本史研究会1994）
・須田茂「群馬県（上野国）における東山道研究上の諸問題」（『文化財信濃』15-3 1989）
・高井佳弘「群馬県太田市大道西遺跡の推定東山道駅路」（『古代交通研究』13　2004
・高島英之『古代出土文字資料の研究』東京堂出版 2000
・高島英之『古代東国地域史と出土文字資料』東京堂出版 2006
・田中広明『地方の豪族と古代の官人-考古学が説く古代社会の権力構造-』柏書房 2003
・田中広明『国司の館－古代の地方官人たち－』学生社 2006
・土屋文明『萬葉集上野國歌私注』煥乎堂 1944
・奈良文化財研究所編『古代の官衙遺跡』Ⅰ~Ⅱ　2003~2004
・長井正欣「高崎情報団地遺跡の道路状遺構」（『古代交通研究』4　1995）
・中里正憲「群馬県砂町遺跡の古代道路遺構」（『古代交通研究』9　2000）
・中村太一『日本古代国家と計画道路』吉川弘文館 1996
・新田町誌編纂委員会編『新田町誌　第１巻　通史編』 新田町　1990
・新田町教育委員会編『入谷遺跡』Ⅰ~Ⅳ　1982 ~2002
・根本靖「所沢市東の上遺跡の性格について－『官衙的遺構』を中心に－」（『埼玉考古』37 2002）
・森田悌『日本古代の駅伝と交通』岩田書院 2000
・森田悌「古代上野国の東山道」（『群馬文化』275号 2002）

付章　２～４区出土遺物補遺

平成21年３月に刊行した『楽前遺跡』（１）に掲載することが出来なかった２～４区出土の縄文時代石器・土師器・須恵器について資料化し、報告する。

第１節　縄文時代石器

２～４区の包含層から縄文時代の石器30点が出土している。その器種及び石材の内訳は､以下の通り。

表９　２～４区出土縄文石器器種・石材一覧

器種	ホル	チャ	珪頁	細安	粗安	計
打斧	18					18
磨斧			1			1
石核		1				1
加工痕		1	1			2
凹石					3	3
石皿					3	3
多孔石				1	1	2
計	18	2	2	1	7	30

図化したのは２区から出土した打斧５点、磨斧１点、凹石１点、石皿２点、剥片１点と３区から出土した打斧1点の計11点である。

２～４区から打斧は18点が出土しているが、その内訳は、短冊型７点、撥型１点、分銅型８点、石鍬１点、不明１点である。

第２節　古墳時代以降の遺物

本報告書で報告する２～４区出土遺物補遺のなかで、古墳時代以降の遺物は、土器類が９点、石製品が３点、金属製品５点である。

出土区･遺構毎の遺物の内訳は、以下の表の通り。

表10　２～４区出土遺物補遺一覧

区	遺　構　名	出　土　遺　物
2	６号溝跡	砥石１
2	遺構外	砥石１、板碑片１
3	１号竪穴跡	鉄釘１
	10号竪穴跡	火打金１
	11号竪穴跡	鉄鎌１
	１号溝跡	土師器杯１・甕１、須恵器皿１、黒色土器鉢１
	遺構外	須恵器壷１・甕２、椀形鍛冶滓１
4	11号竪穴跡	砥石１
	18号竪穴跡	金銅製耳環１
	１号溝跡	須恵器横瓶１、短頸壷１

２区６号溝跡は、２－１区の中央からやや西寄りを北北西～南南東方向に流れる浅い溝跡。調査対象範囲での確認全長は35.3m・最大上幅1.94m・最大下幅0.74m・深さ0.49m。断面は緩やかな逆台形状を呈し、埋土は暗灰黄色砂質土ベース。時期は10世紀後半と考えられる。今回ここで報告する砥石が唯一の出土遺物である。

３区１号竪穴建物跡は、３区の中央部やや東寄りの南端に位置する竪穴建物跡で、建物跡の東北隅にかかる部分の一部が検出されたのみである。出土遺物はここに報告する鉄釘が唯一。

３区10号竪穴建物跡は、３区のほぼ中央からやや南寄りの位置にあり、主軸方位はN-70°-E。ほぼ正方形状を呈し、一辺5m・床面までの深さ0.67m・確認面積24.12㎡。埋土は暗灰褐色土ベース。時期は８世紀後半とみられる。須恵器杯が８点、同鉢が１点、土師器杯が２点、同甕が２点、土製品土錘が１点出土している。今回は鉄製の火打金を１点加える。

３区11号竪穴建物跡は、３区のほぼ中央に位置する。北東～南西方向に細長い長方形状を呈しており、長辺4m・短辺3.35m・床面までの深さ0.55m・面積12.87㎡。埋土は暗灰褐色土ベース。８世紀後半頃のものと考えられる。遺物は須恵器杯が１点と土師器杯が１点、同甕が１点。土師器杯には体部外面横位に「朝」１文字の墨書がある。ここでは、鉄鎌１点を加える。

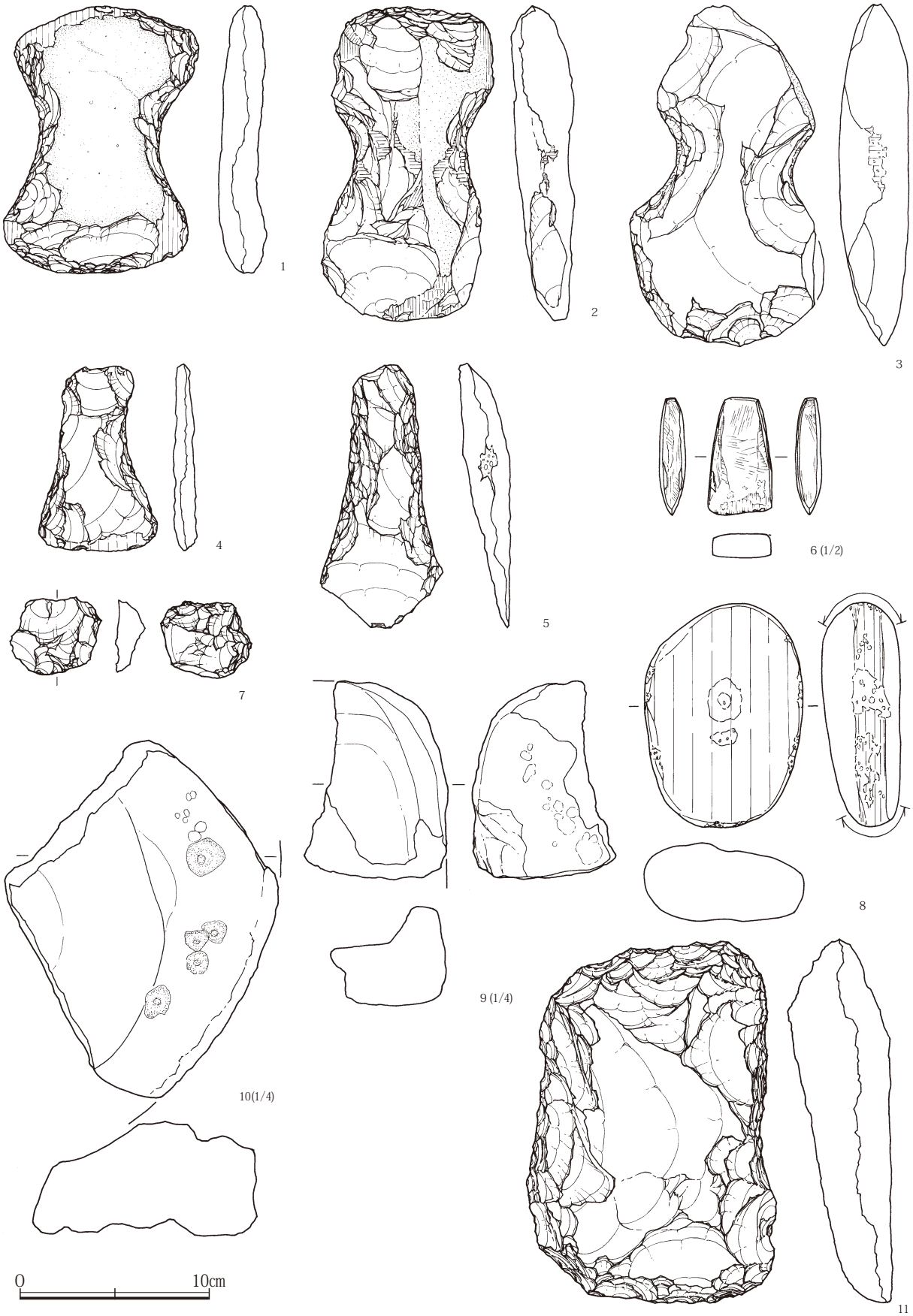
３区１号溝跡は、３区の東北端から３区の中央部南端よりの位置を斜めに横切って調査区の西南・西北端に至るコの字型の巨大な溝跡。東北端から約12.5mの位置までは北北西～南南東方向、中央部東端でおよそ直角に屈曲してから南端中央西寄りの位置までは東北東～西南西方向に、その先は調査区外に出て、西北・西南端では再び直角に屈曲して北北西～南南東方向となる。西北・西南端では溝の肩両端は検出できず、東岸と底部の東半分だけが検出できただけである。調査区の東端及び西端で検出された続きの部分は北に延びている様子が判明する。調

査対象範囲での確認全長は83.2m・推定延長は約100m・最大上幅4.8m・最大下幅1.8m・深さ1.35m。断面は逆台形状を呈し、埋土は暗黄褐色土ベース。時期は８世紀後半とみられる。最下層が砂質土･シルト質土なので、水流があったとみられるが、さほど水流によって浸食された様子はみられなかった。規模や形状から見て、相応の規模を呈するなんらかの施設等を囲った区画溝と考えられるが、調査対象範囲では、コの字型の大溝で区画された内側では竪穴建物跡群と小規模な掘立柱建物跡しか検出されず、どのような施設の範囲を区画した溝跡であるのかは明らかに出来なかった。遺物は、須恵器高台付椀が１点報告されている。今回は、これに土師器杯１点、同甕１点、須恵器高台付皿１点、黒色土器鉢１点を加える。それでも、これだけの大規模な溝跡にしては、出土遺物は僅少である。須恵器高台付皿は、底部を回転篦削した後に高台を貼り付けている。見込み部に「山田」の墨書がある。本遺跡所在地が古代の山田郡に当たるので、郡名を記したものと考えられ、注目される。また、４区５号竪穴建物跡では、ここに報告するものと同種の鉢が出土している。

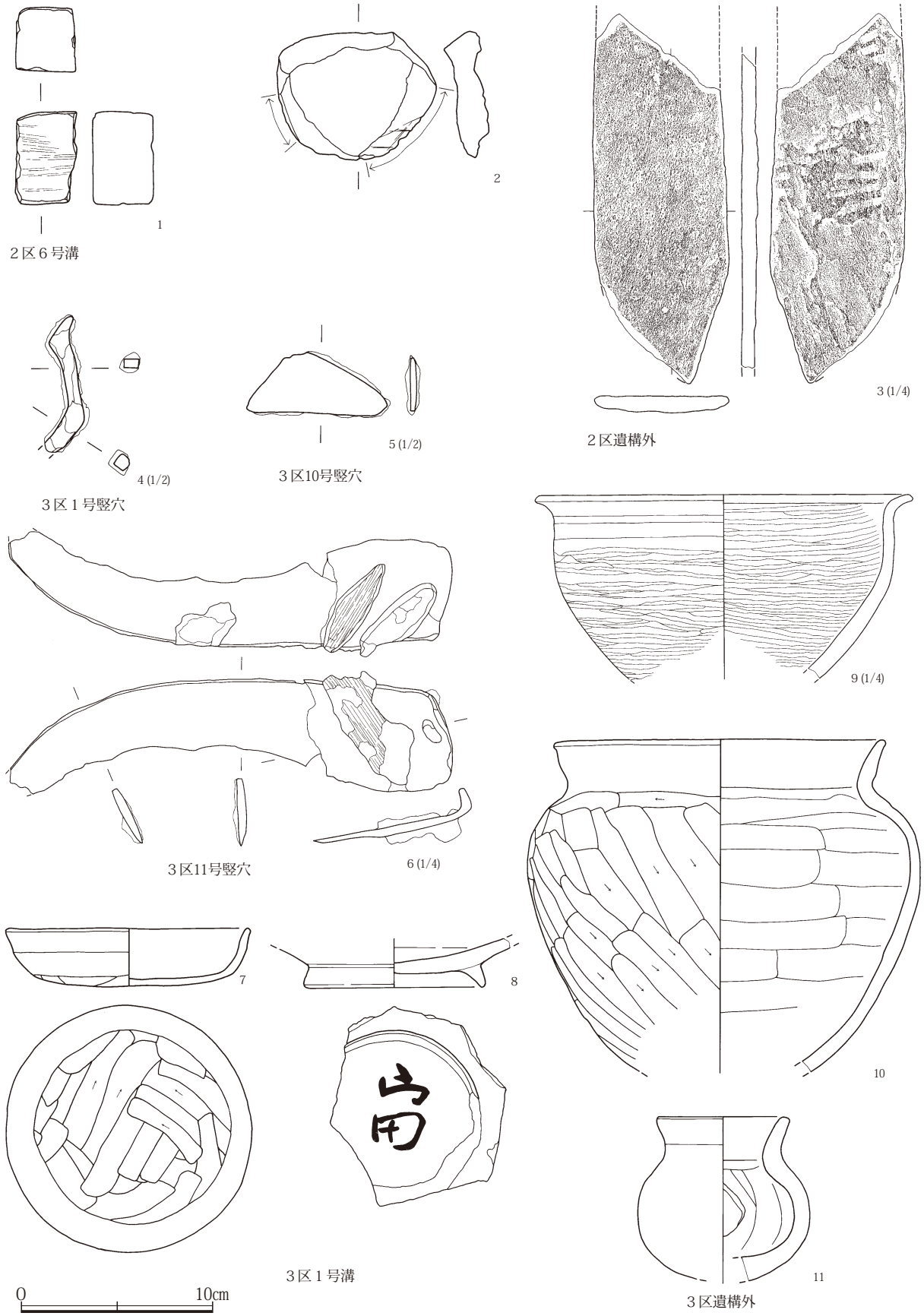
４区11号竪穴建物跡は、４区の西翼区の北西隅付近に位置し、主軸方位はN-90°-E。東西方向に細長い、所謂工房型と称する縦長の長方形状を呈し、長辺4.1m・短辺3.05m・床面までの深さ0.22m・掘り方までの深さ0.3m・面積12.52㎡。埋土は暗灰褐色土ベース。竈は東壁のほぼ中央に取り付く。時期は９世紀前半頃とみられる。遺物は、須恵器杯２点、同薬壷１点、土師器椀１点、鉄鏃１点。須恵器杯のうちの１点には、体部外面正位で「 人」と墨書されている。ここでは砥石を1点加える。

４区18号竪穴建物跡は、４区の中央南端区の西寄りの位置の北端にあり、主軸方位N-66°-E。南辺3.4m・床面までの深さ0.57m・掘り方までの深さ0.67m・確認面積7.86㎡。埋土は暗褐色土ベース。７世紀前半頃のものと考えられる。遺物は須恵器蓋１点、土師器甕１点、鉄鎌1点が報告されていた。今回は、金銅製耳環１点を加える。

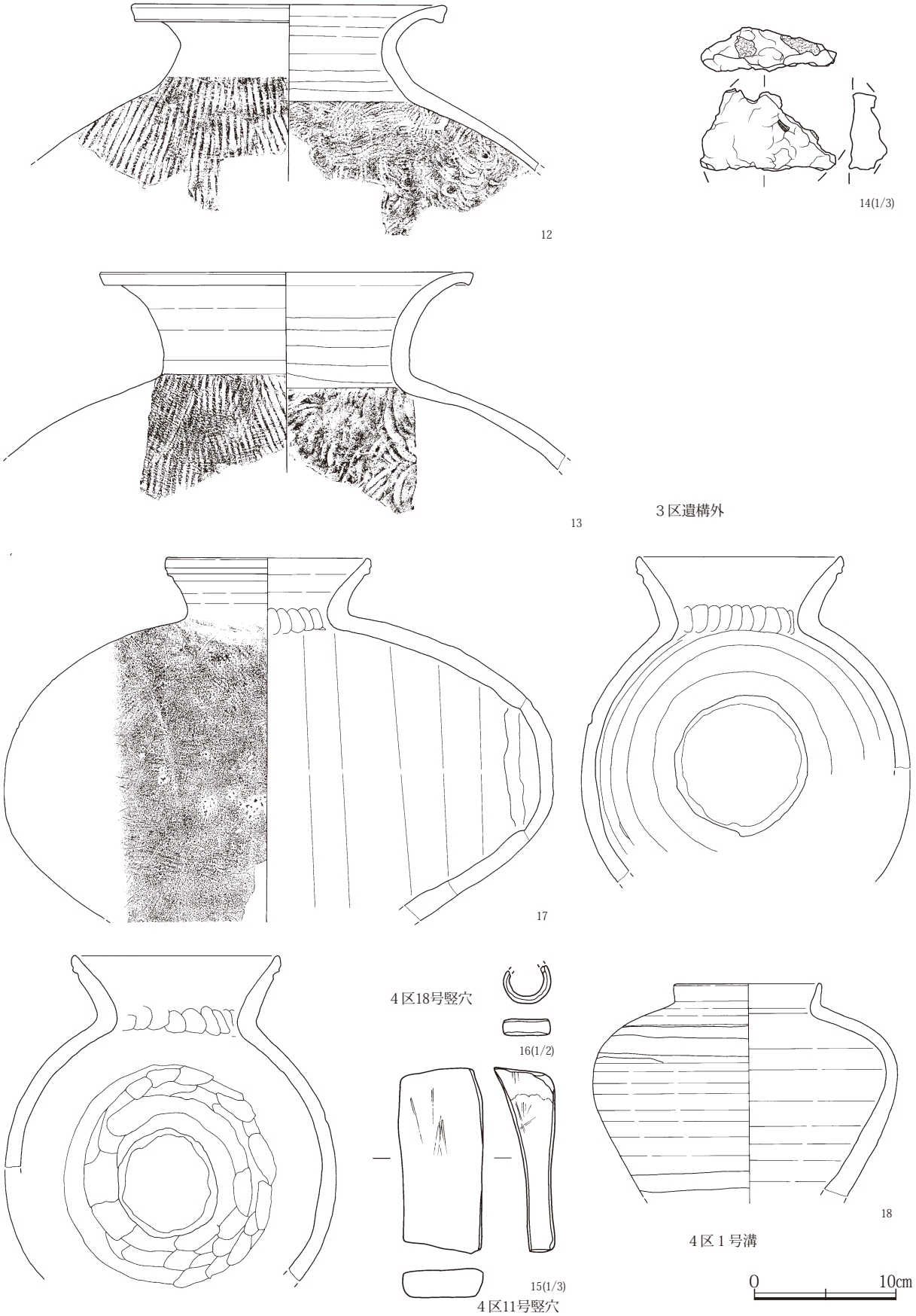
４区１号溝跡は、４区の東翼区の北東端から東端の位置を、３区の北東端から続き北西～南東から若干向きを変えて北北西～南南東方向に走向する大規模な溝跡である。３区から４区の東翼区中央位の位置まではN-45°-Wの方向で流れ、その南側では向きを北北西～南南東方向に変える。南側は調査区外に出るが、さらに南側に隣接する鹿島浦遺跡調査区に続き、北関東自動車道太田桐生インターチェンジの調査対象範囲での総延長は約300mに及んでいる。南流するに従って、南北方向の向きに近づいていく傾向が看取できる。法面の検出状況から、人為的な水路と考えられる。流路の向きが南流するに従って若干変化がみられるのは、地形に左右されてのことと考えられるが、元来は自然の流路であったものに人が手を加えて水路として利用していた可能性もあろう。４区内での確認全長は約58.5m･最大上幅3.5m・最大下幅1.8m・深さ1.2m。断面は逆台形状を呈している。埋土は灰褐砂質土ベース。時期は８世紀前半頃のものと考えられる。土師器杯５点、同椀１点、同蓋２点、同三脚付鉢１点、須恵器杯19点、同椀７点、同蓋３点、同鉢４点、同甕３点、同大甕３点、同壷１点、同長頸壺１点、同小壷１点、同壷Ｇ１点、同横瓶２点、同提甕１点、同甑１点の計56点の遺物を報告していた。今回はそれに須恵器横瓶１点と同短頸壺1点を加える。



第482図　２・３区出土遺物（縄文石器）補遺



第483図　２・３区出土遺物補遺



第484図　３・４区出土遺物補遺

古墳時代以降遺物観察表

61 号掘立柱建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
96図 1	土師器 杯	Pit2埋土 1/3	11.3　7.6 4.6	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	

62 号掘立柱建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
96図 2	土師器 杯	Pit2埋土 1/3	13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	

65 号掘立柱建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
96図 3	土師器 杯	埋土 1/6	11.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	

66 号掘立柱建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
96図 4	土師器 杯	埋土 1/5	11.6	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	

70 号掘立柱建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
96図 5	土師器 杯	埋土 1/3	12.7　3.4 稜径11.4	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から底部に花弁状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
96図 6	土師器 椀	埋土 口縁部～体部片	19.6 稜径22.4	細砂粒/良好/にぶい橙	外面稜下に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、体部（稜下)は手持ちヘラ削り。内面体部には放射状ヘラ磨き。	

71 号掘立柱建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
96図 7	土師器 杯	埋土 1/4	11.7　3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	

72 号掘立柱建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
96図 8	須恵器 壺	埋土 口縁部	15.8	細砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形。口縁部下位に 1 段の波状文が巡る。	
96図 9	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部片	12.0 6.8	細砂粒/還元焔/灰褐	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部は回転ヘラ削り。	
96図10	須恵器 杯	埋土 1/5	13.4　3.6 8.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑高台状。

74 号掘立柱建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
96図11	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	10.7	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	内面に漆付着。

76 号掘立柱建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
96図12	須恵器 杯	埋土 底部～体部下位片	13.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	

80 号掘立柱建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
96図13	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部片	18.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。体部下位はヘラ削り。	

201 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
98図 1 PL.142	須恵器 杯蓋	＋4 口縁部1/4欠損	14.0　3.6 摘み径4.3	細砂粒・褐色粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中央は回転ヘラ削り。	
98図 2 PL.142	須恵器 杯	＋8 3/5	12.8　4.1 6.8	細砂粒・褐色粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
98図 3	須恵器 杯	床直 3/5	13.2　3.6 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
98図 4	須恵器 杯	＋28 底部～体部片	7.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
98図5	須恵器 甕	埋土 胴部		細砂粒/還元焔/灰	外面には平行叩き痕、内面には同心円状アテ具痕が残る。	円形に打ち欠き二次利用か。
98図6	須恵器 椀	床直 底部片	6.8	細砂粒/還元焔/青灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
98図7	須恵器 椀	＋14 底部片	7.2	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	

202号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
99図1 PL.142	土師器 杯	＋40 完形	14.1　4.2 12.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
99図2 PL.142	土師器 杯	埋土 1/3	12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
99図3	土師器 杯	埋土 1/4	12.6 6.0	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
99図4	土師器 杯	埋土 1/4	14.6　5.0 6.0	細砂粒/良好/淡黄	口縁部横ナデ、体部は上位と中位がナデ、下位から底部は手持ちヘラ削り。	
99図5 PL.142	黒色土器 椀	床直 口縁部1/5欠損	10.9　3.8 6.4	細砂粒/酸化焔/明赤褐	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。内面は全面ヘラ磨き。	
100図6 PL.142	須恵器 杯蓋	＋13 口唇部1/3欠損	15.4　2.8 摘み径3.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
100図7 PL.142	須恵器 杯蓋	＋28、埋土 4/5	18.0　4.1 摘み径6.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
100図8 PL.142	須恵器 杯	埋土 1/2	10.7　3.4 5.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
100図9 PL.142	須恵器 杯	＋8 口縁部一部欠損	12.2　3.4 7.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削りか。	
100図10	須恵器 杯	埋土 1/2	12.4　4.1 7.8	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
100図11 PL.142	須恵器 杯	＋26、埋土 2/5	12.6　3.5 7.3	細砂粒・粗砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
100図12 PL.142	須恵器 杯	埋土 1/4	12.8　3.7 7.4	細砂粒/酸化焔ぎみ/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
100図13	須恵器 杯	＋29 1/2	12.8　3.5 7.8	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
100図14 PL.142	須恵器 杯	＋9 3/5	12.8　3.9 6.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部は疑似高台状。
100図15	須恵器 杯	埋土 1/4	14.0　3.5 9.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
100図16 PL.142	須恵器 杯	＋15、埋土 1/2	14.1　3.8 8.5	細砂粒・粗砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部をわずかに残し回転ヘラ削り、体部下位も回転ヘラ削り。	
100図17	須恵器 杯	埋土 底部片	9.8	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
100図18	土師器 杯	埋土 底部片		細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部は手持ちヘラ削り。	外面に「×」と「土」の刻書。
100図19	土師器 杯	埋土 底部～体部片		細砂粒/良好/橙	底部は手持ちヘラ削り、体部はナデ。	外面に「×」のヘラ描き。
100図20	須恵器 杯	埋土 1/2	10.2　4.5 7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
100図21 PL.142	須恵器 椀	＋12 1/3	10.6　4.6 6.4	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
101図22	須恵器 椀	床直 底部片	9.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
101図23	須恵器 鉢	埋土 口縁部片	17.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。口唇部に凸帯が貼付。	
101図24	須恵器 短頸壺	＋9 口縁～胴部上位片	10.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
101図25 PL.142	土師器 甕	＋34、埋土 口縁～胴部中位片	12.9	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
101図26	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	16.6	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
101図27 PL.142	土師器 甕	＋31、埋土 口縁～胴部上位片	19.2	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
101図28	土師器 甕	＋25、埋土 口縁～胴部上位片	19.6	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備考
101図29	土師器 甕	＋16 口縁～胴部上位片	20.3	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
101図30	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位片	4.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部から体部はヘラ削り。内面はヘラナデ、器面摩滅のため単位不鮮明。	
101図31	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位片	5.0	細砂粒/良好/にぶい橙	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
101図32	須恵器 甕	＋28 底部～胴部下位片	21.6	細砂粒/還元焔/灰	胴部は平行叩き痕が残る、底部と胴部最下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。内面に降灰が付着。	
101図33	土製品 錘	埋土 1/2	長3.1　径1.4 孔0.3　重5.4	細砂粒/良好/にぶい黄	表面はナデ。	
101図34	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	11.8 稜径11.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、底部（稜下）手持ちヘラ削り。	
101図35	土師器 杯	埋土 1/4	12.9　3.1 稜径9.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
101図36	須恵器 高杯	埋土 杯身部2/5	13.6	細砂粒・黒色粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付、底部は回転ヘラ削り。脚部に３カ所の透孔。	
101図37 PL.142	須恵器 壺	＋40 底部～胴部片	頸部径5.2 胴部径9.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回り。底部から胴部下半に叩き痕?底部はヘラ削り。	

203号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備考
102図１	手捏ね土器 椀形	埋土 1/3	5.3　3.3 3.6	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部はナデ、体部から底部はヘラナデ、内面はナデ。	

204号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備考
105図１ PL.142	土師器 杯	床直 1/2	12.3　4.9	細砂粒・粗砂粒/良好/明褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
105図２ PL.142	土師器 椀	床直 2/5	12.6　6.1	細砂粒・粗砂粒/やや不良/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削りとみられるが器面摩滅のため単位など不明。	
105図３ PL.142	土師器 高杯	埋土 脚部片		細砂粒/良好/明赤褐	外面はヘラ削りかヘラナデ、器面摩滅のため不明。内面はナデ。	
105図４ PL.142	土師器 鉢	床直 完形	12.4　10.0 6.3	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部はヘラ削り、底部はヘラナデ。内面体部から底部はヘラナデ。	
105図５ PL.142	土師器 小型甕	床直 ほぼ完形	9.7　13.8 8.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り、胴部の一部にヘラ磨き。内面胴部と底部はヘラナデ。	
105図６	須恵器 壺	床直、埋土 底部～胴部片	胴部径17.9	粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部上半はカキ目、下半から底部には平行叩き痕がかすかに残る。	外面一部に粘土付着。
105図７ PL.142	土師器 甑	床直、埋土 底部～胴部下位	6.0	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	底部、胴部ともヘラ削り。内面はヘラナデ。底部中央に1.8×1.2cmの穿孔。	

挿図NO.	図版NO.	No	器種	石材	遺構名	出土位置	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g
106		8	A①	珪粘	204竪	87	48	45	9	24.46
106	PL.143	9	A①	珪粘	204竪	⑤	67	43	9	27.09
106	PL.143	10	A①	珪粘	204竪	90	65	54	8	40.64
106		11	A①	珪粘	204竪	122	58	41	6	16.65
106		12	石核	珪粘	204竪	94	90	63	25	119.51
106		13	A①	珪粘	204竪	91	59	35	7	16.89
106		14	A①	珪粘	204竪	掘方	50	45	7	15.14
106		15	A①	珪粘	204竪	掘方	60	43	18	49.08
106		16	A①	珪粘	204竪	119	96	47	13	49.59
106		17	A①	珪粘	204竪	⑤	55	39	10	19.91
106		18	A①	珪粘	204竪	掘方	49	38	15	29.22
106		19	A①	珪粘	204竪	掘方	54	38	7	17.61
106		20	A①	珪粘	204竪	掘方	41	38	16	20.38
106		21	A①	珪粘	204竪	掘方	40	40	7	15.78
107		22	A①	珪粘	204竪	掘方	42	32	8	12.62
107		23	A①	珪粘	204竪	掘方	33	37	9	9.61
107		24	A①	珪粘	204竪	埋土	40	33	7	9.72
107		25	A①	珪粘	204竪	埋土	55	27	4	9.61
107		26	A①	珪粘	204竪	埋土	47	33	4	8.02
107		27	A①	珪粘	204竪	埋土	52	35	5	9.83
107	PL.143	28	A①	珪粘	254竪		115	109	10	203.75
107		29	A①	珪粘	204竪	89	44	35	7	11.29
107		30	A①	珪粘	239竪		51	28	12	19.17
107		31	A①	珪粘	239竪	埋土	41	31	6	8.36
107		32	A①	珪粘	203竪	竈埋土	64	42	9	26.99
107		33	A①	珪粘	278竪		74	34	12	38.52
107		34	A①	珪粘	204竪	88	149	74	10	122.33
107	PL.143	35	A①	珪粘	204竪	86	87	69	16	76.05
107		36	A②	珪粘	204竪	②	44	27	14	11.28
107		37	A②	珪粘	204竪	②	36	21	10	6.21
107		38	A②	珪粘	204竪		43	33	9	12.63
107		39	A②	珪粘	204竪	埋土	32	16	4	3.71
107		40	A②	珪粘	204竪	⑱	37	24	6	7.74
107		41	A②	珪粘	204竪	⑬	40	32	3	6.60
107		42	A②	珪粘	204竪	掘方	36	35	5	4.21
107		43	A②	珪粘	204竪	掘方	30	20	7	3.20
107		44	A②	珪粘	204竪	掘方	26	19	7	4.00
107		45	A②	珪粘	204竪	埋土	24	23	7	1.53
107		46	A②	珪粘	204竪	掘方	23	28	7	3.01
108	PL.144	47	石核	珪粘	204竪	115	180	122	40	898.36
108	PL.144	48	石核	珪粘	204竪	116	190	125	42	997.54
108		49	A②	珪粘	204竪	⑤	40	28	11	13.01
108		50	A②	珪粘	204竪	⑯	36	20	4	2.76
108		51	A②	珪粘	204竪	掘方	40	22	13	14.83

挿図NO.	図版NO.	No	器種	石材	遺構名	出土位置	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g
108		52	A②	珪粘	204竪	⑥	47	32	4	6.20
108		53	A②	珪粘	204竪	埋土	43	26	4	5.28
108		54	A②	珪粘	204竪	埋土	36	18	5	3.18
108		55	A②	珪粘	204竪	埋土	37	22	9	8.01
108		56	A②	珪粘	204竪	埋土	31	29	8	7.15
108		57	A②	珪粘	204竪	埋土	29	26	5	3.97
108		58	A②	珪粘	204竪	埋土	29	17	7	2.99
108		59	A③	珪粘	204竪	102	25	14	3	1.44
108		60	A③	珪粘	204竪	掘方	23	17	7	2.73
108		61	A③	珪粘	204竪	掘方	24	15	7	2.78
108		62	A③	珪粘	204竪	掘方	19	15	10	2.48
108		63	A③	珪粘	204竪	掘方	20	16	7	2.39
108		64	A③	珪粘	204竪	掘方	22	14	5	1.83
108		65	A③	珪粘	204竪	掘方	18	14	5	1.44
108		66	A③	珪粘	204竪	掘方	20	17	4	1.39
108		67	A③	珪粘	204竪		23	20	4	1.93
108		68	A③	珪粘	204竪		24	16	5	2.21
108		69	A③	泥岩	204竪		18	16	2	0.94
108		70	A③	珪粘	204竪	埋土	30	22	5	3.89
108		71	A③	珪粘	204竪	埋土	30	21	7	4.01
108		72	A'	珪粘	204竪	⑤	30	10	4	2.86
108		73	A'	珪粘	204竪	⑦	29	8	6	1.86
108		74	A'	珪粘	204竪	掘方	27	8	3	1.06
109	PL.143	75	A'	珪粘	204竪	6	91	26	16	36.41
109	PL.143	76	A'	珪粘	204竪	⑤	37	16	7	5.35
109	PL.143	77	A'	珪粘	204竪	⑦	35	16	9	7.92
109		78	A'	珪粘	204竪	掘方	41	8	2	1.20
109		79	A'	珪粘	204竪	掘方	40	7	6	2.10
109		80	A'	珪粘	204竪	埋土	34	9	6	3.70
109		81	A'	珪粘	204竪	埋土	35	9	4	1.97
109		82	A'	珪粘	204竪	埋土	34	7	3	1.69
109	PL.143	83	A'	珪粘	204竪	埋土	32	7	4	1.77
109		84	A'	珪粘	204竪	埋土	32	7	4	1.06
109		85	A'	珪粘	204竪	⑨	43	25	17	16.35
109	PL.143	86	A'	珪粘	202竪	埋土	66	24	6	13.70
109		87	A'	珪粘	204竪	掘方	71	26	12	21.80
109	PL.143	88	B	珪粘	204竪	②	43	35	11	14.20
109	PL.143	89	紡	珪粘	204竪	⑤	43	45	5	18.45
109	PL.143	90	B	珪粘	204竪		33	33	9	6.59
109	PL.143	91	紡	珪粘	204竪		42	38	16	22.95
109	PL.143	92	紡	珪粘	204竪	埋土	41	39	9	25.34
109	PL.143	93	B	珪粘	204竪	②	25	26	9	5.43
109		94	B	珪粘	249竪		28	28	4	4.72
109	PL.143	95	B	珪粘	251竪	埋土	30	28	6	6.31
109	PL.143	96	B	珪粘	204竪		30	24	7	6.46
109	PL.143	97	B	珪粘	361竪		33	26	4	2.96
109		98	紡錘車	滑石	341竪		25	25	8	5.84
109	PL.143	99	B	珪粘	2粘土坑		70	85	17	84.75
109		100	C①	珪粘	204竪	128	15	20	5	2.31
109		101	C①	珪粘	204竪	128	16	13	7	1.87
109		102	C①	珪粘	204竪	⑥	14	12	6	1.39
109	PL.143	103	C①	珪粘	204竪	⑥	13	11	7	1.59
109	PL.143	104	C①	珪粘	204竪	⑤	16	16	7	3.25
109		105	C①	珪粘	204竪	③	11	11	3	0.58
109		106	C①	珪粘	204竪	③	10	10	2	0.34
109		107	C①	珪粘	204竪		13	13	7	1.84
109	PL.143	108	C①	珪粘	204竪	⑫	16	16	5	2.45
109	PL.143	109	C①	珪粘	204竪	埋土	18	17	5	2.43
109		110	C①	珪粘	204竪	埋土	16	22	6	2.45
109		111	C①	珪粘	204竪	埋土	18	15	6	1.63
109		112	C①	珪粘	204竪	埋土	12	18	3	1.27
109	PL.143	113	C①	珪粘	204竪	埋土	14	18	4	1.49
109		114	C①	珪粘	204竪	埋土	12	16	4	1.44
109	PL.143	115	C②	珪粘	204竪	18	16	17	8	2.51
109	PL.143	116	C②	珪粘	204竪	37	19	19	4	2.06
109		117	C②	珪粘	204竪	44	15	14	6	1.48

挿図NO.	図版NO.	No	器種	石材	遺構名	出土位置	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g
109		118	C②	珪粘	204竪	57	13	14	4	1.29
110		119	C②	珪粘	204竪	1	18	20	5	1.83
110		120	C②	珪粘	204竪	5	20	20	3	1.79
110		121	C②	珪粘	204竪	10	18	22	8	3.88
110	PL.143	122	C②	珪粘	204竪	19	17	19	8	3.18
110		123	C②	珪粘	204竪	47	16	14	7	2.13
110		124	C②	珪粘	204竪	62	14	16	8	1.96
110		125	C②	珪粘	204竪	73	16	15	7	2.34
110		126	C②	珪粘	204竪	92	20	19	7	3.83
110		127	C②	珪粘	204竪	93	17	18	6	2.56
110		128	C②	珪粘	204竪	128	20	18	5	2.33
110		129	C②	珪粘	204竪	128	20	19	4	2.08
110		130	C②	珪粘	204竪	③	17	13	5	1.38
110		131	C②	珪粘	204竪	③	14	13	5	1.44
110		132	C②	珪粘	204竪	⑤	20	20	9	3.95
110		133	C②	珪粘	204竪	⑤	18	18	4	1.76
110		134	C②	珪粘	204竪	⑤	15	15	5	1.53
110	PL.143	135	C②	珪粘	204竪	⑥	17	17	5	1.76
110	PL.143	136	C②	珪粘	204竪	⑥	15	16	4	1.34
110		137	C②	珪粘	204竪	⑥	15	14	4	1.27
110		138	C②	珪粘	204竪	⑥	16	13	6	1.48
110		139	C②	珪粘	204竪	⑦	14	15	8	2.01
110		140	C②	珪粘	204竪	⑦	14	15	6	1.58
110		141	C②	珪粘	204竪	⑮	14	16	5	1.71
110		142	C②	珪粘	204竪	⑬	16	18	7	2.57
110		143	C②	珪粘	204竪	⑬	13	12	7	1.85
110		144	C②	珪粘	204竪	P 2	22	21	10	5.67
110	PL.143	145	C②	珪粘	204竪	P 2	21	20	9	4.94
110	PL.143	146	C②	珪粘	204竪	P 2	18	19	7	3.60
110		147	C②	珪粘	204竪	P 2	19	16	8	2.87
110		148	C②	珪粘	204竪	P 2	20	18	5	2.73
110		149	C②	珪粘	204竪	P 2	17	16	8	2.83
110		150	C②	珪粘	204竪	P 2	16	16	10	3.01
110		151	C②	珪粘	204竪	P 2	14	14	6	1.96
110		152	C②	珪粘	204竪	P 5	15	16	5	1.62
110		153	C②	珪粘	204竪	P 5	16	15	6	1.99
110		154	C②	珪粘	204竪	P 2	16	18	6	1.84
110		155	C②	珪粘	204竪	P 5	16	17	8	2.45
110		156	C②	珪粘	204竪	P 6	20	19	8	3.26
110		157	C②	珪粘	204竪	P 6	14	19	6	2.39
110	PL.143	158	C②	珪粘	204竪	P 8	20	22	5	2.66
110	PL.143	159	C②	珪粘	204竪	P 8	20	20	5	2.32
110		160	C②	珪粘	204竪	P 8	15	20	3	1.76
110		161	C②	珪粘	204竪	掘方	23	21	5	2.94
110		162	C②	珪粘	204竪	P 8	17	18	6	2.36
110		163	C②	珪粘	204竪	P 8	16	18	4	1.47
110		164	C②	珪粘	204竪	掘方	23	19	9	5.04
110		165	C②	珪粘	204竪	掘方	17	20	6	2.75
110		166	C②	珪粘	204竪	掘方	21	20	5	2.63
110		167	C②	珪粘	204竪	掘方	17	20	7	3.32
110	PL.143	168	C②	珪粘	204竪	掘方	18	18	5	2.70
110		169	C②	珪粘	204竪	掘方	19	17	6	2.50
110	PL.143	170	C②	珪粘	204竪	掘方	18	16	7	2.77
110		171	C②	珪粘	204竪	掘方	17	17	8	3.12
110		172	C②	珪粘	204竪	掘方	17	15	6	2.20
110		173	C②	珪粘	204竪	掘方	16	15	9	2.98
110	PL.143	174	C②	珪粘	204竪	掘方	15	16	7	2.64
110		175	C②	珪粘	204竪	掘方	14	17	6	2.28
110		176	C②	珪粘	204竪	掘方	15	16	7	2.52
110		177	C②	珪粘	204竪	掘方	17	15	5	2.04
110		178	C②	珪粘	204竪	掘方	15	17	8	2.31
110		179	C②	珪粘	204竪	掘方	17	15	6	2.23
110		180	C②	珪粘	204竪	掘方	15	15	4	1.23
110		181	C②	珪粘	204竪	掘方	15	16	4	1.58
110	PL.143	182	C②	珪粘	204竪	埋土	19	20	7	3.18
110		183	C②	珪粘	204竪	埋土	20	19	7	3.05

古墳時代以降遺物観察表

挿図NO.	図版NO.	No	器種	石材	遺構名	出土位置	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g
110		184	C②	珪粘	204竪	埋土	17	20	5	2.36
110	PL.143	185	C②	珪粘	204竪	埋土	17	19	4	2.02
110		186	C②	珪粘	204竪	埋土	17	18	5	2.02
110		187	C②	珪粘	204竪	埋土	17	17	4	2.01
110		188	C②	珪粘	204竪	埋土	17	17	6	2.17
110		189	C②	珪粘	204竪	埋土	18	16	3	1.69
110		190	C②	珪粘	204竪	埋土	16	16	7	2.17
110	PL.143	191	C②	珪粘	204竪	埋土	16	17	8	3.01
110		192	C②	珪粘	204竪		17	18	5	2.04
110		193	C②	珪粘	204竪		19	19	4	1.69
110		194	C②	珪粘	204竪		18	17	4	1.51
110		195	C②	珪粘	204竪		14	14	8	2.04
111	PL.143	196	C②	珪粘	204竪		16	18	5	1.92
111		197	C②	珪粘	204竪		13	18	6	2.36
111		198	C②	珪粘	204竪		15	16	7	2.08
111	PL.143	199	C②	珪粘	204竪		14	15	3	1.01
111		200	D①	珪粘	204竪	17	15	16	5	1.49
111		201	D①	珪粘	204竪	22	16	17	6	2.50
111	PL.143	202	D①	珪粘	204竪	23	17	16	5	1.64
111		203	D①	珪粘	204竪	24	13	13	3	0.82
111		204	D①	珪粘	204竪	32	10	13	4	0.98
111	PL.143	205	D①	珪粘	204竪	34・35	14	17	6	2.16
111		206	D①	珪粘	204竪	0	18	15	6	12.13
111		207	D①	珪粘	204竪	63	16	15	6	1.28
111	PL.143	208	D①	珪粘	204竪	64	18	13	6	2.60
111		209	D①	珪粘	204竪	76	13	20	6	1.86
111	PL.143	210	D①	珪粘	204竪	109	18	18	6	2.13
111		211	D①	珪粘	204竪	79	14	15	4	0.80
111	PL.143	212	D①	珪粘	204竪	80	15	14	3	0.95
111	PL.143	213	D①	珪粘	204竪	112	12	13	4	1.05
111		214	D①	珪粘	204竪	114	15	18	4	1.40
111		215	D①	珪粘	204竪	128	13	13	5	0.98
111	PL.143	216	D①	珪粘	204竪	掘方	19	20	5	2.84
111	PL.143	217	D①	珪粘	204竪	掘方	17	18	7	2.73
111	PL.143	218	D①	珪粘	204竪	128	17	16	5	1.53
111	PL.143	219	D①	珪粘	204竪	掘方	18	18	6	2.00
111	PL.143	220	D①	珪粘	204竪	掘方	18	20	7	3.02
111	PL.143	221	D①	珪粘	204竪	掘方	19	19	5	2.41
111		222	D①	珪粘	204竪	掘方	17	17	5	1.91
111		223	D①	珪粘	204竪	掘方	16	18	5	1.73
111		224	D①	珪粘	204竪	掘方	16	16	6	1.92
111	PL.143	225	D①	珪粘	204竪	掘方	18	16	7	2.38
111		226	D①	珪粘	204竪	掘方	15	17	5	1.79
111		227	D①	珪粘	204竪	掘方	16	17	2	0.98
111		228	D①	珪粘	204竪	掘方	15	16	6	1.41
111		229	D①	珪粘	204竪	掘方	15	16	5	1.21
111		230	D①	珪粘	204竪	掘方	15	15	6	1.14
111	PL.143	231	D①	珪粘	204竪	掘方	16	15	3	1.36
111	PL.143	232	D①	珪粘	204竪	④7	16	14	3	1.10
111		233	D①	珪粘	204竪	②	14	14	6	1.22
111		234	D①	珪粘	204竪	⑦	16	16	5	1.73
111		235	D①	珪粘	204竪	⑧	17	15	2	1.08
111		236	D①	珪粘	204竪	埋土	16	16	9	2.66
111	PL.143	237	D①	珪粘	204竪	埋土	19	19	4	1.82
111		238	D①	珪粘	204竪	埋土	17	15	5	1.80
111		239	D①	珪粘	204竪	埋土	18	15	4	1.13
111		240	D①	珪粘	204竪	埋土	16	14	4	1.15
111	PL.143	241	D①	珪粘	204竪	P 2	19	17	5	2.39
111		242	D①	珪粘	204竪	P 2	20	18	9	3.57
111		243	D①	珪粘	204竪	P 2	17	20	6	2.52
111		244	D①	珪粘	204竪	P 2	19	17	5	2.49
111		245	D①	珪粘	204竪	P 2	15	19	5	1.85
111	PL.143	246	D①	珪粘	204竪	P 2	19	18	6	2.55
111	PL.143	247	D①	珪粘	204竪	P 2	18	15	6	2.26
111		248	D①	珪粘	204竪	P 2	17	17	6	1.77
111		249	D①	珪粘	204竪	P 2	17	16	6	2.04

挿図NO.	図版NO.	No	器種	石材	遺構名	出土位置	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g
111		250	D①	泥岩	204竪		19	20	5	1.80
111		251	D①	珪粘	204竪	P 5	16	15	6	1.49
111	PL.143	252	D①	珪粘	204竪	P 2	17	16	3	1.17
111		253	D①	珪粘	204竪	P 2	16	14	7	2.13
111	PL.143	254	D①	泥岩	204竪		19	17	6	1.77
111		255	D①	珪粘	204竪		16	17	7	1.92
111		256	D①	珪粘	204竪		17	16	8	1.90
111		257	D①	珪粘	204竪		15	14	6	1.33
111		258	D①	珪粘	204竪		15	16	7	1.56
111		259	D①	珪粘	296竪	5	18	15	6	1.42
111		260	D①	珪粘	209竪	1	18	18	6	2.58
111		261	D①	珪粘	233竪		17	17	8	3.00
111		262	D①	珪粘	265竪	29	15	18	3	1.02
111	PL.143	263	D②a	珪粘	204竪	14	19	16	9	3.31
111		264	D②a	珪粘	204竪	21	18	13	6	1.01
111		265	D②a	珪粘	204竪	8	16	12	5	0.93
111		266	D②a	珪粘	204竪	9	15	11	6	0.85
112		267	D②a	珪粘	204竪	16	18	11	5	0.90
112	PL.143	268	D②a	珪粘	204竪	25	16	11	5	0.93
112		269	D②a	珪粘	204竪	29	15	13	4	0.89
112	PL.143	270	D②a	珪粘	204竪	33	15	15	5	1.03
112	PL.143	271	D②a	珪粘	204竪	36	15	11	7	0.96
112		272	D②a	珪粘	204竪	42	15	10	6	0.92
112		273	D②a	珪粘	204竪	59	14	10	6	1.06
112		274	D②a	珪粘	204竪	60	13	9	7	0.86
112		275	D②a	珪粘	204竪	⑤	15	8	5	0.58
112		276	D②a	珪粘	204竪	69	13	11	9	1.29
112	PL.143	277	D②a	珪粘	204竪	81・82	15	10	6	1.01
112		278	D②a	珪粘	204竪	⑤	15	15	9	2.13
112		279	D②a	珪粘	204竪	⑤	15	8	9	1.20
112		280	D②a	珪粘	204竪	⑦	16	10	5	0.90
112		281	D②a	珪粘	204竪	⑨	16	14	5	0.86
112		282	D②a	珪粘	204竪	⑫	16	14	3	0.97
112	PL.143	283	D②a	珪粘	204竪	⑬	14	14	5	0.86
112	PL.143	284	D②a	珪粘	204竪	⑫	15	10	4	0.84
112		285	D②a	珪粘	204竪	⑫	15	10	4	0.78
112		286	D②a	珪粘	204竪	⑬	18	12	5	1.18
112		287	D②a	珪粘	204竪	⑬	16	11	3	0.66
112	PL.143	288	D②a	珪粘	204竪	P 2	18	14	7	1.74
112	PL.143	289	D②a	珪粘	204竪	P 2	17	13	7	1.74
112		290	D②a	珪粘	204竪	P 2	18	11	9	2.01
112		291	D②a	珪粘	204竪	P 2	16	11	7	1.56
112		292	D②a	珪粘	204竪	P 2	17	12	5	1.33
112		293	D②a	珪粘	204竪	P 2	14	9	9	1.38
112		294	D②a	珪粘	204竪	P 2	15	10	6	1.13
112		295	D②a	珪粘	204竪	P 5	19	15	7	1.99
112		296	D②a	珪粘	204竪	P 5	20	14	5	1.57
112		297	D②a	珪粘	204竪	P 5	17	13	10	2.47
112		298	D②a	珪粘	204竪	P 5	16	16	7	1.56
112		299	D②a	珪粘	204竪	P 5	16	10	5	0.94
112		300	D②a	珪粘	204竪	P 5	18	13	7	1.65
112		301	D②a	珪粘	204竪	P 5	17	12	6	1.25
112		302	D②a	珪粘	204竪	P 5	15	11	6	0.92
112		303	D②a	珪粘	204竪	P 7掘方	16	12	4	1.06
112		304	D②a	珪粘	204竪	掘方	19	12	7	1.97
112		305	D②a	珪粘	204竪	掘方	17	15	5	1.23
112		306	D②a	珪粘	204竪	掘方	16	13	3	0.86
112		307	D②a	珪粘	204竪	掘方	16	14	5	1.20
112		308	D②a	珪粘	204竪	掘方	15	11	4	0.58
112		309	D②a	珪粘	204竪	掘方	15	11	4	0.85
112		310	D②a	珪粘	204竪	掘方	15	15	5	0.98
112		311	D②a	珪粘	204竪	掘方	15	10	5	0.83
112		312	D②a	珪粘	204竪	掘方	15	10	6	0.69
112		313	D②a	珪粘	204竪		14	11	7	1.22
112		314	D②a	珪粘	204竪		16	13	7	1.54
112		315	D②a	珪粘	204竪		15	9	6	0.87

挿図NO.	図版NO.	No	器種	石材	遺構名	出土位置	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重量 g
112		316	D②a	珪粘	265竪	28	17	10	4	0.61
112	PL.143	317	D②b	珪粘	204竪	72	13	9	4	0.49
112		318	D②b	珪粘	204竪	84	11	7	5	0.49
112		319	D②b	珪粘	204竪	⑦	16	12	5	1.17
112		320	D②b	珪粘	204竪	⑦	16	11	4	0.91
112	PL.143	321	D②b	珪粘	204竪	⑦	14	9	4	0.65
112		322	D②b	珪粘	204竪	⑧	12	8	3	0.43
112		323	D②b	珪粘	204竪	⑦	14	11	3	0.56
112		324	D②b	珪粘	204竪	⑧	13	6	5	0.46
112		325	D②b	珪粘	204竪	⑧	12	7	4	0.46
112		326	D②b	珪粘	204竪	⑫	14	10	4	0.74
112	PL.143	327	D②b	珪粘	204竪	P 2	17	16	6	1.81
112		328	D②b	珪粘	204竪	P 2	18	14	5	1.25
112		329	D②b	珪粘	204竪	P 2	15	15	5	1.17
112		330	D②b	珪粘	204竪	P 3	14	13	7	1.34
112	PL.143	331	D②b	珪粘	204竪	P 5	13	11	6	0.98
112		332	D②b	珪粘	204竪	P 5	11	7	6	0.42
112		333	D②b	珪粘	204竪	掘方	15	11	4	0.72
112		334	D②b	珪粘	204竪	掘方	19	10	4	1.10
112		335	D②b	珪粘	204竪		16	10	6	1.42
112		336	D②b	珪粘	204竪		17	10	4	0.93
112	PL.143	337	D②b	珪粘	204竪		17	11	4	1.03
112		338	D②b	珪粘	204竪	掘方	13	11	4	0.69
112	PL.143	339	D②b	珪粘	204竪		13	9	3	0.47
112	PL.143	340	D②b	珪粘	204竪		12	9	5	0.51
112		341	D②b	珪粘	204竪		11	7	5	0.48
112		342	D②b	珪粘	204竪		16	10	5	1.02
112		343	D②b	珪粘	204竪		14	9	4	0.71
112	PL.143	344	D②b	泥岩	204竪		12	9	6	0.67
112		345	D③	珪粘	204竪	掘方	16	13	13	3.43
112	PL.143	346	D③	珪粘	204竪	掘方	17	13	7	1.93
112		347	D③	珪粘	204竪	掘方	17	17	6	1.39
112		348	D③	珪粘	204竪	掘方	21	14	9	1.80
113		349	D③	珪粘	204竪	⑫	16	11	6	1.39
113		350	D③	珪粘	204竪	⑫	16	14	3	1.07
113		351	D④	珪粘	204竪	4	12	12	3	0.51
113		352	D④	珪粘	204竪	30	13	12	6	0.77
113		353	D④	珪粘	204竪	P 5	12	13	8	1.62
113	PL.143	354	D④	珪粘	204竪	⑦	13	11	6	0.86
113	PL.143	355	D④	珪粘	204竪		14	13	6	1.64
113		356	D④	珪粘	204竪		15	13	4	0.98
113		357	D④	珪粘	204竪	⑥	17	14	5	1.83
113		358	D④	珪粘	204竪	⑬	14	12	10	2.62
113		359	D④	珪粘	204竪		13	10	10	1.60
113	PL.143	360	D④	珪粘	204竪		9	13	4	0.82
113		361	D④	珪粘	204竪		18	12	3	0.72
113		362	E	珪粘	204竪	51	11	13	6	1.38
113	PL.143	363	E	珪粘	204竪	P 2	17	15	6	1.92
113	PL.143	364	E	珪粘	204竪	P 2	14	12	6	1.38
113	PL.143	365	E	珪粘	204竪		11	11	2	0.36
113	PL.143	366	E	珪粘	204竪	12	16	13	4	1.60
113	PL.143	367	E	珪粘	204竪	9	21	18	6	3.02
113	PL.143	368	F	珪粘	204竪	24・27	13	13	6	1.34
113	PL.143	369	F	珪粘	204竪	2	13	11	8	1.67
113	PL.143	370	F	珪粘	204竪	40	13	14	7	1.60
113	PL.143	371	F	珪粘	204竪	41	14	14	5	1.60
113	PL.143	372	F	珪粘	204竪	⑦	12	12	5	1.00
113	PL.143	373	F	珪粘	204竪	61	14	15	6	1.64
113	PL.143	374	F	珪粘	204竪	掘方	12	11	6	0.92
113	PL.143	375	F	珪粘	204竪	掘方	13	12	7	1.51
113	PL.143	376	F	珪粘	204竪	掘方	15	15	6	1.60
113	PL.143	377	F	珪粘	204竪	掘方	17	17	7	3.06
113	PL.143	378	F	珪粘	204竪	掘方	17	18	7	3.04
113	PL.143	379	F	珪粘	204竪	掘方	15	16	9	2.97
113	PL.143	380	F	珪粘	204竪	掘方	13	12	4	0.97
113	PL.143	381	F	珪粘	204竪	掘方	13	13	2	0.65
113	PL.143	382	F	珪粘	204竪	掘方	13	13	5	1.12
113	PL.143	383	F	珪粘	204竪	掘方	12	13	6	1.24
113	PL.143	384	F	珪粘	204竪	掘方	14	14	5	1.55
113	PL.143	385	F	珪粘	204竪	掘方	13	13	6	1.41
113	PL.143	386	F	珪粘	204竪		14	13	3	0.76
113	PL.143	387	F	珪粘	204竪		13	12	8	1.66
113	PL.143	388	F	珪粘	204竪		13	13	5	0.92
113	PL.143	389	F	珪粘	204竪		12	12	3	0.51
113	PL.143	390	F	珪粘	303竪	7	15	15	5	1.07
113	PL.143	391	F	珪粘	350-820		12	12	3	0.68
113		392	剣形	滑石	208竪	埋土	31	34	11	15.61
113	PL.144	393	台石	粗安	204竪	120	368	172	97	8.70kg
113	PL.144	394	砥石	粗安	204竪	95	185	113	43	1.46kg
113	PL.144	395	敲石	溶凝	204竪	埋土	192	66	43	611.21

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
105図396		鉄器	不明	埋土	一部片	3.2	1.2	0.4	1.4	表面は錆化が進んでいる。

205号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径 高さ 底径 (cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴 他	備考
115図1	須恵器 皿	埋土 1/4	12.7 6.4	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付であるが剥落、底部は回転糸切り。	
115図2 PL.144	須恵器 杯蓋	埋土 3/4	16.5 3.5 摘み径4.4	細砂粒・粗砂粒/酸化焔ぎみ/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
115図3	須恵器 杯蓋	＋20 天井部片	摘み径4.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
115図4	須恵器 杯蓋	埋土 天井部片	摘み径4.1	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
115図5	須恵器 杯	埋土 1/2	12.4 4.0 8.0	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
115図6	須恵器 杯	埋土 1/5	11.8 3.2 7.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
115図7 PL.144	須恵器 杯	＋37 1/2	13.0 3.5 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	
115図8	須恵器 杯	＋35、埋土 2/5	12.8 3.5 7.8	細砂粒/酸化焔ぎみ/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
115図9	須恵器 杯	埋土 1/4	11.2 3.5 6.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備考
116図10 PL.144	須恵器 杯	＋33、埋土 4/5	12.4　3.9 7.2	細砂粒・褐色粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
116図11 PL.144	須恵器 杯	床直、埋土 3/5	12.9　3.8 6.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
116図12	須恵器 杯	床直、埋土 2/5	13.0　4.5 6.7	細砂粒/還元焔/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
116図13	須恵器 杯	埋土 1/4	13.2　3.4 8.4	細砂粒/還元焔/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
116図14 PL.144	須恵器 杯	床直 4/5	13.2　4.1 6.6	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
116図15 PL.144	須恵器 椀	＋11 完形	12.4　3.1 6.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。口縁部に歪み。	
116図16 PL.144	須恵器 椀	＋13 完形	13.3　3.7 6.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。口縁部に歪み。	
116図17 PL.144	須恵器 杯	＋20 2/3	13.4　3.8 7.2	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面口縁部にヘラ傷。
116図18 PL.144	須恵器 椀	＋24 4/5	13.6　3.4 7.2	細砂粒/還元焔/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。口縁部に歪み。	
116図19	須恵器 杯	埋土 底部～体部片	7.8	細砂粒・礫/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周辺を回転ヘラ削り。	
116図20	須恵器 杯	＋17 底部	6.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
116図21	須恵器 杯	＋23、埋土 2/5	13.0　4.5 9.2	細砂粒/還元焔/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削りか。	
116図22	須恵器 杯	＋9 底部～体部片	9.2	細砂粒・褐色粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部ナデ。	
116図23	須恵器 椀	埋土 底部～体部片	12.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
116図24	須恵器 双耳杯	埋土 口縁部～耳部片		細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形。耳部は貼付。耳部は表裏ともヘラナデ。	
116図25	土師器 甕	＋5、埋土 口縁～胴部上位片	23.6	細砂粒/良好/赤褐	頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
116図26	土師器 台付甕	＋13、埋土 脚部～胴部下位	脚径9.8	細砂粒/良好/赤褐	脚部は貼付、胴部はヘラ削り、脚部は横ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
116図27	土製品 錘	＋7 完形	長5.2　径2.4 孔0.6　重27.4	細砂粒/良好/橙	表面はナデ	

206号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備考
118図1 PL.144	須恵器 杯	床直 ほぼ完形	12.8　3.6 6.4	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
118図2	須恵器 杯	埋土 1/4	13.6　3.6 7.8	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
118図3 PL.144	須恵器 杯	埋土 1/2	11.2　4.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
118図4	須恵器 杯	埋土 口縁部～体部片	9.4 蓋受け径12.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	残存部の最下部から高杯かも。
119図5	須恵器 壺	埋土 口縁部片	11.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。内面は口唇部下から頸部にかけてヘラナデ。	
119図6	須恵器 甕	埋土 口縁部片		細砂粒/還元焔/黄灰	口縁部はロクロ整形、外面に凹線による区画、区画内は波状文が巡る。内面は下半がヘラナデ。	

208号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備考
121図1	黒色土器 椀	埋土 口縁部片	13.2	細砂粒/酸化焔/橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。内面はヘラ磨き。	
121図2 PL.144	須恵器 杯蓋	＋14 ほぼ完形	11.4　2.0 摘み径3.0	細砂粒/還元焔/明 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
121図3 PL.144	須恵器 杯	＋49、埋土 2/5	13.5　3.5 6.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
121図4 PL.144	須恵器 椀	＋42 4/5	15.4　4.9 7.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部は疑似高台状。
121図5	須恵器 椀	埋土 底部片	12.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
121図６	須恵器 鉢	埋土 口縁部～体部片	12.8	細砂粒/酸化焔燻し /黒褐	ロクロ整形、回転方向不明。体部は上位と中位はヘラナデ、下位は回転ヘラ削り。	
121図７	須恵器 鉢	埋土 底部～体部片	8.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部は粗いカキ目、底部はヘラナデ。内面底部もヘラナデ。	
121図８	土師器 甕	＋16 口縁～胴部上位片	21.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
121図９	土師器 甕	竈 口縁～胴部上位片	20.4	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
121図10 PL.144	土師器 杯	床直、埋土 ほぼ完形	13.8　4.0 稜径12.2	細砂粒/やや良好/ にぶい黄褐	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
121図11	須恵器 杯蓋	埋土 1/4	10.8	細砂粒・粗砂粒/還 元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。摘みは貼付であるが剥落。天井部は口唇部を除く回転ヘラ削り。	
121図12	須恵器 杯蓋	埋土 1/5	12.8	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回りか。摘みは貼付であるが剥落。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
121図13	須恵器 平瓶	埋土 把手片		細砂粒/酸化焔/に ぶい橙	表面はヘラ削り。胴部との接地面は櫛描きが施されている。	
121図14	須恵器 甕	埋土 口縁部小片		細砂粒/還元焔/灰	口唇部は端部と下位に凹線が各１条ずつ巡る、口縁部は波状文が巡る。	
121図15 PL.144	手捏ね土器 椀形	＋13 ほぼ完形	6.4　3.3 5.5	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は内外ともナデ、底部は外面に木葉痕が残り、内面はナデ。	
122図16	土師器 杯	＋13、埋土 1/2	19.7　4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
121図17 PL.144	土師器 杯	＋９、埋土 1/3	12.0	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	

挿図 N0. 図版 N0.	種別 器種	出土位置 残 存 率	全長 (cm)　幅 (cm) 厚さ (cm)　重量 (g)	石材	特　徴
122 図 18 PL.144	石製品 砥石	埋土 完形	7.0　3.8 2.0　94.1	砥沢石	表裏、両側面を使用、上面、下面も丁寧な整形。表面上位に深さ０５cmの小孔。
122 図 19 PL.144	石製品 砥石	埋土 完形	12.5　3.6 3.0　124.0	砥沢石	表裏、側面ともに使用、特に表裏面の使用が激しい。上面、下面の整形は比較的丁寧であるが、敲打痕が残る。

209 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
123図１	須恵器 壺	床直 口縁～胴部上位片	18.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。口唇部下に１条の小凸帯が巡る.	

210 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
124図１ PL.144	須恵器 杯	埋土 口縁部片	12.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	口縁部外面に「山田」の墨書。
124図２	土師器 甕	床直、埋土 底部～胴部下位片	7.0	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	底部、胴部はヘラ削りであるが、器面摩滅のため単位不鮮明。内面はヘラナデ。	

211 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
126図１ PL.144	土師器 杯	＋６、埋土 口縁部一部欠損	12.1　3.5 5.0	細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
126図２ PL.144	須恵器 皿	床直 完形	12.1　3.8 6.2	細砂粒・粗砂粒/還 元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラ削り。焼成時の歪みが大きい。	
126図３ PL.144	須恵器 椀	床直、埋土 5/6	11.4　4.3 6.1	細砂粒・粗砂粒/還 元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
126図４	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	20.2	細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
126図５	瓦 平瓦	床直 端部片		粗砂粒・褐色粒/酸 化焔/にぶい褐	表面は布目痕が残る。側面はヘラ削りか。裏面はヘラナデ。	

212 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
127図１	須恵器 皿	埋土 1/4	11.7　8.8	細砂粒/酸化焔/に ぶい褐	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は高台貼付時のナデ。	
127図２ PL.145	須恵器 杯	＋14 ほぼ完形	12.3　4.1 5.6	細砂粒・粗砂粒/還 元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
127図３ PL.145	須恵器 杯	床直 完形	12.6　3.4 5.6	細砂粒・粗砂粒/還 元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
127図 4 PL.145	須恵器 杯	床直 完形	13.0　4.0 6.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
127図 5 PL.145	須恵器 椀	＋18 ほぼ完形	14.4　6.2 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	

213 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
128図 1 PL.145	須恵器 杯蓋	埋土 3/5	13.2　2.8 摘み径2.5	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	

214 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
129図 1 PL.145	須恵器 蓋	床直 ほぼ完形	14.0　1.9	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。口縁部端部に凹線が巡る。	外面の降灰付着の状態から蓋とする。
129図 2 PL.145	須恵器 杯蓋	床直、埋土 3/4	17.0　4.1 摘み径4.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	内面にススが付着。
129図 3	須恵器 杯	＋4 1/3	12.7　3.2 7.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
129図 4	須恵器 杯	＋10 1/3	12.2　3.2 7.5	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り、体部下位も回転ヘラ削り。内面は底部中程に回転によるヘラナデ。	
129図 5 PL.145	須恵器 杯	床直 3/4	13.1　3.8 8.0	細砂粒・褐色粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
130図 6	須恵器 杯	埋土 1/5	13.1　3.0 8.4	細砂粒・礫/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
129図 7	須恵器 杯	床直 1/3	13.6　4.4 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央をわずかに残して回転ヘラ削り。	
130図 8	須恵器 杯	埋土 1/2	14.6　4.4 8.6	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
130図 9	須恵器 鉢	埋土 1/2	13.8　10.0 8.0	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。口縁部に２条の凹線と１段の波状文が巡る、体部下位は回転ヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
130図10 PL.145	土製品 紡錘車	床直 完形	径6.0　厚1.8 孔0.7重61.0	微砂粒/良好/にぶい赤褐	表裏ともヘラナデ、表面は擦れで不鮮明。側面はヘラ磨きか単位不鮮明。	裏面径4.2。

挿図 NO. 図版 NO.	種別 器種	出土位置 残 存 率	全長 (cm)　幅 (cm) 厚さ (cm)　重量 (g)	石材	特　徴
130 図 11 PL.145	石製品 紡錘車	埋土 一部欠損	4.5　4.3 2.0　49.5	砥沢石	表裏、側面ともに研磨痕、特に裏面に顕著に残る。

215 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
132図 1	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	14.8	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。内面は底部から体部にヘラ磨き。	
132図 2	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
132図 3	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	12.8 11.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
132図 4	土師器 杯	埋土 1/5	13.8　4.0 8.0	細砂粒/良好/にぶい橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
132図 5 PL.145	須恵器 杯蓋	埋土 口縁部3/4欠損	15.0　3.2 摘み径4.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
133図 6 PL.145	須恵器 杯蓋	埋土 3/5	17.6　3.3 摘み径3.5	細砂粒/酸化焔/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
133図 7	須恵器 杯蓋	埋土 1/2	18.0　4.5 摘み径3.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中央は回転ヘラ削り。	
132図 8	須恵器 杯蓋	埋土 天井部片	摘み径5.2	細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中央は回転ヘラ削り。	
133図 9	須恵器 杯蓋	埋土 天井部～口縁部片	16.6	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
133図10	須恵器 杯蓋	埋土 口縁部片	18.8	細砂粒・黒色粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
133図11	須恵器 杯	埋土 1/2	11.8　3.2 7.0	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備考
133図12	須恵器 杯	埋土 1/3	12.2　3.2 7.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
133図13	須恵器 杯	埋土 1/5	12.7　3.8 7.0	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
133図14 PL.145	須恵器 杯	埋土 2/3	12.5　3.4 7.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央をわずかに残して回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
133図15	須恵器 杯	埋土 1/4	12.4　3.8 8.0	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
133図16	須恵器 杯	埋土 3/4	12.8　3.1 7.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
134図17 PL.145	須恵器 杯	＋9 1/2	13.2　3.5 7.6	細砂粒/酸化焔/にぶい赤褐	ロクロ整形､回転右回り。底部は器面剥落のため不明。	
134図18 PL.145	須恵器 杯	＋25 口縁部1/4欠損	13.4　3.9 8.2	細砂粒・褐色粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
134図19 PL.145	須恵器 杯	埋土 1/3	13.6　3.5 8.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	外面底部中央に「十」の刻書。
134図20	須恵器 杯	埋土 2/5	13.8　3.8 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り後周囲を回転ヘラ削り。	
134図21	須恵器 杯	埋土 1/3	13.8　3.5 8.0	細砂粒・褐色粒/酸化焔ぎみ/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラ削り。	
134図22	須恵器 杯	埋土 2/5	14.0　4.0 8.2	細砂粒/酸化焔ぎみ/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り後中央部を残して大部分回転ヘラ削り。	
134図23	須恵器 杯	埋土 1/3	12.2　3.1 7.0	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
134図24	須恵器 杯	＋28 1/2	13.0　3.8 8.0	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後ほぼ全面回転ヘラ削り。	
134図25	須恵器 杯	埋土 1/4	13.2　3.5 7.6	細砂粒・褐色粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
134図26	須恵器 杯	埋土 1/3	13.2　3.7 7.0	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
134図27	須恵器 杯	埋土 3/5	13.2　3.8 7.8	細砂粒・褐色粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	
134図28	須恵器 杯	埋土 3/5	13.6　3.9 7.2	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
134図29	須恵器 杯	埋土 底部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転ヘラ削り。	
134図30	須恵器 杯	埋土 底部～体部片	6.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
134図31	須恵器 杯	埋土 底部～体部片	6.8	細砂粒/還元焔/灰褐	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
134図32	須恵器 杯	埋土 底部	7.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
134図33	須恵器 杯	＋7 底部片	8.0	細砂粒/還元焔/オリーブ灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラ削り。	
134図34	須恵器 杯	埋土 底部～体部片	8.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。	底部にヘラ描き。
135図35	須恵器 杯	埋土 底部～体部片	7.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
135図36	須恵器 杯	埋土 底部	6.8	細砂粒・黒色粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲をヘラ削り。	体部を打ち欠き二次利用か。
135図37	須恵器 椀	＋46 1/4	11.4　5.1 8.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
135図38	須恵器 杯	埋土 2/5	11.6　4.1 7.0	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。	
135図39 PL.145	須恵器 杯	＋44、埋土 4/5	12.2　4.4 9.6	細砂粒・褐色粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
135図40 PL.145	須恵器 杯	＋16、埋土 3/4	13.1　4.8 10.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
135図41	須恵器 杯	埋土 1/2	13.5　5.3 9.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
135図42	須恵器 椀	埋土 底部	9.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
135図43	須恵器 杯	埋土 底部	8.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
135図44	須恵器 壺	埋土 底部片	13.6	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。胴部は打ち欠きか。	底部擦れており硯に転用か。

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
135図45	土師器 甕	埋土 口縁部片	20.2	細砂粒・褐色粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ。	
135図46	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	20.1	細砂粒/良好/にぶい褐	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
135図47	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	20.8	細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
135図48	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位片	4.6	細砂粒/良好/暗赤褐	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
135図49	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位片	5.0	細砂粒・褐色粒/良好/にぶい黄橙	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
135図50 PL.145	須恵器 硯	埋土 一部片	13.1　7.5 14.2	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転方向不明。脚部に4カ所に長方形の透孔、縦横と小円形の凹線が施文。	
挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特　徴	
135図51	石製品 紡錘車	埋土 1/3	1.9　6.9	砥沢石	表裏、側面とも研磨か。	

216号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
138図1	土師器 杯	＋7、埋土 1/2	12.1　3.9 稜径13.0	細砂粒/良好/黒褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗り。
138図2 PL.146	土師器 杯	床直 ほぼ完形	13.0　3.3 稜径14.3	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。 底部「×」ヘラ書き。
138図3 PL.146	土師器 杯	＋5 5/6	13.4　3.4 稜径14.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部の放射状ヘラ磨き。	内外面漆塗りか。
138図4 PL.146	土師器 杯	埋土 4/5	13.4　3.7 稜径12.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗りか。
138図5 PL.146	土師器 杯	埋土 3/4	14.2　4.1 稜径13.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗り。
138図6 PL.146	土師器 杯	＋8 ほぼ完形	14.5　3.5 稜径14.1	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
138図7 PL.146	土師器 甕	＋4、埋土 口縁部～胴部上位	16.6	粗砂粒・礫/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	カマド袖芯材。
138図8	土師器 甕	床直、埋土 口縁～胴部上位片	20.5	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

217号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
140図1 PL.146	土師器 杯	＋9、埋土 1/2	16.2　3.5	細砂粒・褐色粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
140図2	土師器 杯	床直、埋土 2/5	10.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
140図3 PL.146	土師器 杯	＋22、埋土 3/4	11.9　3.6	細砂粒・褐色粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
140図4 PL.146	土師器 杯	埋土 4/5	12.0　3.4	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
140図5	土師器 杯	埋土 1/5	12.0	細砂粒/良好/橙	口唇部横ナデ、口縁部から底部はヘラ削りであるが、器面摩滅のため単位不鮮明。	
140図6 PL.146	土師器 杯	床直、＋8 1/2	14.0	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部の整形は器面摩滅のため単位不鮮明。	内面上部に漆付着。
140図7 PL.146	土師器 鉢	竈、＋18 4/5	17.4　11.7 10.0	細砂粒・粗砂粒少/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面体部から底部はヘラナデ。	
140図8 PL.146	土師器 甑	床直、＋25、埋土 口縁～胴部上半片	24.3	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削りか、器面摩滅のため単位不鮮明。内面胴部はヘラナデ。	
141図9 PL.146	土師器 甕	床直、＋7 口縁～胴部上半片	18.0	細砂粒・粗砂粒少/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
141図10 PL.146	土師器 甕	埋土 ほぼ完形	23.2　37.7 5.5	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、底部もヘラ削りか。内面胴部はヘラナデ。	カマド袖芯材。
144図11 PL.147	土師器 甕	床直、＋13、埋土 口縁～胴部上半片	25.5	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
141図12 PL.147	土師器 甕	＋7、埋土 1/3	24.6　32.5 4.4	細砂粒多/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	カマド袖芯材。
141図13 PL.147	土師器 甕	＋11 口縁～胴部上半片	21.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

218号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
144図1	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	12.8	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
144図2 PL.147	須恵器 杯蓋	＋12 天井部片	摘み径4.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	外面天井部に「人」の墨書。
144図3 PL.147	須恵器 杯蓋	＋18 3/4	18.4　4.2 摘み径3.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
144図4	須恵器 杯蓋	埋土 天井部片	摘み径4.4	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
144図5	須恵器 杯蓋	埋土 摘み	摘み径5.5	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付。	
144図6	須恵器 杯蓋	埋土 1/2	13.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
144図7	須恵器 杯	埋土 1/5	12.6　3.6 8.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
144図8	須恵器 杯	埋土 1/4	12.6　3.3 7.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
144図9	須恵器 杯	埋土 1/3	12.6　3.4 7.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
144図10	須恵器 杯	埋土 3/5	12.7　3.9 7.8	細砂粒・粗砂粒微/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
144図11	須恵器 杯	＋24 2/5	13.0　3.2 8.0	細砂粒・粗砂粒微/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
144図12 PL.147	須恵器 杯	＋25 ほぼ完形	13.2　3.9 6.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
144図13 PL.147	須恵器 杯	＋８ ほぼ完形	13.2　3.7 7.5	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	
144図14 PL.147	須恵器 杯	＋25 完形	13.6　3.9 8.3	細砂粒・褐色粒/酸化焔ぎみ/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後ほぼ全面回転ヘラ削り。	
144図15	須恵器 杯	＋12 1/5	13.8　3.4 9.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
144図16 PL.147	須恵器 杯	埋土 3/5	14.2　4.2 7.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
144図17	須恵器 杯	＋36 1/3	15.4　4.4 8.8	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
144図18	須恵器 杯	埋土 1/3	13.6 9.0	細砂粒多/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。	
144図19 PL.147	須恵器 杯	埋土 口縁部片	14.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。	外面口縁部に墨書。
144図20	須恵器 杯	＋15 底部～体部片	7.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
144図21	須恵器 杯	埋土 底部	7.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	体部を打ち欠き二次利用か。
144図22	須恵器 杯	＋４ 底部	7.7	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	体部を打ち欠き二次利用か。
145図23	須恵器 椀	埋土 底部	8.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	
145図24	須恵器 椀	埋土 底部	10.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
145図25 PL.147	須恵器 椀	埋土 2/5	18.5　7.0 11.0	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は周辺部回転ヘラ削り、中央部の整形は器面摩滅のため単位不鮮明。	
145図26	須恵器 盤	＋26 1/4	17.6　4.2 10.6	細砂粒・粗砂粒微/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転ヘラ削りか。	
145図27 PL.147	須恵器 鉢(鉄鉢)	竈 4/5	19.0　9.9	細砂粒・褐色粒/酸化焔ぎみ/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り、体部下半は回転ヘラ削り。	
145図28 PL.147	須恵器 鉢	埋土 口縁部片	24.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。口縁部下にカキ目がかすかに残るが、大部分ヘラナデ。	外面口縁部下に「山」の刻書。
145図29	須恵器 瓶	埋土 高台部片	台径18.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。胴部とは貼付。	
145図30	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	10.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
145図31	土師器 台付甕	埋土 脚部	脚径7.7	細砂粒/良好/にぶい橙	胴部とは貼付。脚部は内外面とも横ナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
145図32	須恵器 甕	床直 口縁～胴部上位片	19.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形。口縁部は小凸帯によって２段に区画、区画内に波状文、内面は下位にヘラナデ。胴部内面に同心円状アテ具痕が残る。	
145図33	須恵器 甕	床直 口縁部下半片		細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/暗灰	頸部に補強帯が貼付。口縁部は凹線による区画、最下段の区画を除き波状文が巡る。	

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
145図34	PL.147	鉄器	鑿か	＋９	柄端部欠損	15.6	1.4	0.7	57.5	柄木質が残る。口金径2.5×1.6、幅1.0、厚0.1cm

220号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
146図１ PL.148	須恵器 ハソウ	＋５ 胴部	胴部径9.8	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部中位に凹線による区画と区画内に刺突文が巡る。底部は回転ヘラ削り。	
146図２ PL.148	土師器 甕	床直 2/3	22.6　35.0 4.3	粗砂粒多/良好/にぶい橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、頸部はナデ､胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

221号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
147図１ PL.148	須恵器 杯	＋17 5/6	12.8　3.5 8.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部器面剥離のため切り離し技法は不明。	底部疑似高台状。
147図２ PL.148	須恵器 椀	埋土 2/5	16.6　7.4 10.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部はヘラナデか。	外面底部にヘラ描き。
147図３	須恵器 甕	埋土 口縁下位～頸部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	頸部にて口縁部と胴部を貼付し、補強帯を貼付。内面は口縁部がヘラナデ、胴部にはアテ具痕が残る。	

222号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
149図１	須恵器 杯	埋土 4/5	11.8　3.8 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
149図２	土師器 甕	竈 口縁～胴部上位片	12.8	細砂粒/良好/橙	ロクロ整形、回転方向不明。	ロクロ甕。
149図３	土師器 台付甕	埋土 脚部片		細砂粒/良好/明赤褐	胴部とは貼付。脚部は内外面とも横ナデ。	

223号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
151図１	須恵器 杯	床直、掘方 1/2	12.2　3.7 6.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲と体部下半に回転ヘラ削り。	
151図２	須恵器 杯	埋土 底部～口縁部片	11.8　3.1 6.3	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
151図３	須恵器 杯	床直 2/3	13.4　4.0 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	
151図４	須恵器 杯	床直、埋土 1/2	13.3　3.5 7.4	細砂粒・粗砂粒少/酸化焔ぎみ/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑高台状を呈す。
151図５	須恵器 杯	＋15、埋土 1/2	14.1　3.7 8.0	粗砂粒少/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
151図６ PL.148	須恵器 椀	＋13 口縁部1/4欠損	11.1　3.9 5.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
151図７ PL.148	須恵器 椀	＋９ 口縁部1/4欠損	11.4　4.3 5.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
152図８	須恵器 杯	床直、埋土 2/5	12.4　3.5 5.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
152図９ PL.148	須恵器 杯	床直、埋土 2/3	12.6　3.8 6.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
152図10	須恵器 杯	＋15、埋土 1/3	13.3　3.1 7.4	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り無調整。	
152図11	須恵器 椀	＋12 底部片	10.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。欠損部を研磨して二次利用か。	内面を硯に転用か。
152図12 PL.148	須恵器 盤	床直、掘方 3/4	17.5　4.4 12.6	細砂粒・黒色粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部(高台内)は回転ヘラ削り。	
152図13	土師器 甕	床直、＋29、埋土 口縁～胴部上位片	20.0	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
152図14	土師器 甕	竈、掘方、埋土 口縁～胴部上位片	19.0	細砂粒/良好/にぶい橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
152図15	須恵器 甕	＋15 口縁～胴部上位片	15.4	細砂粒多/還元焔/ 灰	口縁部はロクロ整形、内面下半はヘラナデ。胴部は外面に叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
152図16		鉄器	刀子	埋土	刃部片	5.3	1.4	0.8	7.8	表面は錆化が進んでいる。

225 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
154図 1 PL.148	須恵器 杯	＋ 9 1/2	11.6　4.8 7.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部 (高台内) は回転ヘラ削り。	

226 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
155図 1 PL.148	須恵器 短頸壺	床直 口縁部1/3欠損	9.2　8.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から胴部下半は手持ちヘラ削り。	

227 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
156図 1	土師器 杯	＋ 4 2/5	13.6　3.5 稜径14.6	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部は放射状にヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。

229 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
157図 1	土師器 杯	＋12 口縁部～底部片	12.9　3.0 稜径11.0	細砂粒多/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、底部（稜下）手持ちヘラ削り。	有段口縁杯。
157図 2 PL.148	須恵器 高杯蓋	床直 1/3	11.0　5.4 1.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付。	

230 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
159図 1 PL.148	須恵器 皿	床直 完形	13.4　3.5 7.2	細砂粒・褐色粒/酸化焔/明赤褐	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
159図 2	土師器 甕	竈、埋土 口縁～胴部上位片	21.3	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

231 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
161図 1 PL.148	須恵器 杯蓋	＋ 31、埋土 ほぼ完形	17.0　4.8 摘み径2.8	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
161図 2	須恵器 杯	埋土 2/5	11.2　3.4 7.2	細砂粒・褐色粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
161図 3	須恵器 杯	床直 1/3	11.6　4.1 7.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
161図 4	須恵器 杯	埋土 1/3	12.6　3.8 6.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周辺部を回転ヘラ削り。	
161図 5 PL.148	須恵器 杯	＋11 3/4	12.7　3.6 7.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
161図 6	須恵器 杯	床直 1/4	12.8　3.3 8.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
161図 7	須恵器 杯	埋土 1/3	12.8　3.4 7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
161図 8 PL.148	須恵器 杯	床直、埋土 4/5	13.0　4.7 8.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部の整形はナデ。	
161図 9	須恵器 皿	埋土 1/3	21.8　3.7 11.4	細砂粒/酸化焔/にぶい赤褐	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。体部下半はヘラ削り。	
161図10	須恵器 甕	床直 底部～胴部下位片	19.4	粗砂粒/還元焔/灰	底部にロクロ痕が残る、胴部は外面の叩き痕をヘラナデ、内面のアテ具痕をナデ消している。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
161図11		鉄器	鏃	埋土	頸部～関	5.7	0.7	0.7	3.8	錆化が激しく、中が空洞化している。

232 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
163図 1	須恵器 椀	埋土 底部～体部下半片	9.4	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
163図２	土師器 甕	床直 口縁～胴部上位片	20.8	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
163図３	土師器 甕	床直、埋土 底部～体部下半片	5.4	細砂粒/良好/橙	底内面胴部に輪積み痕が残る。底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

233号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
165図１	土師器 杯	床直 口縁部～体部片	11.4 稜径13.0	細砂粒/良好/浅黄	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗り。
165図２	土師器 杯	床直 口縁部～体部片	11.8 稜径13.6	細砂粒/良好/浅黄	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗り。
165図３ PL.149	土師器 杯	床直 4/5	12.5　4.3 稜径13.2	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面上位に漆塗り。
165図４ PL.149	土師器 杯	床直 3/4	11.2　4.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
165図５	土師器 杯	＋５ 1/2	11.8　5.0 稜径11.8	細砂粒/良好/黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
165図６ PL.149	土師器 杯	床直 ほぼ完形	12.5　4.7 稜径13.2	細砂粒/良好/明黄褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
165図７ PL.149	土師器 杯	＋７ 完形	12.6　5.0 稜径12.0	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、器面摩滅のため単位不鮮明。	
165図８ PL.149	土師器 杯	床直 完形	13.3　4.4 稜径13.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
165図９ PL.149	土師器 杯	埋土 4/5	13.2　4.4 稜径11.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、稜下にナデが残る。	
166図10 PL.149	土師器 杯	床直 完形	13.8　3.8 稜径13.1	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
166図11 PL.149	土師器 杯	床直 3/4	13.0　4.3 稜径11.6	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
166図12 PL.149	土師器 高杯	床直、＋５ ほぼ完形	13.9　7.5 脚径10.2	細砂粒/良好/橙	杯身内面黒色処理。脚部は貼付。口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、脚部もヘラ削り、裾部は横ナデ、内面脚部はヘラナデ。	
166図13 PL.149	土師器 高杯	床直、埋土 ほぼ完形	14.9　7.2 脚径10.0	細砂粒/良好/橙	杯身内面黒色処理。脚部は貼付。口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、脚部もヘラ削り、裾部は横ナデ、内面脚部はヘラナデ。	
166図14 PL.149	土師器 高杯	床直、埋土 杯身部	15.4	細砂粒/良好/橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、底部（稜下）から脚部は手持ちヘラ削り。	
166図15 PL.149	土師器 高杯	床直、埋土 杯身部	14.0	細砂粒/良好/明黄褐	内面黒色処理。口縁部横ナデ、底部（稜下）から脚部は手持ちヘラ削り。	
166図16 PL.149	土師器 高杯	床直、埋土 脚部裾部片	脚径9.6	細砂粒/良好/明黄褐	脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面は脚部がヘラナデ。	
166図17	土師器 短頸壺	＋６ 口縁～胴部上半片	13.4	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部から肩部まで横ナデ、胴部はヘラ削り。	
166図18	須恵器 瓶	埋土 口縁部片	9.2	細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。口唇部に２条の凹線が巡る。	長頸壺か。
166図19	土師器 甕	＋12、埋土 口縁～胴部上位片	25.6	粗砂粒多/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	20と同一個体か。
166図20	土師器 甕	＋12、埋土 胴部下位片		粗砂粒多/良好/にぶい黄橙	胴部は外面がヘラ削り。胴部はヘラナデ。	19と同一個体か。
166図21	土師器 甕	床直、埋土 口縁～胴部上位片	19.6	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
166図22	土師器 甕	床直 底部～体部下位	8.0	細砂粒・褐色粒/良好/橙	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
166図23	土師器 台付甕	＋12、埋土 脚部～胴部下位	脚径10.2	細砂粒/良好/にぶい赤褐	脚部は貼付。胴部は内外面とも器面摩滅のため単位不鮮明。脚部は横ナデ。	

234号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
168図1	須恵器 杯	＋５ 1/2	12.8　3.2 6.8	細砂粒/酸化焔ぎみ/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
168図２	須恵器 杯	＋18 底部	7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
168図３	須恵器 椀	床直 底部～体部片	13.6	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
168図４	須恵器 甕	埋土 胴部上位片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕が残り、把手を貼付している。内面はヘラナデ。	
168図５	須恵器 瓶	掘方 高台～底部片	高台径17.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。高台は貼付、高台上位に円形の透孔が４カ所。	
168図６	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	20.6	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
168図７	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
168図８ PL.148	須恵器 壺	＋８ ほぼ完形	4.7　6.2 胴部径8.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から胴部下位は手持ちヘラ削り。	

235 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
171図１ PL.149	土師器 杯	＋24 2/3	13.4　5.5	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、口縁部下にナデ部分が残る、体部から底部は手持ちヘラ削り。	二次焼成を受けている。
171図２	土師器 杯	＋30 1/3	14.0 9.7	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、口縁部下にわずかにナデ部分が残る。	
171図３	土師器 杯	埋土 1/4	14.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	内外面口縁部にススが付着。
171図４	土師器 杯	＋22、埋土 1/4	11.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	内面口唇部にススが付着。
171図５ PL.149	土師器 杯	＋24、埋土 4/5	12.0　3.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
171図６ PL.149	土師器 杯	＋７、埋土 3/4	12.6　3.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
171図７	土師器 杯	床直 1/4	13.8	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面に放射状暗文。	
172図８	土師器 杯	埋土 1/5	14.5　4.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
172図９	土師器 杯	＋14 1/3	11.8　2.9 10.1	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。内面口縁部は斜放射状暗文。	
172図10 PL.149	土師器 杯	＋17 ほぼ完形	12.2　3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	底部楕円形 9.6 × 10.2。
172図11	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	16.8 11.8	細砂粒/良好/にぶい褐	高台が貼付か、口唇部横ナデ、口縁部から体部はヘラ削り。内面体部下位はヘラナデ。	
172図12	須恵器 杯蓋	埋土 1/3	18.7　4.5 摘み径3.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	擬宝珠状摘み。
172図13	須恵器 杯蓋	埋土 天井部～口縁部片	13.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
172図14 PL.149	須恵器 杯	＋34 ほぼ完形	10.8　3.2 6.8	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
172図15	須恵器 杯	＋８ 1/2	11.6　3.4 7.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央をわずかに残して回転ヘラ削り。	
172図16	須恵器 杯	＋37 1/2	11.6　3.5 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削りか。	
172図17 PL.149	須恵器 杯	床直 完形	11.8　3.4 8.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
172図18 PL.149	須恵器 杯	＋26、埋土 口縁部1/4欠損	12.1　3.3 6.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部は疑似高台状。
172図19	須恵器 杯	＋19、埋土 1/2	12.2　3.5 7.0	細砂粒多・粗砂粒微/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
172図20	須恵器 杯	＋23 1/2	12.2　4.1 7.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	
172図21 PL.149	須恵器 杯	＋22 3/5	12.2　4.5 6.8	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
172図22 PL.149	須恵器 杯	＋４、埋土 2/3	12.3　3.5 7.5	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
172図23	須恵器 杯	＋24 2/3	12.3　3.8 6.7	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	
172図24 PL.149	須恵器 杯	＋25 3/4	12.4　3.9 7.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切りか、周囲は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
172図25 PL.149	須恵器 杯	＋13、埋土 3/4	12.4　3.9 8.7	細砂粒・黒色粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	

古墳時代以降遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
172図26 PL.149	須恵器 杯	＋19 口縁部一部欠損	12.5　3.4 7.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削りか。器面摩滅のため詳細不鮮明。	底部は疑似高台状。
173図27 PL.149	須恵器 杯	＋24 4/5	12.5　3.5 7.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
173図28 PL.149	須恵器 杯	＋30 完形	12.7　3.6 7.5	細砂粒/粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	
172図29 PL.149	須恵器 杯	＋37 2/3	12.7　3.8 8.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
173図30 PL.149	須恵器 杯	＋24、埋土 4/5	12.7　3.8 7.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部を残して回転ヘラ削り。	
173図31 PL.149	須恵器 杯	＋10 3/4	12.8　3.8 8.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部を残して回転ヘラ削り。	
173図32 PL.149	須恵器 杯	＋11 3/4	12.8　3.8 7.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下位は回転ヘラ削り。器面摩滅のため単位不鮮明。	
173図33 PL.150	須恵器 杯	＋27、埋土 2/3	13.1　4.1 7.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
173図34	須恵器 杯	＋37、埋土 1/2	13.3　3.7 6.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
173図35	須恵器 杯	床直、埋土 1/3	13.4　3.8 7.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
173図36	須恵器 杯	埋土 1/4	13.6　3.3 9.3	細砂粒・白色粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
173図37	須恵器 杯	埋土 口縁部片	13.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。	
173図38 PL.150	須恵器 杯	＋36 底部	7.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部は疑似高台状で「人田」の墨書。
173図39	須恵器 杯	床直 1/3	10.6 7.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部切り離し技法不明。	
173図40 PL.150	須恵器 椀	＋4、埋土 口縁一部・高台欠	15.8 9.8	細砂粒・粗砂粒多/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付であるが剥落。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
173図41	須恵器 椀	＋35 底部～体部片	7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は静止糸切りか、体部下位は回転ヘラ削り。	
173図42	須恵器 椀	＋26、埋土 底部片	11.0	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
173図43	須恵器 椀	埋土 底部片	10.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後ほぼ全面回転ヘラ削りか。	
173図44 PL.150	土製品 不明	埋土 完形か	長4.2　幅3.3 厚1.5	微砂粒/良好/にぶい橙	表裏に無数のヘラによる刻目。	
173図45	須恵器 甕	埋土 胴部片	長3.6　幅3.6 厚0.9	細砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩きがかすかに残る。内面はアテ具痕が残る。周囲を打ち欠き二次利用。	
174図46	須恵器 高杯	＋25 脚部片		細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。	
174図47	須恵器 高杯	埋土 杯身底部～脚部片		細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。脚部は貼付。	
174図48 PL.150	須恵器 盤	＋26、埋土 4/5	16.2　4.0 台径11.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
174図49	須恵器 盤	床直 1/5	18.8　4.0 高台径14.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部(高台内)は回転ヘラ削り。	
174図50	須恵器 盤	＋7 底部～体部片	13.6	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り、口縁部下に凹線が巡るか。	
174図51	黒色土器 鉢	＋7 底部～体部下半片	9.4	細砂粒/酸化焔/橙	内面は黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。内面はヘラ磨きか。	
174図52	須恵器 擂り鉢	床直 底部	13.9	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラ削りか。	
174図53	須恵器 鉢	埋土 口縁～体部上半片	25.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。体部は外面に平行叩き痕がかすかに残る。内面のアテ具痕はナデ消されている。	
174図54	須恵器 鉢	埋土 底部～体部下半	13.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。底部はヘラ削り。体部は外面に平行叩き痕がかすかに残る。内面のアテ具痕はかすかに残るが大部分はナデ消されている。	
174図55	土師器 脚付鍋	床直、＋18 脚部片		細砂粒/良好/橙	脚部はヘラナデ。残存高は13.0、径3.0cm。	
174図56	土師器 甕	＋29、埋土 口縁～胴部下位片	16.3	細砂粒・褐色粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
174図57	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	10.2	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
175図58	土師器 甕	＋22、埋土 口縁～胴部中位片	21.3	細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデか、器面摩滅のため不鮮明。	
175図59	土師器 甕	＋34、埋土 口縁～胴部中位片	19.8	細砂粒・褐色粒/良好/明褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
174図60	須恵器 甕	＋36 口縁～胴部上位片	15.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。胴部はカキ目。内面胴部はヘラナデ、一部に指頭痕が残る。	

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
175図61	PL.150	鉄器	鎌	床直	ほぼ完形	19.5	4.5	0.5	98.0	表面は錆化が進んでいる。
175図62		鉄器	不明	＋35	一部片	4.0	0.8	0.9	5.8	錆化が激しく、中が空洞化している。
175図63		鉄器	釘	埋土	頭部欠損	6.9	0.5	0.5	7.6	表面の錆化が激しい。

236 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
176図１ PL.150	土師器 杯	＋７、埋土 口縁部1/4欠損	13.8　3.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
176図２ PL.150	須恵器 杯	床直 3/4	14.7　3.7 9.0	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
176図３	須恵器 杯	埋土 1/3	15.6　5.3 5.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
177図４	須恵器 高杯	埋土 杯身底部～脚部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	脚部は貼付。ロクロ整形、回転右回りか。脚部は縦方向カキ目？	
176図５	須恵器 盤	埋土 口縁部片	29.4　3.1 25.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
177図６	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	11.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
177図７ PL.150	土師器 甕	床直 口縁部～胴部中位	22.6	細砂粒・粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	カマド袖芯材。

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
177図８		鉄器	釘	＋17	先端側片	3.9	0.5	0.5	3.0	表面は錆化が進んでいる。

237 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
178図１	須恵器 杯	埋土 3/5	12.8　3.7 5.8	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整か。	
178図２	須恵器 椀	埋土 口縁部～体部1/3	18.5 10.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台が貼付か。	
179図３	須恵器 鉢	埋土 口縁部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	外面は頸部がヘラナデ、胴部に平行叩き痕が残る。内面はヘラナデ。	
179図４ PL.150	土製品 紡錘車	埋土 表面1/2欠損	径5.5　厚1.6 孔0.7　重49	細砂粒・褐色粒/良好/赤灰	表裏は回転ヘラ削りか。側面はヘラ削り後ヘラ磨き。	

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
179図５		鉄器	鎌	掘方	刃部片	6.3	4.0	0.3	22.2	表面は錆化が進んでいる。
179図６		鉄器	不明	掘方	一部片	6.3	5.2	0.3	41.7	錆化が激しく、中が空洞化している。

238 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
180図１	土師器 杯	埋土 1/2	11.0　3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
180図２	土師器 杯	＋22 口縁部～体部片	13.6	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
180図３	須恵器 杯	埋土 1/3	9.9　3.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	

239 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
181図１ PL.150	土師器 杯	床直 完形	12.5　4.2 稜径13.7	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
181図２	土師器 杯	床直、埋土 口縁部～体部片	12.6 稜径12.8	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
181図３ PL.150	土師器 杯	埋土 2/5	13.7　4.3 15.2	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
181図４ PL.150	土師器 杯	＋８ 完形	12.4　4.8 稜径13.8	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	底部中央に焼成後の穿孔有り。

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
182図5 PL.150	土師器 杯	床直 口縁部1/4欠損	14.1　4.8 稜径13.6	細砂粒/良好/明赤褐	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、稜下にナデ部分が残る。	
181図6	土師器 杯	埋土 1/4	19.8 稜径18.4	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、体部(稜下）から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
182図7 PL.150	土師器 鉢	床直 4/5	12.8　6.6 稜径14.6	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部（稜下）にわずかにナデ部分が残り、その下位から底部は手持ちヘラ削り。	内面漆塗りか。
182図8 PL.150	須恵器 擂り鉢	埋土 底部片	11.6	粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
183図9 PL.150	土師器 甑	床直 1/2	24.5　25.9 9.5	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ後ヘラ磨き。	
182図10	土師器 甕	床直、埋土 口縁～胴部上位片	21.0	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
183図11 PL.150	土師器 甕	床直、埋土 口縁～胴部中位片	20.8	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ、器面摩滅のため単位不鮮明。	
182図12	須恵器 甕	埋土 口縁部片	17.0	細砂粒/還元焔/暗灰	口縁部はロクロ整形、内面下半はヘラナデ。	

241号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
185図1	須恵器 杯蓋	竈、埋土 口縁部～天井部片	17.6	細砂粒/還元焔/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
185図2	須恵器 杯	埋土 1/3	12.6　3.1 8.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
185図3	土師器 小型甕	竈 口縁～胴部上位片	12.2	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	台付甕か。
185図4	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	17.8	細砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
186図5	土師器 甕	＋4 口縁～胴部上位片	19.4	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
186図6	土師器 甕	＋4 口縁～胴部上半片	19.5	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
185図7	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	21.6	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

242号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
188図1	土師器 杯	＋11、埋土 2/5	12.0　3.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
188図2 PL.151	須恵器 杯	床直 3/4	14.2　3.6 9.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
188図3 PL.151	須恵器 杯	埋土 3/4	14.8　4.5 7.0	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部と体部下半は回転ヘラ削り。	
188図4	須恵器 長頸壺	埋土 胴部上位(肩部)片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。内面に頸部との接合痕が残る。胴部は凹線による区画、区画内に刺突文が巡る。	
188図5	土師器 甕	床直 底部～胴部下位	5.2	細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
188図6		鉄器	鏃	埋土	茎部片	3.7	0.8	0.5	3.0	表面は錆化が進んでいる。

243号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
190図1	土師器 杯	＋22 1/4	12.0　3.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面はヘラ磨き。	
190図2	土師器 杯	＋20 1/3	11.3	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
190図3 PL.151	土師器 杯	埋土 ほぼ完形	11.4　3.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
190図4	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	11.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
190図5 PL.151	土師器 杯	＋27、埋土 2/3	12.1　3.6	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
190図6 PL.151	土師器 杯	＋14 1/2	12.7　3.3	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
190図7	土師器 杯	＋27 2/5	11.8　3.3	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	内面は漆塗り。

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
190図８	土師器 杯	＋６ 1/2	13.8　4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
190図９	土師器 杯	＋42 1/3	13.3　4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
190図10 PL.151	土師器 杯	＋33、埋土 1/2	14.0　4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
191図11	須恵器 杯蓋	埋土 1/4	11.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は周辺部まで回転ヘラ削り。	
191図12	須恵器 杯蓋	埋土 口縁部～天井部片	17.0	細砂粒多/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
191図13	須恵器 壺	床直 胴部片		細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転方向不明。把手は貼付でナデ。胴部は外面がカキ目、内面がヘラナデ。	
191図14	須恵器 壺	埋土 胴部下位片		細砂粒/還元焔/灰	焼成時の歪みが激しく詳細不明。高台は貼付、外面は平行叩き、内面は無文アテ具痕が残る。	胴部の歪みが激しく器形不明。
191図15	土師器 甕	＋21 口縁～胴部上位片	23.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
191図16	土師器 甕	床直、埋土 底部～胴部下位	4.2	細砂粒/良好/にぶい橙	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
191図17 PL.151	須恵器 壺	埋土 底部片		細砂粒/還元焔/暗灰	壺底部と焼台の甕片が付着したもの。壺はロクロ整形。甕内面はヘラナデか。	

245号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
193図１	土師器 杯	竈、床直、掘方 1/3	13.8　3.1 10.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
193図２ PL.151	土師器 甕	床直、竈、埋土 口縁部～胴部下位	21.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
194図３	土師器 甕	竈、床直、埋土 口縁～胴部中位片	24.2	細砂粒・粗砂粒微/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ、器面摩滅のため単位不鮮明	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
193図４	PL.151	鉄器	不明	掘方	一部片か	13.0	1.8	0.5	19.1	表面の錆化が激しい。刃部無し。

246号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
196図１	須恵器 皿	床直 底部～体部下半片	6.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転ヘラ削り。	
196図２	須恵器 椀蓋	床直 天井部片	摘み径3.2	細砂粒/還元焔/青灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中央は回転ヘラ削り。内面に降灰付着。	
196図３	須恵器 杯蓋	＋７ 天井部1/3片	13.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付。	
196図４	須恵器 杯	埋土 1/4	12.7　3.3 8.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
196図５	須恵器 杯	＋23、埋土 1/2	13.7　3.7 8.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
196図６	須恵器 杯	＋６ 1/2	15.6　4.2 9.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部を残して周囲を手持ちヘラ削り。	
196図７	須恵器 杯	＋４ 底部片	8.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部を残して回転ヘラ削り。	
196図８ PL.151	須恵器 杯	＋13、埋土 1/2	13.4　4.6 10.6	細砂粒・粗砂粒//還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。	
196図９ PL.151	須恵器 椀	＋23 ほぼ完形	15.6　6.0 11.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
196図10	須恵器 椀	＋50 底部～体部片	9.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。	
197図11	須恵器 盤	床直 底部片	14.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰・灰褐	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	
197図12	須恵器 長頸壺	床直、埋土 底部～胴部片	11.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台が貼付されていたが剥落。胴部最下部は回転ヘラ削り、底部は回転ヘラナデ。	
197図13	灰釉陶器 長頸壺	＋５ 底部片	8.0	微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ、胴部下位は回転ヘラ削り。	東濃産。
197図14	土師器 台付甕	埋土 脚部～胴部下位	脚径10.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	脚部は貼付。胴部は内外面とも器面摩滅のため単位不鮮明。脚部は横ナデ。	
197図15	土師器 甕	床直 口縁～胴部上位片	19.2	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
197図16	土師器 甕	床直 口縁～胴部上位片	21.0	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
197図17	須恵器 甕	床直 胴部下位片	17.4	細砂粒・粗砂粒少/ 還元焔/灰	胴部は外面に平行叩き痕がかすかに残るが大部分はヘラナデで消されている。内面はヘラナデ。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
197図18	PL.151	鉄器	鎌	＋15	完形	11.7	3.2	0.3	31.7	表面は錆化が進んでいる。

247 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
199図 1	須恵器 杯	＋33 1/2	10.7　3.1 6.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
199図 2 PL.151	須恵器 杯	床直 1/2	12.1　3.4 7.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
199図 3 PL.151	須恵器 杯	＋ 5 4/5	12.4　3.6 7.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央をわずかに残して回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
199図 4	須恵器 杯	＋11、埋土 1/5	12.6　3.7 8.3	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
199図 5	須恵器 杯	床直 1/5	12.7　3.5 7.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
199図 6	須恵器 杯	＋23 底部片	7.0	細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後ほとんど回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
199図 7	須恵器 杯	埋土 底部	8.2	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。体部は打ち欠き後二次調整をおこなっている。	転用用途不明。
199図 8	須恵器 椀	＋12 底部～体部片	10.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
199図 9	須恵器 四耳壺	埋土 底部～胴部片	胴部径18.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。肩部に穿孔された耳部が貼付、高台も貼付。底部から胴部下半は回転ヘラ削り。	
199図10	土製品 錘	埋土 完形	長4.6 径1.6 孔0.2 重9.7	細砂粒/良好/浅黄	表面はナデ。	

挿図 NO. 図版 NO.	種別 器種	出土位置 残 存 率	全長 (cm)　幅 (cm) 厚さ (cm)　重量 (g)	石材	特　徴
199 図 11 PL.151	石製品 紡錘車	埋土 完形	3.8　4.0 2.1　58.1	蛇紋岩	全面丁寧な磨き。裏面は敲打による整形が残る。側面に線状痕は全周する。線状痕は破損後の修復痕の可能性が窺える。

248 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
201図 1 PL.151	土師器 椀	掘方 2/3	14.5　5.8 7.4	細砂粒/良好/橙	高台は貼付、口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
201図 2	須恵器 杯	掘方 底部～体部下位片	6.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
201図 3	須恵器 杯	掘方 底部～体部下位片	7.8	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
201図 4	須恵器 椀	掘方 底部～体部下位片	5.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形､回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。	
201図 5	土師器 甕	掘方 口縁～胴部上位片	22.4	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
201図 6		鉄器	鏃	埋土	頸部～関	3.6	0.9	0.6	2.9	茎部幅0.3、厚0.3cm

249 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
202図 1	土師器 杯	埋土 1/4	14.8　3.7 稜径12.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
202図 2	土師器 杯	＋16 口縁部～体部片	15.8 稜径13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、器面摩滅のため単位不明。	
202図 3	土師器 椀	床直、＋９ 1/5	18.0　8.0 9.0	細砂粒/良好/浅黄橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口唇部横ナデ、口縁部ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
202図 4	須恵器 杯	＋９ 3/5	13.8　3.1 10.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回り。高台は貼付、底部(高台内)は回転ヘラ削り。	

250 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
203図 1	須恵器 杯	埋土 1/3	13.0　3.8 6.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
203図 2	土師器 甕	埋土 台部片	脚径10.5	細砂粒/良好/橙	甕底部に台部を添付。台部は横ナデ、内面は上半がヘラナデ。	
203図 3	土師器 甕	埋土 1/4	19.2　26.7 3.6	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。胴部に竈装着時の粘土付着。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
203図４ PL.151	土製品 紡錘車	埋土 完形	径5.0　厚1.9 孔0.6　重48.5	緻密・礫/酸化焔/ 褐灰	表裏、側面ともヘラ削り後ヘラ磨き、表裏は使用によって磨き痕が不鮮明。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
図５		鉄器	刀子	埋土	茎部	3.7	0.8	0.4	1.1	表面は錆化が進んでいる。
図６		鉄器	刀子	埋土	茎部～刃部片	4.4	1.5	0.2	6.2	関部分は錆化が激しく形状不明。

251 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
205図１ PL.152	須恵器 皿	＋23 完形	13.2　3.4 7.2	細砂粒・粗砂粒少/ 酸化焔/橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
205図２	須恵器 皿	＋24 2/5	13.2　3.0 6.4	細砂粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部の整形は高台貼付時のナデで不明。	
205図３	須恵器 杯	＋36 2/5	12.4　3.5 6.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
205図４ PL.152	須恵器 杯	埋土 完形	14.8　3.9 8.7	細砂粒・粗砂粒・礫 /還元焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑高台状。
205図５	須恵器 椀	＋45 1/3	11.6　4.2 6.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
205図６	須恵器 杯	＋23、埋土 1/4	11.7　3.7 6.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
205図７ PL.152	須恵器 椀	＋41 3/4	12.2　5.0 5.8	細砂粒・粗砂粒/還 元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後無調整。	
205図８	須恵器 杯	埋土 1/3	12.6　3.6 6.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
205図９	須恵器 椀	＋15 1/3	12.8　4.1 5.8	細砂粒・粗砂粒/還 元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラ削りか。	
205図10	須恵器 杯	埋土、掘方 1/2	13.0　3.4 6.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
206図11 PL.152	須恵器 椀	＋19、埋土 2/3	13.6　5.9 7.6	細砂粒・粗砂粒/還 元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部には回転糸切り痕がかすかに残る。	
206図12 PL.152	須恵器 椀	埋土 2/3	13.7　5.6 7.3	細砂粒/還元焔/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切りか。	
206図13 PL.152	須恵器 椀	埋土 4/5	13.7　4.8 6.6	細砂粒・粗砂粒/還 元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
206図14 PL.152	須恵器 椀	埋土 ほぼ完形	13.9　5.7 7.0	細砂粒/酸化焔ぎみ /灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
206図15 PL.152	須恵器 椀	掘方 1/3	15.1 7.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付であるが剥落、底部は回転糸切り。	
206図16	須恵器 椀	＋37、埋土 底部～体部片	7.1	細砂粒/還元焔/黄 灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
206図17	灰釉陶器 段皿	埋土 口縁部片	17.8	夾雑物なし/還元焔 /灰白	ロクロ整形、回転方向不明。施釉方法は刷毛塗りか。	光ケ丘1号窯式期。
206図18	土師器 台付甕か	＋４ 口縁部～胴部片	11.8	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
206図19	土師器 台付甕	埋土 底部～脚部	脚径9.6	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	脚部は貼付。胴部はヘラ削り、脚部は横ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
206図20	土師器 甕	＋８ 口縁～胴部上位片	20.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
206図21	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	20.8	細砂粒/良好/にぶ い橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
206図22	須恵器 瓶	＋30 胴部片		細砂粒/還元焔/暗 灰黄	ロクロ整形、回転方向不明。外面は下位に２条の凹線が巡る、その上位は平行叩き痕が残る。内面はヘラナデ。	
206図23	土師器 杯	埋土 1/4	13.2　3.8 稜径14.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部に放射状ヘラ磨き。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
206図24	PL.152	銅製品	銙帯丸鞆	埋土	完形	1.9	3.0	0.5	2.2	長方形透孔、裏面に裏金を留める鋲が3カ所。
206図25	PL.152	銅製品	馬具鉈尾	埋土	端部欠損	1.9	1.8	0.5	2.1	基部側に鋲が2カ所残る。

252 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
207図１ PL.151	須恵器 杯	＋39 口縁部1/4欠損	14.0　3.6 8.2	細砂粒・褐色粒/酸 化焔/明赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	高台は疑似高台状。

253号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
210図1 PL.152	土師器 杯	＋4、埋土 ほぼ完形	13.5　3.9	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
210図2	土師器 杯	＋35 2/5	12.6　3.2	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
210図3	土師器 杯	＋42 1/3	14.0　4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、口唇部に１条の凹線が巡る。	
210図4	土師器 杯	埋土 2/5	17.0 稜径15.0	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
210図5 PL.152	須恵器 杯蓋	＋5 完形	16.9　4.0 摘み径3.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は周辺部まで回転ヘラ削り。焼成時の歪みが大きい。	
210図6	須恵器 杯	埋土 1/4	14.0　4.1 10.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
210図7 PL.152	須恵器 杯	＋25 2/5	15.8　5.1 11.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
210図8	須恵器 椀	埋土 底部～体部片	9.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付であるが剥落。	
210図9	須恵器 椀	＋9、埋土 1/4	23.0　6.0 13.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黒	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
210図10	須恵器 盤	＋10、埋土 口縁部～底部片	25.8　5.2 17.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
210図11	土師器 壺	埋土 底部～胴部片	5.5	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	底部、胴部ともヘラ削り。内面はヘラナデ。	坩か。
210図12	須恵器 瓶	埋土 把手片		細砂粒/還元焔/灰	表面はヘラナデ、胴部との接合面は平坦。	提瓶などか。
210図13	土師器 甕	埋土 底部	4.0	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	胴部はヘラ削り、底部は木葉痕が残る。内面はヘラナデ。	
210図14 PL.152	土師器 甕	＋20 口縁～胴部上半片	22.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
210図15 PL.152	土師器 甕	＋15 1/2	19.6　28.5 4.4	細砂粒/良好/にぶい橙	内外面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
210図16	土師器 甕	埋土 底部片	5.7	細砂粒/良好/にぶい橙	底部から胴部下位は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。	

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
210図17		鉄器	鏃	＋25	茎部～頸部片	3.5	0.9	0.6	3.3	表面は錆化が進んでいる。
210図18		鉄器	刀子	埋土	刃部先端部片	3.7	1.0	0.3	3.2	表面は錆化が進んでいる。
210図19	PL.152	鉄器	刀子	＋9	茎部～刃部片	7.0	0.8	0.5	8.9	表面は錆化が進んでいる。
210図20	PL.152	鉄器	刀子	＋23	茎部～刃部片	5.9	1.2	0.4	5.3	表面は錆化が進んでいる。

254号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
213図1 PL.152	土師器 杯	＋4 3/4	11.8　3.2 稜径12.7	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
213図2 PL.152	土師器 杯	埋土 1/2	11.7　4.3 稜径11.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
213図3 PL.152	土師器 杯	床直、＋4、埋土 ほぼ完形	13.0　3.3 稜径12.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
213図4 PL.152	土師器 杯	床直、竈 3/5	13.1　4.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	内面は漆塗りであるが大半が剥落。
213図5 PL.152	須恵器 杯蓋	床直、＋8 3/4	12.8　4.5	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
213図6	須恵器 杯	埋土 1/3	14.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削りか、器面摩滅のため単位不鮮明。	
213図7	須恵器 高杯	＋10 杯身2/5	12.2	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付であるが剥落。杯身底部は手持ちヘラ削り。	
213図8	須恵器 高杯	＋10 杯身下半片	稜径14.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付、杯身底部は回転ヘラ削り。脚部に３カ所の透孔。	
213図9	土師器 椀	床直、埋土 口縁部～体部1/3	11.8	細砂粒/良好/灰黄	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部は大部分がナデ、下位はヘラ削り。	口縁部は花弁状。
213図10	須恵器 杯	埋土 1/4	13.3　3.6 7.2	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	

挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特　徴
213図11 PL.152	石製品 擦石	床直 完形	15.4　11.4 9.5　1955.0	粗粒輝石安山岩	右側面はほぼ全面使用し、平坦になっている。表面の中央部も使用している。

255 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
214図 1 PL.153	須恵器 椀	＋41 ほぼ完形	11.1　3.6 5.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
214図 2 PL.153	須恵器 椀	埋土 3/5	11.8　3.6 5.2	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後無調整。焼成時の歪みが大きい。	
214図 3 PL.153	須恵器 椀	埋土 完形	12.7　4.3 7.2	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後無調整。	
215図 4 PL.153	須恵器 椀	＋15 完形	12.7　4.5 6.3	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
215図 5 PL.153	須恵器 椀	床直、＋41、竈 1/2	13.0　4.3 6.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
215図 6	須恵器 椀	＋12 底部～体部片	6.4	細砂粒/還元焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
215図 7	須恵器 椀	＋44 底部～体部片	6.2	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
215図 8	須恵器 椀	＋38 底部～体部片	6.0	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部は疑高台状を呈す。
215図 9	須恵器 椀	＋11 1/3	17.0　7.0 9.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
215図10 PL.153	土師器 甕	埋土 口縁～胴部下位片	19.4	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
215図11	土製品 不明 (棒状)	＋48 一部片		細砂粒・粗砂粒/やや脆い/にぶい黄橙	表裏、側面はヘラ削り。	

挿図 NO. 図版 NO.	種別 器種	出土位置 残 存 率	全長 (cm)　幅 (cm) 厚さ (cm)　重量 (g)	石材	特　徴
215図12	石製品 砥石	＋ 39 下半欠損	5.6　3.4 2.4　51.7	砥沢石	表面、左側面を使用。使用面以外の整形はやや雑。

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
215図13		鉄器	釘	＋15	一部片	5.2	0.5	0.3	4.6	先端部変形、表面は錆化が進んでいる。

256 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
216図 1	須恵器 杯蓋	埋土 天井部片	摘み径3.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
216図 2	須恵器 杯	＋32 1/4	12.0　3.6 6.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
216図 3	須恵器 杯	＋26 1/3	12.8　3.4 7.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
216図 4	須恵器 杯	埋土 1/6	13.2　3.7 7.0	細砂粒/還元焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
216図 5	須恵器 杯	埋土 1/5	14.4　3.8 9.4	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	
216図 6	須恵器 双耳杯	掘方 口縁部片と耳部		細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。耳部は貼付。耳部はヘラナデ。	
217図 7	須恵器 杯	＋10 底部	6.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	口縁部と体部を打ち欠き二次利用か。
217図 8	須恵器 杯	＋36 底部	7.2	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	口縁部と体部を打ち欠き二次利用か。
217図 9	須恵器 短頸壺	埋土 胴部上半片	胴径20.6	細砂粒・粗砂粒少・/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。外面は降灰が厚く付着。	
217図10 PL.153	土製品 紡錘車	床直 完形	径6.4 厚1.7 孔0.7 重68	細砂粒/良好/にぶい黄橙	表面と側面はナデ。裏面は段を有し、内側は回転糸切り無調整。	
217図11	土製品 錘	埋土 1/2	長3.8 径1.5 孔0.4 重6.5	細砂粒/良好/橙	表面はナデ、端部の成形は雑。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
217図12		鉄器	釘	埋土	先端部側片	4.0	0.8	0.4	3.5	表面は錆化が進んでいる。
217図13		鉄器	釘	埋土	一部片	4.0	0.8	0.6	4.4	表面は錆化が進んでいる。

257 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
219図 1	須恵器 皿	＋44 1/4	14.6　1.5 8.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
219図 2	須恵器 杯蓋	＋13 口縁部～天井部片	17.8	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付か、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
219図 3 PL.153	須恵器 杯	＋45、埋土 3/4	12.3　3.6 7.4	細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転左回りか。底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
219図４	須恵器 杯	＋20 1/4	12.6　3.4 8.3	細砂粒・礫/還元焔 /灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
219図５	須恵器 杯	＋11 1/4	12.8　3.4 8.0	細砂粒/還元焔/褐 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
219図６ PL.153	須恵器 椀	＋18 3/4	13.8　5.9 8.1	細砂粒/還元焔燻し /暗灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
219図７	土製品 錘	＋38 1/2	長3.7 径1.2 孔0.4 重5.3	細砂粒/良好/にぶ い褐	表面はナデ、端部の一部欠損。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
219図８		鉄器	不明	床直	片側端部側片	6.3	0.7	0.7	10.5	棒状断面角状、表面は錆化が進んでいる。

258 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
221図１ PL.153	土師器 杯	床直 完形	12.2　3.7 9.2	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
221図２	土師器 杯	埋土 1/3	13.6 10.6	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
221図３	土師器 杯	埋土 1/3	14.7　4.6	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
221図４ PL.153	黒色土器 椀	＋32 ほぼ完形	12.6　4.8 7.5	細砂粒/酸化焔/橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。底部は静止糸切りか。内面は底部から体部下位にヘラ磨き。	
221図５ PL.153	須恵器 杯蓋	埋土、掘方、竈 3/5	16.0　3.6 摘み径4.2	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
221図６	須恵器 杯蓋	埋土 摘み	摘み径3.4	細砂粒/還元焔/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付。	
221図７	須恵器 杯蓋	埋土 摘み	摘み径4.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付。	
221図８	須恵器 蓋	＋33 天井部と摘み片	摘み径5.6	細砂粒/還元焔/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付。	
221図９	須恵器 杯蓋	埋土 天井部片	摘み径6.1	細砂粒/還元焔/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は回転ヘラ削り。	
221図10 PL.153	須恵器 杯	＋15 完形	11.8　3.6 7.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	
221図11 PL.153	須恵器 杯	＋12 ほぼ完形	12.0　3.7 8.6	細砂粒・粗砂粒少/ 還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	
222図12	須恵器 杯	＋27 1/4	12.2　4.2 6.0	細砂粒・礫/還元焔 /灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
222図13	須恵器 杯	床直 1/5	12.2 7.4	細砂粒・粗砂粒少/ 還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
222図14 PL.153	須恵器 杯	埋土 3/4	12.9　3.7 7.0	細砂粒/還元焔/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
222図15 PL.153	須恵器 杯	＋34 完形	13.0　3.8 7.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	
222図16 PL.153	須恵器 杯	＋16、埋土 ほぼ完形	13.3　4.1 7.4	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部は疑似高台状。
222図17	須恵器 杯	＋28 1/3	13.2　3.6 8.0	細砂粒/還元焔/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ。	
222図18	須恵器 杯	＋32 1/3	13.2　3.7 7.0	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ。	底部は疑似高台状。
222図19	須恵器 杯	＋32 2/5	13.7　3.4 9.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
222図20	須恵器 杯	＋56 1/3	13.8　4.0 8.1	細砂粒/還元焔/黒 褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
222図21	須恵器 杯	埋土 2/5	14.2　4.0 8.8	細砂粒/還元焔/暗 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
222図22	須恵器 杯	埋土、掘方 底部～体部下位片	7.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	外面底部にヘラ描き。
222図23	須恵器 杯	＋12 底部	6.9	細砂粒/還元焔/灰 褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	周囲を打ち欠き二次利用か。
222図24	須恵器 杯	埋土 底部片	4.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	外面底部に「×」のヘラ描き。
222図25	須恵器 杯	＋12 底部～体部下位	7.0	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部は疑似高台状。
222図26	須恵器 杯	埋土 底部	7.4	細砂粒・粗砂粒/還 元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
222図27	須恵器 杯	＋46 底部	7.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。体部を打ち欠き二次利用か。	底部は疑似高台状。
222図28	須恵器 椀	＋52 底部～体部下位	8.0	細砂粒/還元焔燻し/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
222図29	黒色土器 椀	＋20 底部～体部下位	8.0	粗砂粒・褐色粒/酸化焔/橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
222図30	須恵器 杯	＋17 底部～体部片	8.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
222図31	須恵器 杯	＋18 底部	7.4	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	体部を打ち欠き二次利用か。
223図32	須恵器 椀	埋土 3/4	13.0　4.7 7.4	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部は内外面とも酸化焔焼成。
223図33	須恵器 椀	埋土 3/4	12.0　5.2 8.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
223図34	須恵器 椀	床直 椀身部1/4	18.0 10.0	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付であるが剥落、底部は回転糸切り。	
223図35	須恵器 椀	＋11 底部～体部片	9.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部最下位は回転ヘラ削り。	
223図36	須恵器 椀	＋6 底部片	7.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り後全面回転ヘラ削り。	体部を打ち欠き二次利用か。
223図37	須恵器 椀	床直 底部片	9.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。底部は回転ヘラ削り。	
223図38	須恵器 椀	床直 底部片	10.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。	
223図39	須恵器 椀	床直 底部	10.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り後全面回転ヘラ削り。	口縁部を打ち欠いて二次利用か。
223図40	須恵器 稜椀	＋22 口縁部片	15.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部は回転ヘラ削り。口唇部下に１条の凹線が巡る。	
223図41 PL.153	須恵器 盤	＋16 2/3	19.0　3.2 台径12.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部（高台内）は回転ヘラ削り。焼成時の歪み有り。	
223図42	須恵器 盤	＋32 口縁部～底部片	19.8 18.6	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	高盤か。
223図43	須恵器 短頸壺蓋	＋32、埋土、掘方 1/2	12.6	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。鍔と小凸帯は一体のものを貼付。天井部は回転ヘラ削り。	
223図44	土師器 甕	＋33、埋土 口縁～胴部上位片	14.4	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
223図45	土師器 甕	＋15、埋土 口縁～胴部上位片	21.2	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
223図46	土師器 甕	竈、埋土 口縁～胴部上位片	23.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
223図47	須恵器 杯身	＋10 1/4	12.9　3.1 稜径14.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
223図48		鉄器	刀子	埋土	刃部先端部片	6.4	1.9	0.3	9.8	先端部は折れ曲がる。表面は錆化が進んでいる。
223図49		鉄器	刀子	＋33	茎部片	4.7	1.0	0.6	5.0	表面は錆化が進んでいる。
223図50		鉄器	不明	＋18	一部片	7.0	0.9	0.8	9.5	棒状断面角状、表面は錆化が進んでいる。

259 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
224図１ PL.153	土師器 杯	＋11、埋土 ほぼ完形	13.2　3.3	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	

261 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
225図１ PL.153	須恵器 杯	＋36 口縁部1/5欠損	13.1　4.6 8.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。口縁部に焼成時の歪み有り。	
225図２	須恵器 鉢	＋21 口縁部～体部片		細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部はヘラナデ、体部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
225図３		鉄器	不明	＋11	片側端部側片	8.1	1.1	0.5	10.6	細い板状、残存状態は比較的良好。

262 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
227図１	土師器 甕	掘方、埋土 口縁～胴部上位片	25.0	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
227図2	須恵器 甕	床直、＋4 口縁部片	25.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。口唇部は肥厚し、中位に1条の凹線が巡る。	
227図3	須恵器 甕	＋16 胴部片		細砂粒/還元焔/灰褐	外面は格子目状叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
227図4	須恵器 甕	床直、掘方、埋土 胴部片		細砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

263号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
229図1	須恵器 杯蓋	＋30 天井部片	摘み径5.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
229図2 PL.153	須恵器 杯	＋8 口縁部1/4欠損	12.8　3.7 6.3	細砂粒・礫/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部は疑似高台状。
229図3 PL.153	須恵器 杯	＋30 完形	13.0　3.7 6.9	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
229図4	須恵器 擂り鉢	＋17 底部～体部下位片	8.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、体部はカキ目。	
229図5	須恵器 杯	＋40 底部～体部片		細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	

265号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
232図1 PL.154	須恵器 杯蓋	＋12、埋土 ほぼ完形	14.2　3.2 摘み径3.2	細砂粒/還元焔/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
232図2	須恵器 杯蓋	床直 天井部片	摘み径2.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
232図3	須恵器 杯蓋	埋土 天井部片	摘み径2.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
232図4	須恵器 杯	床直 1/3	12.2　3.6 8.4	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
232図5	須恵器 杯	＋28 2/5	12.6　3.6 7.4	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部を残して回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
232図6	須恵器 杯	＋11 1/2	12.8　4.0 8.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
232図7 PL.154	須恵器 杯	＋11 4/5	12.1　3.8 7.8	細砂粒/還元焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整	
232図8 PL.154	須恵器 杯	＋6 4/5	12.4　3.5 7.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
232図9 PL.154	須恵器 杯	＋6 完形	13.0　3.2 8.0	細砂粒/還元焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
232図10 PL.154	須恵器 杯	＋5 2/3	14.0　3.7 7.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
232図11	須恵器 椀	埋土 底部～口縁部片	6.0	細砂粒/還元焔燻し/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
232図12 PL.154	須恵器 杯	＋4 3/4	12.9　4.9 7.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
232図13		鉄器	釘	埋土	頭部片	2.1	0.7	0.4	2.9	頭部1.1×0.8cmの矩形、錆化が進み空洞化。

266号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
233図1	須恵器 杯蓋	掘方 1/3	14.8　2.2 摘み径4.9	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
233図2	須恵器 杯	＋31 1/2	13.5　4.0 7.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部は回転ヘラ削り。	

267号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
234図1	黒色土器 椀	埋土 1/3	13.9　5.2 7.6	細砂粒/酸化焔/にぶい橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部と体部下位は回転ヘラ削り。内面はヘラ磨きか、単位不明。	
234図2	黒色土器 椀	＋25、埋土 底部～体部片	7.0	細砂粒/酸化焔/にぶい橙	内面黒色処理か。ロクロ整形、回転右回り。底部と体部下位は回転ヘラ削り。内面はヘラ磨きか、単位不明。	
234図3	須恵器 杯	＋21 底部～体部片	7.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
234図4 PL.153	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部中位	13.9	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

268 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
235図 1	土師器 鉢	埋土 口縁部～体部片	14.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
235図 2	須恵器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	23.0	細砂粒・礫/還元焔 /灰褐	口縁部ロクロ整形、口縁部は凹線による区画、凹線の区画内に波状文が巡る。内面は頸部にヘラナデ。胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
235図 3	PL.154	鉄器	刀子	＋13	茎部～刃部基部片	8.3	1.6	0.4	14.8	錆化が激しく、関は大きく肥大している。

270 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
237図 1	須恵器 杯蓋	埋土 天井部片	摘み径2.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	

272 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
239図 1	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	14.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
239図 2	須恵器 椀	＋17 底部～体部片	7.0	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り後周辺部を回転ヘラ削り。	
239図 3	須恵器 椀	＋43 底部～体部片	11.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
239図 4	須恵器 壺	埋土 胴部片		細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。把手は貼付でナデ、胴部は外面がカキ目、内面はヘラナデ。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
239図 5	PL.154	鉄器	鏃	＋35	完形	9.4	0.7	0.5	6.8	長頸三角形鏃(端刃造)、表面錆化が進んでいる。
239図 6	PL.154	鉄器	鏃	埋土	刃部～頸部片	5.1	0.9	0.3	6.1	長頸三角形鏃(端刃造)、表面錆化が進んでいる。
239図 7		鉄器	鏃	埋土	刃部～頸部片	5.3	0.7	0.4	5.3	長頸片刃鏃(端刃造)、表面は錆化が進んでいる。
239図 8	PL.154	鉄器	鏃	埋土	頸部	4.1	0.5	0.5	3.4	かすかに茎部が残る、表面は錆化が進んでいる。

273 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
240図 1	須恵器 杯	埋土 1/3	12.8　4.1 8.4	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
240図 2	須恵器 杯	埋土 底部片	8.8	細砂粒・礫/還元焔 /灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部に「十」のヘラ描き。
240図 3	須恵器 杯	＋11 2/5	14.2　4.3 10.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。内面底部はナデ。	
240図 4	須恵器 椀	埋土 底部片	11.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	

275 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
242図 1 PL.154	土師器 杯	床直 2/3	13.3　3.9 稜径14.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、稜下にナデ部分が残る。	内外面とも漆塗り。
242図 2 PL.154	土師器 杯	床直 3/5	12.4　4.1 稜径11.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、稜下にナデ部分が残る。	
242図 3 PL.154	土師器 杯	床直 完形	14.6　3.8 稜径13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部はナデ。	内外面とも漆塗り。
242図 4 PL.154	土師器 杯	床直 ほぼ完形	14.7　3.9 稜径13.5	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
242図 5 PL.154	土師器 小型甕	床直、埋土 3/5	13.6　15.8 6.0	粗砂粒・褐色粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部は上半がヘラナデ、下半がヘラ磨き。	
243図 6	土師器 鉢	床直 口縁～体部上位片	11.8	細砂粒/良好/褐灰	口縁部横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。	
243図 7	手捏ね土器 椀形	埋土 1/3	4.6　3.7	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口唇部横ナデ、体部はナデ。	

276 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
244図 1 PL.154	土師器 杯	床直 1/2	13.0　4.9 稜径11.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
244図 2 PL.154	土師器 杯	床直 ほぼ完形	13.3　4.4 稜径11.6	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
244図 3	土師器 杯	竈掘方 口縁部～体部片	13.2 稜径11.4	細砂粒/良好/褐灰	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	

277 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
245図 1	須恵器 杯	埋土 1/4	12.7　3.9 7.7	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
245図 2	須恵器 杯	＋20 1/3	14.6　3.6 10.0	細砂粒・粗砂粒・ 礫/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
245図 3 PL.154	須恵器 杯	＋16、埋土、掘方 1/2	15.0　3.4 11.4	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
246図 4	須恵器 椀	＋４ 底部	10.8	細砂粒/還元焔/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部はヘラ削り後周辺を回転ヘラ削り。	体部を打ち欠き二次利用か。
246図 5	須恵器 椀	＋８ 底部	10.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は中央が手持ちヘラ削り周辺は回転ヘラ削り。	体部を打ち欠き二次利用か。

278 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
248図 1 PL.154	土師器 杯	埋土 3/4	12.0　3.4 稜径12.4	細砂粒/良好/黒褐	内外面とも黒色処理。口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部に放射状ヘラ磨き。	外面底部にヘラ描き。
248図 2	土師器 杯	＋５ 1/3	12.9　3.4 稜径11.6	細砂粒/良好/褐灰	口縁部横ナデ、底部（稜下）は手持ちヘラ削り。内面底部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
248図 3	須恵器 杯	埋土 1/3	11.7　5.0 稜径10.0	細砂粒/還元焔/にぶい赤褐	ロクロ整形、回転右回り。体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。	
248図 4	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	12.9	細砂粒/良好/浅黄	内外面に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	内面にはススが付着。
249図 5	須恵器 甕	＋７ 口縁～胴部下半片	胴部径46.0	細砂粒・粗砂粒少/ 還元焔/灰	口縁部ロクロ整形。口縁部は凹線によって区画、区画に波状文が巡る。内面は下半にヘラナデ。胴部は平行叩き痕が残り、間隔をあけてカキ目、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
249図 6 PL.154	須恵器 甕	床直、＋９、埋土 胴部		細砂粒・粗砂粒/還 元焔/灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
248図 7 PL.154	須恵器 甕	床直 胴部片		細砂砂/還元焔/灰	甕胴部外面に窯壁面の土砂が崩落付着か。胴部は外面に平行叩き痕、内面にアテ具痕が残る。	

279 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
251図 1	土師器 杯	埋土 1/3	11.7　3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
251図 2 PL.155	土師器 杯	＋４ 1/2	15.2　3.5 稜径12.0	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部横ナデ、底部（稜下）は手持ちヘラ削り。	
251図 3 PL.155	土師器 杯	＋７ 4/5	15.6　3.8 稜径13.6	細砂粒・粗砂粒/良 好/橙	口縁部横ナデ、底部（稜下）は手持ちヘラ削り。	
251図 4 PL.155	土師器 皿	床直 5/6	15.2　2.4 10.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は全面ヘラ磨き。	
251図 5 PL.155	須恵器 杯蓋	床直、竈 完形	15.6　2.7 摘み径4.4	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
251図 6	須恵器 杯	床直、埋土 2/5	13.3　4.1 7.0	細砂粒/還元焔/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部と体部の稜下は回転ヘラ削り。	
251図 7 PL.155	土師器 台付甕	床直 脚部欠損	13.9 6.0	細砂粒/良好/橙	脚部は貼付であるが剥落。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
251図 8 PL.155	土師器 甕	床直、埋土 口縁～胴部下位片	14.0 8.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部は外面ヘラ削り、内面ヘラナデであるが、器面摩滅のため単位不鮮明。	
251図 9	土製品 錘	埋土 両端部欠損	長5.2　径1.2 孔0.5　重7.6	細砂粒/良好/灰褐	表面はナデ。	

280 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
253図 1	土師器 杯	＋７、埋土 1/2	12.7　3.8 稜径11.8	細砂粒/やや軟質/ 橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
253図 2	須恵器 蓋	竈 1/4	14.2　4.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。	短頸壺蓋か。
253図 3 PL.155	須恵器 杯	床直 ほぼ完形	12.2　3.5	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	底部楕円形9.8×10.5。
253図 4 PL.155	須恵器 高杯	床直、埋土 脚部	脚径11.7	細砂粒/還元焔/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。脚部は杯身に貼付、中位の３カ所に三角形の透孔。	
253図 5	須恵器 短頸壺	埋土 底部～胴部片	12.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から胴部下位は回転ヘラ削り。内面底部はナデ。	

281 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
255図１ PL.155	須恵器 杯	＋４ 完形	9.6　3.6 稜径7.7	細砂粒/還元焔/灰	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部はヘラナデ。	
255図２ PL.155	土師器 杯	＋９、埋土 ほぼ完形	12.7　3.5 稜径12.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
255図３	土師器 杯	埋土 1/4	13.0 稜径12.1	細砂粒/良好/赤褐	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗り。
255図４ PL.155	須恵器 杯	＋21 1/2	13.4　4.4 稜径12.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。内面底部はナデ。	
255図５ PL.155	須恵器 杯蓋	床直 完形	12.1　3.9	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面底部はヘラナデ。	
255図６	須恵器 杯蓋	埋土 1/2	13.7　4.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。焼成時の歪みが激しい。	
255図７	須恵器 杯蓋	埋土 1/2	13.8　3.7	細砂粒/酸化焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。	
255図８	須恵器 杯蓋	＋29 口縁～天井部片	14.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。	
255図９	須恵器 杯	埋土 口縁～底部片	11.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
255図10 PL.155	須恵器 高杯	＋６ 脚部片	脚径9.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。杯身とは貼付。	
255図11	須恵器 高杯	＋19 脚部片		細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部に３カ所の透孔。	
255図12	須恵器 鉢	＋25 口縁部～体部片	25.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形､回転方向不明。口縁部は凹線による区画、区画内に波状文、体部は平行叩き痕が残る。	
255図13 PL.155	須恵器 壺	床直 ほぼ完形	7.1　13.5 5.5	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。口縁部上位に１段、胴部中位に２段の刺突文、胴部下位から底部は手持ちヘラ削り。	
255図14	須恵器 杯身	＋37 口縁部下位～底部	稜径12.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。体部に凹線が１条巡る。	
255図15 PL.155	須恵器 壺	＋22、埋土、掘方 胴部片	胴部径23.6	細砂粒/還元焔/オリーブ灰	胴部上位はロクロ整形、中位から下位には平行叩き痕が残る。内面はヘラナデ。	
255図16	土師器 甕	床直 口縁～胴部上位片	18.0	細砂粒/良好/暗褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
256図17 PL.155	土師器 甕	＋38、埋土 口縁部～胴部下位	21.6 胴部径31.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ､胴部はヘラ削り後ヘラ磨き。内面胴部はヘラナデ。	
256図18	土師器 甕	＋９、埋土 胴部片	胴部径29.2	細砂粒/良好/にぶい橙	頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ヘラナデ、上位は単位不鮮明。内面胴部はヘラナデ。	

284 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
257図１	須恵器 壺	埋土 底部～体部下位片	7.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部と胴部下半は手持ちヘラ削り。	

286 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
259図１ PL.156	土師器 杯	＋22 口縁部1/5欠損	13.0　3.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
259図２	須恵器 杯蓋	＋20 口縁部～天井部片	16.8	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
259図３	PL.156	鉄器	鎌	＋21	基部側1/2	6.7	2.6	0.3	15.3	表面は錆化が進んでいる。

287 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
261図１	土師器 杯	埋土 1/3	12.8　3.1	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
261図２	土師器 杯	埋土 1/4	12.8　3.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
261図３	須恵器 杯蓋	＋26 天井部片	摘み径6.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付。	
261図４	須恵器 杯	＋５ 口縁部～体部片	12.7　3.4 8.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
261図５	須恵器 杯	＋９ 口縁部～底部片	12.8　3.0 7.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
261図６ PL.155	須恵器 杯	床直、埋土 1/2	13.0　3.0 7.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
261図７ PL.155	須恵器 杯	＋８ 口唇部欠損有り	14.5　3.6 10.1	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央をわずかに残して回転ヘラ削り。	
261図８ PL.155	須恵器 杯	床直 口縁部1/4欠損	15.0　4.0 8.4	細砂粒・粗砂粒・褐色粒/酸化焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
261図９	須恵器 椀	＋24 底部～体部片	8.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り、器面摩滅のため単位不鮮明。	
261図10	須恵器 椀	＋13 底部～体部片	10.4	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位も回転ヘラ削り。	
261図11 PL.155	須恵器 杯	床直 口縁部一部欠損	14.8　4.0 11.2	細砂粒。粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
261図12	須恵器 長頸壺	＋20 底部片	高台径14.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部はヘラナデ。	
261図13	土師器 甑	埋土 底部小片		細砂粒/良好/橙	底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。底部に径４～６㎜の小孔が数カ所穿孔。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
261図14		鉄器	鏃	＋17	茎部欠損	10.0	0.8	0.3	10.7	長頸片刃鏃（端刃造）

288 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
263図１	須恵器 椀	＋10 口縁部～底部片	12.8　7.5 12.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部に平行叩き痕が残る。	
263図２	土師器 甕	＋12、埋土 底部片	9.0	細砂粒/良好/橙	底部は木葉痕が残る。	

289 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
265図１	土師器 杯	床直、埋土 1/4	11.8 稜径12.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
265図２	土師器 杯	床直、＋６ 1/3	13.2　3.7 稜径14.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、底部（稜下）は手持ちヘラ削り。内面底部に放射状ヘラ磨き。	
265図３	土師器 杯	埋土 1/5	13.8　3.7 稜径12.8	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
265図４	土師器 杯	埋土 1/4	15.0　3.0 稜径14.0	細砂粒/良好/暗灰黄	口縁部横ナデ、底部（稜下）は手持ちヘラ削り。内面底部に放射状ヘラ磨き。	
265図５ PL.156	須恵器 杯蓋	＋12 完形	11.8　3.9	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は周辺部まで回転ヘラ削り。	
265図６	須恵器 杯蓋	床直 1/4	12.0　4.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。	
265図７ PL.156	須恵器 杯	床直 口縁部1/3欠損	11.8　4.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。口縁部下位に２条の凹線が巡る。	
265図８	須恵器 杯	＋８、埋土 1/3	13.8　4.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。内面底部はヘラナデ。	
265図９	須恵器 高杯	床直 杯身部口縁～体部片	12.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。口縁部下に２条の凹線が巡る。底部下半は回転ヘラ削り。	
265図10	須恵器 高杯	竈、竈掘方 杯部口縁～底部片	11.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付。	
265図11	須恵器 鉢	床直 口縁部片	14.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。内面はヘラナデ。	
265図12	須恵器 長頸壺	竈掘方 口縁部片	11.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。	
265図13	須恵器 長頸壺	床直、＋13、埋土 胴部片	胴最大径17.3	細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部上位に凹線区画、区画内に波状文、中位から下位は回転ヘラ削り。	
265図14	須恵器 壺	＋８、埋土 口縁～胴部上位片	22.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	口縁部ロクロ整形、回転右回り。胴部外面は降灰付着で不明、内面はアテ具痕が残る。	
266図15	須恵器 壺	＋９ 口縁～胴部下位片	12.7 胴部最大径18.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰オリーブ	口縁部はロクロ整形。胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	
266図16 PL.156	須恵器 短頸壺	床直 口縁部1/2欠損	10.2　8.6	細砂粒/酸化焔ぎみ/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
266図17	須恵器 瓶	＋11 胴部片	径10.2	細砂粒/還元焔/灰	胴部はヘラ削り、内面はナデ。	器種不明。
266図18	須恵器 瓶	＋11 頸部～胴部片		細砂粒/還元焔/灰	胴部はヘラ削り、内面はナデ。	器種不明。
266図19 PL.156	土師器 甕	床直、＋20 4/5	14.2　12.6	細砂粒/良好/灰黄	口縁部から頸部は横ナデ、頸部下はナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
266図20	土師器 甕	＋５、埋土 口縁～胴部上半片	18.0	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
266図21	須恵器 壺	＋20 底部片	7.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回りか。底部から胴部下位は手持ちヘラ削り。	
266図22	土師器 小型甕	床直、＋17 底部～胴部下位	8.4	細砂粒/良好/橙	外面胴部に輪積み痕が残る。胴部､底部ともヘラナデ。内面はヘラナデ。	
266図23	須恵器 甕	床直、埋土 口縁部片	24.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	口縁部はロクロ整形、凹線によって２段に区画、区画内に波状文が巡る。	
266図24	須恵器 甕	＋17 口縁部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形、凹線と小凸帯によって区画、区画内に波状文が巡る。	
266図25	須恵器 甕	＋25 口縁部下半片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	頸部に補強帯が貼付、口縁部はロクロ整形、と小凸帯によって区画、最下段を除き区画内に波状文が巡る。内面はヘラナデ。	
267図26	須恵器 甕	床直 胴部片		細砂粒/酸化焔/灰黄褐	外面は平行叩き痕後間隔をあけてカキ目が巡る。内面は同心円状アテ具痕が残る。	
267図27	須恵器 甕	＋20 胴部上位片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕が残るが一定間隔にナデが巡る、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
267図28	須恵器 甕	床直、＋21 胴部上位片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗青灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
267図29	須恵器 甕	床直、＋９、埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/明青灰	外面の叩き痕はナデ消されている。内面は同心円状アテ具痕が残る。	

290 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
269図１ PL.156	須恵器 杯蓋	＋11、埋土 3/5	11.8　4.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。口唇部に２条の凹線が巡る。	
269図２	須恵器 杯蓋	＋11 2/5	12.3　4.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。内面天井部はナデ。	
269図３	須恵器 杯	＋７ 口縁部片	11.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。口唇部に２条、体部上位１条の凹線が巡る。	
269図４ PL.156	須恵器 杯	＋６ ほぼ完形	11.3　4.5 6.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
269図５ PL.156	須恵器 杯	床直、埋土 1/3	10.9	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下半は手持ちヘラ削り。	
269図６ PL.156	須恵器 杯	＋５ 3/4	13.8　4.5	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。口縁部と体部の間に１条の凹線が巡る。	
269図７	須恵器 平瓶	＋４ 口縁部	7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部とは頸部で貼付。	

291 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
272図１	土師器 杯	＋８ 1/2	13.2　4.0 稜径14.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗りか。
272図２	土師器 杯	＋８ 1/6	10.8　3.7 稜径10.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面にススが付着。
272図３ PL.156	土師器 杯	埋土 口縁部1/4欠損	13.2　4.3 稜径12.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗りか。
272図４	土師器 杯	埋土、掘方 1/4	12.4 稜径11.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗りか。 有段口縁杯。
272図５	土師器 杯	＋10 1/4	13.4 稜径11.2	細砂粒/良好/明黄褐	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
272図６ PL.156	須恵器 短頸壺	埋土 口縁部欠損	胴部径6.2 4.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部と胴部下位は手持ちヘラ削り。	ミニチュア。
272図７	手捏ね土器 椀形	埋土 底部～体部片	3.8	細砂粒/良好/橙	内面黒色処理。処理体部底部ともヘラナデ。	
272図８	手捏ね土器 臼形	掘方 上半片	4.4	細砂粒/良好/にぶい黄褐	内外面ナデ整形。	
272図９	土製品 錘	埋土 1/2	長5.6 径2.1 孔0.5重15.0	細砂粒/良好/明褐	表面はナデ。	

292 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
273図１ PL.156	土師器 杯	＋20 口縁部一部欠損	12.4　4.6 稜径14.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗りか。

古墳時代以降遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
273図２ PL.156	土師器 杯	＋10 2/5	12.4 稜径13.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
273図３	土師器 杯	＋12 1/5	12.8 稜径11.8	細砂粒/還元焔/暗灰黄	口縁部横ナデ、体部（稜下）はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
273図４	須恵器 杯身	＋11 1/3	12.2　4.0 稜径14.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部（稜下）ナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
273図５ PL.156	須恵器 高杯蓋	埋土 1/3	14.3　6.4 摘み径2.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は回転ヘラ削り。	
273図６ PL.156	須恵器 高杯	＋12、埋土 脚部	脚径12.8	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。杯身とは貼付、中位に２条の凹線が巡り、上下に２段の透孔が３カ所。	
273図７ PL.156	須恵器 短頸壺	＋６、埋土 口縁部4/5欠損	12.3　8.8 4.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回り。底部から胴部下位は手持ちヘラ削り。	
274図８ PL.156	須恵器 提瓶	＋５、埋土 口縁部、胴部2/5欠	胴部幅22.6 胴部厚17.5	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	口縁部、胴部ともロクロ整形、回転右回り。一対の把手貼付、胴部は表裏、側面ともカキ目。内面は裏面はナデ、表面に絞り込み痕、閉塞痕が残る。	
274図９ PL.156	土師器 甕	床直、＋13 3/5	11.8　15.8 6.0	細砂粒・粗砂粒少/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
274図10 PL.156	土師器 甕	＋11、埋土 3/4	12.2　13.3 7.1	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
274図11 PL.157	土師器 甕	床直、＋９、埋土 ほぼ完形	18.8　30.9 6.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、底部もヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	外面にススが付着。
274図12	土師器 甕	＋11、埋土 口縁～胴部上位片	18.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	内面胴部の一部に漆が付着。
274図13	土師器 甕	＋４ 口縁～胴部上位片	16.5	細砂粒・粗砂粒/良好/暗褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は口縁部横ナデ、頸部から胴部にヘラナデ。	
274図14	土師器 甕	＋４ 底部～胴部下位片	7.2	細砂粒・粗砂粒/良好/暗褐	底部には木葉痕が残る、胴部はヘラ削り。内面ヘラナデ。	
274図15	土師器 甕	床直、＋８、埋土 底部～胴部下半	6.4	細砂粒/良好/橙	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
275図16 PL.157	須恵器 甕	＋９ 口縁部胴部上半	25.0	細砂粒/還元焔/暗灰	口縁部ロクロ整形、外面は凹線で２段に区画、区画内に波状文。胴部は外面が間隔をあけたカキ目、平行叩き痕がかすかに残る。内面は同心円状アテ具痕が残る。胴部上位には降灰が厚く付着。	
275図17	須恵器 甕	＋13、埋土 口縁～胴部上位片	24.2	細砂粒/還元焔/暗灰	口縁部はロクロ整形、外面は小凸帯によって２段に区画、区画内に波状文、内面は下半がヘラナデ。胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	
275図18 PL.157	須恵器 甕	床直、＋８、埋土 口縁部～片頸部	32.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形、頸部に補強帯が貼付。口縁部は凹線によって区画、最下段を除き、４段の波状文が巡る。内面は下半がヘラナデ。	内面に「±」のヘラ描き。
275図19 PL.157	須恵器 甕	床直、埋土 口縁部	35.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形、頸部に補強帯が貼付。外面は凹線によって４段に区画、上位３段には波状文が巡る。	
275図20	須恵器 甕	＋14、埋土 口縁～胴部上半片	22.0	細砂粒/還元焔/灰黄	口縁部はロクロ整形、小凸帯で２段に区画、区画内に波状文が巡る、内面は下位から頸部にヘラナデ。胴部は外面が平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	
276図21 PL.157	須恵器 甕	＋12 口縁部胴部上半	24.0	細砂粒/還元焔/暗灰	口縁部ロクロ整形、外面は凹線と小凸帯で２段に区画、区画内に波状文、内面下半はヘラナデ。胴部は外面が間隔をあけたカキ目、平行叩き痕がかすかに残る。内面は同心円状アテ具痕が残る。	
276図22	須恵器 甕	床直、＋７、埋土 口縁部片	54.0	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形、頸部に補強帯が貼付。外面は凹線によって４段に区画、上位３段の区画内に波状文が巡る。内面はヘラナデ。	
276図23	須恵器 甕	＋14 口縁部下半片		細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形、頸部に補強帯が貼付。外面は凹線による区画、区画内に波状文が巡る、最下段はカキ目?内面は下位にヘラナデ。	
276図24	須恵器 甕	床直、＋５、埋土 底部～胴部下位		細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。底部に窯底面土砂付着、内面に降灰付着。	
277図25	須恵器 甕	床直、＋10 胴部上位片		細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰	頸部に補強帯が貼付か。胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	
276図26	須恵器 甕	床直 口縁部片		細砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形。外面は凹線による区画、区画内には波状文が巡る。内面は口縁部下半がヘラナデ。	
277図27	須恵器 甕	床直 胴部上位片		細砂粒/還元焔/灰黄	頸部付近は内外ともナデ。胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	
277図28	須恵器 甕	＋７ 胴部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き後大半はカキ目が施されているが、下位に叩き痕が残る。内面は同心円状アテ具痕が残る。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
277図29	須恵器 甕	＋５、埋土 胴部下位片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面は叩き痕をヘラナデで消している。内面は同心円状アテ具痕が残る。	焼成時の歪み大きい。
278図30	須恵器 甕	＋10、埋土 胴部下位片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面は横方向のカキ目、平行叩き痕がかすかに残る。内面は同心円状アテ具痕が残る。	
278図31	須恵器 甕	＋13 底部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面は叩き痕をヘラナデで消している。内面はアテ具痕が残る。	焼成時の歪み大きい。

293 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
280図１ PL.158	土師器 杯	床直 完形	12.7　4.8 稜径11.0	細砂粒/良好/浅黄	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。有段口縁杯
280図２ PL.158	須恵器 杯	床直 完形	12.0　4.4 7.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	

294 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
282図１	土師器 杯	竈掘方 1/4	17.4	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部から底部の整形は器面摩滅のため不明。	
282図２	土師器 杯	竈掘方 口縁部～体部片	18.8	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
282図３	黒色土器 鉢	＋23、埋土 口縁部～体部片	18.8 8.5	細砂粒/酸化焔/橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回りか。体部下位は回転ヘラ削り。内面はヘラ磨きか。	
282図４ PL.158	須恵器 甕	床直 胴部片		細砂粒/還元焔/暗灰	内面に窯壁付着。外面は平行叩き痕が残る。歪みが激しい。	

挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特　徴
282図５ PL.158	石製品 紡錘車	床直 2/3	4.6 2.0　26.9	砂岩	全面丁寧な研磨。

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
282図６	PL.158	鉄器	刀子	床直	茎部～刃部基部片	11.9	1.6	0.6	15.5	表面は錆化が進んでいる。

296 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
283図１	土師器 杯	竈掘方 1/4	12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
283図２	須恵器 杯	＋20 底部	6.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
283図３	土師器 甕	竈、埋土 口縁～胴部上位片	22.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

297 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
286図１	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
286図２	土師器 高杯	＋10 杯身底部～脚部片		細砂粒/良好/にぶい褐	杯身底部から脚部はヘラ削り。内面は杯身に粗い放射状ヘラ磨き、脚部はヘラナデ。	
286図３ PL.158	須恵器 杯	埋土 2/5	8.4　3.3	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部は回転ヘラ削り。	ミニチュア。
286図４ PL.158	須恵器 杯	＋13、埋土 口縁部1/4欠損	9.8　3.9	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下半は回転ヘラ削り。	
286図５ PL.158	須恵器 杯	埋土 1/2	13.2　5.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下半は手持ちヘラ削り。	
286図６	須恵器 盤	＋10 口縁部片	30.6	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部下半から底部は回転ヘラ削り。	
286図７	須恵器 鉢	床直、埋土 1/3	12.2　13.2 7.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は手持ちヘラ削り。口縁部から体部には５条の凹線が巡る。	
286図８	須恵器 鉢	＋31 口縁部～底部片	24.0　8.0 15.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部は回転ヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
286図９	須恵器 瓶	埋土 底部～胴部下位	9.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り後台部貼付のナデ。	台付長頸壺または花瓶か。
287図10 PL.158	土師器 甕	床直、＋５、埋土 口縁部～胴部中位	20.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
287図11	土師器 甕	＋12 口縁～胴部上位片	19.4	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
287図12	須恵器 壺	＋15、埋土 胴部片		細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。外面はカキ目、内面はナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
287図13 PL.158	土製品 アテ具	埋土 1/3	径8.0	細砂粒/良好/褐灰	側面、底面ともナデ。	
287図14	須恵器 杯	掘方、埋土 1/4	12.4　3.2 7.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
278図15		鉄器	刀子	埋土	刃部片	5.0	1.7	0.5	6.3	表面は錆化が進んでいる。
278図16		鉄器	釘	埋土	頭部欠損	4.1	0.6	0.5	1.8	表面は錆化が進んでいる。

298 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
289図１	土師器 杯	埋土 1/3	10.4　3.7 稜径13.6	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削りであるが、器面剥離のため詳細不明。	漆塗りか、範囲不明。
289図２	須恵器 杯	埋土 1/5	15.8 13.8	細砂粒/還元焔/暗緑灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部はカキ目。	
289図３ PL.158	土師器 台付甕	床直、竈 完形	12.5　17.6 脚径9.7	細砂粒/良好/明赤褐	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り、脚部は横ナデ。内面胴部はヘラナデ。	
289図４ PL.158	土師器 甕	床直、竈 口縁～胴部中位片	18.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
289図５	須恵器 甕	埋土 胴部小片		細砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕がかすかに残る。内面は同心円状アテ具痕が明瞭に残る。	周囲を打ち欠き二次利用か。

299 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
291図１ PL.158	土師器 杯	床直 口縁部1/4欠損	12.5　4.2 稜径13.7	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
291図２	土師器 杯	埋土 1/3	12.8　4.0 稜径14.1	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗り、内面剥落部分多い。
291図３	土師器 杯	床直、竈 1/4	14.0　5.0 稜径15.0	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
291図４ PL.158	土師器 杯	床直 ほぼ完形	14.2　4.5 稜径13.0	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
291図５ PL.158	土師器 甑	床直、竈、埋土 1/2	26.6　25.9 10.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ後ヘラ磨き。	
291図６ PL.158	土師器 甕	床直、竈、埋土 2/3	18.2　21.1 5.2	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
291図７ PL.158	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上半	17.5	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
291図８	土師器 甕	床直、竈 胴部下半片		細砂粒・粗砂粒/良好/灰黄褐	胴部は縦方向ヘラ削り。内面はヘラナデ。	
291図９	土師器 甕	＋６、竈、埋土 底部～胴部上位片	5.2	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄褐	底部はヘラ削り、胴部は縦方向ヘラ削り。内面はヘラナデ。	

301 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
293図１ PL.159	須恵器 杯	床直 完形	12.3　3.8 6.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
293図２	土師器 甕	埋土 口縁～胴部中位片	22.4	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	コの字状口縁甕。
293図３	土師器 甕	床直 底部～胴部下位片	7.2	細砂粒多/良好/明赤褐	胴部は縦方向ヘラ削り、器面摩滅のため単位不鮮明。内面はヘラナデ。	
293図４	須恵器 甕	床直 口縁部片		細砂粒・粗砂粒少/還元焔/褐灰	口縁部はロクロ整形。外面は縦方向カキ目後横ナデ。内面下半はヘラナデ。	
293図５	土製品 錘	床直 両端部欠損	長7.8 径1.6 孔0.5重13.7	細砂粒/良好/橙	表面はナデ。	

303 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
296図１	土師器 杯	＋14 1/2	13.0　4.3 稜径12.2	細砂粒/良好/褐灰	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも口縁部は漆塗り。
296図２	土師器 杯	＋17 1/4	13.8　4.2 稜径12.3	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗りか。
296図３	土師器 杯	＋18 2/5	14.8　3.8 稜径12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。有段口縁杯。
296図４	土師器 杯	＋11 口縁部～底部片	16.6 稜径15.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
296図５	須恵器 杯蓋	埋土、掘方 天井部片	摘み径8.4	細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
296図６	須恵器 杯	埋土 底部～体部片	13.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
296図７	土師器 杯	埋土 1/4	13.0　2.6 10.2	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
296図８		鉄器	鎌	埋土	刃部片	5.3	2.3	0.4	9.2	表面は錆化が進んでいる。
296図９	PL.159	金属製品	留め金具	埋土	ほぼ完形	4.5	3.8	1.6	40.2	表面は錆化が進んでいる。

305 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
297図１ PL.159	須恵器 杯	＋４ 3/4	12.8　4.1 6.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	

307 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
298図１	須恵器 鉢	＋７ 口縁部～体部片	16.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部下半はヘラ削り。内面体部下半はヘラナデ。	

308 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
299図１	土師器 甕	床直、＋10、埋土 口縁～胴部上位片	17.5	細砂粒・褐色粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
299図２	須恵器 甕	＋13 胴部片		細砂粒/還元焔/暗灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

309 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
301図１ PL.159	土師器 椀	床直 ほぼ完形	11.7　6.1	細砂粒/良好/明赤褐	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。内面体部から底部はヘラナデ。	
301図２	土師器 杯	＋17 1/3	11.9　4.1 稜径12.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
301図３ PL.159	土師器 杯	＋31 口縁部1/2欠損	12.0　3.9 稜径12.4	細砂粒/良好/浅黄	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
301図４	須恵器 杯蓋	床直、埋土 1/2	13.0　4.1	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は内側の凹線まで回転ヘラ削り。	
301図５ PL.159	須恵器 杯身	床直 完形	13.1　4.7 稜径14.9	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	底部に２条線のヘラ描き。
301図６	須恵器 高杯	＋12 脚部片	脚径14.0	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部には４カ所の透孔。	
301図７ PL.159	須恵器 鉢	床直 底部欠損	14.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。口唇部に１段の波状文、摩滅のため単位不明、体部は小凸帯の上下に波状文が巡る。	
301図８ PL.159	須恵器 壺	＋25 口縁部大半欠損	7.0　12.0 胴最大径12.3	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回り。口縁部に１段、胴部上半に２段の波状文、下半は回転ヘラ削り、底部はカキ目。	
301図９ PL.159	須恵器 平底瓶	＋22 頸部～胴部片		細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部に波状文、胴部肩部は凹線によって２段に区画、区画内に刺突文、その下位はカキ目。内面はヘラナデ。	
301図10 PL.159	須恵器 平底瓶	＋22 底部～胴部下位片	17.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部は回転ヘラ削り、胴部は残存下半が回転ヘラ削り、上半がカキ目。内面はヘラナデ。	
301図11	須恵器 壺	＋29 口縁～胴部上半片	16.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。口縁部は２～３段の波状文、胴部はカキ目、肩部周縁は凹線区画と内部に波状文。	
301図12	土師器 甑	床直 胴部下半片	9.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	胴部は縦方向ヘラ磨き後に横方向のヘラ磨き。内面はやや斜め方向のヘラ磨き。	

313 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
306図１ PL.159	土師器 杯	埋土 3/5	13.8　3.3 稜径12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、稜下にナデ部分が残る。	
306図２	土師器 杯	床直 1/3	10.6　2.7	細砂粒/良好/灰白	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
306図３	土師器 杯	埋土 1/4	13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
306図４ PL.159	須恵器 杯蓋	竈 1/3	10.5　3.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	

古墳時代以降遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備考
306図５ PL.159	須恵器 杯蓋	竈掘方、掘方 5/6	10.7　3.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
306図６ PL.159	須恵器 杯蓋	＋８、掘方、埋土 口縁部1/4欠損	11.4　3.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転左回りか。天井部は手持ちヘラ削り。内面天井部はヘラナデ。	
306図７ PL.159	須恵器 杯蓋	床直、埋土 1/2	12.2	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転左回りか。天井部は手持ちヘラ削り。	
306図８	須恵器 杯蓋	床直 天井部片		細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
306図９ PL.159	須恵器 杯	床直 4/5	9.8　3.2 6.4	細砂粒/還元焔/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラ起し。	
306図10	須恵器 杯	埋土 1/5	10.7 5.4	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下半は手持ちヘラ削り。	
306図11	須恵器 杯	床直 2/5	10.8　4.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は手持ちヘラ削り。	
306図12 PL.159	須恵器 高杯	床直 杯身部	11.0 5.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付、接合面には回転を利用しヘラで円状に細い凹線を施している。	
307図13 PL.159	須恵器 杯	床直 ほぼ完形	11.2　4.5	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。口縁部に凹線が２条巡る。	
307図14 PL.159	須恵器 杯	床直 ほぼ完形	11.3　3.7	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下半は回転ヘラ削り。内面底部はヘラナデ。	
307図15	須恵器 杯	埋土 1/6	11.7　4.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下半は手持ちヘラ。	
307図16	須恵器 杯	床直、埋土 1/4	12.2　3.9 7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下半は回転ヘラ削り。	
307図17 PL.159	須恵器 杯	＋16、掘方、埋土 ほぼ完形	12.3　3.7 6.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は中程までが手持ちヘラ削り、周辺部から体部下半が回転ヘラ削り。	
307図18 PL.159	須恵器 杯	床直、埋土 2/3	13.4　3.9 8.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下半は細かい手持ちヘラ削り。	
307図19 PL.159	須恵器 椀	床直 口縁部大部分欠損	15.5　5.6 10.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
307図20	須恵器 杯	＋５ 底部		細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
307図21	須恵器 高杯蓋	埋土 口縁部～天井部片	13.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は周囲まで回転ヘラ削り。	
307図22 PL.159	須恵器 高杯	床直 脚部片	脚径9.6	細砂粒/還元焔/淡黄	ロクロ整形、回転右回り。脚部は杯身に貼付。中程に凹線が１条巡る。	
307図23	須恵器 盤	埋土 口縁部片	23.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転方向不明。体部に２条の凹線が巡る。凹線下方に平行叩き痕が残る。内面は体部にヘラナデ。	
307図24	須恵器 長頸壺	埋土 口縁部片	6.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。口唇部と口縁部上位に各１条の凹線による区画、区画内に波状文が巡る。	
307図25	須恵器 長頸壺	埋土 口縁部片	8.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。内面は凹線による区画、区画内に波状文が巡る。	
307図26	須恵器 短頸壺	埋土 口縁部片	11.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
307図27 PL.159	土師器 脚付鉢	床直 底部一部欠損	16.5　16.9 脚径12.8	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	脚部は貼付。口縁部は横ナデ、体部から底部、脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面は脚部がヘラナデ。	
307図28 PL.160	土師器 脚付鉢	床直、＋８、埋土 ほぼ完形	18.2　16.8 脚径12.5	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	脚部は貼付。口縁部横ナデ、体部は横方向、底部から脚部は縦方向ヘラ削り、裾部は横ナデ。内面は体部と脚部はヘラナデ。	
307図29	土師器 鉢	竈、埋土 口縁部～体部片	16.5	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、口縁部下はナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面体部はヘラナデ。	
308図30 PL.160	土師器 甕	床直、埋土 口縁～胴部上半片	19.8	細砂粒/良好/灰褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
308図31 PL.160	土師器 甕	竈、＋７ ほぼ完形	15.8　23.6 4.4	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り、底部中央に木葉痕がわずかに残る。内面胴部はヘラナデ。	
308図32 PL.160	土師器 甕	床直、竈 ほぼ完形	22.0　39.9 3.4	細砂粒・粗砂粒/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
308図33 PL.160	土師器 甕	床直、カマド 口縁部～胴部下位	22.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	カマド袖芯材。
309図34 PL.160	土師器 甕	床直、埋土 底部～胴部上位	4.0	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。胴部の成形に歪みがみられる。	カマド袖芯材。 外面一部に粘土付着。
309図35	土師器 甕	＋６ 底部～胴部下位片	8.0	粗砂粒/良好/にぶい褐	底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
309図36	須恵器 甕	＋10 口縁～胴上位小片	19.6	細砂粒/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形、口唇部に凹線が巡る、口縁部は縦方向カキ目、胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
309図37 PL.160	須恵器 椀	＋4 口縁部1/4欠損	14.0　5.6 8.2	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り周囲は高台貼付時のナデ。	外面口縁部に「入田」の墨書。

314号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
311図1 PL.160	土師器 杯	＋28 2/5	11.0　3.8 稜径12.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
311図2 PL.160	土師器 杯	＋18 1/4	11.7　3.7 稜径12.1	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面に漆付着、内面底部は厚い。
311図3 PL.160	土師器 杯	床直、埋土 ほぼ完形	12.1　4.3 稜径13.1	細砂粒/良好/黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
311図4 PL.160	土師器 杯	床直、埋土 口縁部1/3欠損	12.1　3.8 稜径12.9	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
311図5 PL.160	土師器 杯	床直 完形	12.2　4.3 稜径13.4	細砂粒/良好/にぶい橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は放射状ヘラ磨き。	
311図6 PL.160	土師器 杯	床直 3/5	13.6　4.0 稜径12.7	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
311図7 PL.160	土師器 杯	埋土、掘方 1/2	13.8　4.3 稜径12.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗りか。
311図8 PL.160	土師器 杯	埋土 4/5	13.8　4.4 稜径11.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
311図9 PL.160	土師器 杯	床直、竈、埋土 ほぼ完形	14.2　4.4 稜径12.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
312図10 PL.161	土師器 高杯	床直、埋土 杯身1/2欠損	13.4　7.8 脚径10.0	細砂粒/良好/橙	杯身口縁部横ナデ、体部（稜下）、底部から脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面脚部はヘラナデ。	内外面とも漆塗り。
312図11 PL.161	土師器 高杯	床直、埋土 脚部1/3欠損	13.4　7.9 脚径11.1	細砂粒/良好/にぶい黄橙	杯身口縁部横ナデ、体部（稜下）はナデ、底部から脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面脚部はヘラナデ。	
312図12 PL.161	土師器 高杯	床直、埋土 5/6	14.1　8.1 脚径11.5	細砂粒/良好/黄橙	脚部は貼付。口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、脚部もヘラ削り、裾部は横ナデ。	
312図13 PL.161	土師器 高杯	床直、掘方 杯身1/2欠損	14.2　7.2 脚径11.3	細砂粒/良好/橙	杯身口縁部横ナデ、体部（稜下）はナデ、底部から脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面脚部はヘラナデ。	
312図14 PL.161	須恵器 杯身	床直、埋土、掘方 口縁部大部分欠損	13.2　4.8 稜径15.6	細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転左回り。体部は回転ヘラ削り。	
312図15 PL.161	土師器 壺	床直、埋土 口縁部～胴部下位	12.8 胴部径20.1	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。胴部上位と内面は器面摩滅のため単位不鮮明。	
312図16 PL.161	土師器 甑	床直 口縁部1/4欠損	15.8　14.2 6.0	細砂粒・粗砂粒少/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。底部に径2～4㎜の穿孔が11カ所。	
312図17 PL.161	土師器 甕	床直 ほぼ完形	14.9　14.0 5.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ヘラ磨き、底部は木葉痕が残る。内面胴部はヘラナデ。	
313図18 PL.161	土師器 甕	床直、＋7、竈 3/5	22.8　41.0 5.2	粗砂粒・礫/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	カマド構築材。
312図19 PL.161	土師器 甕	床直 口縁部～胴部下位	17.7	粗砂粒・礫/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	カマド構築材。
313図20 PL.161	土師器 甕	床直、＋7、竈 口縁部～胴部中位	20.4	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	カマド構築材。
313図21	土師器 甕	床直 胴部		粗砂粒・礫/良好/にぶい橙	胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	カマド袖芯材。
313図22	須恵器 杯	＋23 1/3	11.6　3.7 8.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は手持ちヘラ削り。	
313図23	須恵器 杯	掘方 1/6	11.8　3.7	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下半は手持ちヘラ削り。	
313図24	須恵器 杯	＋18 1/4	12.0　3.6 7.0	細砂粒/還元焔/暗灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下半は回転ヘラ削り。	外面口縁部に墨書、判読不能。
313図25	須恵器 壺	掘方 底部片	7.0	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部の整形は降灰付着のため不明。	

挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特　徴
313図26	石製品 砥石	＋15 下部欠損	13.7　5.6 6.0　532.0	砥沢石	舟形に整形か。下部は使用時に欠損か。表裏、両側面とも良く使用されている。特に表面の使用が顕著。

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
313図27		鉄器	鏃	床直	茎部片	4.9	0.9	0.6	5.2	側面は下部に向かって細くなり、先端は尖る。

317 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
319図 1	土師器 高杯	埋土 杯身底部～脚部片	脚径11.4	細砂粒/良好/橙	脚部は貼付。杯身底部から脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面脚部はヘラナデ。	
319図 2	須恵器 杯	埋土 1/6	10.9　3.9 7.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り、周縁部は手持ちヘラ削り。	
319図 3	須恵器 鉢	埋土 口縁部～底部片	18.0　6.5 12.4	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り、口縁部下に 1 条の凹線が巡る。	
319図 4	須恵器 甕	埋土 口縁部片		細砂粒多・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形。口唇部下に 1 条の凹線、口縁部に 1 段の波状文が巡る。	

319 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
321図 1	土師器 杯	埋土 1/3	9.7	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削りであるが、器面摩滅のため単位不鮮明。	
321図 2	土師器 杯	埋土 1/4	14.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削りであるが、器面摩滅のため単位不鮮明。	
321図 3	須恵器 甕	埋土 口縁～胴部上位片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/青灰	頸部にて胴部と口縁部を貼付して補強帯を貼付。内面は口縁部がヘラナデ、胴部は同心円状アテ具痕が残る。	
321図 4 PL.162	土師器 杯	埋土 4/5	12.8　3.7 稜径14.2	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。

320 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
324図 1 PL.161	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	9.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	内面体部に漆付着。
324図 2 PL.161	土師器 杯	床直、埋土 4/5	11.2　3.7	細砂粒・粗砂粒微/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
324図 3	土師器 杯	床直、埋土 1/4	12.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
324図 4	土師器 杯	埋土 1/2	10.8　3.2 稜径10.6	細砂粒/良好/明褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
324図 5	土師器 杯	埋土 1/4	13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
324図 6	土師器 杯	＋41 2/5	13.7　4.2 稜径13.6	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
324図 7	土師器 杯	埋土 1/3	16.7　4.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は上半が横ナデ、下半はナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
324図 8 PL.161	土師器 鉢(鉄鉢)	埋土、竈掘方 1/2	14.4　9.8 5.1	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状暗文。	
324図 9	須恵器 杯蓋	＋9 1/3	12.6　3.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は手持ちヘラ削り。内面は天井部の中央にナデ、外面に降灰が付着。	
324図10	須恵器 杯蓋	埋土 口縁部～天井部片	9.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は中程まで回転ヘラ削り。内面は器面摩滅。	
324図11 PL.161	土師器 杯	床直、＋16 口縁部1//4欠損	10.8　4.1 稜径9.1	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	有段口縁杯。
324図12	須恵器 杯	埋土 1/4	10.2　4.3 7.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下半は回転ヘラ削り。	
324図13	須恵器 杯	床直 1/2	10.6　3.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。体部から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋の可能性もあり。
324図14	須恵器 杯	埋土 1/4	11.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回り。体部下半から底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋の可能性もあり。
324図15	須恵器 杯	床直 1/2	12.2　4.0 6.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は静止糸切り後周辺部から体部に回転ヘラ削り。	
324図16	須恵器 杯	埋土 3/5	12.2　3.8 7.6	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り、体部下半は回転ヘラ削り。	
324図17	須恵器 高杯	＋18 杯身部2/5	11.8	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付、杯身部底部は回転ヘラ削り。	
324図18 PL.161	須恵器 高杯か	＋46 杯身部2/5	12.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
324図19	須恵器 鉢	埋土 底部～体部下半片	7.4	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちヘラ削り、体部下位は回転ヘラ削り。	
324図20	須恵器 壺	埋土 底部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	内外面ともヘラナデ。	
324図21	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上半片	17.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
325図22	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	20.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
325図23	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上半片	19.7	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
325図24	須恵器 甕	床直 胴部下位片		細砂粒/酸化焔/にぶい橙	外面には平行叩き痕、内面には同心円状アテ具痕が残る。	
325図25	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	19.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
325図26	土師器 甕	床直、竈、埋土 口縁～胴部上位片	23.8	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
325図27	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位	4.2	粗砂粒・礫/良好/明赤褐	底部、胴部ともヘラ削り。内面はヘラナデ。	
325図28	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位	5.2	粗砂粒/良好/灰黄褐	胴部と底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
325図29	土師器 甕	＋10 底部～胴部下位	4.6	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	胴部と底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
325図30	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒/酸化焔/灰赤	外面には格子目状痕、内面には同心円状アテ具痕が残る。	

挿図 NO. 図版 NO.	種別 器種	出土位置 残 存 率	全長 (cm)　幅 (cm) 厚さ (cm)　重量 (g)	石材	特　徴
325図31	石製品 砥石	＋10 下位1/3欠損か	9.7　6.0 4.0　310.0	砥沢石	表裏、両側面を使用、裏面は上部は未使用か。上面の整形はやや雑。

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
325図32	PL.161	鉄器	釘	＋30	ほぼ完形	4.3	0.4	0.3	2.5	頭部0.7×0.6の矩形。

321 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
329図１ PL.162	土師器 杯	床直 完形	11.6　4.3 稜径12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
329図２	土師器 杯	床直 1/4	12.7　3.1 稜径13.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削りであるが、器面剥落ため単位不明。	
329図３	土師器 杯	埋土 1/3	12.4 稜径13.4	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、底部（稜下）は手持ちヘラ削り。	
329図４ PL.162	土師器 杯	＋7 3/5	12.0　4.7 稜径12.6	細砂粒/良好/にぶい赤褐	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	
329図５	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	12.2 稜径9.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	有段口縁杯。
329図６	土師器 杯	竈、埋土 1/3	13.6　3.7 稜径12.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、底部（稜下）は手持ちヘラ削り。	
329図７	土師器 杯	埋土 1/5	13.6 稜径12.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
329図８	土師器 杯	竈 1/4	13.8 稜径11.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り、有段口縁杯。
329図９	土師器 杯	＋6 1/4	14.4 稜径12.4	細砂粒/軟質/橙	口縁部横ナデ、底部（稜下）は手持ちヘラ削り。	
329図10	土師器 杯	竈、埋土 口縁部～底部片	13.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
329図11	土師器 高杯	＋24 脚部片	脚径10.6	細砂粒・粗砂粒/良好/褐	内面脚部に輪積み痕が残る。脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面脚部はヘラナデ。	
329図12	土師器 高杯	床直 脚部片	脚径12.2	細砂粒/良好/にぶい橙	内面脚部に輪積み痕が残る。脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面脚部はヘラナデ。	
329図13	須恵器 杯身	竈 1/4	10.4 稜径12.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	
329図14	土師器 甕	貯蔵穴 縁～胴部上位片	17.4	細砂粒・粗砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
329図15	土師器 甕	埋土 底部～胴部下半片	6.8	細砂粒/良好/にぶい橙	底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
329図16	土師器 甕	＋6、埋土 底部～胴部下位片	6.8	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
329図17	土師器 甕	竈、4号pit埋土、掘方 底部～胴部上位片	9.0	細砂粒/良好/明赤褐	底部、胴部ともヘラ削り。内面はヘラナデ、器面摩滅のため単位不鮮明。	

322号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
331図1 PL.162	土師器 杯	＋5 7/8	12.5　3.5 稜径13.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
331図2 PL.162	土師器 杯	＋10 ほぼ完形	11.8　4.2 稜径10.2	細砂粒/やや軟質/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
331図3 PL.162	土師器 杯	＋15、竈 ほぼ完形	11.8　3.8 稜径10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
331図4 PL.162	須恵器 杯蓋	＋9 1/2、口唇部全欠		細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
331図5 PL.162	土師器 甑	床直、竈 胴部下位一部欠損	18.0　20.4 7.7	粗砂粒・礫/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
331図6 PL.162	土師器 甕	＋5、竈 口縁部～胴部上位	19.0	粗砂粒多/良好/にぶい赤褐	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
331図7 PL.162	土師器 甕	＋7、竈 口縁部～胴部上位	21.3	粗砂粒多/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

323号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
332図1 PL.162	須恵器 杯蓋	床直 完形	11.6　3.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は周囲まで回転ヘラ削り。	

324号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
334図1	土師器 杯	＋12 1/5	12.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
334図2 PL.162	土師器 杯	床直、竈、埋土 ほぼ完形	12.6　3.7 9.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
334図3 PL.162	土師器 杯	＋12、埋土 3/4	14.0　5.3 8.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部に螺旋、体部に放射状暗文。	
334図4 PL.162	須恵器 杯蓋	床直、埋土 ほぼ完形	10.3　2.8 摘み径1.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
334図5 PL.162	須恵器 杯蓋	埋土 口縁部一部欠損	12.4　2.6 摘み径2.3	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
334図6	須恵器 杯蓋	＋10 1/4	13.6　3.6 摘み径4.0	細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中央は回転ヘラ削り。	
334図7	須恵器 杯	埋土 1/4	9.6　3.6 7.0	細砂粒多/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は摩滅のため整形不明、体部下位は回転ヘラ削り。	
334図8 PL.162	須恵器 杯	＋11、埋土 1/2	13.0　3.9 8.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
335図9 PL.162	須恵器 杯	＋18 2/3	13.3　3.9 8.6	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲と体部下位を回転ヘラ削り。	
335図10	須恵器 杯	埋土 1/3	13.4　3.2 7.6	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
335図11	須恵器 杯	＋10 底部	7.5	細砂粒/還元焔/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
335図12	須恵器 杯	＋7、埋土 3/5	13.2　4.8 8.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
335図13	須恵器 杯	埋土 底部片	8.8	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部(高台内)は回転糸切り後、回転ヘラ削り。	
335図14	須恵器 杯	＋12 底部片	10.0	細砂粒/還元焔/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部(高台内)は回転ヘラ削り。	
335図15	須恵器 椀	＋12、埋土 口縁部～底部片	16.4 12.4	細砂粒/酸化焔ぎみ/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付であるが剥落。底部は回転ヘラナデ。	
335図16	須恵器 杯(コップ状)	埋土 口縁部片	8.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
335図17	須恵器 鉢	埋土 底部～体部下位片	7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラナデ。体部に2条の凹線、凹線上位はカキ目。	

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
335図18	PL.162	鉄器	釘	＋9	ほぼ完形	12.8	0.6	0.5	15.3	頭部1.3×0.8の矩形。
335図19		鉄器	鏃	＋9	頸部片	3.5	0.6	0.5	1.7	関から頸部下半、茎部は頸部より一回り細い。
335図20		鉄器	釘	＋9	先端部側片	3.4	0.4	0.4	1.9	表面は錆化がかなり進んでいる。

325号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
336図1	須恵器 短頸壺	埋土 胴部片		細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から胴部下半は回転ヘラ削り。肩部に凹線が巡る。	

326 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
339図 1 PL.162	土師器 杯	埋土 4/5	9.6　4.0 7.2	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は上半が横ナデ、下半にナデが残る、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面体部から底部はヘラナデ。	
339図 2	土師器 杯	埋土 1/4	12.3　3.7 稜径12.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
339図 3 PL.162	土師器 杯	埋土 ほぼ完形	10.6　3.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
339図 4	土師器 杯	埋土 1/2	11.2　3.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
339図 5 PL.162	土師器 杯	埋土 1/2	11.5　3.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
339図 6	土師器 杯	埋土 1/2	11.7　3.7	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半はナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
339図 7	土師器 杯	埋土 2/5	11.9　3.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
339図 8 PL.162	土師器 杯	埋土 3/4	12.6　4.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
339図 9	土師器 杯	埋土 1/3	12.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	内外面の一部にススが付着。
339図10	土師器 杯	埋土 1/2	11.6　3.0 10.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
339図11 PL.162	黒色土器 杯蓋	埋土 3/4	15.2　3.3 摘み径2.9	細砂粒・粗砂粒少/酸化焔/黒	内外面黒色処理。ロクロ整形、回転左回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
340図12 PL.162	須恵器 杯	埋土 2/3	10.6　3.7 5.4	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラ起し。	
340図13	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部片	12.0 9.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちヘラ削り。	高杯か。
340図14	須恵器 杯	埋土 2/5	17.6　5.2 10.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
340図15 PL.162	須恵器 高杯	埋土 杯身部2/3	11.7	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
340図16	須恵器 高杯	埋土 杯身底部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転左回りか。脚部は貼付、底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
340図17	須恵器 盤	埋土 口縁部～底部片	23.0 20.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。内面は底部から体部がヘラナデ。	
340図18 PL.163	土師器 台付甕	埋土 脚部欠損	14.3	細砂粒・粗砂粒/良好/褐灰	口縁部は横ナデ、胴部から頸部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
340図19 PL.163	土師器 甕	埋土、竈 ほぼ完形	23.2　36.7 3.8	粗砂粒多・礫/良好/明赤褐	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	カマド構築材。
340図20 PL.163	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上半片	14.8	細砂粒/良好/にぶい橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
340図21 PL.163	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部片	23.4	粗砂粒多/良好/橙	外面に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部、脚部がヘラナデ。	カマド構築材。
341図22	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	24.0	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
341図23 PL.163	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部下位	23.8	粗砂粒多・礫/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	カマド構築材。
341図24	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	27.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削りであるが器面摩滅のため単位不鮮明。内面胴部はヘラナデ。	
341図25	須恵器 壺	埋土 口縁部～胴部片	胴最大径30.9	細砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形。胴部は外面に叩き痕、内面にアテ具痕が残るが、大部分はナデ消されている。	
341図26	須恵器 壺	埋土 底部～胴部下位	6.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部と体部下位は手持ちヘラ削り。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
341図27	PL.163	鉄器	鏃	埋土	刃部先端、茎部端部欠損	11.2	0.8	0.7	7.7	長頸片刃鏃(端刃造)

327 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
323図 1	須恵器 杯	＋9 体部～底部片	7.0	細砂粒/還元焔/青灰	ロクロ整形、回転左回りか。底部から体部下位は手持ちヘラ削り。	

328 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
345図 1	土師器 杯	＋24 1/4	13.8 稜径12.3	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
345図２	土師器 杯	埋土 2/3	11.7　3.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、口縁部下にナデ部分がかすかに残る。	
345図３	土師器 杯	埋土 1/4	12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
345図４	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	12.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口唇部は横ナデ、口縁部、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
345図５	土師器 杯	埋土、掘方 2/5	13.0　3.2	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は放射状暗文。	
345図６	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	14.6	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面に放射状暗文。	
345図７	須恵器 杯蓋	床直、掘方 ほぼ完形	11.6　3.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
345図８	須恵器 杯蓋	床直、埋土 1/2	13.4　4.2	細砂粒/還元焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は中程まで手持ちヘラ削り。	内面の擦れから身に転用か。
345図９ PL.163	須恵器 杯	＋22 1/2	10.0　3.7 6.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下半は手持ちヘラ削り。	
345図10	須恵器 盤	埋土 口縁部片	17.0 13.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下半は回転ヘラ削り。	
345図11 PL.163	須恵器 ハソウ	＋20、埋土 口縁～胴部上位片	11.6	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。頸部にて胴部と口縁部を貼付、口縁部上位に波状文、胴部はカキ目。	
345図12	須恵器 壺	＋42 口縁～胴部上位片	10.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。内面頸部はヘラナデ。口唇部に凹線が１条巡る。	
345図13	土師器 甑または鉢	竈、埋土 口縁～胴部上位片	19.5	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	外面胴部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
345図14	土師器 甕	埋土 口縁～胴部下位片	15.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
345図15 PL.164	土師器 甕	床直 ほぼ完形	22.4　35.6 5.6	粗砂粒・礫/良好/明褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、底部には木葉痕が残る。内面胴部はヘラナデ。	カマド構築材。
346図16 PL.164	土師器 甕	床直 3/4	23.5　40.4 5.2	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	カマド構築材。
346図17 PL.164	土師器 甕	床直、埋土、竈 口縁部～胴部下位	23.5	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
346図18 PL.164	土師器 甕	床直、埋土 口縁部～胴部中位	22.0	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	カマド構築材。
346図19 PL.163	須恵器 甕	＋28 口縁～胴部上位片	15.0	細砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形、胴部は内面にアテ具痕が残るが、外面は降灰が厚く付着し、詳細不明。	
346図20	須恵器 甕	埋土 口縁部片		細砂粒/還元焔/灰黄	口縁部はロクロ整形。外面は凹線による区画、最下段を除き区画内に波状文が巡る。内面は下位にヘラナデ。	
347図21	須恵器 甕	埋土 口縁部下位片		細砂粒/還元焔/暗灰	口縁部はロクロ整形。外面は凹線による区画、区画内に波状文が巡る。内面は下位にヘラナデ。	
347図22	土製品 錘	埋土 1/2	長3.3　径1.2 孔0.4　重5.1	細砂粒/良好/暗褐	円筒状、表面はナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特　徴
347図23	石製品 砥石	埋土 完形	10.0　4.0 5.3　273.0	砥沢石	表裏、両側面を使用、下面は未使用か。表裏の使用が顕著。

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
347図24		鉄器	鏃	埋土	頸部～関	3.5	1.0	0.5	2.8	関部分は錆化が進み明瞭ではない。

329号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
349図１	須恵器 鉢	埋土 口縁部～体部片	14.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。口唇部に２条の凹線が巡る。	
349図２	須恵器 甕	＋10 口縁部片		細砂粒/還元焔/灰	外面は細い凹線によって区画、区画内に波状文が巡る。内面はヘラナデ。	

330号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
350図１ PL.164	土師器 杯	床直 完形	12.4　4.9	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
350図２	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	14.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
350図３	土師器 鉢	＋14、埋土 口縁部～底部片	14.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。内面体部から底部はヘラナデ。	
350図４	土師器 甕	＋20 口縁～胴部上半片	20.3	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り、内面胴部はヘラナデであるが胴部は器面摩滅のため単位不鮮明。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
350図５	土師器 甕	床直 底部～胴部下半片	8.6	細砂粒/良好/黄橙	胴部はヘラ削りであるが、中位は器面摩滅のため単位不鮮明、底部は木葉痕が残る。内面はヘラナデ。	外面にスス付着。
350図６ PL.164	土師器 甕	＋20 胴部片		細砂粒/良好/橙	胴部は外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。残存部中位に焼成後の穿孔有り。	

331 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
351図１	土師器 杯	竈、埋土 1/4	12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
351図２	土師器 杯	埋土 1/5	13.2	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
351図３	土師器 杯	＋21 1/3	13.4　3.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
351図４ PL.165	土師器 杯	竈掘方 1/2	13.6　3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
351図５ PL.165	須恵器 杯蓋	床直 3/5	18.5　4.4 摘み径5.9	細砂粒・粗砂粒/還元焔/青灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
351図６	須恵器 杯	埋土 1/3	14.8　4.0 8.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	
352図７ PL.165	須恵器 盤	床直 完形	22.2　4.5 高台16.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部(高台内)は回転ヘラ削り。	
352図８ PL.165	須恵器 盤	＋4 口縁部2/3欠損	22.5　4.4 高台16.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部(高台内)は回転ヘラ削り。	
352図９ PL.165	土師器 小型甕	埋土 ほぼ完形	10.3　8.9 5.0	細砂粒/良好/淡黄	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
352図10 PL.165	土師器 甕	床直、＋4、埋土 口縁～胴部中位片	21.0	細砂粒/良好/にぶい橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

332 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
315図１ PL.165	須恵器 杯蓋	＋6、埋土 1/2	15.1　4.2 摘み径3.4	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
315図２ PL.165	須恵器 杯蓋	埋土 2/3	17.5　4.8 摘み径4.2	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
315図３ PL.165	須恵器 杯	埋土 3/4	12.0　3.7	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
315図４ PL.165	須恵器 杯	埋土 ほぼ完形	12.6　3.6 8.1	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
315図５	須恵器 杯	埋土 2/5	12.8　3.6 7.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
315図６ PL.165	須恵器 杯	埋土 1/2	13.0　3.4 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
315図７ PL.165	須恵器 杯	＋6、埋土 2/5	15.4　3.3 8.8	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	外面口縁部に「井」、底部に「上井」の墨書。
315図８ PL.165	須恵器 杯	床直 口縁部1/3欠損	12.8　4.5 8.4	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
315図９	須恵器 杯	床直 1/4	13.3　8.4 8.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。高台は貼付、底部は回転ヘラナデ。	
316図10 PL.165	土師器 甕	＋6、埋土、竈 3/5	19.8　28.4 2.9	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	外面一部に粘土付着。
316図11	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	16.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
316図12	土師器 甕	＋6、埋土 口縁～胴部上位片	19.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
316図13	土師器 甕	＋14 口縁～胴部上位片	19.9	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
316図14	須恵器 甕	＋6、埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕が残るが、内面のアテ具痕はナデ消されている。	
316図15	土製品 錘	埋土 1/2	長4.3 径2.6 孔0.4重27.9	細砂粒/良好/にぶい橙	表面はナデ、上端部一部欠損。	
316図16	瓦 丸瓦	床直 端部片		粗砂粒/酸化焔/灰黄褐	表面はヘラナデ。側面はヘラ削り。裏面は布目痕が残る。	
316図17 PL.165	土製品 紡錘車	床直、埋土 完形	径5.4 厚0.9 孔0.9 重35	細砂粒・粗砂粒微/還元焔/灰	表裏・側面ともナデ。	

古墳時代以降遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特　徴
316図18	石製品 砥石	埋土 一部片	5.4　3.2 2.3　47.8	砥沢石	残存する３面とも使用されている。

333号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備　考
355図１ PL.165	土師器 杯	床直、埋土 口縁部一部欠損	11.2　3.6 稜径12.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部（稜下）上半はナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラ磨きか。	内外面漆塗りか。
355図２ PL.165	土師器 杯	＋33、埋土 5/6	11.3　3.9 稜径11.8	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗り。
355図３ PL.165	土師器 杯	＋16、埋土 2/5	11.6　3.9	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
355図４ PL.166	土師器 杯	＋６、埋土 3/5	11.8 稜径12.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面に放射状ヘラ磨き。	
355図５	土師器 杯	埋土 1/4	12.0　3.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	
355図６	土師器 杯	埋土 1/4	11.9　4.1 稜径10.6	細砂粒/良好/にぶい橙	外面口縁部輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。	
355図７ PL.166	土師器 杯	埋土 2/3	11.9　4.4 稜径10.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗り。
355図８ PL.166	土師器 杯	＋31、埋土 3/5	13.1　4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラナデ。	
355図９	土師器 杯	＋35 2/5	13.2　3.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部はヘラ磨きであるが単位不鮮明、底部手持ちヘラ削り。内面に放射状ヘラ磨き。	内面は漆塗り。
355図10	土師器 高杯	＋４ 杯身底部～脚部片		細砂粒/良好/にぶい橙	脚部は貼付。脚部から底部はヘラ削り。	
355図11	土師器 椀	＋５ 1/4	11.0　6.2 台径9.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部はナデ、体部はヘラナデ、台部もナデ。内面は口縁部から底部がヘラナデ、台部はナデ。	
355図12	土師器 鉢	埋土 口縁部～体部片	14.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。内面体部はヘラナデ。	
355図13	土師器 鉢	＋10、埋土 口縁部～体部片	16.6	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ､体部はヘラ削り。内面体部はヘラナデ。	
356図14 PL.166	土師器 鉢	＋10、埋土 口縁部～体部片	16.8	細砂粒/良好/赤褐	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、口縁部下にナデ部分が残る。内面体部はヘラナデ。	
356図15	土師器 台付甕	＋23、埋土 胴部下位片		細砂粒/良好/にぶい赤褐	脚部は貼付であるが剥落。胴部は外面がヘラ削り、内面はヘラナデ。	
356図16 PL.166	土師器 脚付鉢	＋10 脚部～鉢身底部	脚径12.0	粗砂粒/良好/にぶい橙	内面から脚部に輪積み痕が残る。脚部は貼付。鉢身底部から脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。	
356図17 PL.166	須恵器 杯蓋	＋６ 口縁部大部分欠損	12.7　3.9	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。回転ヘラ削り。	
356図18 PL.166	須恵器 杯蓋	＋36 口縁部一部欠損	9.0　3.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
356図19 PL.166	須恵器 杯蓋	＋19、埋土 2/5	13.0　3.9	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
356図20 PL.166	須恵器 杯蓋	埋土 1/2	14.2　4.7	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
356図21	須恵器 杯蓋	埋土 1/4	14.8　4.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回りか。天井部周辺に２条の凹線が巡る、天井部は手持ちヘラ削り。	
356図22	須恵器 杯	＋７ 1/2	9.0　3.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部は手持ちヘラ削り。	
356図23	須恵器 杯	＋14 1/4	11.5　3.3	細砂粒/還元焔/灰褐	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部は手持ちヘラ削り。内面底部はナデ、体部にも一部ナデ。	
356図24 PL.166	須恵器 杯	埋土 完形	9.8　4.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。体部下位から底部は手持ちヘラ削り。	
356図25	須恵器 杯	埋土 1/4	9.8　3.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、口縁部下にナデがわずかに残る。	
356図26 PL.166	須恵器 杯	床直 2/3	10.6　3.2	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部は手持ちヘラ削り。	杯蓋の可能性有り。
356図27	須恵器 杯	埋土 1/2	10.7　3.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部は手持ちヘラ削り。	
356図28	須恵器 杯	埋土 1/4	10.7　3.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部がヘラナデ。	
356図29 PL.166	須恵器 杯	＋19 口唇部一部欠損	11.0　3.5	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部は手持ちヘラ削り。	
356図30	須恵器 杯	＋13 2/5	11.0　3.8	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部はヘラナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面底部はナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
356図31	須恵器 杯	＋24、埋土 2/5	11.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下半は手持ちヘラ削り。	杯蓋の可能性有り。
356図32 PL.166	須恵器 杯	＋18、埋土 ほぼ完形	11.7　3.6 6.5	細砂粒/酸化焔ぎみ/にぶい橙・灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り、体部下半も手持ちヘラ削り。	
356図33 PL.166	須恵器 杯	＋14 2/3	12.0　4.3	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。体部下半から底部は手持ちヘラ削り。内面底部はヘラ磨き。	
356図34 PL.166	須恵器 杯	＋23、埋土 口唇部1/3欠損	12.0　3.3	細砂粒/還元焔/オリーブ灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下位は手持ちヘラ削り、器面摩滅のため単位不鮮明。	
356図35 PL.166	須恵器 杯	埋土 底部一部欠損	12.0　3.5 8.8	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部は手持ちヘラ削り。	杯蓋の可能性有り。
356図36 PL.166	須恵器 杯	床直 ほぼ完形	12.7　3.7	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋の可能性有り。
356図37	須恵器 杯	埋土 1/5	12.8　3.9	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部は手持ちヘラ削り。	杯蓋の可能性有り。
356図38	須恵器 杯	埋土 1/4	11.8　3.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部は手持ちヘラ削り。	杯蓋の可能性有り。
356図39 PL.166	須恵器 杯	＋5、埋土 2/3	13.5　4.2 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り、体部は回転ヘラ削り。	
356図40	須恵器 杯	埋土 1/4	11.8　2.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部は手持ちヘラ削り。	杯蓋の可能性有り。
356図41 PL.166	須恵器 杯	＋7、埋土 口縁部1/3欠損	11.7　4.3 8.6	細砂粒/酸化焔/明赤褐	ロクロ整形、回転左回り。外面底部に粘土紐痕が残る。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
356図42	須恵器 杯	＋6、埋土 底部～体部片	8.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
356図43	須恵器 杯	＋5 口縁部～体部片	12.4　2.2 7.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部から底部は回転ヘラ削り。	
356図44	須恵器 杯	＋5 1/3	12.4　3.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。焼成時の歪みが大きい。	杯蓋の可能性有り。
357図45 PL.166	須恵器 杯蓋	＋12、埋土 3/4	12.9　4.3 摘み径2.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は回転ヘラ削り。	
357図46 PL.166	須恵器 椀蓋	＋30 4/5	13.2　4.4 摘み径4.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
357図47 PL.166	須恵器 椀蓋	＋30、埋土 5/6	12.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
357図48 PL.166	須恵器 蓋	＋14、埋土 摘み欠損	12.9	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
357図49 PL.166	須恵器 長頸壺蓋	埋土 5/6	9.3　5.6 摘み径1.5	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
357図50 PL.166	須恵器 高杯	＋6、埋土 杯身5/6	12.4 6.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。体部下位は回転ヘラ削り、底部の脚部接合面にはヘラによる螺旋状の刻み目。	
357図51	須恵器 高杯	＋10、埋土 杯身底部～脚部片		細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。脚部は貼付、杯身底部は回転ヘラ削り。	
357図52	須恵器 不明	＋22、埋土 脚部片	脚径9.4	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
357図53	須恵器 高杯	床直、＋21、埋土 脚部片	脚径9.8	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。	
357図54	須恵器 高杯	埋土 脚部	脚径10.0	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。	
357図55 PL.166	須恵器 高杯	＋15 脚部	脚径11.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。外面の片側に降灰が厚く付着。	
357図56	須恵器 高杯	埋土 脚部片		細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転方向不明。脚部に３カ所の透孔。	
357図57 PL.166	須恵器 鉢	床直、＋19、埋土 3/5	26.7　7.9 15.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転方向不明。底部周辺部から体部下半はヘラ削り、底部中央部はナデ。	
357図58	土師器 盤	＋17 口縁部～底部片	28.3　6.2 16.0	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から体部上半は横ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は体部と底部がヘラナデ。	
357図59 PL.166	須恵器 長頸壺	床直 口縁部～胴部上位	8.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部には連続する刺突文、内面は頸部にナデ。	
357図60 PL.167	須恵器 提瓶	床直、＋7、埋土 口唇、胴の一部欠	胴部幅19.2 胴部厚14.8	細砂粒/還元焔/灰白	口縁部、胴部ともロクロ整形、口縁部は胴部に貼付。胴部は表面から側面はカキ目、裏面はヘラ削り。	
357図61	須恵器 壺	＋9、埋土 口縁部片	17.4	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい赤褐	ロクロ整形、回転右回り。	
358図62	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	15.3	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
358図63	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	20.8	細砂粒・粗砂粒/良好/暗褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

古墳時代以降遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
358図64	土師器 甕	＋９、埋土 口縁～胴部上位片	17.0	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	外面に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
358図65	土師器 甕	＋20、埋土 口縁～胴部上位片	17.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
358図66	土師器 甕	＋11、埋土 口縁～胴部上位片	17.8	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
358図67	土師器 甕	＋10、埋土 口縁～胴部上位片	18.4	粗砂粒・礫/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
358図68 PL.167	土師器 甕	床直、＋18、埋土 口縁部～胴部中位	18.7	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
359図69	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	19.0	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
358図70 PL.167	土師器 甕	＋９、埋土 口縁部～胴部中位	20.0	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
358図71	土師器 甕	床直 口縁～胴部上半片	21.4	細砂粒・粗砂粒/良好/灰褐	外面に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
359図72 PL.167	土師器 甕	床直、竈 口縁～胴部上半片	22.8	粗砂粒/良好/にぶい橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ、単位不鮮明。	
359図73	土師器 甕	埋土、Pit ５埋土 口縁～胴部上位片	17.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
359図74	土師器 甕	＋７、掘方 底部～胴部下位片	7.6	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	底部から胴部下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
359図75	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位片	4.0	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	底部から胴部下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
359図76	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位片	5.0	細砂粒・粗砂粒/良好/褐灰	底部から胴部下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
359図77	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位片	7.8	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい赤褐	底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
359図78	須恵器 甕	＋24 口縁部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	口縁部はロクロ整形。外面は縦方向カキ目がかすかに残り、凹線による区画、区画上位３段には波状文が巡る。内面は下位にヘラナデ。	
359図79 PL.167	土師器 円筒形	床直、Pit ５埋土 口縁～胴部上位片	9.4	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	内面に輪積み痕が残る。口唇部横ナデ、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
359図80	土製品 錘	＋20 2/3	長4.1 径1.1 孔0.4 重4.7	細砂粒/良好/橙	表面はナデ。	
359図81	土製品 錘	＋31 両端部欠損	長6.2 径1.2 孔0.5 重6.7	細砂粒/良好/明褐	表面はナデ。	
359図82	土製品 錘	＋29 ほぼ完形	長5.5 径1.2 孔0.3 重8.6	細砂粒/良好/橙	表面はナデ。	
359図83	土製品 錘	埋土 2/3	長4.6 径1.2 孔0.4 重7.2	細砂粒/良好/にぶい黄橙	表面はナデ、成形時の歪み有り。	
359図84 PL.167	土師器 杯	＋６ 口縁部1/4欠損	10.6　3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
挿図 NO. 図版 NO.	種別 器種	出土位置 残 存 率	全長 (cm)　幅 (cm) 厚さ (cm)　重量 (g)	石材	特　徴	
359図85 PL.167	石製品 紡錘車	＋７ ほぼ完形	4.0　3.8 1.7　34.2	滑石	側面に斜格子状の線状痕による文様、表面は平坦でなく凹みを有する。	

334 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
360図１	土師器 杯	埋土 1/3	14.2 稜径14.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、稜下にナデ部分が残る。	
360図２	土師器 杯	埋土 2/5	14.7　4.4 稜径15.0	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
360図３ PL.167	土師器 杯	＋18、埋土 口縁部1/5欠損	13.4　4.8 稜径11.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
360図４ PL.167	土師器 杯	埋土 3/4	14.8　5.0 稜径13.0	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
360図５	土師器 椀	埋土 口縁部～体部片	10.6	細砂粒/良好/橙	口唇部は横ナデ、口縁部から体部中位はナデ、下位は手持ちヘラ削り。内面は横ナデ。	
361図６ PL.167	土師器 壺	竈、＋23、埋土 口縁部～胴部上位	11.6	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
361図７	土師器 甕	竈、埋土 底部～胴部下位片	7.6	細砂粒・粗砂粒・礫/良好/明赤褐	底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

336 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
363図１ PL.167	須恵器 杯	床直、竈 3/4	14.4　3.7 8.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
363図２ PL.167	土師器 杯	床直、埋土 口縁部1/3欠損	14.9　2.8 11.8	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。	

337 号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
366図１	土師器 杯	＋21 1/3	13.0　3.5 稜径13.7	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き	内外面とも漆塗り。
366図２	土師器 杯	埋土 1/3	10.1　3.1 稜径10.2	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
366図３ PL.167	土師器 杯	埋土 1/2	10.5　3.1 稜径10.4	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内面と外面の上半は漆塗り。
366図４ PL.167	土師器 杯	＋25 口縁部一部欠損	10.2　3.3	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
366図５	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	10.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
366図６	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	10.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
366図７ PL.167	土師器 杯	床直、埋土 4/5	11.3　4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
367図８ PL.167	土師器 杯	＋12 2/3	11.8　3.7	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
367図９ PL.167	土師器 杯	＋15 口縁部一部欠損	12.8　4.1	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は上半が横ナデ、口縁部下半から体部上半はナデ、体部下半から底部は手持ちヘラ削り。	
367図10	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	12.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
367図11	須恵器 杯	＋10 1/4	11.7　3.9	細砂粒/還元焔/灰褐	ロクロ整形、回転左回りか。底部から体部は手持ちヘラ削り。	
367図12	須恵器 杯	＋44 1/3	12.2　4.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部は手持ちヘラ削り。	
367図13 PL.167	須恵器 杯	床直 口縁部1/5欠損	12.3　4.3 9.0	細砂粒/還元焔/浅黄	ロクロ整形、回転左回りか。底部は手持ちヘラ削り。	
367図14 PL.167	須恵器 稜椀	埋土 4/5	13.3　4.2 5.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下半は回転ヘラ削り。	
367図15	須恵器 高杯	＋37 杯身部片	9.0 稜径10.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
367図16	須恵器 鉢	＋46 口縁部～体部片	32.0	細砂粒/酸化焔/にぶい褐	ロクロ整形、回転方向不明。体部下半は手持ちヘラ削り。	
367図17	須恵器 鉢	＋36 口縁部～体部片	12.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
367図18	須恵器 甕	＋35 口縁部片		細砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形、凹線によって区画、２～４段目の区画には波状文が巡る。	
367図19	須恵器 短頸壺	＋６ 底部～胴部下半片	11.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付であるが剥落。底部から胴部最下位は回転ヘラ削り。	
367図20	土師器 甕	床直、＋15、埋土 口縁～胴部上半片	23.5	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
367図21 PL.167	土師器 甕	床直、＋４、埋土 口縁部～胴部上半	24.4	粗砂粒・礫/良好/にぶい黄橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
368図22	土師器 甕	床直、掘方、埋土 口縁～胴部上位片	25.4	粗砂粒/良好/にぶい橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
368図23	土師器 甕	床直 底部～胴部下位	5.9	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
367図24	須恵器 甕	床直 口縁～胴部上位片		細砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形、胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	
368図25	須恵器 甕	＋31、埋土 口縁部片		細砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形、縦方向カキ目をナデ消している。	
368図26 PL.167	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒/還元焔/灰	甕胴部内面に窯壁面の土砂が崩落し付着か。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
368図27	PL.167	鉄器	刀子	床直	刃部片	7.9	1.2	0.4	6.6	表面は錆化が進んでいる。

339 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
370 図 1	土師器 杯	＋7 3/5	11.8　3.9 稜径 13.0	細砂粒 / 良好 / 明黄褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
370 図 2	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	14.0 稜径 11.8	細砂粒 / 良好 / にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗りか。
370 図 3	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	23.0 稜径 20.0	細砂粒 / 良好 / 褐灰	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗りか。
370 図 4 PL.168	須恵器 高杯	＋16 杯身部 2/3	12.2 9.3	細砂粒 / 還元焔 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付、杯身底部は回転ヘラ削り、脚部に３カ所の透孔。	
370 図 5	須恵器 高杯	埋土 脚部片	脚径 8.5	細砂粒 / 還元焔 / 灰	ロクロ整形、回転右回りか。脚部は３カ所に透孔。	
370 図 6	須恵器 甕	＋22 胴部下半片		細砂粒・粗砂粒 / 還元焔 / 灰	外面は平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

挿図NO.	図版NO.	種 類	器 種	出土位置	残 存 率	全長	最大幅	厚さ	重量	特 徴
370図 7		鉄器	鎌	埋土	基部側片	6.8	3.1	0.5	24.7	全体的に錆化が激しく、柄着け部状態も不明。

340 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
371 図 1	土師器 杯	＋22 2/5	11.8 稜径 12.4	細砂粒 / 良好 / 橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
371 図 2	土師器 杯	＋9 口縁部～底部片	11.7 稜径 13.0	細砂粒 / 良好 / にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
371 図 3	土師器 高杯	＋18 脚部片		細砂粒 / 良好 / 橙	脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ、内面はヘラナデ。	
371 図 4	須恵器 鉢	埋土 口縁部片	16.0	細砂粒 / 還元焔 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。口唇端部と口唇部下に凹線が巡る、口縁部はカキ目。	
371 図 5 PL.168	須恵器 短頸壺	＋21 ほぼ完形	9.8　6.4 胴部径 10.8	細砂粒・粗砂粒 / 還元焔 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から胴部下位は手持ちヘラ削り。	
371 図 6 PL.168	須恵器 短頸壺	床直 ほぼ完形	10.0　8.6 8.0	細砂粒 / 還元焔 / 灰白	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位は回転ヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	
371 図 7	土師器 甑	＋19 底部～胴部下位片	7.6	細砂粒・粗砂粒 / 良好 / 赤褐	胴部はヘラ削り、内面はヘラナデ。	
372 図 8	土師器 甕	＋12、埋土 口縁～胴部上位片	18.8	細砂粒 / 良好 / 灰褐	外面に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
372 図 9	土師器 甕	床直 口縁～胴部上半片	20.6	粗砂粒 / 良好 / 灰黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
372 図 10	土師器 甕	床直 底部～胴部下位片	8.6	細砂粒・粗砂粒 / 良好 / 橙	底部はヘラ削り、胴部はヘラ削り後ヘラ磨き。内面はヘラナデ。	

341 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
376 図 1	土師器 杯	＋15 1/5	8.8　2.6	細砂粒 / 良好 / にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
376 図 2	土師器 杯	＋6 1/4	10.5　3.3	細砂粒 / 良好 / 橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
376 図 3	土師器 杯	埋土 1/4	11.0　3.1	細砂粒 / 良好 / 橙	口縁部は上半が横ナデ、下半がナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
376 図 4	土師器 杯	＋11 1/4	13.0	細砂粒 / 良好 / 橙	口唇部横ナデ、口縁部から体部、底部は手持ちヘラ削り。	
376 図 5 PL.168	土師器 杯	埋土 1/2	13.4　4.3	細砂粒 / 良好 / 橙	口唇部横ナデ、口縁部から体部はナデ、底部手持ちヘラ削り。	
376 図 6	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	17.9	細砂粒 / 良好 / 橙	口唇部横ナデ、口縁部～体部は手持ちヘラ削り。	
376 図 7	土師器 杯	埋土 1/5	11.2	細砂粒 / 良好 / 橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
376 図 8 PL.168	須恵器 杯	床直、埋土 2/5	9.7	細砂粒 / 還元焔 / 暗赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下半は回転ヘラ削り。	
376 図 9	須恵器 短頸壺	埋土 1/4	13.2　8.6 9.2	細砂粒・粗砂粒 / 還元焔 / 暗灰	ロクロ整形、回転右回り。頸部下から底部はカキ目。	
376図10	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	11.3	細砂粒 / 良好 / にぶい赤褐	外面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
376図11	土師器 甕	＋15 口縁～胴部上位片	18.4	細砂粒 / 良好 / にぶい黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は頸部から胴部にヘラナデ。	
376図12 PL.168	土師器 甕	床直、竈 口縁～胴部上位片	21.2	細砂粒・粗砂粒 / 良好 / 明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
376図13	土師器 甕	床直、＋4、竈 口縁～胴部上位片	23.6	細砂粒・粗砂粒/ 良好/褐灰	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
376図14	手捏ね土器 椀形	埋土 1/4	5.2	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横ナデ、体部ヘラナデ。	
376図15	手捏ね土器 椀形	埋土 1/3	6.0　3.6 3.8	細砂粒/良好/に ぶい橙	口唇部横ナデ、口縁部から底部はヘラナデ。	

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
376図16	PL.168	鉄器	刀子	床直	刃部端部、茎部端部欠損	11.8	1.4	0.6	12.6	表面は錆化が進んでいる。

342号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
378図1 PL.168	土師器 杯	床直 完形	11.7　4.8 稜径13.0	細砂粒・粗砂粒微/ 良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内面と外面口縁部から体部漆塗り。
378図2 PL.168	土師器 杯	床直 3/4	12.2　4.6 稜径13.6	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り、外面には煤付着。
378図3 PL.168	土師器 杯	床直、Pit1埋土 口縁部1/5欠損	13.3　4.3	細砂粒/良好/に ぶい橙	外面口縁部下に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
378図4 PL.168	土師器 杯	＋8 3/4	14.7　5.1	細砂粒/良好/に ぶい黄褐	口唇部横ナデ、口縁部、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部、体部から口縁部に放射状ヘラ磨き。	
378図5 PL.168	土師器 有孔鉢	＋4 3/4	16.0　11.8 2.5	細砂粒/良好/灰 黄褐	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面体部はヘラナデ。	
378図6 PL.168	土師器 甕	床直、Pit4埋土 3/4	17.1　11.7 7.3	細砂粒・暗褐色粒 /良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り、底部もヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
378図7 PL.168	土師器 甕	床直、＋12 1/2	15.2　24.5 5.8	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り、胴部の一部にヘラ磨き。内面胴部はヘラナデ。	
378図8 PL.168	土師器 甕	床直 底部欠損	22.6 残存高28.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	底部欠損後甑に転用か。欠損部摩滅。
378図9	土師器 甕	床直 口縁～胴部上位片	17.6	細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
378図10 PL.168	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上半	16.2	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ、上位は縦方向ヘラ磨き。	

343号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
379図1	土師器 甑	埋土 1/3	19.2　17.2 4.5	細砂粒・褐色粒/ 良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
379図2	土師器 甕	埋土 口縁～胴部中位片	20.8	細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

344号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
381図1 PL.169	須恵器 器台	＋7 口縁部～体部片	30.0	細砂粒/還元焔/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付、底部に補強帯状の粘土紐を貼付。口縁部から体部は凹線によって3段に区画、区画内に波状文が巡る。最下段の区画は縦方向カキ目後波状文、底部は横方向のカキ目。	
381図2 PL.169	土師器 有孔鉢	＋11 ほぼ完形	13.3　8.1 3.0	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り後体部下半から底部はヘラ磨き。内面はヘラナデ。	

345号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
382図1 PL.169	須恵器 杯身	＋5 完形	13.1　4.6 稜径12.8	細砂粒/還元焔/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
382図2	須恵器 ハソウ？	埋土 口縁部片	13.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。口縁部には凹線と波状文が巡る。	
382図3	須恵器 瓶	埋土 底部～胴部下位	7.2	細砂粒/還元焔/ 暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は手持ちヘラ削り。	
382図4	須恵器 杯	＋4 口縁部片	13.2 8.6	細砂粒/酸化焔/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラ削り。	

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
382図5	PL.169	鉄器	鎌	＋9	刃部先端部片	8.0	2.4	0.3	17.4	表面は錆化が進んでいる。

346 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
384 図 1	土師器 杯	＋5 1/2	13.0　3.8 稜径 13.4	細砂粒 / 良好 / にぶい橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部に花弁状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗りか。
384 図 2 PL.168	土師器 杯	床直 口縁部 1/3 欠損	13.8　3.7 稜径 12.0	細砂粒 / 良好 / 明赤褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ磨き。	
384 図 3 PL.168	土師器 椀	＋7 3/4	12.0　7.2 稜径 13.8	細砂粒・粗砂粒 / 良好 / にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも底部を除き漆塗りか。
384 図 4	須恵器 鉢	床直 口縁部～体部片	29.3	細砂粒 / 還元焔 / 灰白	ロクロ整形、回転方向不明。体部下位から底部は手持ちヘラ削り。	
384 図 5 PL.168	土師器 甕	床直 ほぼ完形	13.6　13.2 5.6	細砂粒 / 良好 / 明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面は口唇部横ナデ、口縁部から底部はヘラナデ。	
384 図 6	須恵器 甕	床直 口縁部片		細砂粒・粗砂粒 / 還元焔 / 灰	口縁部ロクロ整形、口縁部は上・中位に各２条、下位に１条の凹線による区画、区画内はカキ目後各２段の波状文が巡る。	
384 図 7	須恵器 椀	埋土 口縁部片	13.6	細砂粒 / 酸化焔 / にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。体部下位に高台貼付時のナデがみられる。	
384 図 8	須恵器 椀	埋土 口縁部片	15.0	細砂粒 / 還元焔 / 灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。体部下位に高台貼付時のナデがみられる。	

347 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
385 図 1 PL.169	土師器 杯	床直 完形	13.4　5.0 稜径 14.7	細砂粒・粗砂粒少 / 良好 / 橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	杯身模倣。
385 図 2	土師器 甕	床直 底部～胴部下位片	6.2	粗砂粒 / 良好 / 暗赤灰	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
385 図 3 PL.169	須恵器 甕	床直 口縁部	21.4	細砂粒・粗砂粒・礫 / 酸化焔 / にぶい褐	口縁部はロクロ整形、回転右回り。２条の凹線によって３段に区画、下位２段の区画に波状文が巡る。	
385 図 4 PL.169	須恵器 杯	埋土 完形	7.8　3.4	細砂粒・粗砂粒多 / 還元焔 / 暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
385 図 5	須恵器 杯	床直 底部	6.5	細砂粒 / 酸化焔ぎみ / にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は削り出しか。底部は回転糸切り。	底部周囲を打ち欠き二次利用。
385 図 6	土師器 甕	床直、埋土 口縁～胴部上位片	20.2	細砂粒 / 良好 / 明赤褐	口縁部と頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

348 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
386 図 1 PL.169	土師器 杯	床直、埋土 口縁部 1/4 欠損	12.8　4.1 稜径 14.2	細砂粒 / 良好 / にぶい橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
386 図 2 PL.169	土師器 杯	床直 完形	15.0　4.7 稜径 14.0	細砂粒 / 良好 / 明赤褐	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	
386 図 3	土師器 甕	床直 底部～胴部上位片	5.4	細砂粒・粗砂粒 / 良好 / 明赤褐	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

350 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
388 図 1 PL.169	土師器 杯	＋9 3/4	11.0　4.0 稜径 12.2	細砂粒 / 良好 / にぶい黄褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内面と外面の口縁部～体部漆塗り。
388 図 2	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	12.6 稜径 12.4	細砂粒 / 良好 / にぶい橙	口縁部横ナデ、底部（稜下）は手持ちヘラ削り。	
388 図 3	土師器 甕	＋6、埋土 1/5	20.2	細砂粒 / 良好 / にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
388 図 4	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒 / 還元焔 / 灰	外面には平行叩き痕、内面には同心円状アテ具痕が残る。	

351 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
389 図 1	須恵器 杯	埋土 1/4	13.0　3.4 8.2	細砂粒 / 還元焔 / 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
389 図 2	須恵器 杯蓋	埋土 口縁部片	16.6	細砂粒 / 還元焔 / 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は周縁部まで回転ヘラ削り。	

352 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
390 図 1	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	12.2 稜径 11.0	細砂粒 / 良好 / にぶい黄	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部 (稜下) ナデ、底部手持ちヘラ削り。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
390図2	土師器 杯	床直、埋土 1/2	12.2　3.7	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
390図3	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	13.6	細砂粒/良好/明赤褐	口唇部は横ナデ、口縁部から体部は上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
390図4	土師器 杯	埋土 1/3	10.8　3.4 6.2	細砂粒/軟質/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
390図5	須恵器 杯	埋土 1/5	16.7　3.4 6.2	細砂粒/酸化焔軟質/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。外面体部は器面摩滅のため単位不鮮明。	
390図6	須恵器 鉢	埋土 底部		細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	口縁部と体部を打ち欠き二次利用か。
390図7	須恵器 ハソウ？	埋土 口縁部片		細砂粒/還元焔/灰白	口唇部と口縁部に波状文が巡る。	
390図8	須恵器 甕	床直 胴部片		細砂粒/還元焔/灰	胴部は外面に平行叩き痕、内面に同心円状アテ具痕が残る。	

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
390図9	PL.169	鉄製品	クルル鉤	床直	柄端部欠損	22.6	0.9	0.9	42.2	残存状態良好。口金径1.5、幅0.8、厚0.2cm

353号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
392図1	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	9.6 稜径8.9	細砂粒/良好/にぶい橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部（稜下）上半はナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
392図2	土師器 杯	埋土 1/2	11.6　4.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
392図3 PL.169	土師器 杯	床直、＋6 5/6	12.1　4.7 6.6	細砂粒/良好/灰黄褐	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り、底部に木葉痕がかすかに残る。内面に放射状ヘラ磨き。	
392図4	土師器 杯	＋10 1/3	12.4　4.5	細砂粒・褐色粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
392図5 PL.169	土師器 杯	床直 完形	12.2　4.9 稜径11.4	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内面は漆塗りか、有段口縁杯。
392図6	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	14.7 稜径14.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
392図7	土師器 高杯	＋18 脚部	脚径10.8	細砂粒/良好/明赤褐	脚部は杯身に貼付。脚部ヘラ削り、裾部は横ナデ。内面脚部はヘラナデ。	
392図8 PL.169	土師器 高杯	床直 脚部	脚径11.5	細砂粒/良好/明赤褐	脚部は貼付。脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ。内面脚部はヘラナデ。	
392図9 PL.169	土師器 甕	床直、＋20 完形	19.6　24.5 11.2	細砂粒/良好/明赤褐	内面に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
392図10 PL.169	土師器 甕	床直 ほぼ完形	20.2　34.0 3.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
392図11 PL.169	土師器 甕	床直 口縁～胴部上位片	14.6	細砂粒/良好/灰褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
392図12	土師器 甕	床直、埋土 口縁～胴部上位片	18.6	細砂粒/良好/黒褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
392図13 PL.170	土師器 甕	床直 口縁～胴部上位片	20.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
393図14	土師器 甕	床直 底部～胴部下位片	8.5	細砂粒/良好/暗赤灰	底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
393図15	須恵器 杯蓋	＋23 1/4	11.8　3.5	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転左回り。天井部は回転ヘラ削り。	
393図16 PL.170	須恵器 杯蓋	床直 3/4	12.1　3.6	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。天井部の周囲に凹線が巡る。	
393図17 PL.170	須恵器 杯蓋	竈 2/3	10.8　3.9	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部の中程までは手持ちヘラ削り。	
393図18	須恵器 高杯	床直 脚部片		細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。脚部中位に２条の凹線、裾部に小凸帯が巡る。	
393図19	須恵器 鉢	＋23 1/5	12.2	粗砂粒/還元焔/灰	口唇部横ナデ、口縁部から底部は手持ちヘラ削り、一部にカキ目。内面はヘラナデ。	
393図20 PL.170	須恵器 鉢	＋7 口縁部1/2欠損	14.1　10.0 6.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り、体部下位は回転ヘラ削り。	
393図21	須恵器 鉢	＋7 体部片	7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。体部は下位に回転ヘラ削り。内面の一部に降灰が付着。	
393図22	須恵器 甕	床直、埋土 口縁～胴部上位片	21.1	細砂粒/還元焔/黄灰	口縁部ロクロ整形、口縁部の内面下位はヘラナデ。胴部は外面ナデ、内面に同心円状アテ具痕が残る。	

古墳時代以降遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
393図23 PL.170	須恵器 甕	床直 底部～胴部中位		細砂粒・粗砂粒/ 還元焔/暗灰	外面は平行叩き痕が残るが底部の一部にヘラ削り。内面は同心円状アテ具痕が残る。	焼成時の歪みが激しい。
393図24	須恵器 甕	床直、＋12 胴部片		細砂粒・粗砂粒/ 還元焔/暗灰	外面の叩き痕は不明、内面は同心円状アテ具痕がかすかに残るが大部分ナデ消されている。	
393図25 PL.170	須恵器 瓶	床直 高台片		細砂粒/還元焔/ 灰	窯底面に瓶類高台が張り付いてしまった破片。	
394図26 PL.170	須恵器 甕	床直 胴部片		粗砂粒/還元焔/ 灰	甕胴部を利用した焼台に窯底面の土砂が付着か。	
394図27 PL.170	須恵器 甕	床直 胴部片		粗砂粒/還元焔/ 暗灰	須恵器甕の胴部片３点は別個体か。窯内で焼台として使用された破片に窯底面の土砂が付着。	
394図28	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	7.7　3.1 5.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラナデ。内面は口唇部横ナデ、口縁部から底部はヘラナデ。	

355号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
397図1	土師器 杯	＋7 1/4	12.8　5.1	細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
397図2	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	12.0	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
397図3	土師器 杯	埋土 1/4	14.4　4.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
397図4	土師器 杯	床直 口縁部～体部片	15.8	細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
397図5	須恵器 杯	埋土 口縁部～体部片	9.2	細砂粒/還元焔/ 灰黄褐	ロクロ整形、回転右回りか。	

356号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
399図1 PL.171	土師器 杯	床直 2/3	14.0　3.9	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
399図2	土師器 杯	埋土 1/4	15.6	細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
399図3 PL.171	土師器 杯	床直、竈 3/4	15.2　3.9	細砂粒/良好/明 褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
399図4	須恵器 杯	埋土 底部～体部片	7.0	細砂粒/還元焔/ 灰白	ロクロ整形、回転左回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
399図5		金属器	不明	埋土	一部片	3.2	2.5	2.5	5.8	片側が折れ曲がっている。

357号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
401図1 PL.170	須恵器 杯	＋32 ほぼ完形	12.3　3.6 7.8	細砂粒・白色粒/ 還元焔/緑灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
401図2 PL.170	須恵器 杯	埋土 1/2	12.4　3.6 7.4	細砂粒/還元焔/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部と体部下位は回転ヘラ削り。	
401図3 PL.170	須恵器 杯	＋4 3/4	13.3　3.7 8.0	細砂粒/酸化焔ぎ み/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部を残して回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
401図4 PL.170	須恵器 杯	＋4 1/2	13.3　3.9 7.9	細砂粒・粗砂粒/ 還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
401図5 PL.170	須恵器 杯	埋土 口縁部1/5欠損	13.5　3.8 8.0	細砂粒/酸化焔/ にぶい赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。内面底部に漆付着。	外面底部に「入多」の墨書。
401図6 PL.170	須恵器 杯	竈掘方、＋36 1/2	13.7　3.8 8.4	細砂粒/還元焔/ 黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
401図7 PL.170	須恵器 椀	＋6 ほぼ完形	15.7　5.7 9.7	細砂粒・粗砂粒少 /還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
401図8 PL.170	黒色土器 椀	＋5 口縁部1/3欠損	16.5　5.9 10.8	粗砂粒/酸化焔/ にぶい黄褐	内面黒色処理か。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	二次焼成を受けたか。
401図9 PL.170	土師器 甕	＋5、竈 3/4	19.7　26.2 3.8	細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
401図10 PL.170	土師器 甕	竈、＋5 口縁部～胴部下位	20.8	細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
401図11	土師器 甕	竈掘方、＋5 口縁～胴部上位片	21.8	細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、頸部に指頭痕が残る、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	外面一部に粘土付着。
402図12 PL.170	土師器 甕	＋5、埋土、竈 口縁～胴部中位片	20.2	細砂粒/良好/に ぶい橙	頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
402図13	土師器 甕	＋5、埋土 底部～胴部下半片	4.2	細砂粒/良好/にぶい黄橙	内面に輪積み痕が残る。底部、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面一部に粘土付着。

358号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
403図1	土製品 支脚	＋22 一部片	径6.0	細砂粒/良好/にぶい橙	表面はヘラナデ。	一部に粘土付着。

359号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
404図1 PL.171	土師器 杯	＋15 4/5	11.0　4.5 7.5	細砂粒/良好/淡黄	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。内面に８本の放射状ヘラ磨き。	
404図2 PL.171	土師器 杯	＋4 3/4	12.8　4.9 稜径12.0	細砂粒/良好/浅黄	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、稜下にナデ部分が残る。内面に放射状ヘラ磨き。	

360号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
405図1 PL.171	土師器 杯	＋9、埋土 口縁～胴部上半片	13.1　4.1	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
405図2	土師器 杯	＋8、埋土 3/4	16.6　3.7	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り、口縁部下にナデがわずかに残る。	
405図3	須恵器 杯	床直 2/5	16.8 10.6	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付であるが剥落。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
405図4	須恵器 杯	床直、＋10 口縁一部と高台欠	17.6 10.5	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付であるが剥落。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	

361号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
407図1 PL.171	土師器 杯	床直 ほぼ完形	11.3　5.4	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部はヘラナデ後間隔のある放射状ヘラ磨き。	
407図2 PL.171	土師器 杯	＋13 完形	13.3　4.2 稜径14.5	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
407図3	土師器 杯	床直 1/4	13.8　3.6 稜径14.4	細砂粒/良好/明赤褐	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面に雑な放射状ヘラ磨き。	
407図4 PL.171	土師器 杯	床直 1/2	11.4　3.6 稜径12.7	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内外面は漆塗りか。
407図5 PL.171	土師器 杯	＋4 2/3	13.6　3.7 稜径12.6	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
407図6	土師器 杯	＋7 1/4	13.5　3.7 稜径11.9	細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部にやや雑な放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
407図7	土師器 杯	床直 ほぼ完形	12.2　6.1 稜径12.6	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り。
407図8 PL.171	土師器 高杯	床直 杯身1/3～脚部上半	21.6	細砂粒/良好/にぶい橙	外面口縁部に輪積み痕、脚部は貼付。口縁部横ナデ、底部から脚部はヘラ削り。内面脚部はナデ。	
407図9 PL.171	須恵器 杯蓋	床直 ほぼ完形	12.6　5.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程までが手持ちヘラ削り。	
407図10 PL.171	須恵器 椀	床直、掘方 2/5	13.7	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、杯身体部は回転ヘラ削り。	足高高台。
407図11 PL.171	土師器 甑	床直、＋10 底部～胴部下位	孔径2.3 6.0	細砂粒/良好/明黄褐	底部から胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
408図12	須恵器 甕	床直、埋土 口縁～胴部上位片	22.5	細砂粒/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形。口縁部は小凸帯で２段に区画、区画内に波状文、内面は下位にヘラナデ。胴部は外面にカキ目、内面に同心円状アテ具痕が残る。	
408図13	須恵器 甕	＋4 口縁部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗青灰	口縁部はロクロ整形、凹線、小凸帯によって２段に区画、区画内は波状文が巡る。内面下半はヘラナデ。	
408図14	須恵器 甕	＋7 口縁部片		細砂粒多/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形、小凸帯による区画、区画内に波状文が巡る。	
408図15	須恵器 甕	＋12 口縁部片		細砂粒/還元焔/灰黄	口縁部ロクロ整形、凹線によって四段以上に区画、区画内に波状文が巡る。内面はヘラナデ。	
408図16	須恵器 甕	床直 口縁部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗青灰	口縁部はロクロ整形、凹線、小凸帯によって４段に区画、上位３区画には波状文が巡る。内面下半はヘラナデ。	

362 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
409 図 1	須恵器 杯蓋	床直 口縁部片	12.8	細砂粒 / 還元焔 / 灰黄	ロクロ整形、回転方向不明。天井部はヘラ削り。	
409 図 2	須恵器 高杯	埋土 脚部片		細砂粒 / 還元焔 / 灰	ロクロ整形、回転方向不明。脚部中位に２条の凹線とカキ目。脚部に３カ所の透孔。	
409 図 3	須恵器 壺	＋6 口縁部片	10.8	細砂粒・粗砂粒 / 還元焔 / 暗灰	ロクロ整形、回転右回り。頸部にて口縁部と胴部を貼付。	
409 図 4	須恵器 椀	床直 底部片	7.5	細砂粒 / 還元焔 / 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ。	
409 図 5	土師器 甕	＋18 口縁～胴部上位片	14.6	細砂粒 / 良好 / 浅 黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
409 図 6	土師器 甕	床直 口縁～胴部上位片	20.0	細砂粒・粗砂粒・ 褐色粒 / 良好 / 橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
409 図 7	土師器 甕	床直 底部～胴部下位片	4.4	細砂粒 / 良好 / 明 黄褐	底部から体部下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

363 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
410 図 1 PL.171	土師器 杯	床直、＋13 口縁部一部欠損	12.8　4.0 14.2	細砂粒 / 良好 / 浅 黄	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、稜下にナデ部分が残る。	
410 図 2 PL.171	土師器 台付鉢	＋4 脚部片	脚径 14.0	細砂粒・粗砂粒 / 良好 / 橙	内面脚部に輪積み痕が残る。脚部は縦方向ヘラ削り、裾部は横ナデ。	
410 図 3 PL.171	土師器 鉢	＋13 ほぼ完形	11.0　9.3 7.1	細砂粒・粗砂粒 / 良好 / 褐灰	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削りであるが器面摩滅のため単位不鮮明。内面はヘラナデ。	
410 図 4 PL.171	土師器 鉢	＋11 1/2	18.0　10.2	細砂粒 / 良好 / に ぶい橙	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ､体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	内面は漆塗り。
410 図 5 PL.171	土師器 甑	＋5 3/5	17.1　15.5 7.4	粗砂粒 / 良好 / 明 赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面はヘラナデ。底部に径５㎜の穿孔が６カ所。	
410 図 6 PL.171	土師器 甕	＋5 口縁部～胴部上半	18.8	細砂粒・粗砂粒 / 良好 / にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

365 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
411 図 1	須恵器 長頸壺	埋土 口縁部片	11.0	細砂粒 / 還元焔 / 暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。口縁部中位に２条と１条の凹線が巡る。	
411 図 2 PL.171	土師器 甕	＋16、竈 口縁部～胴部上半	22.9	細砂粒 / 良好 / に ぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

366 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
412 図 1 PL.171	土師器 鉢	埋土 3/5	13.3　10.6 6.5	細砂粒 / やや軟質 / にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部はヘラ削り、底部に木葉痕が残る。内面体部はヘラナデ、器面摩滅のため単位不鮮明。	
412 図 2 PL.171	手捏ね土器 椀形	埋土 完形	4.5　3.4 3.6	細砂粒 / 良好 / 明 赤褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部はヘラナデ。内面は体部から底部がナデ。	

367 号竪穴建物跡

挿図 NO. 図版 NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
413 図 1 PL.171	土師器 杯	＋9 5/6	10.6　3.2	細砂粒 / 良好 / 橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	底部にススが付着。
413 図 2	須恵器 杯	埋土 底部～体部片		細砂粒 / 還元焔 / 灰	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転ヘラ削り。	
413 図 3	須恵器 杯	埋土 1/3	10.2　4.7	細砂粒 / 還元焔 / 灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちヘラ削り。	

57 号溝跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
418図 1 PL.172	灰釉陶器 皿	埋土 2/5	8.1　2.0 5.0	夾雑物無/還元焔/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り内外面の口唇部に施釉。	東濃産12世紀代。
418図 2	須恵器 杯	埋土 1/4	12.9　2.9 6.0	細砂粒/酸化焔/明 赤褐	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整か。	

59 号溝跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
419図 1	須恵器 甕	埋土 頸部～胴部片		細砂粒/還元焔/暗 灰	外面はヘラナデ。内面は口縁部がヘラナデ、胴部はアテ具痕が残る。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
419図２ PL.172	土師器 杯	埋土 3/4	12.0　2.4 8.3	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部はナデ。口唇部は面取りが施されている。	

挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特　徴
419図３ PL.172	石製品 砥石	埋土 完形	8.3　3.0 2.4　95.3	砥沢石	表裏、両側面を使用、上面、下面も丁寧な整形、上面は若干使用か。

１号円形周溝跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
420図１	土師器 壺	埋土 口縁～胴部中位片	13.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り、口縁部下にナデ部分が残る。内面胴部はヘラナデ。	

４号井戸跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
426図１ PL.172	須恵器 杯	埋土 3/4	11.1　3.7 5.9	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
426図２ PL.172	須恵器 杯	埋土 3/5	12.8　3.8 7.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。体部下半にナデ、底部は回転ヘラ削り。	体部から底部は酸化焔焼成。
426図３	須恵器 杯	埋土 1/3	14.1　3.1 7.1	細砂粒/酸化焔ぎみ/明黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
426図４	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	18.5	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
426図５	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	胴部外面は平行叩き痕がかすかに残る。内面は同心円状アテ具痕が明瞭に残る。	

５号井戸跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
426図６	須恵器 杯	埋土 1/4	12.0　3.4 7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
426図７	須恵器 杯	埋土 1/4	12.2　3.1 5.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
426図８	黒色土器 椀	埋土 1/3	12.0　4.1 6.3	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
426図９	須恵器 杯	埋土 1/3	13.4　3.7 6.8	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
426図10 PL.172	須恵器 椀	埋土 ほぼ完形	14.1　6.0 7.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
426図11 PL.172	須恵器 椀	埋土 完形	15.2　6.0 7.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
426図12	須恵器 椀	埋土 口縁部～体部片	14.8 8.0	細砂粒/還元焔/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部の整形は器面剥落のため不明。	
426図13	須恵器 椀	埋土 底部～体部片	8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り無調整。	
426図14	須恵器 椀	埋土 底部～体部片	10.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部の整形は不鮮明。	
426図15	須恵器 瓶	埋土 口縁部片	12.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。頸部で胴部と貼付。	
426図16 PL.172	土師器 甕	埋土 口縁～胴部下位片	12.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
426図17 PL.172	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒/還元焔/灰	甕胴部片と窯壁の融着したもの。甕胴部内面のアテ具は平行状、外面は平行叩き痕が残る。	

６号井戸跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
427図18	須恵器 杯蓋	埋土 天井部～口縁部片	15.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
427図19 PL.172	須恵器 杯	埋土 口縁部1/4欠損	13.0　4.2 8.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
427図20	須恵器 杯	埋土 1/3	13.8　3.8 8.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
427図21	須恵器 杯	埋土 1/4	11.6　2.9 6.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラ削り。	
427図22	須恵器 杯	埋土 2/5	12.7　3.4 8.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
427図23	須恵器 杯	埋土 3/5	12.8　3.4 7.3	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラ削り、体部下位も回転ヘラ削り。	

古墳時代以降遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
427図24 PL.172	須恵器 杯	埋土 口縁部1/4欠損	13.0　3.7 8.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲と体部下位を回転ヘラ削り。	
427図25	須恵器 椀	埋土 1/5	12.3　5.3 8.6	細砂粒/還元焔/浅黄	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部切り離し技法、整形は不明。	

7号井戸跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
427図26	須恵器 高杯	埋土 杯身底部~脚部上位片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付、杯身底部は回転ヘラ削り。	

8号井戸跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
427図27 PL.172	土師器 杯	埋土 ほぼ完形	12.4　3.6 9.0～10.0	細砂粒/良好/明黄褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	内面底部から体部に漆付着。
427図28	土師器 杯	埋土 1/3	12.8　3.5 9.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
427図29	須恵器 皿	埋土 1/2	13.6　2.7 9.4	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部はヘラナデ。	
427図30 PL.172	須恵器 杯	埋土 完形	12.0　3.5 7.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
427図31 PL.172	須恵器 杯	埋土 3/4	13.3　3.5 8.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後大部分を回転ヘラ削り。	
427図32 PL.172	須恵器 杯	埋土 1/2	13.0　3.3 8.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲から体部下半にかけて回転ヘラ削り。	
427図33	須恵器 杯	埋土 3/4	14.0　3.9 7.6	細砂粒・粗砂粒微/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	底部は疑高台状を呈す。
427図34	須恵器 杯	埋土 底部片	7.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部を残して回転ヘラ削り。	
427図35	須恵器 椀	埋土 1/4	12.6　5.0 7.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
427図36 PL.172	須恵器 椀	埋土 4/5	14.9　6.5 7.1	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は高台貼付時のナデか。	
427図37	須恵器 椀	埋土 底部片	11.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回り。高台は貼付、底部はヘラ切り後周囲をヘラナデ。	
428図38	須恵器 盤	埋土 底部片	台径13.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
428図39	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	20.6	細砂粒多/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
428図40	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒/還元焔/灰	外面には平行叩き痕、内面には同心円状アテ具痕が残る。	

挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特　徴
428図41 PL.172	石製品 砥石	埋土 ほぼ完形	16.8　14.6 5.3　1447.0	砥沢石	表裏中央部を使用しており、擦痕が残る。側面に敲打痕がみられる。

11号井戸跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
428図42 PL.172	土師器 杯	埋土 4/5	12.2　3.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	外面全面と内面の一部に漆付着。
428図43	須恵器 甕	埋土 胴部小片		細砂粒/還元焔/褐灰・灰	外面は平行叩き痕、内面は平行アテ具痕が残る。	

12号井戸跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
428図44 PL.172	須恵器 擂り鉢	埋土 底部欠損	17.3	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。内面体部下位はヘラナデ。	
428図45	須恵器 壺	埋土 口縁部片	13.8	細砂粒/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形。口縁部下半から頸部はヘラナデ。	
428図46	須恵器 提瓶	埋土 胴部片		細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、残存部は胴部の閉塞カ所。外面はカキ目、内面はナデ。	
428図47	須恵器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	21.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。外面胴部と内面胴部に降灰が付着。	

13 号井戸跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
428図48	須恵器 杯	埋土 3/5	18.6　6.6 14.4	細砂粒・粗砂粒少/ 還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	

14 号井戸跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
428図49 PL.172	須恵器 杯蓋	埋土 完形	10.7　3.7	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り、口縁部に２条の凹線が巡る。	

1017 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
441図１	須恵器 杯	埋土 1/4	12.6　3.9 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削りか。	

1018 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
441図２	須恵器 甕	埋土 口縁部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	口縁部ロクロ整形、縦方向のカキ目後凹線によって５段以上に区画。一部カキ目をナデ消している。	

1020 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
441図３	須恵器 杯	埋土 1/2	12.2　4.1 8.5	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	

1021 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
441図４	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	11.0　3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
441図５	須恵器 杯蓋	埋土 口縁部～天井部片	11.6	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は周縁部まで回転ヘラ削り。	
441図６	須恵器 杯	埋土 1/3	11.0　3.1	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
441図７	須恵器 杯	埋土 1/3	10.9　3.4 6.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り無調整。	
441図８	須恵器 杯	埋土 1/4	12.4　3.5 8.0	細砂粒・褐色粒/酸化焔/明赤褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
441図９	須恵器 杯	埋土 1/2	12.6　3.2 8.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後中央部を残し周囲を回転ヘラ削り。	
441図10	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部片	13.2 8.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り無調整。	
441図11	須恵器 杯	埋土 1/3	13.7　3.7 6.4	細砂粒・褐色粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り無調整。	
441図12	須恵器 杯	埋土 1/2	13.7　4.3 7.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り無調整。	
441図13	須恵器 杯	埋土 口縁部～体部片	14.0　4.1 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
441図14	須恵器 杯	埋土 底部～体部片	5.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り無調整。	底部疑似高台状。
441図15	須恵器 杯	埋土 底部～体部	8.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央を残して回転ヘラ削り。	
441図16	須恵器 椀	埋土 1/4	16.0　6.4 9.8	細砂粒・礫/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
441図17 PL.173	須恵器 椀	埋土 底部	7.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	外面底部に「入田」の墨書。
441図18	須恵器 椀	埋土 底部	9.8	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	口縁部・体部を打ち欠き二次利用か。
441図19	須恵器 椀	埋土 底部片	10.4	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	口縁部・体部を打ち欠き二次利用か。
442図20	須恵器 鉢	埋土 口縁部～体部片	13.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部下位の一部にヘラナデ。	
442図21	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	16.8	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
442図22	須　恵　器 甕	埋土 口縁部下位片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	口縁部は頸部で胴部と貼付、頸部に補強帯を貼付。内面は頸部がヘラナデ。胴部は同心円状アテ具痕が残る。	

1039 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
442図23	須恵器 椀	埋土 口縁部欠損	7.2	細砂粒/還元焔燻し/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	

1044 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
442図24	須恵器 杯	埋土 底部片	9.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
442図25	須恵器 提瓶？	埋土 口縁部片	7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。頸部で胴部と貼付。口縁部上半に１段の波状文が巡る。	

1046 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
442図26 PL.173	須恵器 椀	埋土 1/2	12.6　5.5 7.0	細砂粒・粗砂粒/酸化焔/にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部の切り離し技法は高台貼付時のナデで不明。	

1050 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
442図27	須恵器 椀	埋土 1/2	11.0　4.1 5.5	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。内外面に火襷が見られる。	

1051 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
442図28	須恵器 杯	埋土 1/3	12.1　3.5 7.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	内面底部に「×」のヘラ描き。
442図29	須恵器 杯	埋土 底部～体部片	7.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	内面底部に焼成後、「＋」のヘラ描き。

1054 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
442図30	土師器 杯	埋土 2/5	13.7　2.6	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面に放射状暗文。	
442図31	土師器 杯	埋土 1/4	12.1 稜径11.0	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ､体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
442図32	土師器 杯	埋土 2/5	10.0　3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
442図33	土師器 杯	掘方 1/4	11.8　3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
442図34	土師器 杯	掘方 口縁部～底部片	12.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
442図35	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	12.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
442図36 PL.173	土師器 杯	埋土、掘方 ほぼ完形	13.0　5.0	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。内面に放射状ヘラ磨き。	
442図37	土師器 杯	埋土、掘方 2/5	13.4　3.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
442図38	土師器 杯	掘方 1/5	14.4　3.6 8.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
442図39	土師器 杯	掘方 口縁部～底部片	13.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
442図40 PL.173	黒色土器 椀	埋土 口縁部1/5欠損	15.3　5.5 8.6	細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。内面は全面ヘラ磨き。	
443図41	須恵器 杯	埋土、掘方 1/4	13.8　3.3 8.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
443図42 PL.173	須恵器 杯	埋土、掘方 口縁部1/3欠損	13.8　3.8 9.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
443図43 PL.173	須恵器 杯	埋土 口縁部一部欠損	13.9　3.3 8.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
443図44	須恵器 椀	埋土 2/5	17.8　7.9 10.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	
443図45	須恵器 高杯	掘方 杯身片	9.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下半は回転ヘラ削り。	
443図46	須恵器 平瓶	埋土、掘方 底部～胴部片	15.5	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。	
443図47	須恵器 長頸壺	埋土、掘方 口縁部～胴部片	頸径10.0	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。頸部にて口縁部と胴部を貼付。	

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
443図48	須恵器 瓶	掘方、遺構外 高台～底部片	高台径18.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。高台は貼付、高台上位に円形の透孔。	
443図49	須恵器 甕	埋土、遺構外 口縁部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形。外面は縦方向カキ目後凹線で区画。内面は下半がヘラナデ。	
443図50	須恵器 甕	埋土 胴部上位片		細砂粒/還元焔/灰	胴部は外面に格子目状叩き痕が残るが、内面のアテ具痕はナデ消されている。	

1061 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
443図51	土師器 杯	埋土 1/3	12.6	細砂粒/良好/にぶい褐	外面体部に輪積み痕が残る。口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
443図52	須恵器 杯	埋土 1/2	13.8　3.4 9.4	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
443図53	須恵器 杯	埋土 底部片	8.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
443図54	須恵器 杯	埋土 底部片	8.6	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	
443図55	須恵器 甕	埋土 口縁部片	14.9	細砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形。	
443図56 PL.173	須恵器 甕	埋土 口縁部片		細砂粒/還元焔/暗灰	口縁部ロクロ整形、内面に降灰が厚く付着。	外面口縁部に「十」のヘラ描き。
443図57	須恵器 長頸壺	埋土 胴部上位片		細砂粒・黒色粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。胴部には降灰が付着。	
443図58 PL.173	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒/還元焔/暗灰	甕胴部片２点と窯壁が付着したもの、１点の破片は外面に平行叩き痕が残る。	

1062 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
444図59	須恵器 杯	埋土 1/6	14.7　3.3 9.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	
444図60	須恵器 杯	埋土 1/5	14.4　3.7 8.9	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部は疑似高台状。
444図61	須恵器 杯	埋土 口縁部～体部片	13.7 10.4	細砂粒/還元焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。	内面は酸化焔焼成。

1067 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
444図62	須恵器 杯	埋土 2/5	12.6　3.9 7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後大部分を回転ヘラ削り。	
444図63	須恵器 鉢	埋土 口縁部～体部片	21.7	細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部下位は回転ヘラ削り。	

1070 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
444図64 PL.173	土師器 杯	埋土 完形	15.3　4.1 稜径14.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。

1082 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
444図65 PL.173	須恵器 杯	埋土 完形	9.5　3.1 6.3	細砂粒/還元焔/暗灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	

1087 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
444図66	須恵器 横瓶	埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、内面に閉塞痕が残る。外面は格子目状叩き後カキ目。内面はヘラナデ、閉塞部周囲はナデ。	
444図67	土製品 錘	埋土 1/3	長3.8　径1.4 孔0.4　重6.5	細砂粒/良好/橙	表面はナデ、端部一部欠損。	

1092 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
444図68	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	11.9	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	コの字状口縁甕。
444図69	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	20.8	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	コの字状口縁甕。

1128 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
444図70	土師器 杯	埋土 1/5	9.7	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
444図71	須恵器 杯	埋土 1/4	9.8　3.6	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	杯G。
444図72	須恵器 杯	埋土 1/2	9.3　3.7 7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下半は手持ちヘラ削り。	

1129 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
444図73	土師器 杯	埋土 1/5	12.6	細砂粒/良好/明褐	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	

1135 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
444図74	土師器 甕	埋土 胴部中位		細砂粒・粗砂粒/良好/明黄褐	外面は縦方向ヘラ削り、内面はヘラナデ。	外面胴部下位に粘土付着。

1153 号土坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
444図75	土師器 椀	埋土 口縁部片	14.2	細砂粒/良好/にぶい橙	内面黒色処理。口縁部横ナデ、体部ヘラ削り。	

1215 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図 1	須恵器 杯	埋土 底部～体部片	11.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	

1223 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図 2	土師器 杯	埋土 1/3	10.2　2.9	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
466図 3	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	15.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
466図 4	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	17.7 稜径16.8	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面は全面にヘラ磨き。	

1237 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図 5	須恵器 杯	埋土 1/5	12.5　3.8 8.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り無調整。	

1246 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図 6	土師器 杯	埋土 1/2	12.2　3.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口唇部横ナデ、口縁部から底部は手持ちヘラ削り。内面は全面ヘラ磨き。	

1284 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図 7	須恵器 杯	埋土 底部片	7.6	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	底部は疑高台状。

1301 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図 8 PL.173	土師器 杯	埋土 4/5	12.4　4.9 稜径10.0	細砂粒・褐色粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	

1313 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図 9	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部片	24.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

1320 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図10	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上位	23.6	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

1360 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図11	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	10.4	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	

1400 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図12	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	12.1	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	

1498 号ピット

挿図 NO. 図版 NO.	種別 器種	出土位置 残 存 率	全長 (cm)　幅 (cm) 厚さ (cm)　重量 (g)	石材	特　徴
466図13 PL.173	石製品 砥石	埋土 完形	17.8　6.1 5.8　1084.0	砥沢石	表面と両側面を使用している。特に表面と左側面をよく使用、右側面には擦痕が残る。上面、裏面は丁寧な整形。

1528 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図14 PL.173	土師器 杯	埋土 3/4	11.9　4.1 稜径12.7	細砂粒・褐色粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
466図15	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	11.4 稜径10.6	細砂粒/良好/にぶい黄	口縁部横ナデ、体部（稜下）は手持ちヘラ削り。	
466図16 PL.173	土師器 杯	埋土 完形	11.3　4.0 稜径10.3	細砂粒・褐色粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り、稜下にナデ部分が残る。	
466図17 PL.173	土師器 杯	埋土 3/4	10.6　5.6 稜径11.9	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
466図18 PL.173	須恵器 高杯	埋土 口縁部・脚部一部欠損	14.0　7.9 脚径9.9	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。脚部は貼付、杯身部体部下半は回転ヘラ削り。	
466図19 PL.173	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上位	22.0	粗砂粒多/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
466図20	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位片	8.6	細砂粒/良好/灰褐	底部は木葉痕が残る、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

1539 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図21 PL.173	須恵器 甕	埋土 口縁部片	26.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形、外面は凸線によって２段に区画、各区画に波状文が巡る。内面は下半がヘラナデ。	

1603 号ピット

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
466図22	須恵器 皿	埋土 底部～体部	8.4	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部はヘラナデ。	

１号粘土採掘坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
468図１ PL.174	土師器 杯	埋土 底部中央欠損	11.7	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
468図２	土師器 杯	埋土 1/3	12.8　4.2 稜径10.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
468図３ PL.174	土師器 杯	埋土 ほぼ完形	9.3　4.1	細砂粒・粗砂粒少/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
468図４	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	10.8	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
468図５ PL.174	須恵器 蓋	埋土 口縁部1/4欠損	12.1　4.7	細砂粒/還元焔/暗灰黄	ロクロ整形、回転右回り。天井部は手持ちヘラ削り。	
468図６	須恵器 杯蓋	埋土 口縁部大部分欠損		細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回り。天井部は周縁まで手持ちヘラ削り。	天井部に２条の短い線状のヘラ描き。
468図７ PL.174	須恵器 杯	埋土 口縁部1/3欠損	10.5　4.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
468図８	須恵器 杯	埋土 1/5	12.4 稜径10.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部(稜下)は回転ヘラ削り。	
468図９	須恵器 杯	埋土 1/8	13.2 10.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部は手持ちヘラ削り。	
468図10	須恵器 杯蓋	埋土 口縁部～天井部片	16.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	

古墳時代以降遺物観察表

２号粘土採掘坑跡

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
469図１	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	11.7 稜径12.2	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
469図２	土師器 杯	埋土 1/3	12.8　3.6 稜径13.4	細砂粒・粗砂粒少/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	外面口縁部にスス付着。
469図３	土師器 杯	埋土 2/5	14.3　3.8 稜径13.7	細砂粒/良好/浅黄	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部に粗い放射状ヘラ磨き。	外面口縁部の一部にスス付着。
469図４ PL.174	土師器 杯	埋土 3/5	14.6　4.6 稜径15.2	細砂粒/良好/浅黄	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内面と外面口縁部は漆塗りか。
469図５	土師器 杯	埋土 1/5	14.8 12.0	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部から体部は横ナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
469図６	土師器 短頸壺	埋土 2/5	12.7　8.2	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部横ナデ、胴部から底部は手持ちヘラ削り。内面は胴部、底部がヘラナデ。	
469図７	土師器 壺か	埋土 底部～胴部下半	6.6	細砂粒/良好/褐灰	外面胴部に輪積み痕が残る。底部から胴部下位はヘラナデ、中位はナデ。内面はヘラナデ。	
469図８	土師器 甕	埋土 口縁～胴部上半片	22.0	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
469図９	須恵器 甕	埋土 胴部小片		細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	外面は平行叩き後雑なカキ目。内面は同心円状アテ具痕が残る。	
469図10	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	胴部外面は部分的にヘラ削り、平行叩き痕がかすかに残る。内面は同心円状アテ具痕が明瞭に残る。	

遺構外

挿図NO. 図版NO.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　　考
470図１	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	12.8 稜径13.0	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
470図２	土師器 杯	埋土 口縁部～底部片	13.2 稜径11.6	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	有段口縁杯。
470図３	土師器 杯	310-780 2/3	13.1　3.7 稜径11.4	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも漆塗り、剥落部分が多い。
470図４	土師器 杯	370-800 2/5	13.6　3.8 稜径12.8	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面にやや雑な放射状ヘラ磨き。	内外面漆塗り。
470図５	土師器 杯	380-790 ほぼ完形	13.9　4.7 稜径12.2	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗り、一部漆が剥落。
470図６ PL.174	土師器 杯	360-810 口唇部一部欠損	14.4　4.1 稜径12.9	細砂粒/良好/暗褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	内外面漆塗り。
470図７	土師器 杯	350-810 1/3	22.2　7.5 稜径21.2	細砂粒/良好/灰黄褐(断面　橙)	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面に粗い放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
470図８	土師器 椀	370-820 1/3	10.5　6.5 稜径12.5	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面底部から体部に放射状ヘラ磨き。	
470図９	土師器 高杯	380-780 脚部片	脚径10.8	細砂粒/良好/にぶい橙	脚部は貼付。脚部はヘラ削り、裾部は横ナデ、内面脚部はヘラナデ。	
470図10	土師器 杯	埋土 口縁部～体部片	11.8 稜径9.8	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
470図11	土師器 杯	390-760 1/2	13.1　4.5 稜径12.4	細砂粒/良好/明黄褐	口縁部横ナデ、体部（稜下）から底部は手持ちヘラ削り。内面に放射状ヘラ磨き。	内外面とも漆塗り。
470図12	土師器 杯	360-780 2/3	10.4　3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
470図13	土師器 杯	埋土 1/5	12.8　3.1	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
470図14	土師器 杯	340-780 1/3	13.5　3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
470図15	土師器 杯	埋土 1/5	13.6	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
470図16	土師器 杯	320-780 1/3	15.2　4.3	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部上半ナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。	
470図17 PL.174	土師器 杯	350-780 底部片		細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部は外面が手持ちヘラ削り、内面はやや雑なヘラ磨き。	内面底部に「×」ヘラ描き。
470図18	須恵器 鉢	360-780 口縁部片	13.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。体部はヘラ削り。口縁部下に凹線が巡る。	
470図19	須恵器 皿	340-790 口縁部1/3欠損	12.8　2.3 7.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
470図20 PL.174	須恵器 杯蓋	埋土 摘と口縁部一部欠	10.5	細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付か。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
470図21	須恵器 杯蓋	360-780 口唇部一部と摘欠	10.4	細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
470図22	須恵器 杯蓋	380-770 1/3	18.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は周辺部まで回転ヘラ削り。	
470図23	須恵器 杯蓋	340-790 1/4	17.5　3.9 摘み径3.1	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	擬宝珠状摘み。
470図24	須恵器 杯蓋	350-790 2/5	18.6　3.0 摘み径5.7	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
470図25	須恵器 杯蓋	340-780 天井部片	摘み径4.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
470図26	須恵器 蓋	330-790 摘み片	摘み径3.3	細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転方向不明。摘みは貼付。	
470図27	須恵器 杯蓋	340-770 摘みと天井部片	摘み径3.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付。	擬宝珠状摘み。
470図28	須恵器 高杯	380-780 杯身1/2	10.8	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。杯身底部(稜下)は回転ヘラ削り。	
470図29	須恵器 杯	370-840 1/3	8.8　3.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部は回転ヘラ削り。	杯G。
470図30	須恵器 杯	370-760 1/2	10.2　3.9	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下半は手持ちヘラ削り。	
470図31	須恵器 杯	370-760 1/3	11.0　3.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
470図32	須恵器 杯	埋土 口縁部～底部片	12.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。体部下半から底部は回転ヘラ削り。	
470図33	須恵器 杯	埋土 1/6	13.0	細砂粒/還元焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
471図34	須恵器 杯	350-790 1/2	11.8　3.4 9.0	細砂粒多/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちヘラ削り。	杯蓋の可能性もあり。
471図35	須恵器 杯	340-770 2/5	13.0　3.7 9.0	細砂粒・褐色粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
471図36	須恵器 杯	330-790 1/4	14.0　4.2 8.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り。	底部中央に「十」のヘラ描き。
471図37	須恵器 杯	埋土 1/4	14.6　4.7 8.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
471図38	須恵器 杯	330-760・330-770 1/2	18.0　4.4 12.5	細砂粒/還元焔/青灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は中央部が一定方向の手持ちヘラ削り、周辺部から体部下位が回転ヘラ削り。	
471図39 PL.174	須恵器 杯	330-790 口縁部片	15.0 10.2	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。	外面口縁部にヘラ描き。
471図40 PL.174	須恵器 杯	330-790 口縁部片	15.0	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。	外面口縁部にヘラ描き。
471図41	須恵器 杯	330-780 底部片	10.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、周縁部はナデ。内面底部はカキ目。	
471図42	須恵器 杯	330-780 1/3	12.0　3.6 8.0	細砂粒/還元焔/灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラ削り。	
471図43 PL.174	須恵器 杯	350-790 口縁部一部欠損	9.4　4.8 7.8	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラ起し後手持ちヘラ削り。	
471図44	須恵器 杯	350-770 1/3	10.8　4.2 6.0	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周囲を回転ヘラ削り、体部下位も回転ヘラ削り。	
471図45	須恵器 杯	330-790 1/2	12.0　3.2 7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
471図46	須恵器 杯	340-780 1/4	12.0　3.9 6.0	細砂粒・粗砂粒微/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り無調整。	
471図47	須恵器 椀	360-780 口縁部1/3欠損	11.8　3.9 5.6	細砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。内外面に火襷が見られる。	
471図48	須恵器 杯	330-800 3/4	12.2　3.9 8.0	細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ起こし。	
471図49 PL.174	須恵器 杯	340-780 3/4	12.2　3.8 6.2	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	高台は疑似高台状。
471図50	須恵器 杯	340-770 1/4	12.4　3.7 8.6	細砂粒・粗砂粒微/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
471図51	須恵器 杯	340-790 1/3	12.4　3.6 7.1	細砂粒/還元焔/暗青灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
471図52	須恵器 杯	350-790 3/5	12.4　3.4 7.0	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切りか。	

古墳時代以降遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備考
472図53	須恵器 杯	410-760 2/5	12.6　3.2 7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
472図54 PL.174	須恵器 杯	埋土 口縁部一部欠損	12.6　3.7 7.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部は疑似高台状。
472図55	須恵器 杯	350-790 1/2	12.5　4.0 7.0	細砂粒/還元焔/灰 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後周縁部を回転ヘラ削り。	
472図56 PL.174	須恵器 杯	350-820 口縁部1/3欠損	13.0　3.7 7.5	細砂粒/還元焔/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後中央部をわずかに残して回転ヘラ削り。	底部は疑似高台状。
472図57 PL.174	須恵器 杯	340-800 2/5	13.0　3.9 6.7	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面底部にヘラ描き。
472図58	須恵器 杯	330-790 1/5	13.2　3.0 9.0	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
472図59	須恵器 杯	330-790 1/2	13.4　3.5 8.2	細砂粒/還元焔/灰 黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
472図60	須恵器 杯	360-830 1/4	15.0　4.0 8.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は回転ヘラ削り。	
472図61	須恵器 椀	340-780・350-780 口縁部～体部片	16.1 10.0	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。	
472図62 PL.174	須恵器 椀	340-780 口縁部片	14.6	細砂粒/還元焔/黄 褐	ロクロ整形、回転右回りか。	外面口縁部に「山田」の墨書。
472図63	須恵器 杯	340-780 底部～体部	6.4	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り無調整。	
472図64	須恵器 杯	340-780 口縁部片	16.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。口唇端部を波状に打ち欠いている。内面に降灰が厚く付着。	
472図65	須恵器 杯	330-790 1/2	11.8　4.2 9.0	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
472図66	須恵器 杯	350-780 底部～体部下位片	14.2	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部(高台内)は回転ヘラ削り。	
472図67	須恵器 椀	340-800 3/4	14.2 6.6	細砂粒/酸化焔/橙	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転糸切り。	
472図68	須恵器 高杯	360-810 脚部片		細砂粒多/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。外面はカキ目。脚部に３カ所の透孔。	
472図69	須恵器 高盤	370-790 盤身片	24.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/暗灰	ロクロ整形、回転右回りか。脚部とは貼付、盤底部はカキ目。内面に厚く降灰が付着。	
472図70	須恵器 高盤	380-780 底部～脚部片		細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転左回り。盤身と脚部は貼付。	
473図71	須恵器 高杯	埋土 脚部端部片	11.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。	
473図72	須恵器 盤	330-770 口縁部片	20.6 17.2	細砂粒・粗砂粒少/還元焔/灰	ロクロ整形､回転右回りか。体部に２条の凹線が巡る。底部は回転ヘラ削り。	
473図73	須恵器 高盤	345-820 盤身1/2	30.8	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。口縁部下半から底部は回転ヘラ削り。	
473図74	須恵器 盤	360-780 口縁部～底部片	40.0　4.4 35.0	細砂粒/還元焔/灰 白	ロクロ整形、底部は回転ヘラ削り。	
473図75	須恵器 杯(コップ形)	370-790 1/4	10.5　6.9 6.0	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちヘラ削り。内面体部はヘラナデ。	
473図76	須恵器 鉢	350-830 2/5	12.1　6.1 4.0	粗砂粒・礫/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。底部から体部下位は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。	
473図77	須恵器 鉢	350-820 口縁部～体部片	12.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	擂り鉢か。
473図78	須恵器 鉢	400-760 底部～体部下位片	6.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちヘラ削り。胴部最下位もヘラ削り。	
473図79	須恵器 擂り鉢	370-800 底部～体部	9.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
473図80	須恵器 鉢	360-810 底部～体部片	8.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り、体部下位もヘラ削り。	
473図81	須恵器 鉢	340-780 底部～体部下位片	7.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部から体部下位は手持ちヘラ削り。底部に径３～５㎜の小孔が数カ所穿孔。	
473図82	須恵器 鉢	340-800 底部～体部下半片	21.0	細砂粒/酸化焔ぎみ/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。底部はヘラナデ、体部は最下部がヘラ削り、その上位には２段以上の波状文が巡る。	
473図83	須恵器 長頸壺	350-790 縁部片	5.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転方向不明。	

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎　土/焼　成/ 色　調	成・整形の特徴　他	備　考
473図84	須恵器 長頸壺	340-780・350-780 口縁部片	9.1	細砂粒多/還元焔/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
473図85	須恵器 短頸壺蓋	330-770・330-790 天井部～口縁部片	13.7	細砂粒多/還元焔/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。鍔と小凸帯は貼付。天井部は回転ヘラ削り。	内面は酸化焔焼成。
473図86	須恵器 短頸壺	310-780 口縁～胴部下位片	9.0	細砂粒・粗砂粒微/ 還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。肩部に自然釉付着。自然釉の状態から蓋付で焼成か。	
473図87	須恵器 壺	330-770 底部片	14.0	細砂粒・粗砂粒少/ 還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は不定方向のカキ目、胴部は横方向のカキ目。内面底部にもカキ目。	
473図88	須恵器 甕	埋土 胴部片		細砂粒/還元焔/灰 白	外面は平行叩き痕が残る。内面は下半に同心円状アテ具痕が残るが、上半はナデ消されている。	
474図89 PL.174	土師器 有孔鉢	350-780 ほぼ完形	20.3　17.8 4.0	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り、底部もヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	底部穿孔形1.1×1.5。
474図90	土師器 甑	340・350-820 把手		細砂粒/良好/褐灰	把手は貼付、表裏側面ともヘラナデ、先端部はナデ。	
474図91	須恵器 甑	380-770 胴部片		細砂粒/還元焔/灰 白	把手は貼付、把手基部周囲はナデ。	
474図92 PL.174	土師器 三足鍋	350-780 脚部		細砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	脚部は貼付、表面はヘラナデ。	
474図93	土師器 甕	380-780 1/3	11.6　14.2 6.4	細砂粒/良好/赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。胴部中位器面剥落。	胴部下半にススが付着。
474図94	土師器 甕	380-790・380-780 3/5	19.2　30.3 7.8	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り、胴部下半はヘラ削り後ヘラ磨き。内面胴部はヘラナデ。	
474図95 PL.174	土師器 甕	340-780・350-780 5/6	20.3　32.0 7.4	細砂粒・粗砂粒/良 好/浅黄橙	内面胴部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部、底部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
474図96	土師器 甕	350-780 底部～胴部下位片	5.9	粗砂粒/良好/明褐	胴部下位はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
474図97	土師器 甕	370-790 口縁～胴部上位片	22.0	細砂粒/良好/橙	外面口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
474図98	土師器 甕	370-790・380-780 口縁～胴部上位片	22.6	細砂粒・褐色粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
475図99	土師器 甕	370-790 口縁～胴部上位片	21.8	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
475図100	土師器 甕	380-790 口縁～胴部上位片	18.7	細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
475図101	土師器 甕	350-790 口縁～胴部上位片	20.0	細砂粒/良好/にぶい赤褐	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
475図102	須恵器 甕	380-780 口縁～胴部上位片	17.0	細砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形。胴部は外面に叩き痕が残る。内面は頸部がヘラナデ。	
475図103	須恵器 甕	埋土 口縁部片		細砂粒/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形、内面に降灰が若干付着。	
475図104	須恵器 甕	埋土 口縁部片		細砂粒/還元焔/暗 灰	口縁部ロクロ整形、口唇部に１条の凹線、口縁部中位に１条による波状文が巡る。	
475図105 PL.175	須恵器 甕	350-810 口縁部片		細砂粒・粗砂粒・ 礫/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形、外面は凹線によって２段に区画、区画内に波状文が巡る。内面は下半がヘラナデ。	内面口縁部に「十」のヘラ描き。
475図106	須恵器 甕	埋土 口縁部片		細砂粒・粗砂粒/還 元焔/灰黄	口縁部ロクロ整形、外面は凹線によって２段に区画、区画内に波状文が巡る。内面は下位にヘラナデ。	
475図107	須恵器 甕	360-810 口縁部片		細砂粒/還元焔/暗 灰	口縁部は凹線と小凸帯による区画、区画内に波状文が巡る。	内面に縦方向４本線のヘラ描き。
475図108	須恵器 甕	360-810 口縁部片		細砂粒/還元焔/暗 灰	口縁部ロクロ整形。口唇部に２条の凹線、口縁部に波状文が巡る。	内面にヘラ描き。
475図109 PL.175	須恵器 甕	340-770 頸部～胴部片		細砂粒・粗砂粒/還 元焔/暗灰	ロクロ整形、回転方向不明。	外面胴部に「大」の刻書。
475図110	須恵器 甕	埋土 口縁部下半片		細砂粒/還元焔/灰	口縁部ロクロ整形、凹線によって４段以上に区画、区画内は最下段を除く波状文が巡る。	
475図111	須恵器 甕	340-790 胴部片		細砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕が残る。内面のアテ具痕はナデ消されている。	
475図112	須恵器 甕	350-800・340-800・ 360-780 底部片		細砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き後回転左回りによる螺旋状カキ目、内面にはアテ具痕がかすかに残る。	
476図113	須恵器 短頸壺	340-790 1/3	6.1	細砂粒・白色粒/還 元焔/暗灰	口縁部横ナデ、胴部ナデ、底部は手持ちヘラ削り。	ミニチュア。
476図114	須恵器 壺	340-800 底部～口縁部片		細砂粒/還元焔/暗 灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は手持ちヘラ削り、胴部下位は回転ヘラ削り。	ミニチュア。

古墳時代以降遺物観察表

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備考
476図115 PL.175	手捏ね土器 椀形	350-780 完形	3.4　4.3 3.5	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部はヘラナデ。内面はナデ。	
476図116	須恵器 壺	390-770 口縁部片	4.6	細砂粒/還元焔/暗灰	内面に輪積み痕が残る。口縁部は縦方向後横方向の刻目。焼成は還元焔であるが、整形は土師器か。	ミニチュア、種類・器種とも不明確。
476図117	土師器 杯	350-790 胴底部		細砂粒/良好/橙	底部は手持ちヘラ削り。長径4.3、短径4.0、厚さ0.7cm。	周囲を楕円形に打ち欠き二次利用か。
476図118 PL.175	須恵器 円面硯	330-790 硯面部～脚部片	海径10.0	含有物無/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。脚部に矩形の透孔。陸部をあまり使用されていない。	
476図119 PL.175	土製品 アテ具	370-790 1/3	径6.0×6.4 高4.2	細砂粒/良好/明赤褐	アテ面はヘラナデ、側面と持ち手部分はナデ。	無文のアテ具。
476図120	土師器 錘	表採 下端部欠損	長5.3 径1.6 孔0.3重11.1	細砂粒/良好/にぶい橙	表面はナデ。	
476図121	土製品 錘	350-780 完形	長6.5 径2.4 孔0.4重29.5	細砂粒/良好/にぶい黄	表面はナデ、下端部にわずかに欠損部有り。	
476図122	土製品 錘	370-820 両端部欠損	長5.5 径1.2 孔0.4 重7.4	細砂粒/良好/暗褐	表面はナデ、成形時の歪み有り。	
476図123	土製品 錘	370-820 両端部欠損	長5.6 径1.2 孔0.4 重7.4	細砂粒/良好/暗褐	表面はナデ、成形時の歪み有り。	
476図124	土製品 錘	350-780 1/3	長2.9 径1.2 孔0.3 重4.0	細砂粒/良好/橙	表面はナデ。	
476図125	土製品 錘	380-780 1/2	長3.6 径0.9 孔0.3 重3.6	細砂粒/良好/橙	表面はナデ、成形時の歪み有り。	

挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特徴
476図126	石製品 砥石	330-770 完形	6.5　4.5 3.0　40.1	榛名二ツ岳軽石	部分的に使用か。
476図127	石製品 砥石	完形	6.2　4.1 3.3　155.0	砥沢石	表裏、両側面を使用している。上面、下面は整形時の敲打痕が残る。
476図128 PL.175	石製品 紡錘車	上半を欠損	3.2　3.2 0.7　9.9	滑石	丁寧な研磨、側面に全周する２段の線状痕、同じ方向に節理が存在する。
476図129 PL.175	石製品 紡錘車	完形	4.3　4.2 2.4　57.1	砥沢石	表面、側面は丁寧な研磨。裏面は研磨痕がみられない。
476図130	石製品 砥石	下位1/3程か	5.6　2.9 1.8　29.4	砥沢石	表裏、両側面を使用。
476図131	石製品 砥石	下半欠損か	5.4　3.2 3.1　66.7	砥沢石	表裏、両側面を使用、上面も丁寧な整形、欠損部も再整形。
476図132	石製品 砥石	上半欠損	6.8　3.0 2.4　56.6	砥沢石	表裏、両側面を使用している。特に表裏面をよく使用、表面には擦痕が残る。

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
476図133	PL.175	鉄器	鑿	表土	柄部先端欠損	11.8	1.6	0.9	32.1	表面は錆化が進んでるが、鉄分の比較的良好。
476図134	PL.175	鉄器	鏃	350-780	茎部欠損	10.0	1.3	0.9	8.4	長頸腸抉三角鏃。
476図135	PL.175	鉄器	刀子	340-780	刃部端部片	5.4	1.1	0.5	5.2	表面は錆化が進んでいる。
476図136		鉄製品	不明	360-820	一部片	5.8	2.2	1.4	46.1	断面三角形、鉄分の残存状態は比較的良好。
476図137		鉄製品	不明	350-780	一部片	2.9	2.8	0.9	7.7	錆化が激しい、薄い板片が付着か。

挿図NO. 図版NO.	遺物名	出土位置	計測値（cm） 長	幅	厚さ	重量（g）	磁着度	メタル度	特徴など
477図138 PL.175	羽口	317住 埋土	3.6	3.1	1.7	15.6	1	なし	羽口先端部片。残存する厚さは約1.5cmとやや薄手。羽口の胎土は粒子がきめ細かい。先端部外面に発泡した厚さ約５mmの滓が付着している。
477図139 PL.175	羽口	241住 埋土	4.3	3.8	1.1	18.7	2	なし	羽口先端部片。体部は外反しており先端部から基部周辺の羽口である可能性が高い。使用により溶損し短くなったものか。残存する厚さは約１cmと薄手であるが下部は厚く、厚さは不均一である。羽口の胎土は粒子がきめ細かい。
477図140	羽口	241住 埋土	5.2	2.8	1.7	22.3	1	なし	羽口先端部片。残存する厚さは約1.5cmとやや薄手。羽口の胎土は粒子がきめ細かい。
477図141	羽口	303住 埋土	4.3	4.1	1.6	24.0	1	なし	羽口体部片。残存する厚さは1.5cmとやや薄手。羽口の胎土は粒子がきめ細かい。
477図142	羽口	303住 埋土	4.1	4.5	1.7	30.6	1	なし	羽口体部～基部片。通風孔内面が基部側でラッパ状に開いており基部周辺とした。残存する厚さは約1.5cmとやや薄手。羽口の胎土は粒子がきめ細かい。通風孔内面に滓の付着あり。
477図143 PL.175	羽口	350-790	4.4	4.5	1.3	28.4	1	なし	羽口先端部片。残存する厚さは約１cmと薄手。羽口の胎土は粒子がきめ細かい。羽口先端部は溶損し黒色ガラス質のタレが生じている。
477図144 PL.175	羽口	340-790	3.8	4.4	1.4	23.7	1	なし	羽口先端部片。残存する厚さは約１cmと薄手である。羽口の胎土は粒子がきめ細かい。羽口の内径は２．５cmと大きい。

挿図NO. 図版NO.	遺物名	出土位置	計測値（cm） 長	幅	厚さ	重量（g）	磁着度	メタル度	特徴など
477図145 PL.175	羽口	241住 埋土	4.6	4.3	1.3	26.5	1	なし	羽口体部片。熱変色部があり先端部に近い。残存する厚さは約１cmと薄手である。羽口の胎土は粒子がきめ細かい。
477図146	羽口	303住 埋土	5.9	5.9	2.0	68.9	1	なし	羽口体部片。滓化、熱変色範囲があり先端部に近い。残存する厚さは約１cm～２cmと不均一である。外面に指頭痕あり。羽口の胎土は粒子がきめ細かい。通風孔部内面は酸化。
477図147 PL.175	羽口	370-790	6.8	4.5	1.3	31.1	1	なし	羽口先端部片。残存する厚さは約１cm弱と薄手。羽口の胎土は粒子がきめ細かい。外面に縦すじあり。いわゆる簀巻き痕か。通風孔部内径が約2.5cmと大きい。
474図148 PL.175	羽口	341住 埋土	6.7	4.8	1.6	61.8	2	なし	羽口先端部片。残存する厚さは１cmを欠け非常に薄手である。羽口の胎土は粒子がきめ細かいが白色粒や無色透明の細かい粒子を含む。外面に縦すじあり。いわゆる簀巻き痕か。通風孔部内径が約2.5cmと大きい。
474図149	羽口	1065土坑 埋土	5.3	7.4	3.2	94.0	1	なし	羽口先端部片。残存する厚さは約３cmと厚手である。羽口の胎土は粒子がきめ細かく混和物がほとんどない。羽口の内径は約２cm。
474図150 PL.175	椀形鍛冶滓 （中、含鉄）	５井戸 埋土	6.7	9.6	3.8	311.0	4	H （○）	厚さ約４cmとやや厚手。色調は黒褐色。滓質は密。上面は木炭痕が散在し下面は全面に細かい木炭痕が観察できる。
474図151 PL.175	椀形鍛冶滓 （極小）	317住 埋土	5.3	3.8	1.8	48.9	2	なし	側面の大部分が欠けた椀形鍛冶滓。厚さ約1.5cmと薄手。色調は黒褐色。滓質は密。上面は木炭痕が散在し、下面は全面に細かい木炭痕が観察できる。
474図152 PL.175	椀形鍛冶滓 （極小）	341住 埋土	4.6	4.4	1.7	56.5	2	なし	側面の大部分が欠けた椀形鍛冶滓。厚さ２cmと薄手。色調は黒褐色。滓質は密。下面全面に炉床土が付着している。
474図153 PL.175	椀形鍛冶滓 （極小、含鉄）	350-790	6.1	7.6	1.8	76.5	2	銹化 （△）	厚さ約1.5cmと薄手。色調は黒褐色。滓質はやや密。上面は木炭痕が散在し下面は全面に細かい木炭痕が観察できる。上面下部に粘土質溶解物が付着している。
474図154 PL.175	土器片 （比熱）	241住 埋土	2.4	3.1	0.9	3.6	1	なし	内面が滓化、発泡した須恵器片。鍛冶炉に敷いたものか。
474図155 PL.175	土器片 （比熱）	303住 埋土	2.8	3.5	0.5	4.9	1	なし	内面に滓が付着した須恵器片。鍛冶炉に敷いたものか。
474図156 PL.175	坩堝	303住 埋土	8.0	－	－	49.0	－	－	坩堝の口縁部片。きめ細かい胎土で、直径2mm程の礫を少量含む。外面は被熱し、滓が付着している。内面は滓の付着がなく、荒れていない。
474図157 PL.175	坩堝	１区 グリッド	10.0	6.5	5.0	40.8	－	－	坩堝の口縁部から底部片。きめ細かい胎土で混和物がほとんどない。外面は被熱し、滓が付着している。内面は滓の付着がなく、荒れていない。
474図158 PL.175	坩堝	1区308号 住居	8.2	6.0	5.0	146.8	－	－	きめ細かい胎土で、直径2mm程の礫を少量含む。外面に木葉痕、口縁部内面に布状の圧痕あり。外面は被熱し、滓が付着している。内面は滓の付着がないが、赤色被熱し、やや荒れている。
474図159 PL.175	棒状土製品	１区 グリッド	5.0	－	－	70.0	－	－	きめ細かい胎土。外面は被熱し、滓が付着している。端部が椀状に開く。端部の内面はやや荒れているが、滓の付着はない。

挿図NO.	図版NO.	種別器形	出土位置	残存状態	形・成調整等	年代
478図160		在地系土器片口鉢	埋土		口縁部玉縁状をなし端部内湾する。いわゆる瓦質。	14Ｃ前半
478図161		常滑陶器片口鉢	埋土		片口鉢Ⅱ類。	14Ｃ前半
478図162		常滑陶器甕	埋土	体部下位片	外面縦位撫で。内面篦状工具による横位調整後撫で。163と同一個体か。	中世
478図163		常滑陶器甕	埋土	体部下位片	外面縦位撫で。内面篦状工具による横位調整後撫で。162と同一個体か。	中世
478図164		常滑陶器甕	埋土	体部片	外面縦位撫で。	中世
478図165		常滑陶器甕	埋土	体部片	内面篦状工具による横位調整後撫で。	中世
478図166		常滑陶器壺か？	埋土	肩部片	肩部と頸部内面自然釉。	中世
478図167		渥美陶器甕	埋土	肩部片	外面自然釉。頸部付近に細い凹線１条巡る。	12Ｃ
478図168		渥美陶器甕	埋土	肩部片	外面自然釉。接合部に叩きを帯状に施す。	12Ｃ
479図169		渥美陶器甕	埋土	体部片	外面縦位の撫で。	12Ｃか
479図170		渥美陶器甕	埋土	体部片	外面上部に釉の流れあり。接合部外面に叩きを帯状に施す。	12Ｃ
479図171		渥美陶器甕	埋土	体部片	器壁厚い。外面叩き目。	12Ｃ
479図172		渥美陶器甕	埋土	体部片	外面叩き目。	12Ｃ
479図173		渥美陶器甕	埋土	体部下位片	接合部に叩きを帯状に施す。内面下部自然釉斑状に降る。	12Ｃ
479図174		瀬戸陶器摺鉢	埋土	口縁部片	錆釉。	17Ｃ前～中

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
479図175	PL.175	銅製品	銭貨幣	380-790	一部欠損	径2.3	厚0.1	孔0.6		「招聖元寶」背上に星文。

２～３区包含層出土石器

挿図NO.	図版NO.	器種	出土位置	石材	長さ	幅	重量	備考
482図１	PL.176	分銅型打製石斧	2-1区	ホルン	14	10.2	407.9	刃部両端に顕著な磨耗痕。刃部再生使用。
482図２	PL.176	分銅型打製石斧	2-2区	ホルン	16.4	9	539.4	表裏面とも刃部磨耗・捲縛痕が顕著。
482図３	PL.176	分銅型打製石斧	2区370-740	ホルン	18	9.6	738.5	加工は粗く、製作を放棄しているようだが、側縁の捲縛痕が著しい。
482図４	PL.176	撥型打製石斧	2区460-730	ホルン	9.7	6.2	74.1	周縁部を粗く加工。側縁に微弱な捲縛痕。
482図５	PL.176	短冊型打製石斧	2区450-730	ホルン	13.8	6.5	156.2	側縁は著しく潰れる。刃部は未使用状態。
482図６	PL.176	定角磨製石斧	2区420-740	珪頁	4.1	2.2	15.2	刃縁が刃こぼれしており、使用は確実。
482図７	PL.176	石核剥片	2区	チャ	4.7	4	26.2	表裏面で小形剥片を剥離する。
482図８	PL.176	扁平礫凹石	2区340-730	粗安	11.8	8.2	581.5	表裏面に孔１を穿つ。側縁敲打が顕著。
482図９	PL.176	定型石皿	2-2区	粗安	14	10	731.2	裏面下縁に粗い加工。脚付き？
482図10	PL.176	有縁石皿	2-2区	粗安	25	17	3415.2	使用面が深く、再生使用が明らか。裏面に孔を穿つ。
482図11	PL.176	打製石斧	3区	ホルン	19	13.2	1513.9	両側縁中央の剥離が大きく、分銅型石斧の作出を試みた可能性が高い。未製品。

2区6号溝跡

挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特　徴
483図1	石製品 砥石	一部片	4.8　3.2 3.2　85.9	変質デイサイト	表裏、上下面を使用、表裏には石材加工の切り出し痕が残る。左側面は整形時の敲打痕が残る。右側面は欠損による。

2区遺構外

挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特　徴
483図2	石製品 砥石	一部片	148.0	砥沢石	使用面は非常に平滑、使用が顕著か。
483図3	石製品 板碑	下部1/2	53.0　19.0 2.3　3.7	片岩	銘は不明。裏面に加工痕が遺る。

3区1号竪穴建物跡

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
483図4		鉄器	釘	埋土	先端部欠損	5.5	0.6	0.4	5.8	頭部1.5×0.9の矩形、表面の錆化が激しい。

3区10号竪穴建物跡

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
483図5	PL.177	鉄器	火打金	埋土	ほぼ完形か	5.0	2.1	0.5	7.6	表面は錆化が進んでいる。

3区11号竪穴建物跡

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
483図6	PL.177	鉄器	鎌	埋土	先端部欠損	20.4	4.7	0.4	100.1	基部に木質片、他鉄器片付着。

3区1号溝跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備　考
483図7 PL.177	土師器 杯	埋土 完形	12.6　3.0 10.2	細砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、体部ナデ、底部手持ちヘラ削り。	
483図8 PL.177	須恵器 皿	埋土 底部～体部片	6.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付、底部は回転ヘラ削り。	外面底部に「山田」の墨書。
483図9 PL.177	黒色土器 鉢	埋土 口縁部～体部片	25.6	細砂粒/酸化焔/にぶい橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転方向不明。外面は体部、内面は口縁部から体部にかけてヘラ磨き。	
483図10 PL.177	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部下位	17.1 胴部径20.4	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

3区遺構外

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備　考
483図11	須恵器 壺	埋土 口縁部～胴部片	6.8	細砂粒/還元焔/灰	残存部分が少ないため詳細は不明であるが、胴部中程に閉塞カ所有り。内外面ともナデ。	
484図12 PL.177	須恵器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	22.0	細砂粒/酸化焔ぎみ/にぶい褐	口縁部ロクロ整形、内面下半はヘラナデ。胴部は外面に平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
484図13 PL.177	須恵器 甕	埋土 口縁～胴部上位片	26.0	細砂粒/酸化焔/にぶい赤褐	口縁部ロクロ整形、外面は縦方向カキ目後ナデ、内面は下半にヘラナデ。胴部は外面が格子状叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	

挿図NO. 図版NO.	遺物名	出土位置	計測値（cm） 長	幅	厚さ	重量（g）	磁着度	メタル度	特徴など
484図14 PL.177	椀形鍛冶滓 （極小、含鉄）	3区 11住	7.1	4.3	1.8	58.1	4	銹化 （△）	側面の大部分が欠けた椀形鍛冶滓。厚さ1.5cmと薄手。色調は黒褐色。滓質は密。上面は平滑でタレが生じている。下面は全面に細かい木炭痕が観察できる。

4区11号竪穴建物跡

挿図NO. 図版NO.	種別 器種	出土位置 残存率	全長(cm)　幅(cm) 厚さ(cm)　重量(g)	石材	特　徴
484図15	石製品 砥石	下部欠損	9.8　4.3 3.2　143.0	砥沢石	表裏、両側面を使用している。特に表面をよく使用、両側面には擦痕が残る。上面は丁寧な整形。

4区18号竪穴建物跡

挿図NO.	図版NO.	種類	器種	出土位置	残存率	全長	最大幅	厚さ	重量	特徴
484図16	PL.177	金銅製品	耳環	埋土	下部2/3	径1.7	幅0.6	厚0.3	1.0	中空、残存状態は比較的良好。

4区1号溝跡

挿図NO. 図版NO.	種類 器種	出土位置 残存率	口径　高さ 底径　(cm)	胎土/焼成/ 色調	成・整形の特徴　他	備　考
484図17 PL.177	須恵器 横瓶	埋土 胴部1/3欠損	13.9 全長42.5	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。口縁部は貼付、胴部は外面に平行叩き痕がかすかに残る。左側端部に粘土板、右側端部に閉塞痕が残る。	
484図18 PL.177	須恵器 短頸壺	埋土 底部欠損	10.0 胴部径21.0	細砂粒/還元焔/青灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位と肩部に回転ヘラ削り。	